御所市文化財調査報告書　第 55 集

奈良県御所（ごせ）市

茅原中ノ坊遺跡

－第 5 次発掘調査報告－
京奈和自動車道建設に係る発掘調査成果

平 成 30 年（2018） 1 月
御 所 市 教 育 委 員 会

例　　言

1．本書は、京奈和自動車道大和御所道路（御所区間）の建設に先立って、御所市教育委員会が実施した茅原中ノ坊遺跡の発掘調査報告書である。

　なお、御所市教育委員会では、平成 19 年度以来実施している同事業による発掘調査の調査区について、遺跡ごとにＡ～Ｆ地区と呼称し、既刊の概要報告でもその名称を用いている。茅原中ノ坊遺跡は、概要報告ではＣ地区とした遺跡である。

2．今次調査は、茅原中ノ坊遺跡第５次調査である。第５次調査は、さらに、面的な調査範囲や掘削深さを決定するためのトレンチ調査（第５－１次調査）と、それを受けた面的な発掘調査（第５－２次調査）に区分した。

3．現地調査は、岡田圭司・西村慈子（以上、御所市教育委員会　嘱託職員　当時）が各地区を担当し、木許　守（御所市教育委員会　技術職員）が全体を総括した。

4．各調査の調査期間および担当者は第２章に記した。

5．本書の執筆は、花熊祐基（御所市教育委員会　嘱託職員　当時）・木許のほか、千喜良敦・影山美智与（以上、地域文化財研究所）が担当した。執筆担当箇所は目次に記した。

6．別表の作成担当者は別表の冒頭（中扉）に記した。特に、別表３に記した石器・石製品の石材の同定には、山村陽子氏（学校法人　雲雀ヶ丘学園小学校　教諭）のご教示を得た。

7．第５章第２節第２項・第５章第４節第２項における遺物に関する記述では、以下の文献をそれぞれ参照し、指標とした。

縄文土器：『縄文土器の研究』（小林達雄 1994）
弥生土器：『弥生土器集成』（小林行雄編 1968）
庄内式土器・布留式土器：『矢部遺跡』（寺沢編 1986）
須恵器：『陶邑古窯址群Ⅰ』（田辺 1966）・『須恵器大成』（田辺 1981）
土師器：『古代の土器（１）　都城の土器集成』（古代の土器研究会編 1992）
中世土器：『概説　中世の土器・陶磁器』（中世土器研究会編 1995）

　なお、上記の項以外で、遺物に関する参考文献の提示が必要な場合は、その都度示した。

8．本書では、出土遺物の年代観等について、各執筆者間でおおむねの摺り合わせを行ったが、必ずしも細部までは統一していない。

9．参考文献は本文末尾に一括して掲げた。

10．本書の編集は、花熊・木許が担当した。

11．本書に先立って『御所市文化財調査報告書』第 35 集として、概要報告書を刊行しているが、遺構名称について概報刊行後に整理作業を進める過程で変更している。また、それ以外の内容についても本書との齟齬がある場合には、本書をもって訂正とする。

目 次

例言

本文目次

第１章　位置と既往の調査……（木許）　……　1
　第１節　位置……　1
　第２節　歴史的環境……　1
　第３節　既往の調査……　4
第２章　調査の契機と経過……（木許）　……　6
第３章　基本層序……（花熊）　……　9
第４章　第５－１次調査（トレンチ調査）の成果……（花熊）　……　21
　１．1トレンチ
　２．2トレンチ
　３．4トレンチ
　４．3トレンチ
　５．5トレンチ
　６．6トレンチ
　７．6－2トレンチ
　８．7トレンチ
　９．8トレンチ
　10. 9トレンチ
　11. 10トレンチ
　12. 11トレンチ
　13. 小結
第５章　第５－２次調査の成果……　43
　第１節　第１遺構面……（花熊）　……　43
　　１．遺構
　　①井戸１
　　②井戸２
　　③井戸３
　　④溝１
　第２節　第２遺構面……　47
　　１．遺構……（花熊）　……　47
　　①井戸４
　　②井戸５
　　③井戸６
　　④柱穴・ピット
　　⑤土坑１
　　⑥土坑２
　　⑦土坑３
　　⑧土坑４
　　⑨土坑５
　　⑩土坑６
　　⑪土坑７
　　⑫土坑８
　　⑬流路１
　　⑭流路２

⑮流路３
⑯流路４
⑰流路５
⑱流路６
⑲素掘溝
⑳溝２
㉑溝３
㉒溝４
㉓池状遺構
２．遺物…… 69
①土器・土製品……（千喜良） …… 69
②石器・石製品……（影山） …… 76
③木器・木製品……（花熊） …… 94
第３節　第３遺構面……（花熊） …… 97
１．遺構
①水田遺構
第４節　第４遺構面…… 100
１．遺構……（花熊） …… 100
①ピット
②流路７
③流路８
④溝５
⑤溝６
⑥溝７
２．遺物…… 129
①土器・土製品……（千喜良） ……129
②石器・石製品……（影山） ……129
③木器・木製品……（花熊） ……135
第６章　まとめ ……（花熊） …… 146

参考文献…… 148

別表１　放射性炭素年代測定結果　一覧表……152
別表２　出土土器観察表……153
別表３　出土石器観察表……179
別表４　出土木製品等　一覧表
１　護岸材　一覧表……182
２　護岸材以外の木製品等　一覧表……219

挿図目次

図１　御所市の位置 …… 1
図２　周辺の主要遺跡分布図 （S.＝1/50,000） …… 2
図３　茅原中ノ坊遺跡　既往の調査地　位置図 （S.＝1/5,000） …… 4
図４　調査区　トレンチ配置図 （S.＝1/2,500） …… 8
図５　１区　南北方向(東壁)　土層断面図(１) （S.＝1/80） …… 12
図６　１区　南北方向(東壁)　土層断面図(２) （S.＝1/80） …… 13
図７　２区　南北方向(東壁)　土層断面図(１) （S.＝1/80） …… 14
図８　２区　南北方向(東壁)　土層断面図(２) （S.＝1/80） …… 15
図９　３区　南北方向(東壁)　土層断面図(１) （S.＝1/80） …… 16
図10　３区　南北方向(東壁)　土層断面図(２) （S.＝1/80） …… 17
図11　２区　東西方向(北壁)　土層断面図 （S.＝1/80） …… 18
図12　５層出土縄文土器 （S.＝1/3） …… 20
図13　１トレンチ　平面図･土層断面図 （S.＝1/160） …… 21
図14　２トレンチ　平面図 （S.＝1/250) …… 23
図15　２トレンチ　西壁　土層断面図 （S.＝1/120） …… 24
図16　４トレンチ　平面図 （S.＝1/400） …… 26
図17　４トレンチ　土層断面図 （S.＝1/160） …… 27
図18　３トレンチ　平面図 （S.＝1/250） …… 30
図19　３トレンチ　下層確認トレンチ　平面図 （S.＝1/160） …… 31
図20　５トレンチ　平面図 （S.＝1/250)･土層断面図 （S.＝1/160） …… 32
図21　６トレンチ　平面図 （S.＝1/250)･土層断面図 （S.＝1/160） …… 33
図22　６－２トレンチ　平面図 （S.＝1/250)･土層断面図 （S.＝1/160） …… 35
図23　７トレンチ　平面図 （S.＝1/200)･土層断面図 （S.＝1/120） …… 36
図24　８トレンチ　平面図 （S.＝1/200)･土層断面図 （S.＝1/120） …… 37
図25　９トレンチ　平面図 （S.＝1/200)･土層断面図 （S.＝1/120） …… 39
図26　10トレンチ　平面図 （S.＝1/200)･土層断面図 （S.＝1/120） …… 40
図27　11トレンチ　平面図 （S.＝1/200)･土層断面図 （S.＝1/120） …… 41
図28　第１遺構面　平面図 （S.＝1/1,600） …… 43
図29　第１遺構面　井戸１　断面図 （S.＝1/80)･平面･立面図 （S.＝1/40） …… 45
図30　井戸３の検出層位 （S.＝1/80） …… 46
図31　第２遺構面　平面図 （S.＝1/1,600） …… 47
図32　１区　第２遺構面　平面図 （S.＝1/600） …… 48
図33　２区　第２遺構面　平面図 （S.＝1/600） …… 49
図34　３区　第２遺構面　平面図 （S.＝1/600） …… 50
図35　第２遺構面　井戸４　平面･断面図 （S.＝1/40） …… 51
図36　第２遺構面　井戸５　平面･断面図 （S.＝1/40） …… 52
図37　第２遺構面　井戸６　平面･断面図 （S.＝1/40） …… 53
図38　第２遺構面　土坑１　平面･立面図 （S.＝1/20） …… 54
図39　第２遺構面　土坑２　平面･断面図 （S.＝1/40） …… 55
図40　第２遺構面　土坑３　平面･断面図 （S.＝1/40） …… 55
図41　第２遺構面　流路１　断面図 （S.＝1/80） …… 57
図42　第２遺構面　流路２　断面図(１) （S.＝1/100） …… 58
図43　第２遺構面　流路２　断面図(２) （S.＝1/100） …… 59
図44　第２遺構面　流路３　断面図 （S.＝1/80） …… 60
図45　第２遺構面　流路４　断面図 （S.＝1/80） …… 61
図46　第２遺構面　流路５(２区)　断面図 （S.＝1/80） …… 62

図47　第２遺構面　流路５（３区）　断面図　（S.＝1/40）……63
図48　第２遺構面　流路６　断面図　（S.＝1/80）……65
図49　第２遺構面　溝２　断面図　（S.＝1/60）……67
図50　第２遺構面　溝３　断面図　（S.＝1/80）……68
図51　第２遺構面　溝４　断面図　（S.＝1/40）……68
図52　第２遺構面　土坑１　出土土器　（S.＝1/3）……69
図53　第２遺構面　土坑２　出土土器　（S.＝1/3）……69
図54　第２遺構面　流路２　出土土器　（S.＝1/3）……69
図55　第２遺構面　流路３　出土土器（１）（S.＝1/3）……70
図56　第２遺構面　流路３　出土土器（２）（S.＝1/3）……71
図57　第２遺構面　流路４　出土土器　（S.＝1/3）……72
図58　第２遺構面　流路５　出土土器（１）（S.＝1/3）……77
図59　第２遺構面　流路５　出土土器（２）（S.＝1/3）……78
図60　第２遺構面　流路５　出土土器（３）（S.＝1/3）……79
図61　第２遺構面　流路５　出土土器（４）（S.＝1/3）……80
図62　第２遺構面　流路５　出土土器（５）（S.＝1/3）……81
図63　第２遺構面　流路５　出土土器（６）（S.＝1/3）……82
図64　第２遺構面　流路５　出土土器（７）（S.＝1/3）……83
図65　第２遺構面　流路５　出土土器（８）（S.＝1/3）……84
図66　第２遺構面　流路５　出土土器（９）（S.＝1/3）……85
図67　第２遺構面　流路５　出土土器(10)（S.＝1/3）……86
図68　第２遺構面　流路５　出土土器(11)（S.＝1/3）……87
図69　第２遺構面　流路５　出土土器(12)（S.＝1/3）……88
図70　第２遺構面　流路５　出土土器(13)（S.＝1/3）……89
図71　第２遺構面　流路５　出土土器(14)（S.＝1/3）……90
図72　第２遺構面　流路５　出土土器(15)（S.＝1/3）……91
図73　第２遺構面　流路５　出土土器(16)（S.＝1/3）……92
図74　第２遺構面　流路５　出土土器(17)（S.＝1/3）……93
図75　第２遺構面　流路６　出土土器　（S.＝1/3）……94
図76　第２遺構面　流路２・５・６、第２遺構面下層　出土石器　（１・７；S.＝1/3, ２～６；S.＝2/3）95
図77　第２遺構面　流路５　出土木製品　（S.＝1/4）……96
図78　第３遺構面　平面図　（S.＝1/1,600）……97
図79　第３遺構面　水田遺構　平面図　（S.＝1/400）・断面図　（S.＝1/60）……98
図80　第４遺構面　平面図　（S.＝1/1,600）…… 100
図81　１区　第４遺構面　遺構平面図　（S.＝1/600）…… 101
図82　２区　第４遺構面　遺構平面図　（S.＝1/600）…… 102
図83　１区　第４遺構面　遺構平面図(北半)（S.＝1/300）…… 103
図84　第４遺構面　ピット１～９　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 104
図85　第４遺構面　ピット10～19　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 105
図86　第４遺構面　ピット20～29　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 106
図87　第４遺構面　ピット30～38　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 107
図88　第４遺構面　ピット39～47　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 108
図89　第４遺構面　ピット48～56　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 109
図90　第４遺構面　ピット57～61　平面図・断面図　（S.＝1/20）…… 110
図91　第４遺構面　流路７　断面図（１）（S.＝1/120）…… 112
図92　第４遺構面　流路７　断面図（２）（S.＝1/120）…… 113
図93　第４遺構面　流路７　護岸施設　（S.＝1/160）…… 114
図94　第４遺構面　流路７　護岸施設　杭列名称　（S.＝1/160）…… 115
図95　第４遺構面　流路７　杭列Ａ　平面図・立面図　（S.＝1/60）…… 116

図96　第４遺構面　流路７　杭列Ｂ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 117
図97　第４遺構面　流路７　杭列Ｃ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 118
図98　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 119～120
図99　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 122
図100　第４遺構面　流路７　堰Ａ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 123
図101　第４遺構面　流路７　堰Ｂ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 123
図102　第４遺構面　流路７　堰Ｃ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 124
図103　第４遺構面　流路７　堰Ｄ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 125
図104　第４遺構面　流路７　堰Ｅ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 126
図105　第４遺構面　流路７　堰Ｆ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）…… 126
図106　第４遺構面　流路８　断面図　（Ｓ.＝1/160）…… 127
図107　第４遺構面　溝５　断面図　（Ｓ.＝1/40）…… 128
図108　第４遺構面　溝６　断面図　（Ｓ.＝1/40）…… 128
図109　第４遺構面　溝７　断面図　（Ｓ.＝1/40）…… 128
図110　第４遺構面　流路７　出土土器（１）（Ｓ.＝1/3）…… 130
図111　第４遺構面　流路７　出土土器（２）（Ｓ.＝1/3）…… 131
図112　第４遺構面　流路７　出土石器（１）（１；Ｓ.＝2/3, ２；Ｓ.＝1/3）…… 132
図113　第４遺構面　流路７　出土石器（２）（Ｓ.＝2/3）…… 133
図114　第４遺構面　流路７　出土石器（３）（Ｓ.＝1/3）…… 134
図115　第４遺構面　ピット、溝５・６　出土石器　（Ｓ.＝2/3）…… 134
図116　第４遺構面　流路７　杭列Ａ・杭列Ｂ（１）　出土木製品　（Ｓ.＝1/6）…… 136
図117　第４遺構面　流路７　杭列Ｂ（２）・杭列Ｃ　出土木製品　（Ｓ.＝1/6）…… 137
図118　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（１）（Ｓ.＝1/6）…… 138
図119　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（２）（Ｓ.＝1/6）…… 139
図120　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（３）（Ｓ.＝1/6）…… 140
図121　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（４）（Ｓ.＝1/6・1/10）…… 141
図122　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　出土木製品（１）（Ｓ.＝1/6）…… 142
図123　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　出土木製品（２）（Ｓ.＝1/6）…… 143
図124　第４遺構面　流路７　堰Ａ・Ｂ　出土木製品　（Ｓ.＝1/6）…… 144
図125　第４遺構面　流路７　堰Ｃ・Ｅ・Ｆ　出土木製品　（Ｓ.＝1/6・1/8）…… 145

挿表目次

表１　第４遺構面　ピット計測表 …… 110

図版目次

図版1　1トレンチ　5層上面　南から
1トレンチ　下層確認　南西から
図版2　2トレンチ　5層上面　北から
2トレンチ　下層確認　北東から
図版3　4トレンチ　3層上面　南東から
4トレンチ　拡張区　3層上面　北から
図版4　3トレンチ　3層上面　北から
3トレンチ　3層上面　南から
図版5　3トレンチ　下層確認　北西から
3トレンチ　下層確認　南西から
図版6　5トレンチ　3層上面　東から
6トレンチ　3層上面　東から
図版7　6トレンチ　下層確認　西から
6－2トレンチ　3層上面　南東から
図版8　6－2トレンチ　溝1　南から
7トレンチ　3層上面　西から
図版9　8トレンチ　3層上面　西から
8トレンチ　下層確認　東から
図版10　9トレンチ　3層上面　東から
10トレンチ　4層上面　北から
図版11　10トレンチ　拡張部　4層上面　北から
10トレンチ　下層確認　西から
図版12　11トレンチ　5層上面　南から
11トレンチ　下層確認　北東から
図版13　1区　全景　北から
1区　全景　南から
図版14　2区　全景　北東から
2区　全景　南から
図版15　3区　北半　全景　北から
3区　南半　全景　北から
図版16　第1遺構面　井戸1（1）　西から
第1遺構面　井戸1（2）　西から
第1遺構面　井戸1（3）　南西から
第1遺構面　井戸1（4）　西から
第1遺構面　井戸1（5）　南から
図版17　第1遺構面　井戸2　南から
第1遺構面　溝1　北から
図版18　第2遺構面　井戸4　南から
第2遺構面　井戸5　南東から
図版19　第2遺構面　井戸6　北東から
第2遺構面　柱穴　南から
図版20　第2遺構面　土坑1（1）　西から
第2遺構面　土坑1（2）　西から
図版21　第2遺構面　土坑2（1）　南東から
第2遺構面　土坑2（2）　南から
図版22　第2遺構面　土坑3　北から
第2遺構面　流路1　西から
図版23　第2遺構面　流路2　北から
第2遺構面　流路3　北から
図版24　第2遺構面　流路4　東から
第2遺構面　流路4　土器出土状況　東から
図版25　第2遺構面　流路5（2区）　北東から
第2遺構面　流路5（2区）　南西から
図版26　第2遺構面　流路5（3区北半）　北東から
第2遺構面　流路5（3区北半）　南西から
図版27　第2遺構面　流路5（3区南半）　北東から
第2遺構面　流路5（3区南半）　南西から
図版28　第2遺構面　流路5（2区）　土器出土状況（1）
第2遺構面　流路5（2区）　土器出土状況（2）
第2遺構面　流路5（2区）　土器出土状況（3）
第2遺構面　流路5（2区）　土器出土状況（4）
第2遺構面　流路5（3区）　土器出土状況（1）
第2遺構面　流路5（3区）　土器出土状況（2）
第2遺構面　流路5（3区）　土器出土状況（3）
第2遺構面　流路5（3区）　木製品出土状況
図版29　第2遺構面　流路6（3区北半）　南西から
第2遺構面　流路6（3区南半）　北から
図版30　第2遺構面　溝4　北から
第2遺構面　素掘溝　銭貨出土状況　南から
図版31　第2遺構面　出土土器・土製品（1）
（S．≒1/3）
図版32　第2遺構面　出土土器・土製品（2）
（S．≒1/3）
図版33　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（1）
（S．≒1/3）
図版34　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（2）
（S．≒1/3）
図版35　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（3）
（S．≒1/3）
図版36　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（4）
（S．≒1/3）
図版37　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（5）
（S．≒1/3）
図版38　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（6）
（S．≒1/3）
図版39　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（7）
（S．≒1/3）
図版40　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（8）
（S．≒1/3）
図版41　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（9）
（S．≒1/3）
図版42　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（10）
（S．≒1/3）
図版43　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（11）
（S．≒1/3）
図版44　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（12）
（S．≒1/3）
図版45　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（13）
（S．≒1/3）
図版46　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（14）
（S．≒1/3）
図版47　第2遺構面　流路5　出土土器・土製品（15）
（S．≒1/3）

図版 48　第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（16）
（S . ≒ 1/3）
図版 49　第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（17）
（S . ≒ 1/3）
第２遺構面　流路６　出土土器・土製品
（S . ≒ 1/3）
図版 50　第２遺構面　流路２・５・６、第２遺構面下層
出土石器
図版 51　第２遺構面　出土木製品（S . ≒ 1/4）
図版 52　第３遺構面　水田遺構　北から
第３遺構面　水田遺構　南から
図版 53　第３遺構面　水田遺構　近影　北から
第３遺構面　水田遺構　足跡（1）
第３遺構面　水田遺構　足跡（2）
第３遺構面　水田遺構　大畦畔　南から
第３遺構面　水田遺構　大畦畔　北から
図版 54　第４遺構面　流路７　北東から
第４遺構面　流路７　南西から
図版 55　第４遺構面　流路７　護岸施設　南西から
第４遺構面　流路７　護岸杭列　南東から
図版 56　第４遺構面　流路７　杭列A　東から
第４遺構面　流路７　杭列A　南から
図版 57　第４遺構面　流路７　杭列B　南東から
第４遺構面　流路７　杭列B　東から
図版 58　第４遺構面　流路７　杭列C　南東から
第４遺構面　流路７　杭列C　南から
図版 59　第４遺構面　流路７　杭列D　南から（1）
第４遺構面　流路７　杭列D　南から（2）
第４遺構面　流路７　杭列D　北東から
第４遺構面　流路７　杭列D　南東から（1）
第４遺構面　流路７　杭列D　南東から（2）
図版 60　第４遺構面　流路７　杭列E　北から
第４遺構面　流路７　堰A　西から
第４遺構面　流路７　堰B　西から
第４遺構面　流路７　堰C　西から（1）
第４遺構面　流路７　堰C　西から（2）
図版 61　第４遺構面　流路７　堰D　南西から
第４遺構面　流路７　堰F　南から
図版 62　第４遺構面　流路８　東から
第４遺構面　流路８　北から
図版 63　第４遺構面　溝５　東から
第４遺構面　溝６　東から
図版 64　１区　下層確認
２区　南部下層確認　南から
図版 65　第４遺構面　流路７　出土土器・土製品
（S . ≒ 1/3）
図版 66　第４遺構面　出土石器
（S . ≒ 2/3　但し 112-2・114-6 はS . ≒ 1/3）
図版 67　第４遺構面　流路７　出土木製品（1）
（S . ≒ 1/6）
図版 68　第４遺構面　流路７　出土木製品（2）
（S . ≒ 1/6）
図版 69　第４遺構面　流路７　出土木製品（3）
（S . ≒ 1/6）
図版 70　第４遺構面　流路７　出土木製品（4）
（S . ≒ 1/6　但し 121-37・38 はS . ≒ 1/10）
図版 71　第４遺構面　流路７　出土木製品（5）
（S . ≒ 1/6）
図版 72　第４遺構面　流路７　出土木製品（6）
（S . ≒ 1/6　但し 125-59・60 はS . ≒ 1/8）

本　文

第１章 位置と既往の調査

第１節　位置

御所市は奈良県の中部に位置する面積 60.58㎢の都市であり、北は葛城市・大和高田市、西は大阪府千早赤阪村、南は五條市、東は橿原市・高取町・大淀町と接している。奈良盆地の西南部に位置する本市は、西部に金剛山・葛城山がそびえ、東南部は竜門山地の西端にあたる巨勢山丘陵が起伏し、西は葛城川、東は曽我川によって形成された谷となっている。また、南には中央構造線となる吉野川河谷と境している。このため、地形は平坦地や斜面地などと地形的変化が多くみられる。また、西は金剛山・葛城山の間にある水越峠を通じて大阪方面へ至り、南は風の森峠を介して五條・吉野・和歌山方面へ至るなど交通の要衝にあたる。

今回調査を行った茅原中ノ坊遺跡は、御所市茅原に所在し、葛城川ほかの小河川によって形成された沖積低地に立地する。葛城川の東岸（右岸）地域に当たっている。

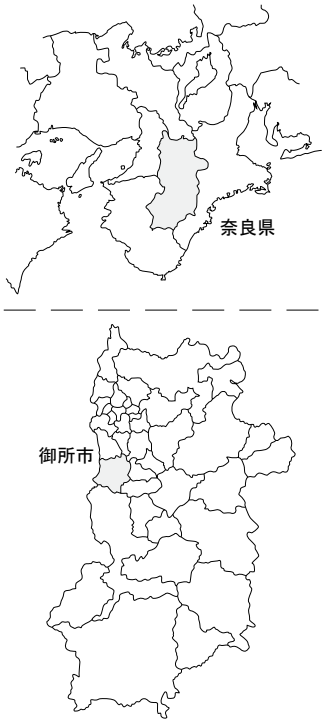


図１　御所市の位置

第２節　歴史的環境

御所市域における縄文時代から古墳時代頃までの発掘調査された遺跡の概要等については、これまでも『御所市文化財調査報告書』で繰り返し述べられてきた。とりわけ近年の調査成果を踏まえた「歴史的環境」については、既刊の『観音寺本馬遺跡』（木許・西村編 2015）・『玉手遺跡』（木許・小泉・村島編 2017）・『中西遺跡』（木許・井ノ上編 2017）などを参照されたい。

ここでは、本書で報告する茅原中ノ坊遺跡に関連して、弥生時代の周辺状況として平地の遺跡をを概観する。

近年、御所市域における弥生時代の調査状況は、この茅原中ノ坊遺跡を含めて京奈和自動車道建設に伴う事前発掘調査として広大な面積が一気に調査されたことがあり、激変の様相を呈している。その最も顕著な例が、秋津遺跡（図２－番号７、以下、図および番号の表記は略す）・中西遺跡（２－８）の発掘調査である。この両遺跡では、自動車道のインター部分に当たるためにとりわけ広大な面積が調査され、水田遺構や埋没林が検出され生産域の様相（岡田・松岡 2012、岡田・絹畠・中東 2013、本村・中野 2013、岡田・木村 2015、岡田・中野 2015、絹畠 2015、松吉 2015、本村 2015、絹畠・西川・松吉 2015、岡田憲一編 2017、絹畠・岩越・西川 2017、本村・前田・中野・杉山・佐々木 2017）が、それぞれ明らかとなっている。特に、前期の水田は隣接する両遺跡をあわせると 50,000㎡以上が連続的に広がっていたと想定されている（岡田憲一編 2017、517

1．茅原中ノ坊遺跡　2．観音寺本馬遺跡　3．新村・柳原本遺跡　4．玉手遺跡　5．16-B-420 遺跡　6．今出遺跡　7．秋津遺跡　8．中西遺跡　9．巨勢山境谷遺跡　10. 巨勢山中谷遺跡　11. 巨勢山八伏遺跡　12. 鴨都波遺跡　13. 名柄銅鐸・銅鏡出土地　14. 鴨都波１号墳　15. 西浦古墳　16. オサカケ古墳　17. 室宮山古墳　18. ネコ塚古墳　19. みやす塚古墳　20. 掖上鑵子塚古墳　21. 権現堂古墳　22. 新宮山古墳　23. 水泥北古墳　24. 水泥南古墳　25. 條ウル神古墳
A．巨勢山古墳群　B．石光山古墳群　C．小林古墳群　D．石川古墳群　E．吐田平古墳群　F．北窪古墳群
G．ドンド垣内古墳群

図２　周辺の主要遺跡分布図　（S．＝1/50,000）

頁)。しかし、弥生時代の水田遺構は、玉手遺跡（２－４、木許・小泉・村島編 2017)、今出遺跡（２－６、岡田圭司 2010・本村 2011・中野編 2016)、新村・柳原遺跡（２－３、岡見 2015a・2015b・2016・2017）や 16-B-402 遺跡（２－５、米川 2009・2012・2013・2014）などで次々と検出されるようになっている。これらはいずれも葛城川の東岸地域で、その分布範囲は南北距離で５km 弱にも及んでいる。これらの遺跡で検出されている弥生水田は前期のものが遺存状態が良い場合が多いが、必ずしもすべてが同一時期の遺構ではない。また、各遺跡間には、現在確認できているだけでも遺構等の空白地帯が存在している。ただ、そのことは、そもそもその時期のその地点に人の足跡が及ばなかったのか、それとも一旦形成された水田などが河川の氾濫などによって削平を受けた結果なのか、俄には断じ難いであろう。

いずれにせよ、中西遺跡や秋津遺跡は自動車道のインター建設予定地の発掘調査であったことから、一時に検出された水田形成面の広がりが広大であったために、とかくこの周辺が「穀倉地帯」であったと取り上げられがちであるが、より広い地域に目を向けると、上記の範囲には現状ではやや点的ではあるが水田遺構が検出されている。すなわち、葛城川をはじめとするその支流となる小河川によって形成された沖積地の特に東岸地域には、弥生時代を通じて相当広い範囲に水田が広がっていたと考えるのが妥当であろう。近年の大阪平野ほか他地域での水田遺構の検出状況に鑑みれば、これが、この地域の特質なのか、弥生時代の沖積平野ではむしろ一般的であったのか、また、どのような条件で広大な営農が可能であったのかなど、今後さらに検討されるべき課題である。

こうした生産域の状況に対して居住域としての弥生集落遺跡としては、御所市域にはその代表的なものとして鴨都波遺跡（２－ 12）（網干 1965 ほか）がある。鴨都波遺跡は、葛城川西岸地域に所在し、茅原中ノ坊遺跡からは西方に１km 強離れた位置に当たる。確認されている遺構として前期後半の竪穴住居跡がある（木許編 1992）のでこの遺跡が前期に遡ることは確実であるが、さらにその後も集落は継続し、検出遺構や出土土器の分量は中期、後期とも相当数に及んでいる。鴨都波遺跡は、集落としての継続性と遺物量の豊富さから、弥生時代の拠点的大集落と考えられる。また、第 12 次調査地で杭や矢板で護岸された中期後半の水路が検出されていること（藤田・尼子編 1992）は、本書で報告する茅原中ノ坊遺跡の性格と関連して留意される。

一方、東岸地域の中西遺跡にあっては、従前から前期後半の土器が出土することが知られていた（木許 1990）し、近年の京奈和自動車道建設にかかる大規模調査によって、巨勢山丘陵の北辺部に弥生時代から古墳時代の住居跡が検出されている（木許・井ノ上編 2017)。ただし、中西遺跡で検出された弥生時代の集落跡は現状ではその広がりが比較的小規模にとどまっている。

今後は、このような遺跡のほか隣接する葛城市・橿原市・大和高田市の各市域も含め、上記のような広大な面積の水田を営んだ人々の居住地の問題を検討していくことが課題である。また、こうした歴史的環境にあって、本書で報告するような、弥生時代流路の大規模な護岸施設やその他の灌漑施設を、弥生時代の農業発達史のなかに正しく位置づけるべく検討が必要である。

第３節　既往の調査

茅原中ノ坊遺跡は、元々『奈良県遺跡地図』に、「16-B-415」として登載されていた周知の埋蔵文化財包蔵地で、その所在地は代表地として、茅原字中ノ坊と記されていた。

今次調査地の西側には、図３にも見えるように県道大和高田御所線を挟んで、吉祥草寺が所在している。吉祥草寺は、役行者生誕の寺と伝えられ、現在は、毎年１月 14 日に、奈良県指定無形民俗文化財「茅原のトンド」（御所市教育委員会 2014 年ほか）が行われる寺院としても著名である。「茅原のトンド」は、伝統的トンド（左義長）行事で、その雄大さはまさに壮観で、毎年多くの人々が訪れる祭りである。

茅原中ノ坊遺跡はその吉祥草寺に関連する遺跡とみられていて、その範囲は、当初は同寺を中心にして、東西南北 350 ｍほどの範囲が遺跡として認識されていた。「中ノ坊」との小字名をそのまま遺跡名に反映させたのは、寺院に関連する遺跡名称としてふさわしいと考えたからである。

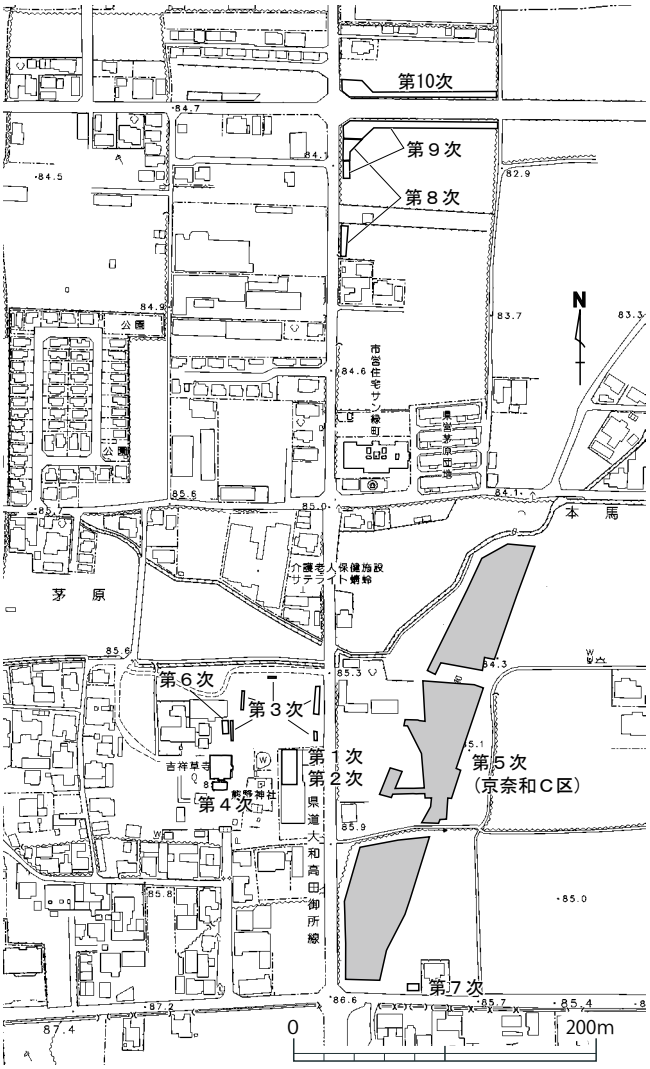


図３　茅原中ノ坊遺跡　既往の調査地　位置図　（Ｓ．＝1/5,000）

実際、これまでの発掘調査はこの吉祥草寺の周辺で実施されてきた。

第１次（昭和 63 年、御所市教育委員会調査）・第２次調査（平成７年、御所市教育委員会調査）は、吉祥草寺に東接する敷地での調査で、物流倉庫の建設に伴うものであった。調査面積が狭いことや、既存建物を撤去後に新設建物を設置する地点があるなど調査環境が必ずしも整っていなかったが、湿潤な土層の堆積が確認され、中世の井戸などの遺構が検出された。

第３次調査（平成９年、御所市教育委員会調査）は、その北側にあって、駐車場造成にかかる事

前調査として実施した。基本的に盛土工法による造成であったが、擁壁の設置箇所を調査対象にしたほか、遺構の存否確認のためのトレンチを計５箇所に設定した。その多くは砂礫や粘土の堆積が見られるばかりであったが、吉祥草寺により近い敷地内の西寄りのトレンチで、中世後半を中心にするとみられる土坑、溝、ピットなどの遺構の上面を検出した。

第４次調査（木許 2008、奥田・木許 2011）と第６次調査（奥田・木許 2011）は、吉祥草寺の境内地において、本堂の建替えに伴うもの（第４次調査）と、トイレの新築に伴うもの（第６次調査）として実施した調査である。第４次調査では現本堂の直下に、14 世紀前半頃までの遺物を含む整地層が確認でき、第６次調査では、その上層にのる整地層から 14 世紀中葉から 15 世紀初頭頃の遺物が出土した。吉祥草寺には、14 世紀中頃に火災があってその後に本堂を再建したとの寺伝が残っているが、調査結果はその伝承と合致するものであった。また、第４次調査では、本堂の下陣を増築した痕跡が確認でき、さらにその前面に焼土層の広がりも検出できた。これらは「茅原のトンド」の初現を探る手かがりになるものである。

このように、これまでは吉祥草寺周辺での調査成果があったが、京奈和自動車道建設に伴う発掘調査を第５次調査（本書報告）として実施したところ、弥生時代の流路ならびにその護岸施設や水田面などを検出した。また、第５次調査地に南接する第７次調査地（岡田雅彦 2015）においても、弥生時代の水田のほか、縄文時代後期初頭の遺物包含層が確認された。このように、第５次調査や第７次調査で、これまでの茅原中ノ坊遺跡とは性格が異なる遺構が検出されるようになった。

その後、この周辺では、京奈和自動車道に伴って県道の整備も徐々に進められており、その建設工事に伴う発掘調査が第８～10次調査として奈良県立橿原考古学研究所によって実施されている。ただし、これらの調査地は調査時点ではいずれも茅原中ノ坊遺跡の範囲外にあったので、第８次調査（中里 2015）は「観音寺本馬遺跡隣接地」として、第９次調査（中里 2016）は「観音寺本馬遺跡」として概要報告されている。

しかし、発掘調査の成果によれば、第８次調査地では、弥生時代および古墳時代の流路、弥生時代の流路に伴う柵、縄文時代後期の遺物包含層などが検出された。第９次調査地では、弥生時代や古墳時代の流路などが確認されたが、とりわけ調査区の西端で弥生時代の流路に伴う、護岸ないし柵として機能したとみられる杭列が検出された。第 10 次調査（平成 27 年、橿原考古学研究所調査）でも、弥生時代や古墳時代の流路が検出されている。

この第８～ 10 次調査地の成果から、当該地が、隣接する縄文時代を中心とする観音寺本馬遺跡よりも、茅原中ノ坊遺跡の第５・７次調査地の様相に近いことが分かった。このことを受けて、吉祥草寺とその周辺に限っていた茅原中ノ坊遺跡の範囲について、平成 28 年３月 18 日付けで見直しが行われた。すなわち、第８～ 10 次調査地周辺は元々は遺跡の隣接地との扱いであったが、現在は、図２に示しているように、元の茅原中ノ坊遺跡の範囲を北に延ばして南北長 700 m程として観音寺本馬遺跡に接するものとし、この地点を遺跡の範囲内に包括したものとなっている。

第２章　調査の契機と経過

京奈和自動車道は、京都から和歌山を結ぶ全長 120km の高規格幹線道路として計画された自動車専用道路である。このうち、大和郡山市伊豆七条町から五條市居伝町までは大和御所道路とされ、御所市はこのうちの「御所区間」が該当している。

大和御所道路は、平成４年度に事業化がなされ、以降、用地買収・建設工事等が進められてきた。そして、この事業と併行して、工事に先立つ埋蔵文化財の発掘調査も奈良県立橿原考古学研究所を中心として、多くの地点で実施されている。

こうした状況にあって、平成 19 年４月に、国土交通省近畿地方整備局　奈良国道事務所長から、御所市教育委員会に対して、「御所区間」について、埋蔵文化財発掘調査業務にかかる「委託申込書」が提出された。

各種公共事業のうち国・県が行う事業に伴う発掘調査は奈良県が行うという取り決めがある。したがって、京奈和自動車道の建設に伴う発掘調査は奈良県が行うべきであるが、事業の早期完成とそれによる地元の利便性向上など様々な条件を考慮すると、御所市内における文化財調査については、御所市も一定の役割を担うべきであると判断された。しかし、御所市がこの事業を実施するには、調査員の人数が絶対的に不足するという問題があった。そこで当市教育委員会は、この「委託申込書」の提出に前後して、事業自体の受託の可否をも含めて内部調整を行いつつ、調査の方法や体制について奈良県教育委員会文化財保存課および奈良県立橿原考古学研究所と協議を重ねた。そして最終的に事業受託の方針を固め、同年４月に申込者に対して、「埋蔵文化財発掘調査受託承諾書」を発行した。調査体制については、最大の問題であった調査員は事業嘱託を新たに雇用して対応することや、技術職員１名をほぼ専従させて全体を総括すること、各種事務手続きなどに文化財係職員が当たることなどを決め、その整備に努めた。

事業嘱託は期限付きの雇用による専門職員である。このために、後述するように、この茅原中ノ坊遺跡に限らず本事業においては部分的な調査区を除いては、基本的に現地調査担当者が報告書の作成時点では退職しており、整理作業を最後まで担当できないという事態が生じた。また、大規模な事業の割に専門職員の人員を十分に確保することができず、調査員の絶対数がどうしても不足気味であった。この体制は、文化財保護行政を行っている立場からは決して好ましいことではないが、小規模な自治体が通有の事業量を遙かに超える規模の事業を一時的に実施せざるを得ないという状況のもとでは、やむを得ないことであった。

いずれにせよ、このような体制整備を進めつつ、発掘調査事業が開始された。発掘調査の担当地区については、奈良県および橿原考古学研究所と協議し、御所市の調査担当地区は、道路建設予定地のうち御所インター建設予定地の南端の一部から玉手遺跡（御所市玉手所在の新池より北側）までの範囲と、国道 309 号線から巨勢山丘陵のトンネル抗口までの範囲、および南部丘陵地の朝町

におけるトンネル抗口部の工事により掘削が行われる範囲とした。なお、玉手遺跡における御所市の担当範囲は、当初は上記のように新池・大月池を除くものであったが、平成 24 年 9 月に、奈良県教育委員会教育長から当市教育長に宛て、諸般の事情からこの部分について御所市の調査担当とされたいとの依頼があった。唐突な依頼であることから担当課は大いにとまどったが、事業の早期完成を望む地元要望などに鑑みて、最終的にこれを受諾するとの結論が出された。こうして、玉手遺跡の御所市の担当範囲の南限は大月池までとなった。

また、当初に設定された上記の範囲にはそれぞれ遺跡が所在しているが、遺物散布地として認識されている地点があることや、実際の遺跡の広がりが面的な調査の結果次第では変更もありうる状況であったので、まずは便宜上各地区をアルファベットの地区名で呼称した。茅原中ノ坊遺跡は C 地区とし、現地作業や先に刊行した概要報告（御所市教育委員会 2009）ではこのアルファベットの地区名を用いている。

今次調査は、茅原中ノ坊遺跡全体の調査次数で言えば第 5 次調査となる。発掘調査は平成 20 年度に実施した。調査対象面積は約 16,000㎡になるが、まず第 5 － 1 次調査として、当該地における遺構面の数および広がりを確認するためのトレンチ調査を行った。その結果を受けて、一部期間的には重複しつつ、面的に拡張するべき調査区を決めて、これを第 5 － 2 次調査として発掘した。各調査の期間および担当者は以下の通りである。

第 5 － 1 次調査：担当　岡田圭司
調査期間　平成 20 年 5 月 23 日～平成 20 年 9 月 5 日
調査面積（掘削上面の面積）　2,700㎡
第 5 － 2 次調査：担当　岡田圭司・西村慈子
調査期間　平成 20 年 8 月 5 日～平成 21 年 3 月 6 日
調査面積（掘削上面の面積）　8,650㎡

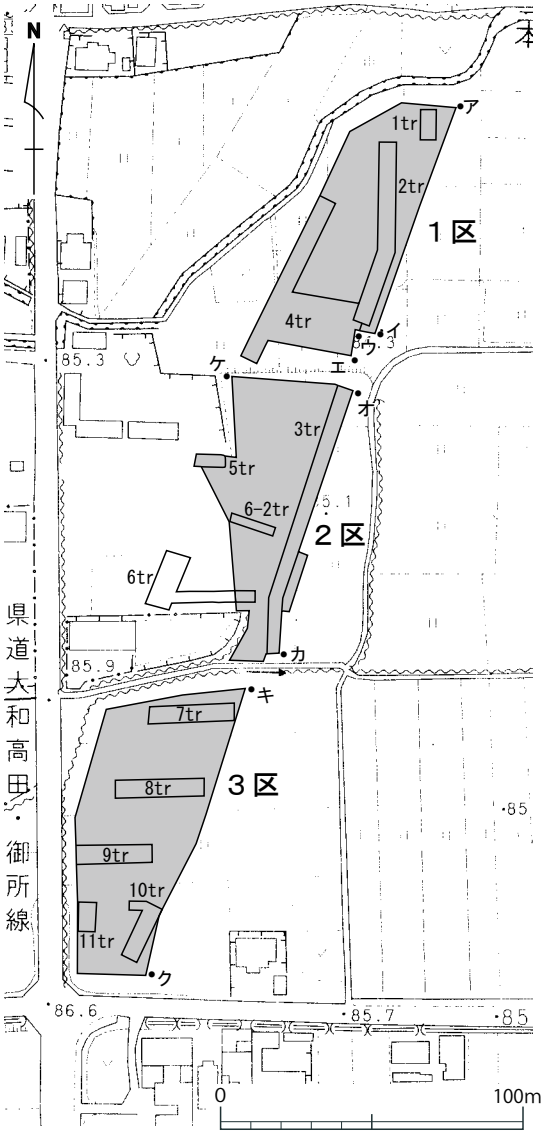
各トレンチ、調査区の配置は、図 4 に示したとおりである。また同図に見えるように、第 5 － 2 次調査にあっては、現状の地形や現生活道によって、北から順に 1 ～ 3 区に区分して行った。なお、現地調査においてもこの調査区の区分に依っているが、上記のように、当初、当該事業による茅原中ノ坊遺跡は「C 地区」としたので、調査時は「C － 1 区」などと呼称して、図面類や遺物取上カードなどにはそのように記されている。

さて、上記のように、当該調査の主担当は岡田であった。しかし、岡田は現地調査の終了後に、玉手遺跡（木許・小泉・村島編 2017）や中西遺跡（木許・井ノ上編 2017）の各一部地区を担当するなど、整理事業に専従することができなかった。その後、平成 22 年度末に退職した。

第 5 － 2 調査の副担当となった西村は、主に流路 7 で出土した 2,000 点以上の杭列の現地での

記録作成を担当し、各杭に番号を振って基本的にそのすべてを取り上げた。整理作業においては、各列を護岸杭列と堰とに分け、さらに護岸杭列はＡ～Ｅに、堰はＡ～Ｄに分離し、その後、平面図・立面図のトレースに至るまで悪戦苦闘した。一見して複雑な様相を呈する、夥しい数の杭により構成される杭列であるが、本書では西村の整理による各杭列についての認識を踏襲している。しかし、西村も、岡田と同様に今次調査終了後に玉手遺跡の一部地区を担当したほか、観音寺本馬遺跡の整理事業（木許・西村編 2015）を優先させる必要があったので、必ずしも本書の作成に専従できる環境になかった。西村は平成 24 年度末に退職した。

この後を花熊祐基が継いだ。花熊は、平成 27 年度にほぼこの整理事業に専従できたので、同年度末までに、調査の全容を把握したうえで、第３章から第６章のうち遺物に関わる項以外の文章を作成し、同項も含めて本書編集に係るレイアウトをほぼ終えることができた。しかし、花熊も平成 27 年度末に退職したので、編集の最終段階を木許が引き継いだのである。



※カタカナ記号は図５～ 11 に対応する。
図４　調査区　トレンチ配置図　（Ｓ．＝1/2,500）

このような経緯であるから、現地調査担当者と整理担当者が異なっている。そのために、整理担当者は、残された図面や写真を丹念に検討して、遺漏がないことを目指した。しかし、その一方で、一部に記録そのものに整合性がない場合や、本来あるべき図面が残されていない場合があったことも事実であった。そうした場合でも、調査担当者が報告書作成を行っていれば調査時の記憶などである程度補うことができることもあるが、今般の整理体制ではそれはかなわなかった。このような事態に際して、本書では、まずは残された記録を総合して欠を補うべく努めたが、どうしても原図における不整合を解決できなかった場合は、解釈を入れずに情報としては提示しない方針とした。このため、遺構の記述や図面の提示に関してはやや不十分な点があるのは否めない。これについては、かかる体制で発掘調査を行わざるを得ない現状の課題と受け止めている。

第３章　基本層序

今次調査地における層位の把握は、第５－１次調査時にトレンチ壁面の土層の確認･観察を行い、その情報を土層断面図として記録された。同様に、第５－２次調査においても各調査区壁面の土層断面図を作成することとしている。今次調査においては、各トレンチ調査区の２壁面程度の土層断面図が作成された。

その土層断面図をみると、砂粒の大きさや質、土色等によって詳細に分層がなされている。また、図面作成の際には遺構面の枚数やその基盤層、遺構面直上の洪水堆積層などの認識を図面に反映させることが意識されており、その内容はそれぞれに注記されている。調査区ごとの土層の整合性に関しては、上記の土層断面図にくわえて調査担当者の残したメモや調査日誌などを参考にしながら検討を行い、基本層序として把握した。

その結果、上層から暗灰色粘質土の現代耕作土層である１層、褐色粘土・シルトの床土層である２層、灰色ないしは褐色系統の粗砂、砂礫、粘質土の互層である３層、黄色系統ないしは灰色系統の細砂、砂礫、粘質土、シルトの互層である４層、青灰色系統の粘質土層である５層、灰色系統の粗砂、粘質土層で地山と認識できる６層に整理した。遺構については後述するが、２層上面で近現代以降、３層上面で弥生時代後期から古墳時代前期、古代、中世以降、４層上面で弥生時代後期以降、５層上面で弥生時代後期以前の遺構が検出されている。

現地で作成した土層断面図の内、１区から３区にかけてほぼ一直線になる調査区東壁の断面図を図５～10に、調査範囲の中央に近い２区北壁の断面図を図11に掲げた。また、第５－１次調査時の断面図は、各トレンチの平面図と併せて図13以降に提示した。これらの実測図では、調査区を跨いで広範に認められる土層には図中に共通のトーンを入れて示している。

以下、上記の成果に基づいて、今次調査地の基本層序について述べる。

今次調査地の現地表面は南西が高く北東が低くなっている。今次調査地の南端から北端まで、直線距離で約300mあるが、都市計画図によると比高差は約２mほどあり、微地形では北東方向に緩やかに傾斜する緩斜面地に遺跡は立地している。

同様の状況は遺跡の各遺構面でもみてとることができる。今次調査では弥生時代から近現代に至る各遺構面を検出したが、それらの標高も現地表面と同じく南西が高く北東が低くなっている。また、各遺構面で検出された自然流路もおおむね南西－北東方向の向きに揃っており、標高の高い南西から北東に向けて水が流れていたことに起因するものと考えられる。

調査地の現状は一部盛土が施されている箇所があるものの、ほぼ全てが水田耕作地である。したがって、各地点の最上層は１層とした現代耕作土層（暗灰色粘質土）である。

１層の直下には褐色粘土・シルトからなる床土層があり、これを２層とする。２層の上面では近現代と考えられる溝や井戸が検出されている。１層と２層は調査区全体で認められるが、例外的に

２区西壁付近では、それらに代わって造成土と考えられる赤褐灰色礫砂層が調査区の北西端から南西端まで堆積している。第５章第１節で後述するように、およそ溝１（43 頁、図 28）を境にして西側に盛土を施しており、その境界線は都市計画図に記された現在の土地境界線と合致している。赤褐色礫砂層は最大で 1.5m 程度施されており、池状遺構の埋土上面を覆っている。

３層以下の遺構面は、弥生後期から古墳・古代・中世以降の遺構面（３層・４層）、弥生時代の遺構面（４層・５層）がある。４層・５層の上面は砂礫や粘土が交じり合った層が覆っており、洪水によって埋没したと考えられるが、３層の上面は弥生時代後期から中世にかけての遺構が検出でき、直上は一貫して２層が覆っていることから、同一面で連綿と土地利用されてきたことがわかるが、後述するように一部削平を受けているものと考えられる。

なお、第５－２次調査時には、これら遺構検出面について、２層上面を第１遺構面、３層上面と４層上面の一部を第２遺構面、４層上面を第３遺構面、５層上面を第４遺構面とそれぞれ呼称した。また、第５章では遺構面ごとに項を設けて、検出遺構に関して詳述している。

次に各層の具体的な内容をみていく。

３層は、２層直下に認められる灰色、あるいは褐色系統の粗砂・砂礫土・粘質土等によって構成されており、１区から３区北半にかけて堆積している。層厚は北側に位置する１区では 40cm、２区で 40 ～ 50cm、３区北半で 20cm とばらつきはあるが、北から南に向けて薄くなっていく傾向にあり、３区の中央付近からは認められなくなる。上述したように砂や砂礫、粘質土で構成されるが、それらが入り混じって堆積していることから洪水堆積層と考えられる。遺構が形成されるのはおおむね最上層の灰色系統の粗砂層であり、その上面には弥生時代後期から古墳時代前期・古代・中世以降といった幅広い時期の遺構が認められる。

弥生時代後期から古墳時代にかけての遺構は主に流路や溝・井戸・柱穴・ピット・土坑で、１区から３区まで万遍なく分布している。古代の遺構は平安時代の土坑が、中世以降の遺構は溝・素掘溝・池状遺構がある。古代の遺構は面的な広がりは認められないが、中世以降の素掘溝は調査区全体に認められる。

４層は、黄色ないしは灰色系統の細砂・砂礫・粘質土・シルトで構成されており、３層と同じく砂・粘土等が入り混じって堆積していることから洪水堆積層と考えられる。２区から３区にかけて広がっているが、１区では認められない。層厚はおおむね 40 ～ 80cm 程度である。２区から３区北半にかけては上面に３層が堆積しているが、３区南半では４層上面がそれ以北の３層上面と同一面を形成している。遺構は２区では４層上面で遺構は検出されなかったが、３区では３層に覆われているトレンチ北東部では弥生時代の水田遺構が、３層上面と同一面を形成している箇所では弥生時代後期から古墳時代の流路や土坑、中世以降の素掘溝が検出されている。流路は３層上面で検出されたものの延長部分である。これらの遺構は、水田遺構とその他の遺構では検出面が異なっており、水田遺構は他の遺構に比べて古い時期のものである。

本来、４層は３層の下層であり、同時期の遺構が形成されるのは層位的に矛盾しているようにみえる。ただし、３層が３区南半に堆積していなかったわけではないようで、第５－１次調査時において３区南半に設けた９トレンチの北壁では３層が確認されている。くわえて平成 25 年度に橿原考古学研究所が３区南東隅から南東へ約 200 ｍの地点で行った第７次調査（図３参照）では、３層に相当する灰白色砂層とその下層では４層に相当する黄褐色シルト層が確認されている（岡田雅彦 2015）。したがって、３区南半において３層と４層の水田形成面は何らかの要因によって削平を受けたものと考えるのが妥当である。

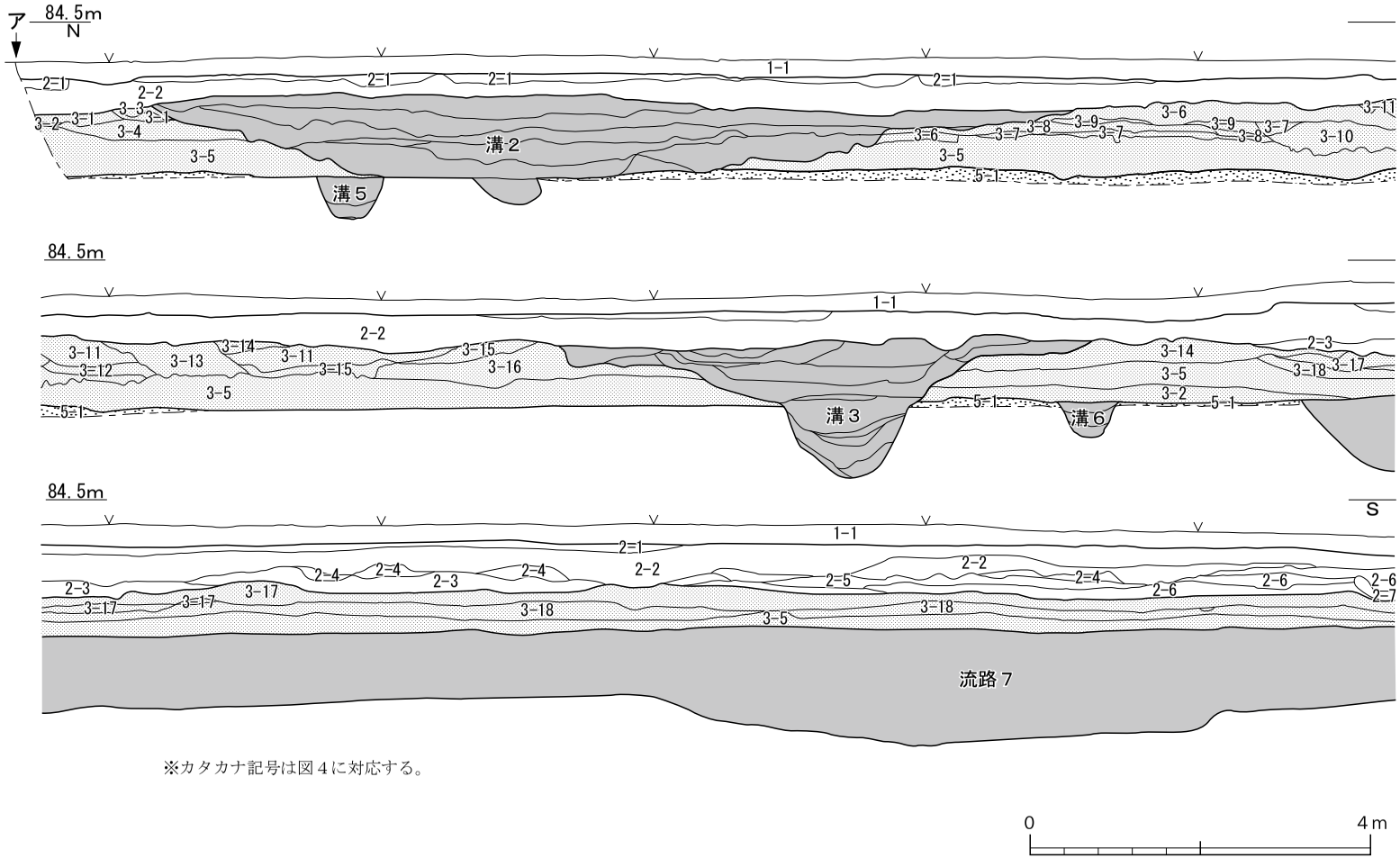
５層は青灰色系統の粘質土層で、調査区全体に認められる。２区、３区では４層が上面に堆積しており、４層が認められない１区では３層が堆積している。上面では弥生時代後期以前の遺構面が形成されており、ピット群や流路、流路に伴う護岸施設、溝を検出している。上面に形成された遺構は、１区では流路や溝、ピット群が面的に認められるのに対し、他のトレンチでは２区北半で流路と溝が検出されたのみである。特に３区は第５－１次調査時の下層確認の深掘を行った際に５層上面で遺構・遺物が認められなかったため、第５－２次調査では調査の対象としなかった。

４層と５層の関係をみると、図７などに示したとおり４層が上層であり、時期が新しいことは確実である。ただし、遺構の年代観に関していえば多少の問題がある。２区の５層上面で検出された流路や溝は、層位的にみて４層上面の遺構より古い時期のものである。しかし、４層が認められない１区の５層上面で検出された遺構は、４層上面で検出された水田遺構との層位的な先後関係が不明である。水田遺構や２区５層上面で検出された遺構には遺物が認められず、遺物による時期比定もできない。したがって、４層の明確な時期を決定することはできなかったが、３層の遺構の上限が弥生時代後期から庄内式期であるため、４層上面の水田遺構は弥生時代後期以前のものと考えられる。また、後述するように２区の５層内からは縄文時代晩期から弥生時代前期頃の土器が出土しており、５層の年代の上限となる。したがって、４層の年代は弥生時代の中で収まると考えられる。

５層内からは縄文時代晩期から弥生時代前期の土器がコンテナ（60 × 40 × 15cm）約１箱分出土しており、遺物包含層と認識できる。いずれも小片であるが、そのうち比較的形状を復元することができた縄文土器に関して以下で触れたい。

縄文土器は浅鉢・深鉢の破片が出土している。図面や写真等の明確な記録は残されていないものの、いずれも第５－２次調査時に下層確認の深掘を行った際に５層（青灰色粘土層）内から出土したと判断できる。また、そのような縄文土器は１区・２区でのみ出土しているが、前述した橿原考古学研究所による第７次調査の際にも、後期～晩期のものが出土しており、調査対象としなかった３区の下層にも同様の時期の遺物が存在した可能性が高いと推定される。出土した土器はいずれも細片であったが、そのうちある程度の大きさまで復元することができたもの、あるいは特徴的な属性を有するものなど３点を抽出して図化し、その実測図を図 12 に掲げた。

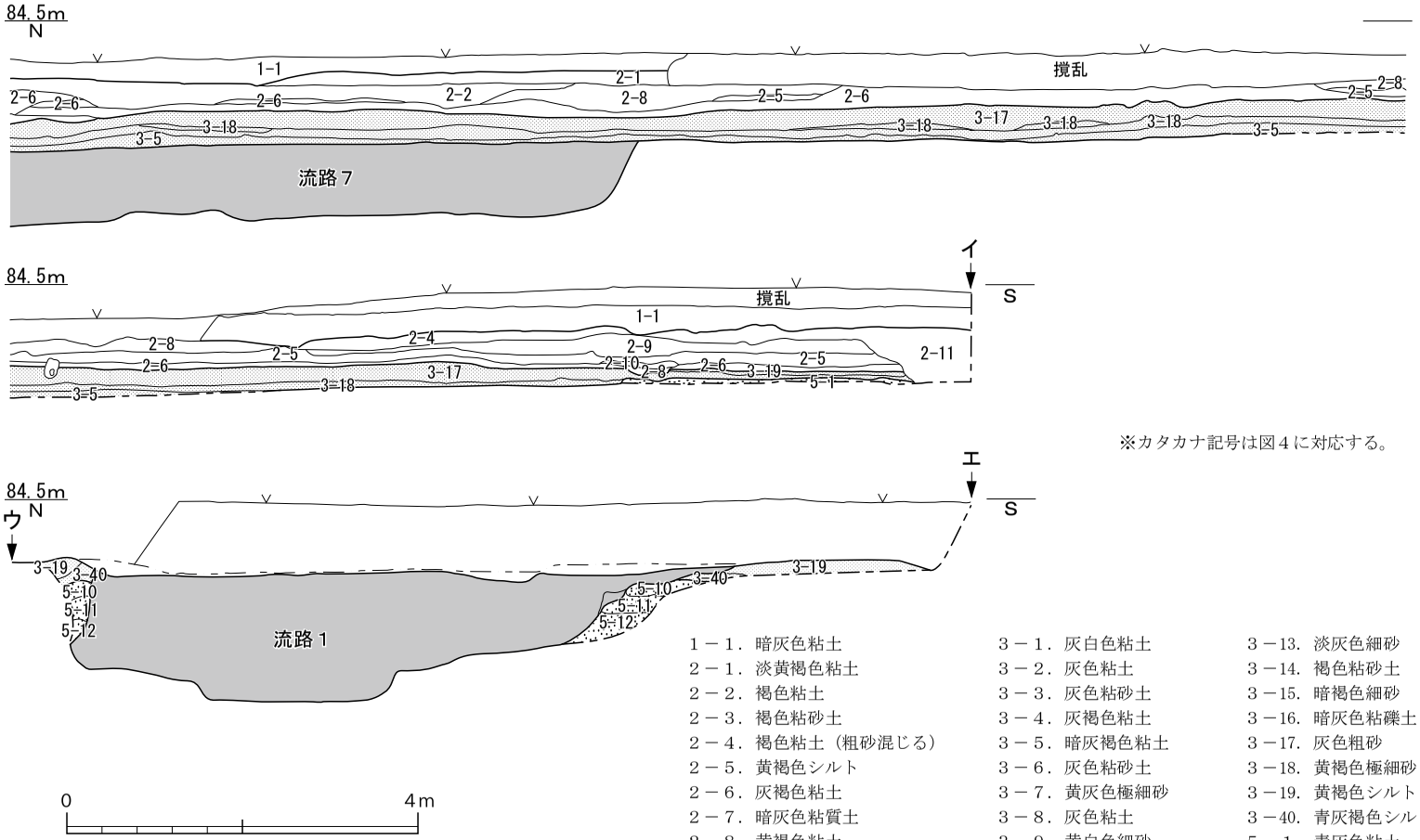
浅鉢（12 － 1）は２区の下層確認の際に青灰色粘土層から出土した。その地点は平面図上に記



※カタカナ記号は図４に対応する。

0　　4m

図５　１区　南北方向（東壁）　土層断面図（１）（S.＝1/80）



※カタカナ記号は図４に対応する。

１－１．暗灰色粘土	３－１．灰白色粘土	３－13．淡灰色細砂
２－１．淡黄褐色粘土	３－２．灰色粘土	３－14．褐色粘砂土
２－２．褐色粘土	３－３．灰色粘砂土	３－15．暗褐色細砂
２－３．褐色粘砂土	３－４．灰褐色粘土	３－16．暗灰色粘礫土
２－４．褐色粘土（粗砂混じる）	３－５．暗灰褐色粘土	３－17．灰色粗砂
２－５．黄褐色シルト	３－６．灰色粘砂土	３－18．黄褐色極細砂
２－６．灰褐色粘土	３－７．黄灰色極細砂	３－19．黄褐色シルト
２－７．暗灰色粘質土	３－８．灰色粘土	３－40．青灰褐色シルト
２－８．黄褐色粘土	３－９．黄白色細砂	５－１．青灰色粘土
２－９．黄白色粗砂	３－10．灰褐色粗砂	５－10．青黄褐色シルト
２－10．黄灰色粗砂（粘りあり）	３－11．褐色粗砂	５－11．明青褐色シルト
２－11．褐色砂礫土	３－12．灰褐色細砂	５－12．暗青灰色粘土

図６　１区　南北方向（東壁）　土層断面図（２）（Ｓ.＝1/80）

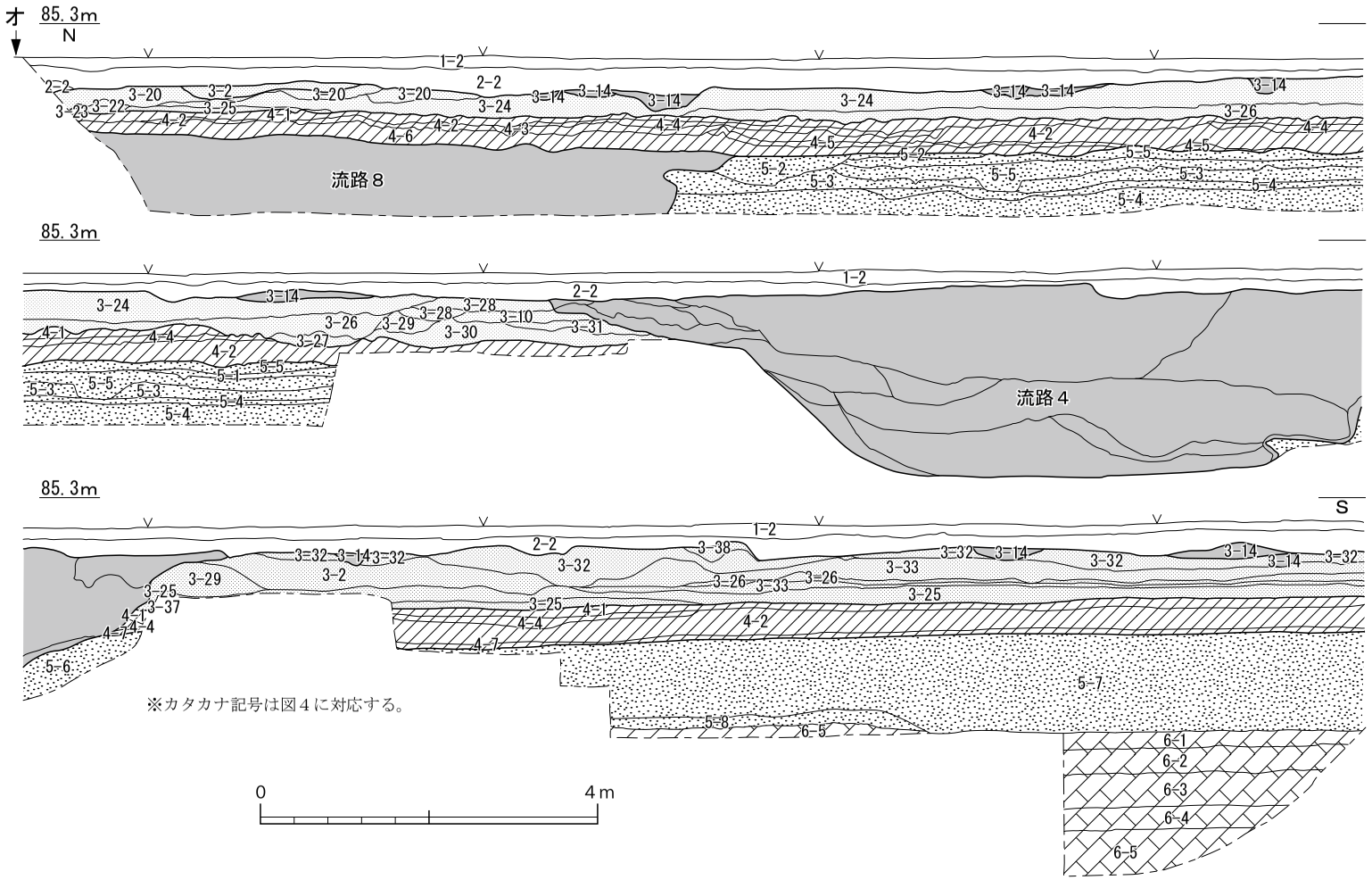
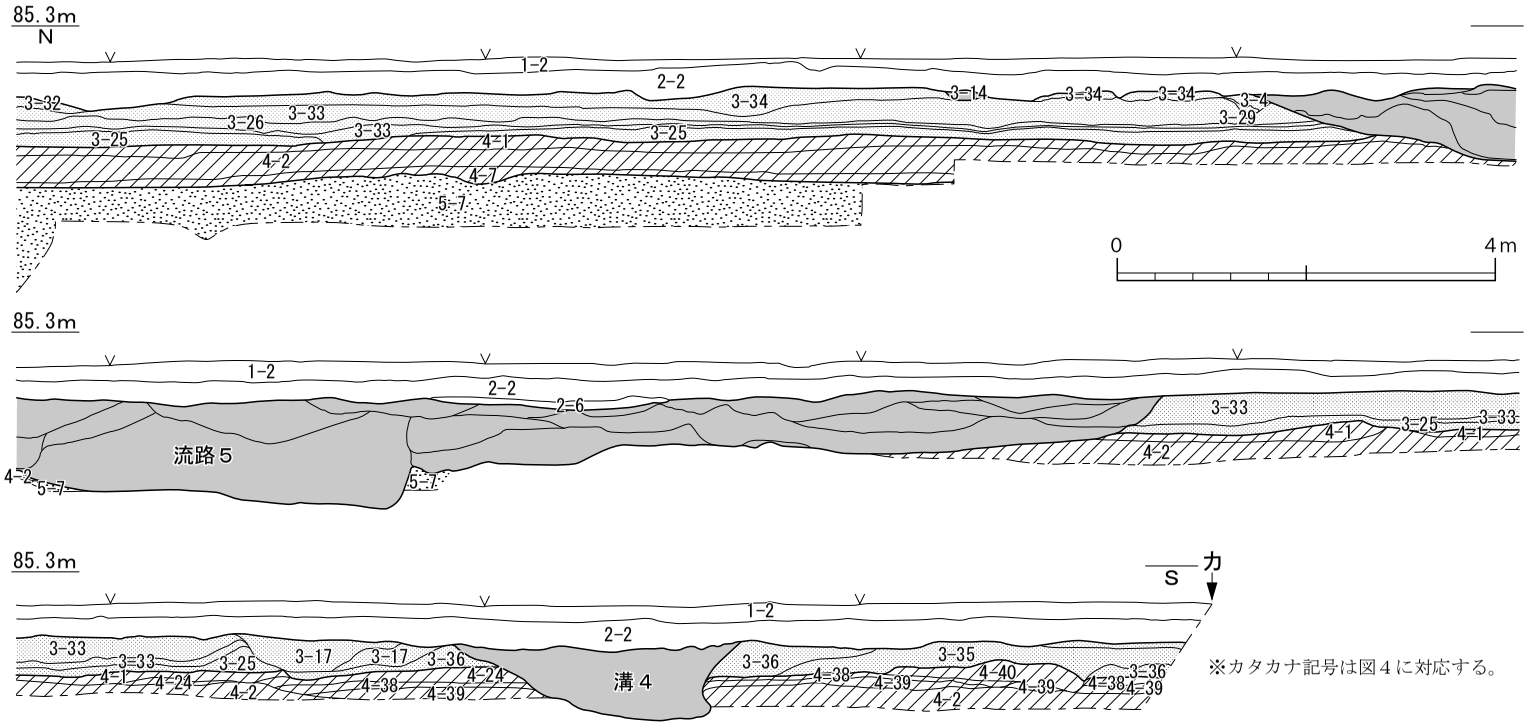


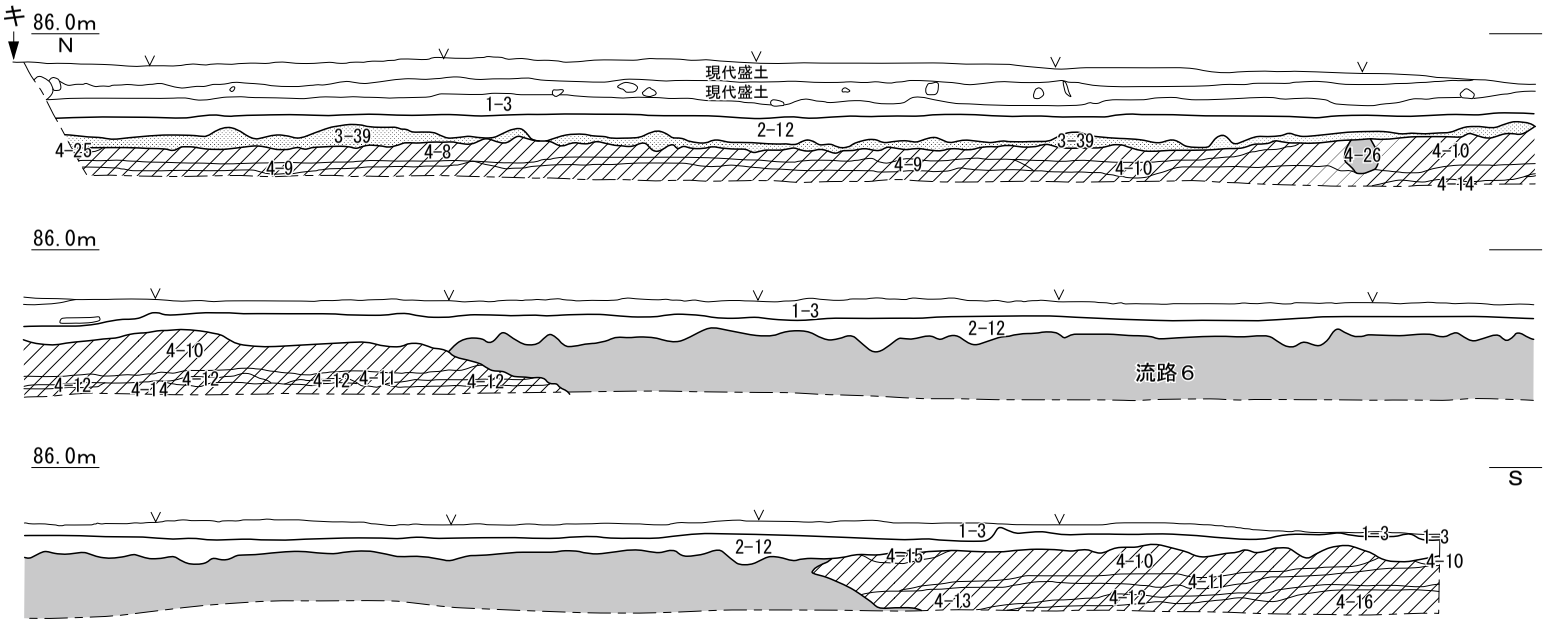
図７　２区　南北方向（東壁）　土層断面図（１）（S.＝1/80）



※カタカナ記号は図４に対応する。

１－２．暗灰褐色粘土
２－２．褐色粘土
２－６．灰褐色粘土
３－２．灰色粘土
３－４．灰褐色粘土
３－10．灰褐色粗砂
３－14．褐色粘砂土
３－17．灰色粗砂
３－20．褐色粘土（砂礫混じる）
３－22．灰色細砂
３－23．灰色粘質土（粗砂混じる）
３－24．黄白色粗砂
３－25．暗灰色粘土（砂礫混じる）
３－26．灰褐色砂礫土
３－27．暗灰色シルト
３－28．灰褐色粘礫土
３－29．灰色砂礫土
３－30．暗灰色粗砂（礫混じる）
３－31．灰褐色砂礫土
３－32．褐色細砂礫
３－33．灰色礫砂
３－34．灰色細砂
３－35．褐色粗砂土
３－36．灰色シルト
３－37．黄灰色粗砂（礫混じる）
３－38．灰色礫土
４－１．明黄白色細砂
４－２．暗灰色細砂
４－３．灰色砂礫
４－４．黄灰色粘土（細砂混じる）
４－５．褐色細砂
４－６．暗灰色礫土
４－７．暗灰色粘土（粗砂混じる）
４－24．褐色粗砂土
４－38．褐色粗砂（粘土混じる）
４－39．黄褐色粘土
４－40．黄褐色粘土（青灰色粘土混じる）
５－１．青灰色粘土
５－２．青褐色粘砂土
５－３．明青灰色粘質土
５－４．青灰色粘質土
５－５．淡青灰褐色粘質土
５－６．暗青灰色粘土
５－７．青灰色粘土（細砂混じる）
５－８．青灰色粘砂土
６－１．暗灰褐色粘土
６－２．暗灰色粘土
６－３．暗灰色粘土（粗砂混じる）
６－４．暗灰褐色粘土（細砂混じる）
６－５．灰色粗砂

図８　２区　南北方向（東壁）　土層断面図（２）（Ｓ．＝1/80）

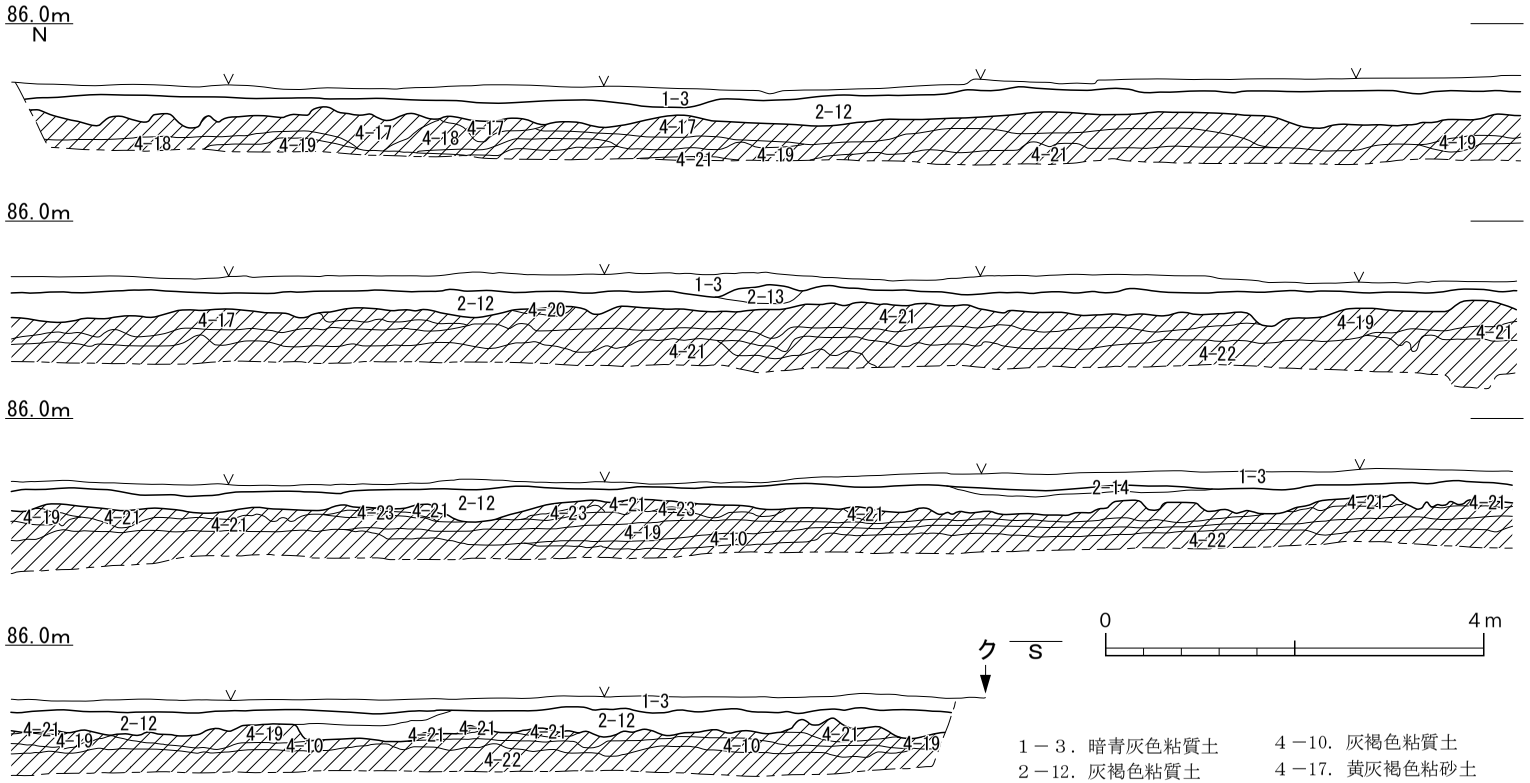


※カタカナ記号は図４に対応する。

１－３．暗青灰色粘質土
２－12．灰褐色粘質土
３－39．灰白色粗砂
４－８．暗灰色シルト（粗砂混じる）
４－９．灰色シルト
４－10．灰褐色粘質土
４－11．灰色粘土
４－12．暗灰色粘土
４－13．黄灰褐色シルト（砂混じる）
４－14．黄灰褐色粘土（暗灰色粘土混じる）
４－15．灰白色シルト
４－16．暗青灰色粘土
４－25．黄橙褐色極細砂
４－26．暗灰色シルト

0　4m

図９　３区　南北方向（東壁）　土層断面図（１）（Ｓ．＝1/80）

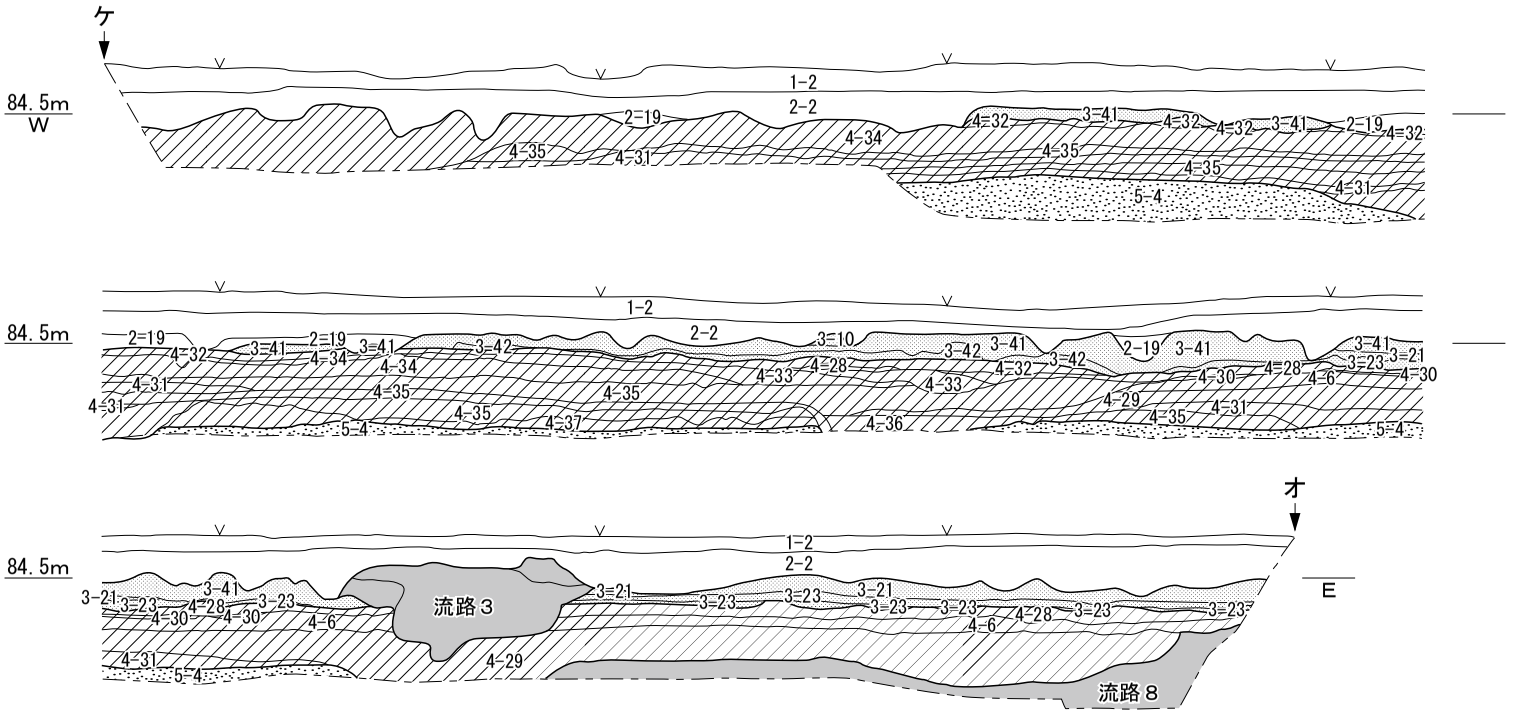


1－3．暗青灰色粘質土
2－12．灰褐色粘質土
2－13．暗灰褐色粘質土
2－14．暗褐色粘質土

4－10．灰褐色粘質土
4－17．黄灰褐色粘砂土
4－18．暗灰色粘質土
4－19．暗青灰色粘砂土
4－20．暗灰褐色粘質土
4－21．暗青灰色粘質土
4－22．淡青灰色粘質土
4－23．灰褐色粘砂土

※カタカナ記号は図４に対応する。

図 10　３区　南北方向（東壁）　土層断面図（２）（Ｓ．＝1/80）



１－２．暗灰褐色粘土
２－２．褐色粘土
２－19．褐色粘質土
３－10．灰褐色粗砂
３－21．暗灰色粘砂土
３－23．灰色粘質土（粗砂混じる）
３－41．黄橙白色細砂土
３－42．黄灰色粘土
４－６．暗灰色礫土
４－28．淡灰白色粘砂土
４－29．灰褐色粗砂
４－30．黄灰色粘砂土
４－31．灰黄色細砂
４－32．黄灰色粘土
４－33．灰白色粘砂土
４－34．灰色礫土
４－35．灰色細砂
４－36．灰白色粗砂
４－37．黄白色粗砂
５－４．青灰色粘質土

※カタカナ記号は図４に対応する。

0　4m

図 11　２区　東西方向（北壁）　土層断面図　（Ｓ．＝1/80）

録されていないが、調査時の写真から判断すると流路４と流路５の間と判断できる。また、同一の地点・層位からは、接合はできないものの、胎土・色調・調整が共通し（12 － 1）と同一個体と考えられる胴部片が６点ある。

口縁部復原径 39cm、残存高 16.7cm の大きさで、口縁部から胴部にかけて残存する。器壁は８mm 程度に薄く仕上げられている。口頸部は内彎して立ち上がる幅広のもので、緩やかな波状口縁を呈する。口縁部外面に文様等は認められない。頸胴部の境界には明瞭な稜を有し調整手法もそこを境に変化していて、口頸部内外面には二枚貝条痕が施されたのちナデ調整を、胴部外面にはケズリ調整、内面にはナデ調整が施されている。焼成は良好で、色調は外面は黒褐色、内面は灰黄橙色を呈す。胎土は緻密で５mm 以下の白色粒、雲母などを少量含んでいる。

深鉢は胴部と底端部の破片を図化している。胴部（12 － 2）は１区下層確認の際に青灰色粘土層から出土した。胴部径 30.2cm、残存高 20.1cm で、内外面ともにナデ･ユビオサエが施されるが、接合痕が明瞭にみられる粗雑な作りである。プロポーションは砲弾形を呈す。焼成は良好、色調は外面が黒褐色､内面が浅黄橙色で､胎土は緻密で５mm 以下の礫を含む｡内面には黒斑が認められる。

底部片（12 － 3）は、２区東壁付近の下層確認の断ち割りの際に出土した。厳密に出土地点が同じであるかは、取上げラベルや残された図面からはわからないが、調査時の写真では（12 － 1）と出土した日時が近く位置も近い場所と判断できる。

タテ 5.1cm、ヨコ 6.1cm の小片で全形をうかがうことはできないが、片面に網代の痕跡があることから深鉢の底端部と判断した。器壁は７mm 程度と薄い。調整は内面にケズリが認められるが、外面は網代の痕跡が明瞭に残る。焼成は良好で、色調は内外面とも黄灰色を呈し、胎土は緻密で２mm 以下の白色の礫を少量含む程度である。

これらの土器は調整や形態などから縄文時代晩期のものと考えられる。特に（12 － 1）は、口頸部に着目すると内彎し波状口縁を呈する。そのような形態は滋賀里Ⅱ式段階の文様が施されるタイプの浅鉢に類似している。しかし、口頸部内外面に二枚貝条痕が、胴部にケズリが施されるなど粗製化が進んでいることから、晩期でも前葉の終わり頃から中葉初頭頃に近い時期のものと考えるのが妥当であろう。以上のことを総合すると、５層出土土器は滋賀里Ⅲａ式から篠原式古段階（家根 1982・1994、岡田憲一 2011）の範疇に収まるものと考えられる。

なお、第５－１次調査・第５－２次調査共に、いくつかのトレンチで遺構の認められなかった箇所において、下層確認の深掘を行っている。前述の縄文土器はこの際に出土している。下層確認の結果、５層の下層には暗灰色ないし灰色系統のシルトや粗砂、粘質土が堆積（６層）していることがわかった。その土質や堆積状況から洪水堆積層と考えられる。６層については、５層上面から最大約３ｍの深さまで掘削したが、遺構・遺物は検出されなかったことから、本調査区における地山と判断した。

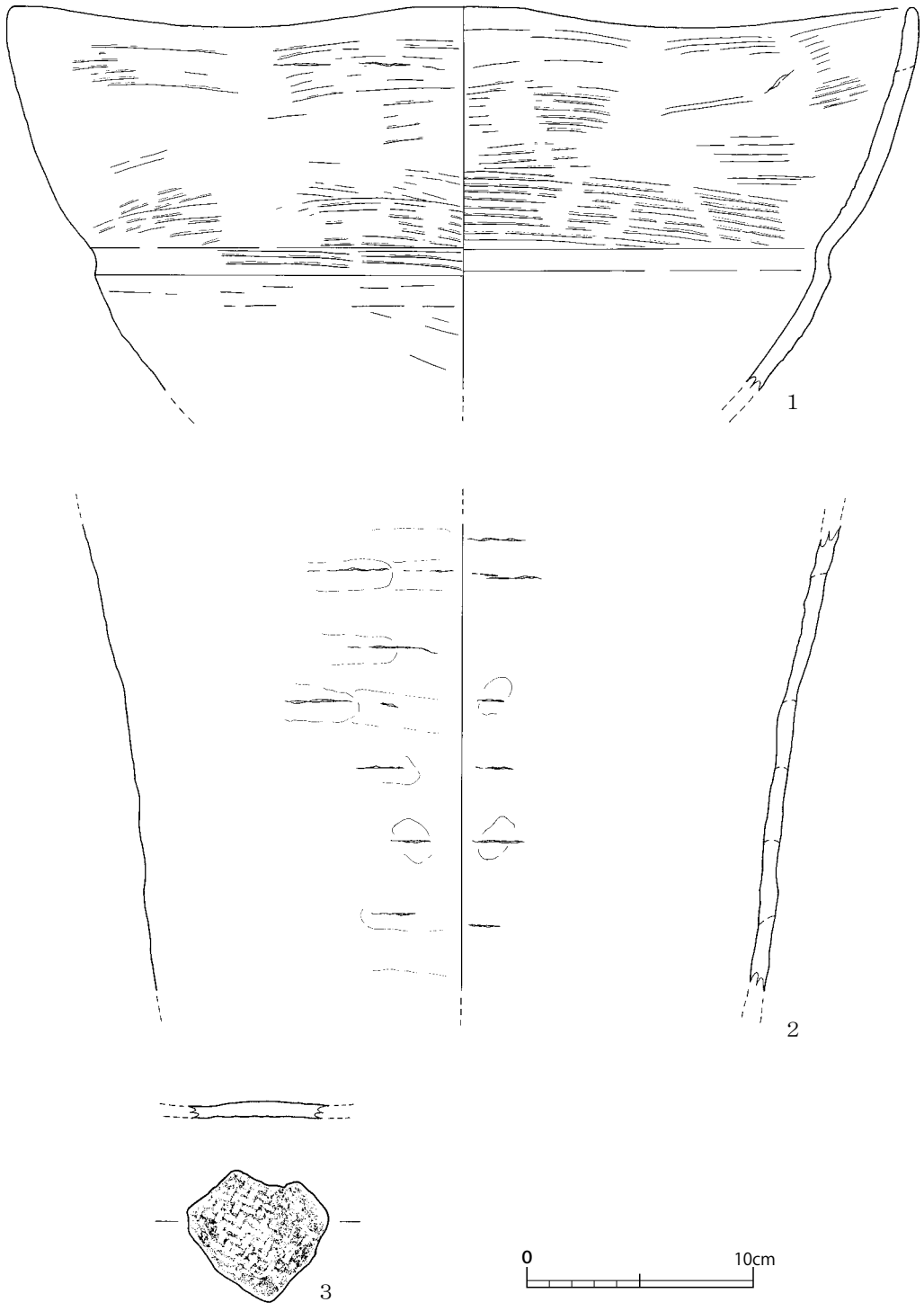


図 12　5層出土縄文土器　（S.＝1/3）

第４章　第５－１次調査（トレンチ調査）の成果

１．１トレンチ（図４・図 13）

１トレンチは、１区北東部に長さ 10 m、幅５mの南北方向に長いトレンチを設定した。基本層序は、上層から現代耕作土の１層、床土である２層、弥生時代後期以降の洪水堆積層である３層、弥生時代後期以前の遺構基盤層である５層の順に堆積している。遺構は５層上面で流路２と溝２、溝５を検出した。また、トレンチ南半部に、長さ５m、幅 3.2 m、５層上面から 1.6 mの下層確認トレンチを設けた。上層から青灰色粘砂土層、黄白色砂礫土層、青灰色系統の粘質土層の順に堆積していたが、遺構・遺物は認められなかった。

流路２はトレンチ北端で南岸の一部を検出した。検出幅約１m、深さ 50cm、長さ約４mである。溝２はトレンチの南東隅で検出した。検出規模は幅 60cm、深さ 80cm、長さ５mである。平面図上やここで記載した検出規模は前述したように５層上面におけるものであるが、図 13 に掲げた断面図を精査すると、流路２、溝２の本来の形成面は３層上面であり、溝５の上層遺構にあたる。

溝５は東西方向に延びる溝である。幅 32cm、深さ 60cm、検出長 5.6 mの規模で、幅に対して深さの深い溝である。検出した西端は流路２に切られている。溝の底部からは護岸杭と考えられる木製品が出土している。他に遺構に伴う遺物はみられず、この時点での遺構の形成時期は確定できていない。遺構の正確な時期の把握は、他のトレンチ調査や第５－２次調査の成果を基に行っている。

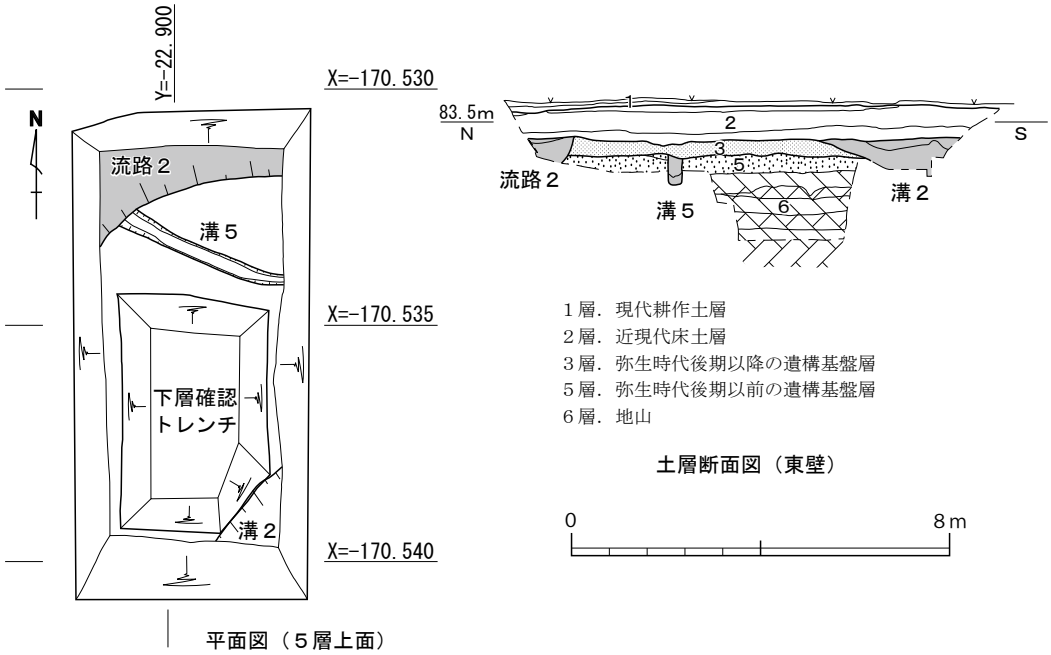


図 13　１トレンチ　平面図・土層断面図　（S．=1/160）

２．２トレンチ（図４・図 14・図 15）

２トレンチは、１トレンチの南側に長さ 75 m、幅６mの規模で、南北方向に長い逆「く」の字状のトレンチを設定した。

基本層序は、上層から現代耕作土の１層、近代以降の床土である２層、弥生時代後期から古墳時代、古代、中世以降の基盤層である３層、弥生時代後期の基盤層である５層の順に堆積している。

５層上面で溝２や溝３、溝６、流路７とそれに伴う護岸杭、ピットが検出されている。遺構はトレンチ北半部に限って認められ、トレンチが「く」の字に屈曲する中央より南側では、遺構は確認できなかった。

溝２はトレンチの北半部で検出されており、図 32 にみえるように、後の第５－２次調査で、溝の規模や方向から、１トレンチで検出された溝２の延長部分であることが確認できた。検出した溝の規模は、幅 60cm、深さ 80cm、長さ８mである。これは１トレンチと同様に５層上面における規模であり、図 15 に提示した断面図の分層ラインを精査すると、３層上面に形成された遺構であることがわかる。そこから読み取れる規模は、上端幅 3.6 m、底部幅 24cm、深さ 1.3 mで、断面 V 字状を呈している。埋土内からは矢板と思われる木材が出土している。

溝３はトレンチの北半部で検出された溝で、規模は検出長 6.25 m、幅 3.8 m、深さは最も深いところで 72cm である。断面形状は、北岸では上端から底部まで緩やかな傾斜で下っていくが、南岸は溝の中央辺りで一度幅１m程度の平坦面をもって、その北端から底部に向かって下っていく。したがって、底部幅は 36cm とかなり狭くなっている。また、流路７と切り合い関係にあり、流路７の北岸を切っていることから、流路７より新しい時期の遺構であることがわかる。溝２と同様に、第５－１次調査時には５層上面（第３遺構面）に形成された遺構と認識されていたが、図 15 の断面図を精査した結果、３層上面（第２遺構面）に形成された遺構と認識を改めた。

溝６は東西方向に延びる溝で、幅 75cm、深さ 50cm、検出長 3.6 mであるが、トレンチ西壁付近では幅２m、深さ 88cm と幅広で深くなる。断面形状は図 108（128 頁）に示したようにやや上端が開いた U 字形を呈する。埋土中からはサヌカイト製の打製石鏃が出土した。

流路７は幅 11 m、深さ 1.3 m、検出長６mである。流路の東壁中央付近では護岸施設と考えられる直径５cm 前後、長さ 50 ～ 70cm 前後の杭を 55 本検出した。これらの杭は、流路両岸の中央の岸に接しない位置に密に打ち込まれていた 。杭群は北側の１群と南側の１群に分けられるが、残存度が低く同一の杭群であるかは不明である。これらは、第５－２次調査時に検出された 2,000 本以上の杭等からなる護岸施設の一部にあたるものであり、その詳細は第５章第４節にて後述する。流路の底部からは弥生時代後期の高杯が出土しており、遺構の年代の下限になると思われる。

ピットは、第５－１次調査時に図版２に見えるように 21 基が検出され、一旦はその状況を反映した遺構配置を示す平面図が作成されていた。しかし、その後範囲を拡大して実施した第５－２次調査時に作成された平面図の原図には、うち 13 基のピットが見え消し状態で削除されたうえで新

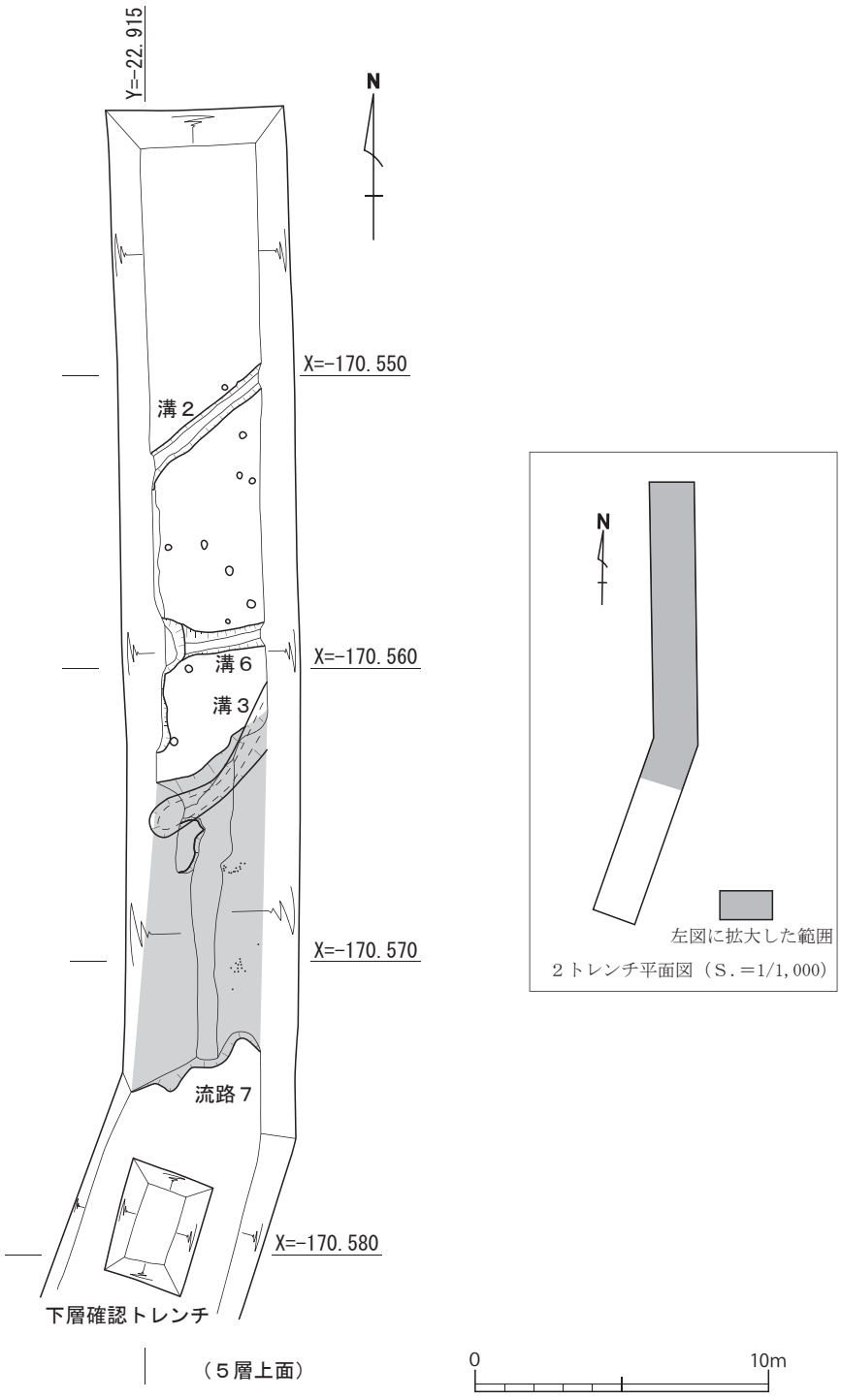


図 14　２トレンチ　平面図　（S.＝1/250）

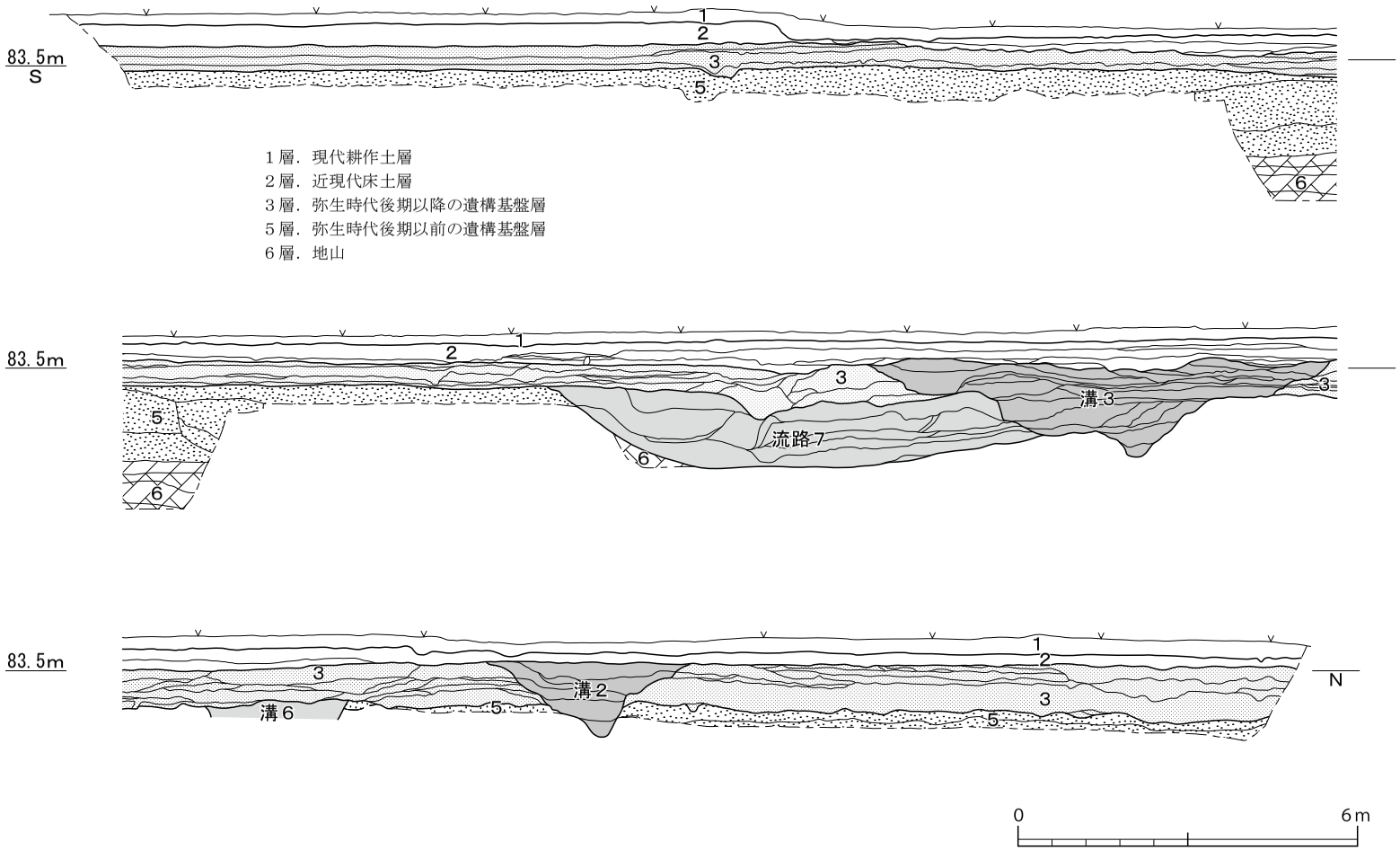


図 15　2トレンチ　西壁　土層断面図　（S．＝1/120）

たに３基のピットが加えられていた。ここではその認識に基づいて２トレンチの範囲内には 11 基のピットがあったものとして図 14 に示した。図版２との不整合はこのような事由による。

さて、ピットは流路７の北側に限って分布しており、南側には認められなかった。平面形状はおおむね不整円形を呈し、それらの規模はおおむね直径 10 ～ 30cm、深さ 20 ～ 30cm である。断面図は、第５－２次調査の際に検出したものと併せて図 84 から図 90 に掲げている。断面形状はU 字状を呈するものが一般的であるが、一部Ｖ字状のものも認められる。一部からは弥生土器片やサヌカイトの剥片が出土している。調査時の所見では柱穴と考えられているが、柱根は確認できておらず、確実に柱穴と認定できるものはない。

トレンチの南半では５層上面までで遺構が検出されなかったため、長さ４m、幅 2.8 m、５層上面から深さ 2.3 mの下層確認トレンチを設けた。その結果、５層である青灰色粘土層が１m程度継続して認められ、その下層からは洪水堆積層と考えられる灰色系統の粘土、砂礫が混じりあった層を検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。

３．４トレンチ（図４・図 16・図 17）

１区南西部に、４トレンチとして、当初、長さ 58 m、幅６mの北東－南西方向に長いトレンチを設定した。後述するように、トレンチ南半部の２層上面で井戸１が、３層上面で東西方向に延びる流路１が検出されたため､その規模や遺構の広がりを確認するために､トレンチ東側に長さ 25 m、幅 13 mの拡張区を設けている。

基本層序は、１・２トレンチと同様に上層から現代耕作土の１層、床土である２層、弥生時代後期以降の洪水堆積層である３層、弥生時代後期以前の遺構基盤層である５層の順に堆積している。２層上面では井戸１を、３層上面では数条の素掘溝と流路１、１トレンチで検出した流路２の延長部を検出した。

井戸１はトレンチ南半部の東壁に接する位置で検出された。また、その位置は流路１の直上にあたる。掘方は２層上面からほぼ垂直に掘り込んでおり、後述する流路１の埋土も掘り抜いている。掘方の規模は東西 2.6 m、南北 2.1 m、深さ 3.3 mで、平面形は不整円形を呈する。その中央に東西 1.6 m、南北１mの方形井戸枠を設置している。その詳細は第５章第１節で述べる。

素掘溝はトレンチ北半部と拡張区で検出された。おおむね南北方向に掘られており、その規模は幅 30cm、深さ 10cm 前後である。拡張区で検出した素掘溝は、流路１を切って掘られており、流路１が埋没した後に形成されたものである。トレンチ北端部で検出したものと拡張区で検出したものは、方向や規模、位置関係からみて、同一の素掘溝である可能性が高いと推定されるが、第５－２次調査ではその間の素掘溝が検出されておらず、その確証は得られなかった。

流路１は、平成 21 年刊行の『概報』（御所市教育委員会 2009、以下特に断らない限り『概報』は同書を指す）では２層上面（第１遺構面）の遺構として扱われているものである。しかし、図６

や図 17、図 29 に掲げた断面図では、その原図にも３層上面の遺構として記録されている。また、前述したように素掘溝に切られていることをふまえると、流路１は第２遺構面の遺構として認識すべきものである。『概報』は調査担当者自身によって執筆されたものであるが、多少の混乱があったと言わざるを得ない。流路１の埋土は白灰色砂礫である。検出した流路の規模は幅 7.5 m、長さ 44 m、深さ 1.52 mである。南西方向から東方向に延びており、トレンチ南西隅付近で「く」の字状に南西方向に屈曲する。遺物は弥生土器の小片が出土しているが、詳細な時期は不明である。

流路２は東岸を検出した。これは第５－２次調査時に、図 32 でみられるように１トレンチで検

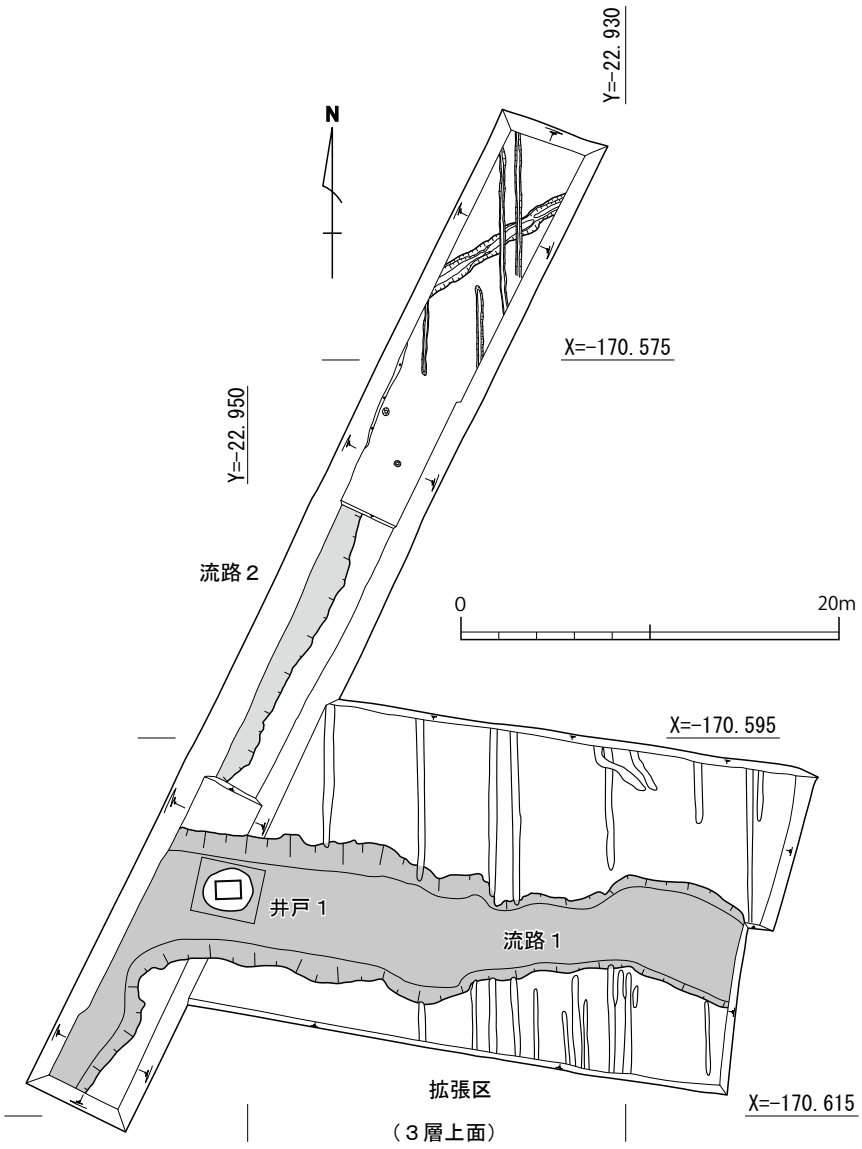
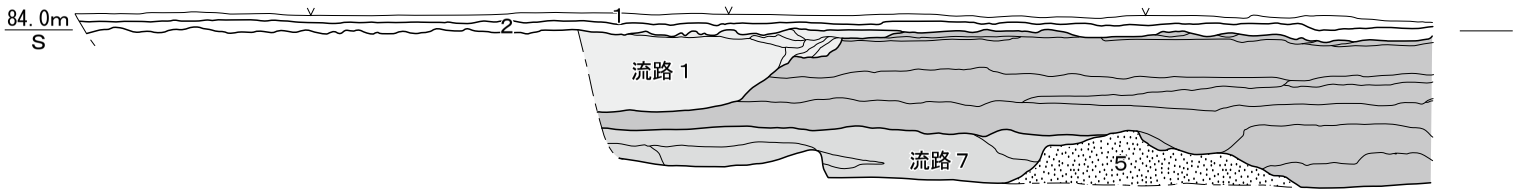
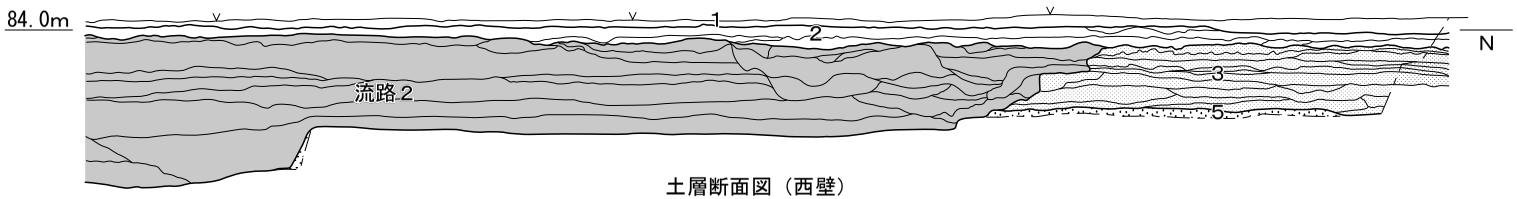
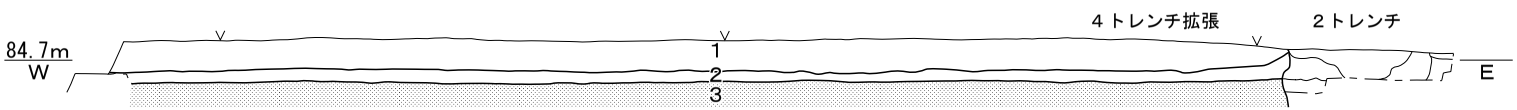


図 16　４トレンチ　平面図　（S.＝1/400）





土層断面図（西壁）



土層断面図（拡張区北壁）

１層．現代耕作土層
２層．近現代床土層
３層．弥生時代後期以降の遺構基盤層
５層．弥生時代後期以前の遺構基盤層

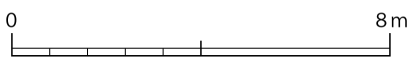


図 17　４トレンチ　土層断面図　（S．=1/160）

出された流路２の延長部分であることが確認された。流路の規模は検出長 16 m、検出幅 1.6 m、深さ 1.9 ～ 3.2 mである。図 17 の断面図では３層上面から分層がなされているが、図 16 の平面図は３層上面より 30 ～ 40cm 低い位置での検出状況であり、遺構本来の規模で記録できていない。また、図 17 の断面図を見る限り、流路１とは切り合い関係が認められ、流路２の方が古く流路１の方が新しいことがわかる。

４．３トレンチ（図４・図７・図８・図 18・図 19）

２区東端に、３トレンチとして、長さ 90 m、幅６mの南北方向に長い「く」の字形に屈曲するトレンチを設定した。

基本層序は、上層から現代耕作土の１層、床土層の２層、弥生時代後期以降の洪水堆積層である３層、弥生時代後期の洪水堆積層である４層、弥生時代後期の基盤層である５層の順である。遺構は、３層上面で弥生時代後期から古墳時代の流路、溝、平安時代の土坑、中世以降の素掘溝が、５層上面で溝が検出されている。また、図７に掲げた東壁断面図では５層上面で流路が分層されている。第５－１次調査の時点では５層上面まで掘り下げなかったので、平面検出はできていないが、トレンチ北東端付近の５層上面に流路が存在することは確実である。２層・４層の上面では遺構は確認できなかった。

素掘溝はトレンチの全面で検出された。トレンチの北端と南端付近は比較的密度が高いが、トレンチ中央付近では素掘溝が認められない。素掘溝は南北方向と東西方向の２方向があり、規模は方向を問わず、おおむね幅 40cm 前後、深さ 20cm 前後である。その先後関係は、南北方向の溝が東西方向の溝を切っており、新しいことがわかる。同様に、流路４や流路５とは同一面上に形成されているが、素掘溝が流路の埋土を切っており、少なくとも流路埋没後に素掘溝が設けられたことは確実である。遺物は、瓦器や土師器などが出土したが、いずれも細片であり、詳細な時期の特定は困難である

土坑１はトレンチの中央付近で検出された。直径 75cm 前後、深さ 30cm の不整円形を呈す。残念ながら現地調査において土層断面図が作成されておらず、埋土の堆積状況は不明であるが、調査写真から判断すると暗褐色系統の粗砂あるいは砂礫が堆積していたものと思われる。土坑の埋土上面で完形の土師器皿（52 －１）が出土している。土師器皿は内面を上に向けた状態で検出されており、土坑を埋めた後に据え置かれたものと推定される。また、もう１点完形の土師器皿（52 －２）が出土しているが、出土層位などは記録されておらず不明である。土師器皿の年代観から、12 世紀頃と考えられる。

流路４はトレンチ北半部で検出された。その規模は幅 8.8 m、深さ 2.3 m、検出長４mである。埋土は黄灰色系統の粗砂、細砂、砂礫が中心に堆積しており、一部粘土が混じり合って互層となっている。埋土中からは弥生時代後期から古墳時代前期頃の土器が出土している。前述したように素

掘溝に切られている。

流路５はトレンチ南半部で検出された。流路は南西から北東方向へ延びており、幅４m、深さ 1.2 m、検出長約 12 mの規模である。埋土は灰色ないしは褐色系統の砂礫・粗砂によって構成されており、底部付近は灰色系統の礫土が比較的厚く堆積していた。流路５の埋土中からは完形近く復元できる土器が大量に出土した。出土した層位やレベルにはまとまりが認められず、上流から流されてきたものと推定される。土器の時期は弥生時代後期から庄内式期の比較的まとまった時期幅に収まるものである。

溝４はトレンチの南端付近で検出した南西－北東方向の溝で、流路５とは並行して延びている。規模は幅１m、深さ 80cm、検出長 6.4 mで、断面形状はＶ字状を呈する。埋土は褐色あるいは灰色系統の粗砂・細砂が堆積していた。遺物は、溝の底部から木製の把手が出土しているが、時期を決定しうる遺物は認められない。しかし、検出層位や流路５と並行するあり方から、流路５と大きな時期差はないものと推定される。

また、３トレンチにおいても素掘溝しか認められなかった北端付近（北側）と中央付近（南側）の２地点で下層確認トレンチを設けた。その位置は図 19 に示している。北側トレンチは長さ 10 m、幅４m、３層上面から深さ 1.5 m、南側トレンチは長さ９m、幅 3.7 m、３層上面から深さ 1.7 mの長方形トレンチを設定した。北側トレンチでは３層下層で４層・５層を検出し、５層上面で溝７を検出した。遺物は出土しなかった。南側トレンチは北側トレンチと同様に３層の下に４層・５層が堆積していた。南側トレンチでは遺構・遺物は検出されなかった。ただし、図版５に掲げた写真では南側トレンチに白線が引かれて撮影されている。しかし、調査後の検討で白線で囲われた範囲が遺構ではないと調査担当者が判断しており、残された記録を改めて精査しても遺構と評価する積極的な根拠がないため、除外した。

また、南側トレンチは第５－２次調査時に、さらに２m程度深掘を行った。その結果、５層が 1.1 m程度堆積しており、その下層から暗灰色系統の粘土ないし灰色系統の粗砂が検出された。遺構は検出されなかったが、第３章で触れた縄文土器のうち、（12 －３）はこの際に出土している。

５．５トレンチ（図４・図 20）

５トレンチは、２区西端に長さ 10 m、幅４mの東西方向に長い長方形トレンチを設定した。

基本層序は、１層・２層は認められず、代わって現代の盛土である赤褐色礫土層が 1.5 m程度施されており、その直下に３層である灰褐色粘土層が認められる。

遺構は地表面で溝１を、３層上面で池あるいは沼地と考えられる遺構を検出した。溝１は、検出長約４m、幅 4.6 m、深さ 1.6 mで、断面Ｖ字形を呈する。造成土を切って掘削されており、また西側斜面からプラスチックの波板が出土していることから、溝１が掘削されたのは現代と考えられる。池状遺構の上端は北西－南東方向に円弧を描いて延びている。検出した規模は南北 1.3 m、

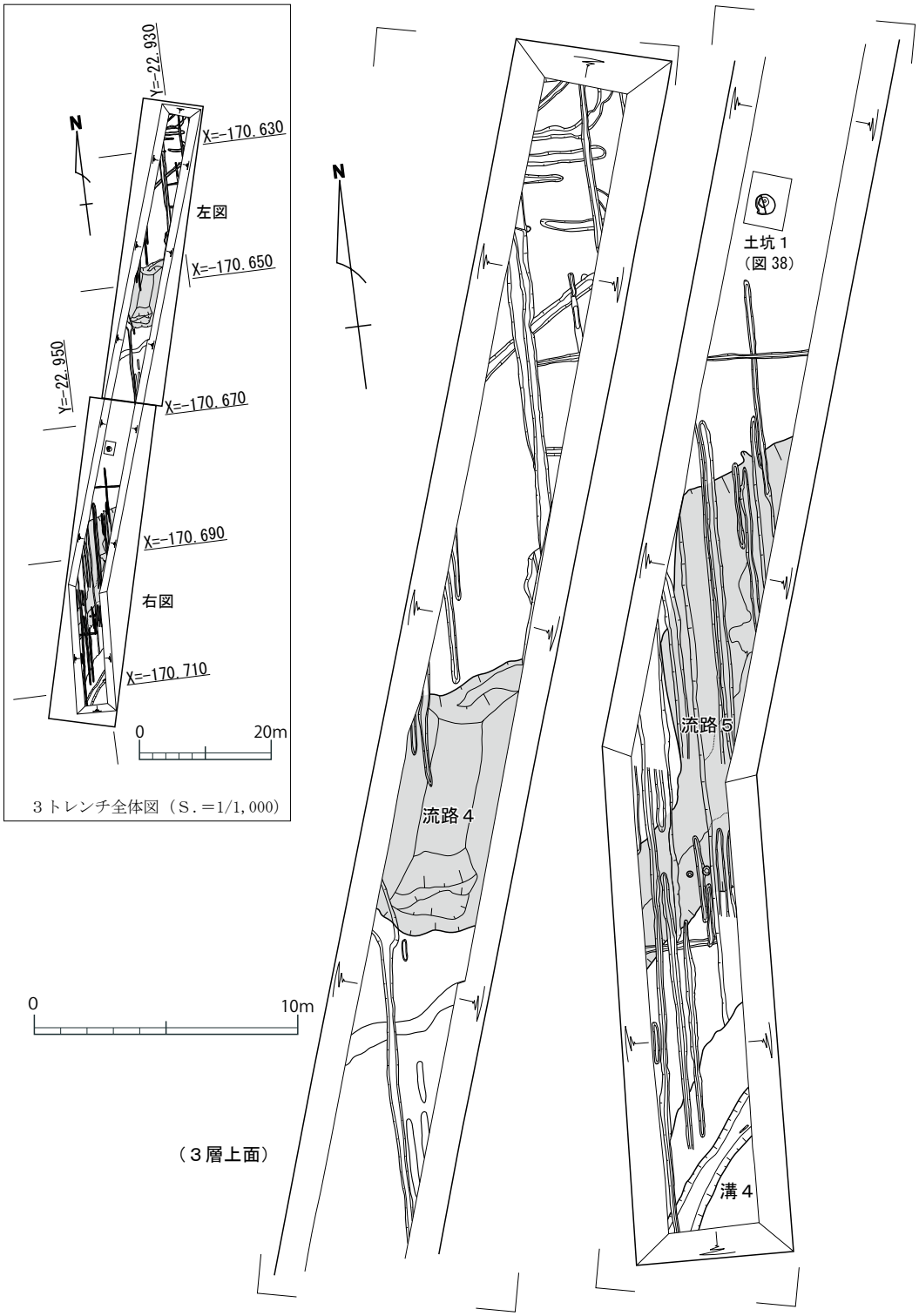
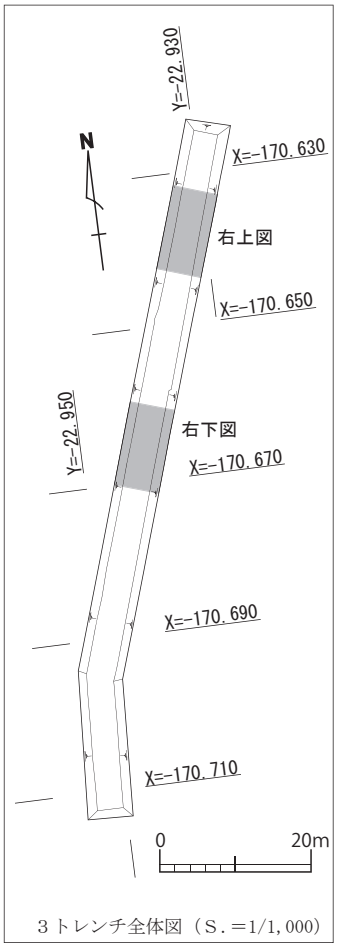
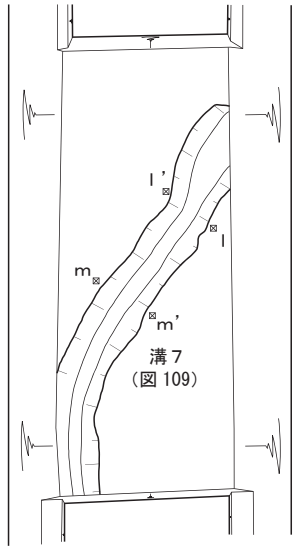


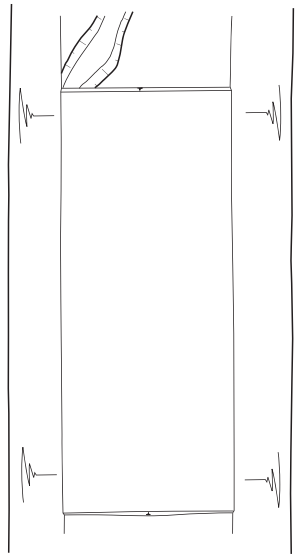
図18　3トレンチ　平面図　（S.=1/250）



3トレンチ全体図（S.＝1/1,000）



下層確認（北）



下層確認（南）

図19　3トレンチ　下層確認トレンチ　平面図　（S.＝1/160）

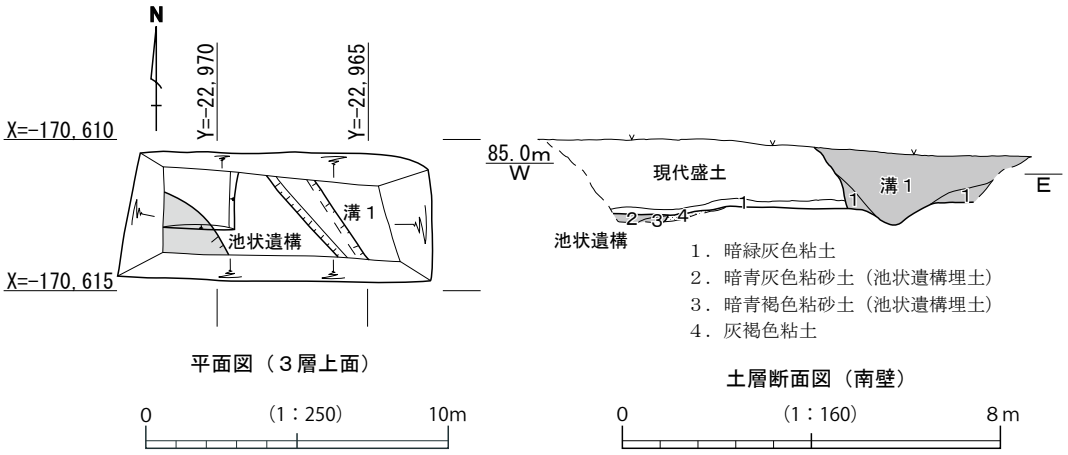


図 20　５トレンチ　平面図　（S.＝1/250）・土層断面図　（S.＝1/160）

東西 1.4 mで、深さは 20cm である。埋土は青灰色系統の粘砂土であり、埋土中からは羽釜や瓦器等の破片が出土している。

６．６トレンチ（図４・図 21）

６トレンチは、南西隅に、当初長さ 19 m、幅６mの南北方向に長い長方形のトレンチを設定した。基本層序は、上層から現代盛土、池状遺構の埋土の順に堆積していた。トレンチ全体が池状遺構の範囲に当たるため、現代盛土の下層は灰色系統の粘土、粘砂土が認められるだけで、他のトレンチで認められるような３層などの遺構基盤層は検出されなかった。池状遺構の東端部を確認するために、トレンチ東側に長さ 28 m、幅３mの規模で拡張区を設けた。

また、トレンチ全体で現代盛土の上面から最大深さ約 2.4 m掘り下げ、下層の堆積状況の確認を行った。池状遺構の埋土である青灰色あるいは暗灰色の粘土・粗砂層が分厚く堆積しており、遺構や５層などの遺構基盤層は検出されなかった。

遺構は拡張区東端の現地表面で溝１、トレンチ全面で現代盛土層の直下から池状遺構を検出した。どちらも５トレンチ、６－２トレンチで検出したものと同一の遺構であることが第５－２次調査時に明らかとなっている。

溝１は幅 2.4 m、検出長４m、深さ 70cm で、盛土東端に沿って掘削されている。西端は一部盛土層を切っている。埋土は暗灰褐色粘土である。断面形状はＶ字状を呈しているが、東側斜面は傾斜が比較的急であるのに対し、西側斜面は緩やかな傾斜であり底部付近で傾斜が急になっている。その結果、底部付近は幅が 50cm と狭くなっている。

池状遺構はトレンチ全体で確認された。図 22 の断面図にみえるように、溝１に切られていることがわかる。池状遺構の埋土からは弥生土器、古式土師器、須恵器の破片といった弥生後期から古墳時代の遺物と、土師皿や羽釜、瓦器の破片等の中世以降の遺物が出土しているが、同一層より出

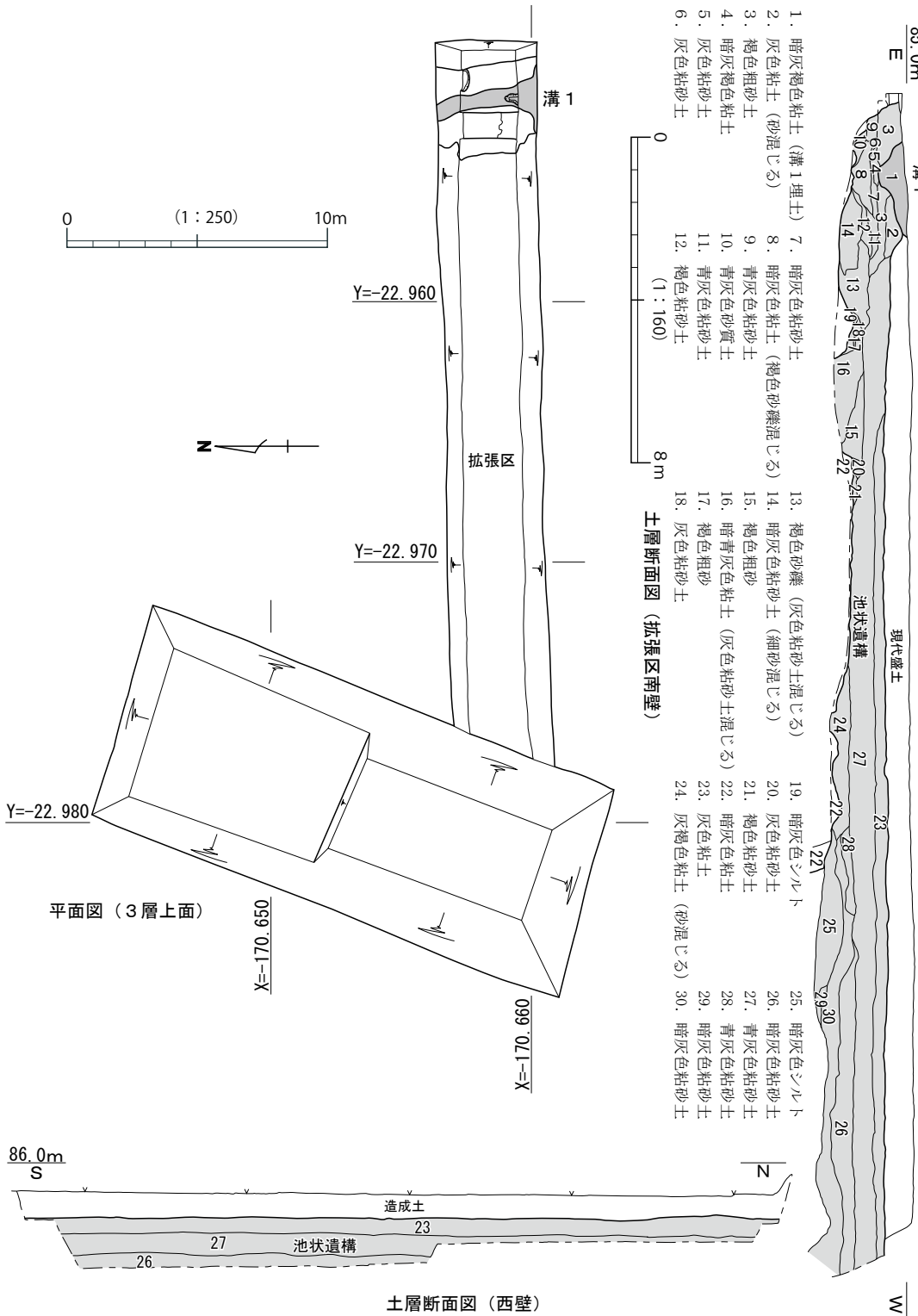


図 21　6 トレンチ　平面図　（S．＝1/250）・土層断面図　（S．＝1/160）

土していることから、池・沼地の埋没年代は中世以降であると考えられる。

7．6－2トレンチ（図4・図22）

6－2トレンチは、2区中央部付近に、長さ15ｍ、幅3ｍの北西方向に長い長方形トレンチを設定した。基本層序は、上層から1層、2層、3層の順であるが、トレンチの西端部付近は5トレンチ、6トレンチと同様に現代盛土とその下層に池状遺構の埋土が確認できた。

遺構は前述した5・6トレンチと同様に、トレンチ西端部の1層上面で溝1、3層上面で池状遺構を検出したほか、トレンチ東半の3層上面で素掘溝を検出している。

溝1は最大幅約4.6ｍ、検出長3ｍ、深さ90cmで、断面形状はＶ字状を呈する。6トレンチと同様に、西岸は緩やかな傾斜で、東岸は比較的急な傾斜となっている。埋土は暗灰褐色系統の粘礫土、粘土で、図22に示した断面図の最上層にはレンガ・塩化ビニル製のパイプを用いた排水施設が認められた。両岸からは杭列を検出している。杭列は両岸に打ち込まれているが、東岸に5本、西岸に1本と残存状況が悪く、くわえて詳細な図面が作成されていないため、詳しいことは不明である。杭列を設置した意図は不明であるが、溝の護岸あるいは上述の排水施設に関わるものと推定される。

素掘溝は、上述したとおり溝1より東側のトレンチ東半部で検出された。規模はおおむね幅、深さ共に20cm前後である。他のトレンチと同様に、南北方向と東西方向に延びるものがあり、切り合い関係から東西方向が古く、南北方向が新しいことがわかる。

池状遺構はトレンチの西端部で長さ2.8ｍ、幅1.2ｍを検出したに過ぎず、詳細は不明である。埋土は青灰色細砂と粘土が混じったものである。

遺物は、「青灰色粘砂土層」から土師器皿、羽釜、瓦器等の破片といった中世以降の遺物を中心に、一部弥生土器や古墳時代須恵器の破片が出土している。これらは取上げラベルに「青灰色粘砂土層」と記されている。しかしながら、第6－2トレンチの土層断面図には青灰色粘砂土という層はなく、正確な出土層位を押さえることはできないが、断面図に記録が残された中で近似する層や調査写真、5・6トレンチの状況をふまえるなら、池状遺構の埋土から出土した可能性が高い。遺物の大半は小片であり、詳細な時期については知りえない。

8．7トレンチ（図4・図23）

7トレンチは、3区北端付近に、長さ30ｍ、幅5.6ｍの東西に長い長方形トレンチを設定した。基本層序は、上層から現代盛土層、現代耕作土層の1層、床土である2層、弥生時代後期以降の洪水堆積層である3層、弥生時代後期以前の洪水堆積層である4層、5層の順に堆積している。

遺構は、3層上面で素掘溝や流路5、ピットを検出した。また、3層上面の遺構を保護するために、トレンチ調査の段階では素掘溝以外の遺構を検出で留め、完掘しなかった。また、この時点では検出していないが、トレンチ南北壁断面では水田の畦畔が確認できる。

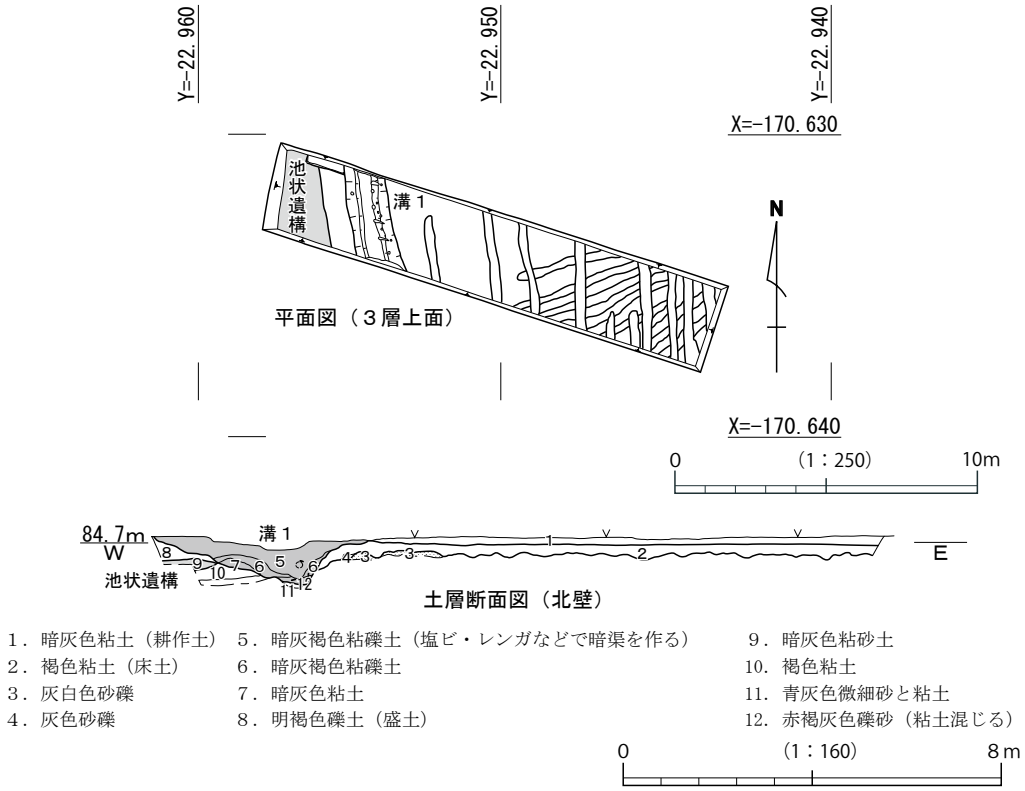
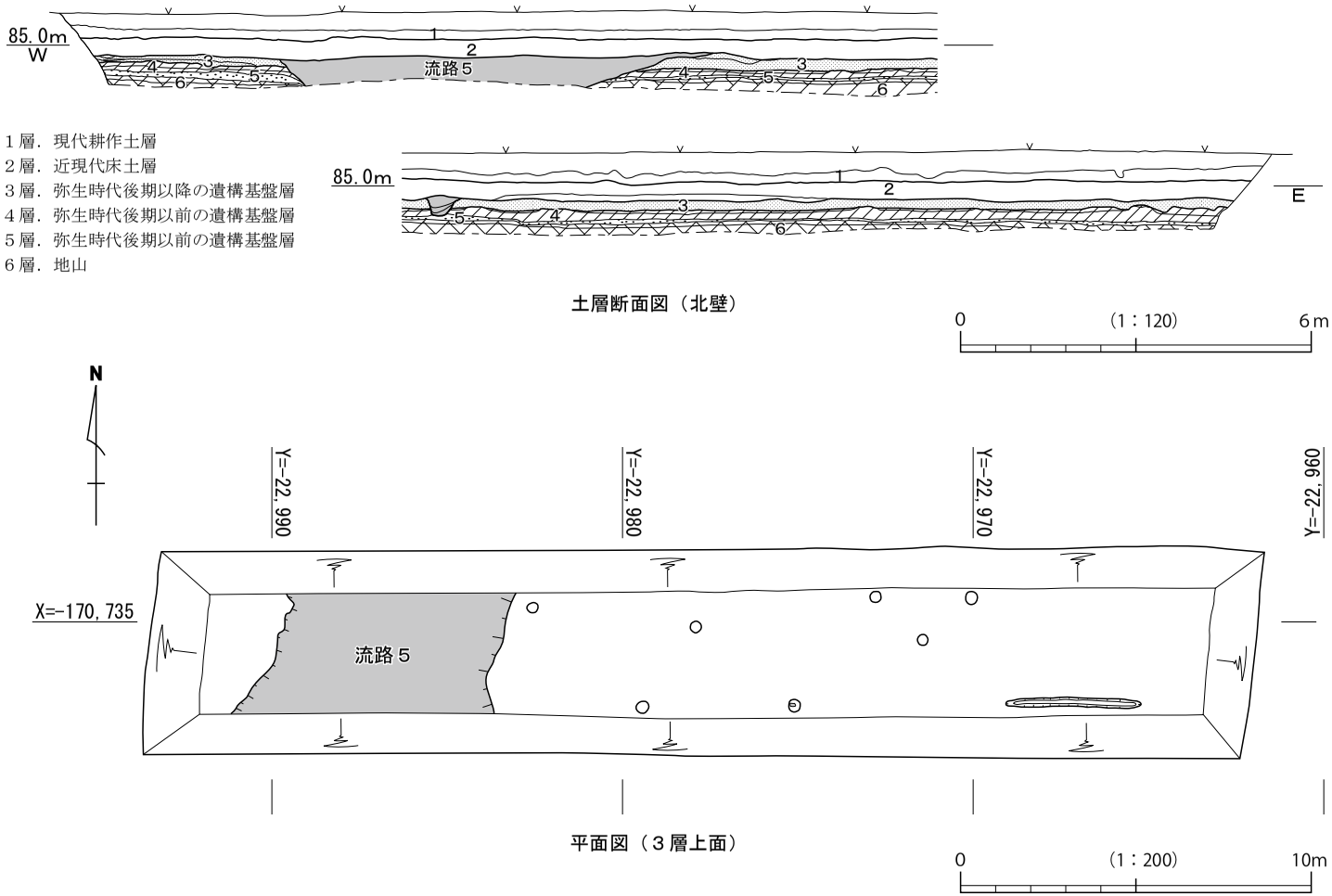


図 22　６－２トレンチ　平面図　（S.＝1/250）・土層断面図　（S.＝1/160）

素掘溝は、トレンチ東南端に東西方向の溝が１条が記録されている。規模は幅 20cm、深さ 30cm、検出長 2.4 mである。図 23 に示した平面図に記録されているのはこの１条のみであり、調査写真では素掘溝が認められない。ただし、現地調査担当者が執筆した終了報告には「東西方向と南北方向の２方向の数条の素掘溝が認められ、切り合い関係から南北方向のものが新しい」とある。

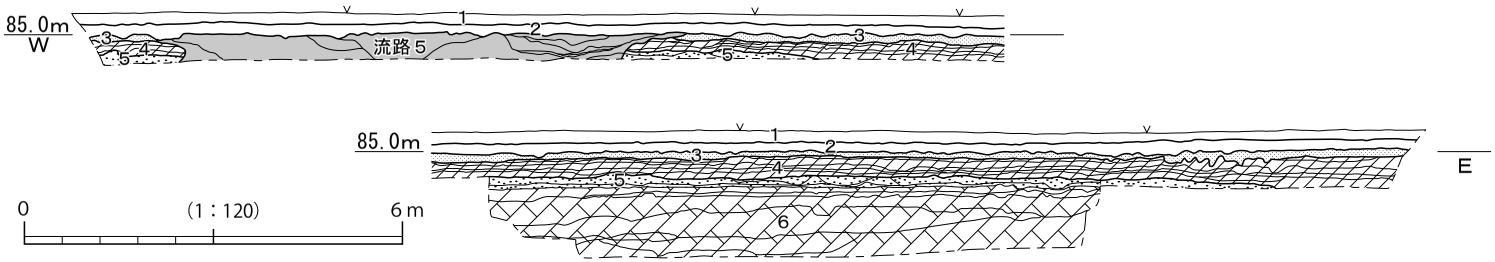
流路５はトレンチ西端付近で検出した。規模は検出長 3.6 m、幅６～７ mである。前述したとおり、３層上面までで掘削を停止したため、この時点では埋土の掘削は行っていない。図 34 でみえるように、第５－２次調査時に８トレンチ、９トレンチで検出した流路と同一のものであることが確認されている。また、流路の規模や方向、出土遺物の年代観から３トレンチで検出された流路も同一の流路であると考えられる。

ピットは７基検出した。調査時や『概報』では柱穴と認識しているが、柱材と思われる木材が出土したものが１例認められる以外は、積極的に柱穴と判断できる根拠がないためピットとした。ピットの形状は円形で、直径 20cm 前後である。深さは、調査時の記録が検出された段階での平面図と写真しかなく、断面図等は残されていないことから、深さや埋土の正確な情報は知りえなかった。



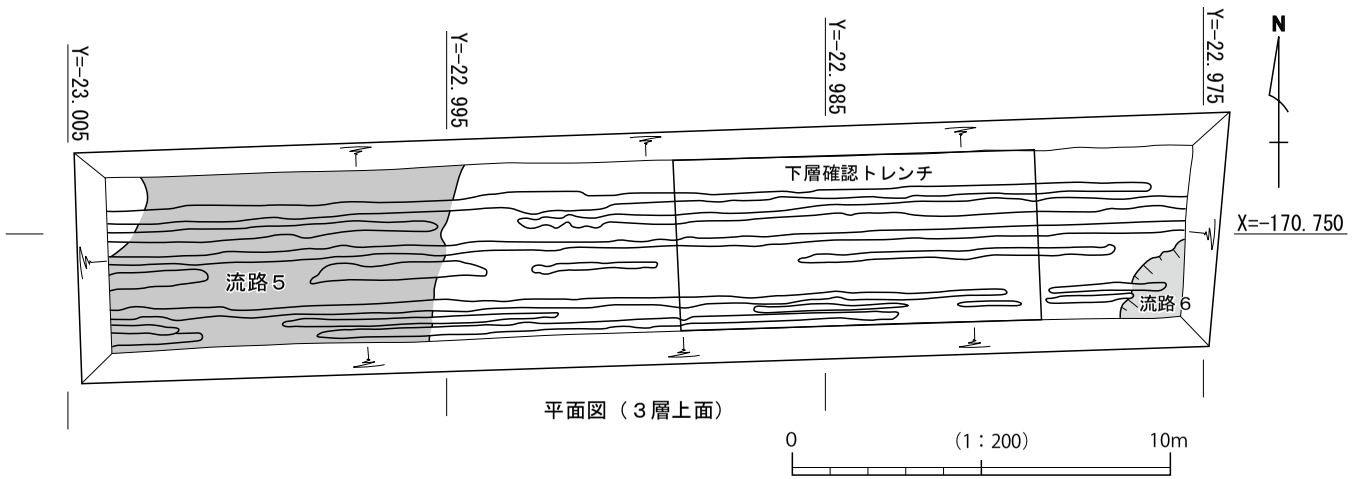
１層．現代耕作土層
２層．近現代床土層
３層．弥生時代後期以降の遺構基盤層
４層．弥生時代後期以前の遺構基盤層
５層．弥生時代後期以前の遺構基盤層
６層．地山

図 23　７トレンチ　平面図　（S．＝1/200）・土層断面図　（S．＝1/120）



１層．現代耕作土層
２層．近現代床土層
３層．弥生時代後期以降の遺構基盤層
４層．弥生時代後期以前の遺構基盤層
５層．弥生時代後期以前の遺構基盤層
６層．地山

土層断面図（北壁）



平面図（３層上面）

図 24　８トレンチ　平面図　（S．＝1/200）・土層断面図　（S．＝1/120）

ただし、前述の終了報告には「深さ 20cm」と記載されている。出土遺物は弥生時代後期の土器片が出土しているが、どのピットから出土したのかは記録されておらず不明である。

9．8トレンチ（図 4・図 24）

8トレンチとして、3区中央のやや北寄りに長さ 30 m、幅 6 mの東西方向に長いトレンチを設定した。基本層序は7トレンチと同様であり、1層、2層、3層、4層、5層の順である。遺構は、3層上面で東西方向の素掘溝数条と流路5、流路6を検出した。遺構は7トレンチと同様に、素掘溝以外の遺構は検出段階で留めたため、遺構の掘削はこの時点では行っていない。

流路5はトレンチの西半部で検出した。幅 8 m、検出長 4.6 mの規模で、埋土の上面は素掘溝に切られている。遺物はトレンチの四方に側溝を設けた際に、弥生時代後期から庄内式期の土器が出土している。

流路6はトレンチの南東隅で西岸の一部を検出した。その規模は検出幅 1.6 m、検出長 2.8 mである。埋土の上面は素掘溝に切られている。遺物は弥生土器片と土師器片が出土している。

また、トレンチ東半部の遺構が認められない地点において、長さ 10 m、幅 5 m、現地表面からの深さ 1.8 mの下層遺構確認トレンチを設けた。そこでは5層の下層に灰色系統の粘土や粗砂が堆積していた。土質や堆積状況から洪水堆積層と考えられる。遺構・遺物は確認できなかった。ただし、後述する第5－2次調査では、3層上面で井戸4、4層上面において水田遺構が検出されたが、第5－1次調査時にはその存在を捉えられておらず、特に水田遺構は8トレンチ範囲内ではそのほとんどを失ってしまった。

10. 9トレンチ（図 4・図 25）

9トレンチとして、3区中央部やや南寄りに長さ 25 m、幅 6 mの東西に長いトレンチを設定した。基本層序は、7・8トレンチと同様である。3層上面で素掘溝と流路5を検出した。7・8トレンチと同様の理由で、素掘溝以外の遺構は検出段階で留めた。

素掘溝は東西方向に延びるものと、南北方向に延びるものがあり、切り合い関係から前者が新しいことがわかる。規模はおおむね幅 30cm、深さ 5 cm 前後である。

流路5は西端付近で検出した。規模は幅 6.2 m、検出長 5 mで、素掘溝に切られている。前述したとおり、7・8トレンチで検出した流路と一連のものであることが、第5－2次調査時に明らかになっている。

11. 10トレンチ（図 4・図 26）

10トレンチは、3区南東隅に、当初長さ 20 m、幅 6 mの南北に長いトレンチを設定した。この範囲で掘削を行ったところ、素掘溝が多数検出された。その後、他の7～9トレンチで検出され

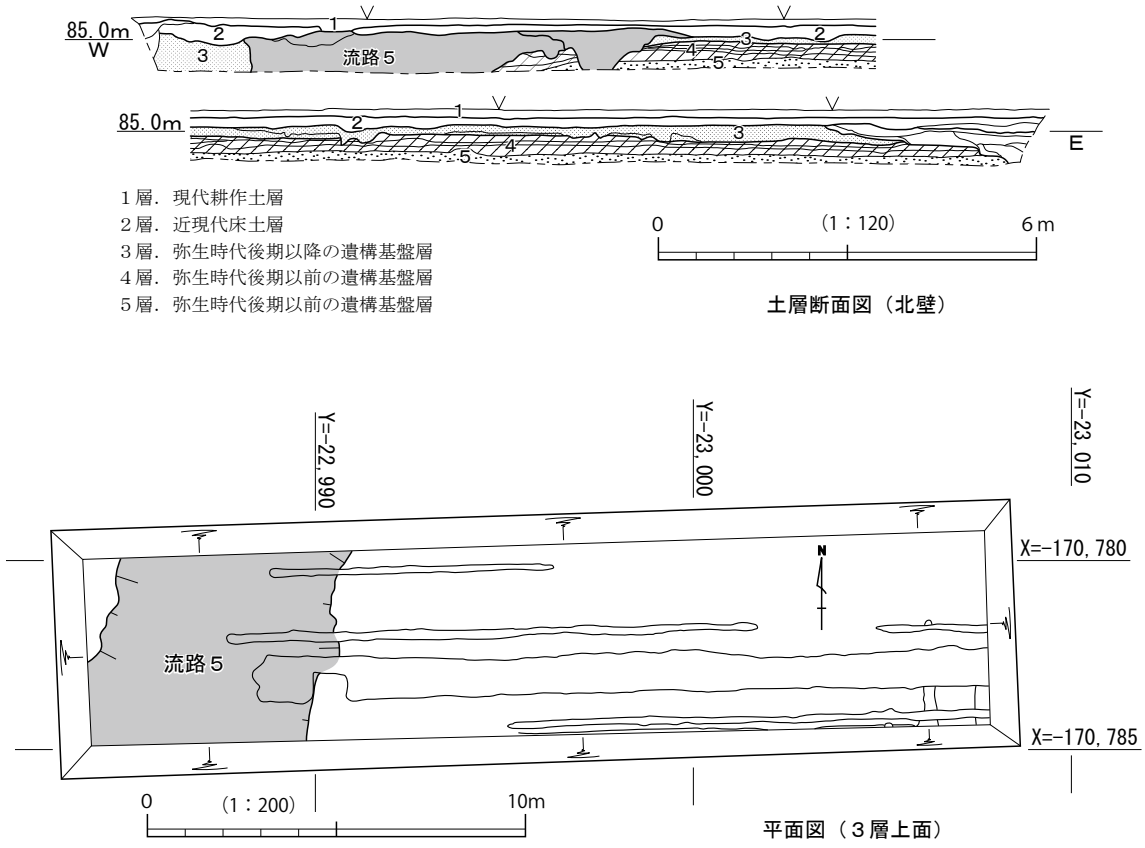


図 25　９トレンチ　平面図　（S．=1/200）・土層断面図　（S．=1/120）

た流路の方向から、その延長部分が 10 トレンチ西側で検出されることが推定された。そのため、10 トレンチの北西隅の西側に東西６m、南北３mの拡張区を設けた。拡張区では、流路６の東岸と素掘溝を新たに検出した。

基本層序は、上層から現代耕作土の１層、床土の２層、弥生時代後期以前の洪水堆積層である４層の順である。また、トレンチ中央には、長さ５m、幅３m、現地表面からの深さ 2.4 mの範囲で下層確認トレンチを設けており、５層に対応すると思われる青灰色粘質土層とその下層の灰色系統の粘質土層、粗砂層を検出したが、遺構・遺物は確認できなかった。

遺構は４層上面において、拡張区を含むトレンチ全体で素掘溝を、拡張区西端で流路６の延長部分を検出した。７～９トレンチと同様に素掘溝以外の遺構は上面での検出に留めており、埋土の除去は行っていない。

素掘溝は東西方向と南北方向に延びるものがあるが、他のトレンチと同様に切り合い関係から南北方向の溝が新しいことがわかる。規模はおおむね幅 20 ～ 30cm、深さ５cm 程度である。

流路６は東岸の一部が検出されており、その規模は検出長約３m、検出幅約３mである。その上面は素掘溝に切られており、流路６と素掘溝は並存しないことがわかる。

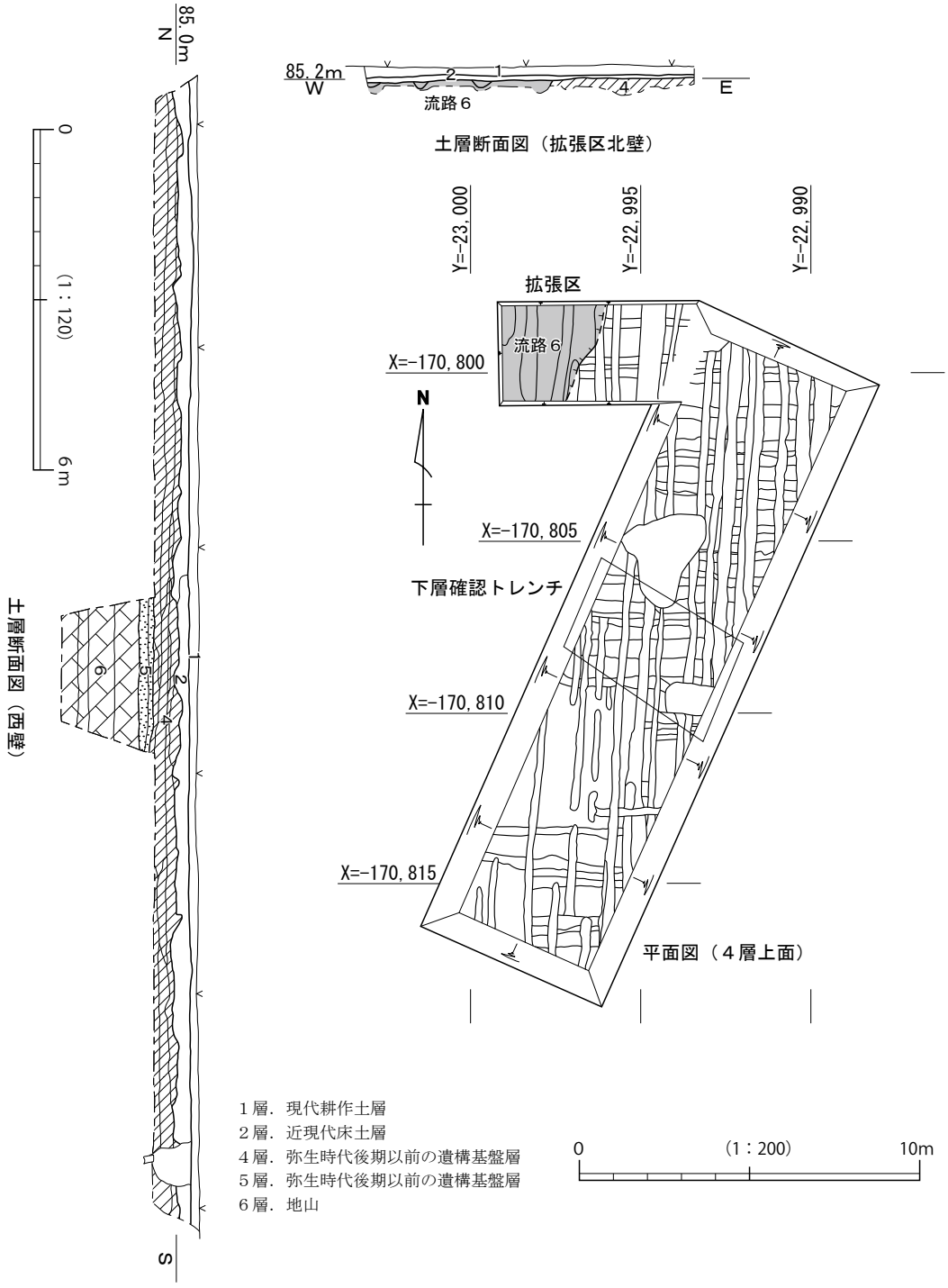


図 26　10 トレンチ　平面図　（S.＝1/200）・土層断面図　（S.＝1/120）

遺物は、素掘溝から古式土師器、古墳時代に帰属する思われる須恵器、土師皿の小片が出土している。ただし、遺物を入れた袋の中には、出土した溝の番号が記載されている取上げラベルがあるものの、遺憾ながら、残された調査図面に溝番号が記録されていなかったため、どの溝から出土したものかを特定することはできなかった。

12．11 トレンチ（図 4 ・図 27）

11 トレンチとして、３区南西隅に、長さ 10 m、幅６mの南北方向に長いトレンチを設定した。基本層序は、10 トレンチと同様である。また、本トレンチにおいても下層確認のためのトレンチを設けている。掘削当初は中央部を長さ５m、幅３mの範囲で掘り下げはじめ、最終的に安全性や排水の都合上、トレンチ全体を現地表面から 1.8 mの深さまで掘削した。下層における堆積状況も 10 トレンチと共通する。下層では遺構・遺物は認められない。

図 27 に掲げた平面図や調査時に撮影された写真では、遺構の存在が確認できなかった。しかしながら、現地調査担当者による終了報告には、数条の素掘溝を検出したとあり、壁断面図にも素掘溝に対応すると思われる分層がなされている。くわえて、後述する第５－２次調査において、11 トレンチの周囲で素掘溝が何条も検出されており、それらはトレンチをまたいで繋がっていく。したがって、11 トレンチ内にその間をつなぐ素掘溝が存在したことはほぼ間違いない。

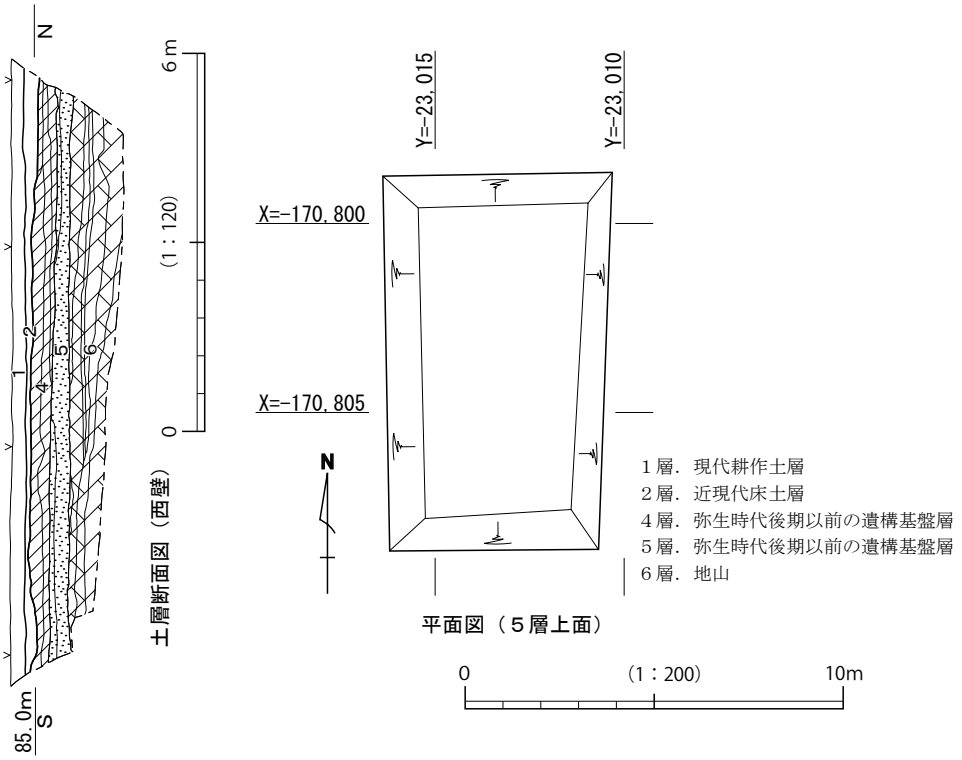


図 27　11 トレンチ　平面図　（S．＝1/200）・土層断面図　（S．＝1/120）

出土遺物は弥生土器がある。ただし、遺物に同封されている取上げラベルに記載された層位が残された土層断面図上では確認できず、正確な出土層位を確定することはできなかった。しかし、写真や層序をふまえて考えるならば４層に帰属するものと推定される。

13. 小結

以上のように、第５－１次調査として実施したトレンチ調査では、当該地において弥生時代後期以前、弥生時代後期から中世、近現代以降の遺構面が３面存在することが確認できた。

近現代以降に形成された遺構としては、数こそ少ないものの、４トレンチで井戸、５トレンチから６－２トレンチで溝を検出した。特に後者は一連の溝であり、土地境界や現代盛土との関係が注目される。

弥生時代後期から中世の遺構は、各トレンチで確認できた。これらの遺構はおおむね３層の上面で検出されたが、３層が確認できなかった 10 トレンチでは４層上面で検出している。遺構は、弥生時代後期から庄内式期にかけてのものが最も多く、５トレンチ・６－２トレンチを除く各トレンチで溝や流路、ピット群を検出した。特に流路は出土遺物から同一時期と考えられ、その規模や流水方向から区間をまたいで繋がる同一のものである可能性も想定された。古代に比定できる遺構としては、３トレンチで検出した土坑のみであり、包含層から出土した遺物に関しても、宝珠つまみを有する須恵器の小片などが少量認められる程度で、相対的に少なくなっている。中世以降と考えられる遺構は、１・２・５・６トレンチ以外の調査区全体で検出された素掘溝と５・６・６－２トレンチの西側に広がっている池がある。遺物も瓦器や土師器皿、羽釜などの小片が数多く確認できる。

弥生時代後期以前の遺構基盤層と考えられる５層は調査区全体で認められるが、実際に遺構・遺物が確認できるのは１区と２区である。１区２トレンチでは護岸施設を伴う流路のほか、溝・ピットが認められた。また、１トレンチでも溝を検出している。２区では３トレンチで下層確認トレンチを設けた際に溝が検出されたほか、壁断面で流路の存在が確認できた。

以上のトレンチ調査の成果を基に、第５－２次調査を実施すべき調査区の設定範囲を決定した。主として近現代以降の遺構が検出された２層上面を第１遺構面、弥生時代後期から中世の遺構が検出された３層上面とそれに繋がる４層上面を第２遺構面、弥生時代後期以前の遺構が検出された４層上面を第３遺構面、同じく弥生時代後期以前と考えられる５層上面を第４遺構面として、第５－２次調査に臨んだ。その際に、中世以降と考えられる池が広範に広がっていたとみられる２区の西側に関しては、面的に拡張しないこととした。また、３区では第３遺構面での遺構が確認されなかったため、第２遺構面までの調査に留めることとした。

第５章　第５－２次調査の成果

第１節　第１遺構面

１．遺構

第１遺構面の遺構は、１区４トレンチで検出した井戸１、２区で５トレンチから６－２トレンチにかけて検出した溝１とその延長部分、３区で検出した井戸２・井戸３がある。

①井戸１（図 28・図 29）

井戸１は１区南西部で検出された木組みの井戸である。２層上面から掘り込んでおり、その位置は後述する第２遺構面の流路１の直上である。掘方は東西 2.6 m、南北 2.1 m、深さ 3.3 mの不整円形で、ほぼ垂直に掘り込んでいる。

井戸の構造については、図 29 に立面図を掲げた。井戸枠は、方形で３段が残存していた。その規模は高さ 2.8 m、最上部で長さ 1.6 m、幅１mである。掘方の最上部まで井戸枠が到達しておらず、３段目より上部は一部残存した支柱以外は失われている。構造は、前述したとおり方形の支持具を設けてその外側に縦板を打ち込み、縦板と掘方の隙間に裏込めの土を充填して固定した方形縦板組型（鐘方 2003）であるが、1・２段目と３段目以上では支持具の組み方が異なっている。

１・２段目は、それぞれ４本の隅

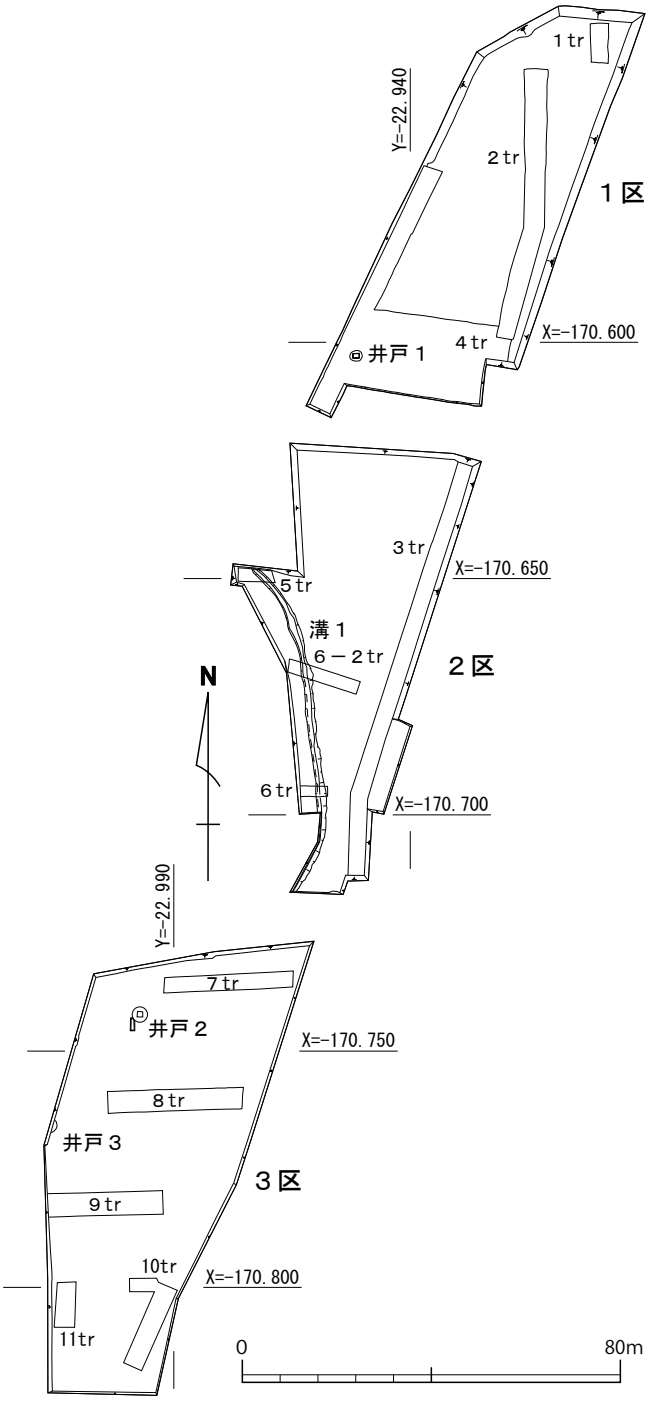


図 28　第１遺構面　平面図　（S.＝1/1,600）

柱と８本の横桟によって構成されている。隅柱と横桟は角材を用いており、それを枘によって方形に接合している。横桟は横４面に２本ずつ使用しており、それぞれ下端付近と上端付近に１本ずつ用いられている。１段目の隅柱は、地面に打ち付けて固定するために、下端に先端加工を施している。２段目は１段目と同様の構造であるが、１段目の上部に積み上げることを想定したためか、一回り大きく組み上げられている。

３段目は隅柱を用いず、横桟と支柱の組み合わせから成っている。横桟は丸太材の両端を相欠きして方形に組み合わせている。その４隅には丸太材を用いた支柱を立て、その上部に下部と同様に相欠きして組み合わせた横桟を乗せている。また、図 29 には示せていないが、図版 16 に示した南からの写真から、上側の横桟の上にさらに支柱が立てられていたことがわかる。

井戸枠を設置する作業工程は、以下のように想定できる。

最初に井戸枠を設置する掘方を掘削する。次に掘方の底にあらかじめ組み上げておいた１段目の支持具を設置し、その周囲に縦板を打ち込み、その後井戸枠の外側に裏込めの褐色砂礫土を充填して固定する。その上部に２段目の支持具を据え、１段目と同様に縦板を設け、褐色砂礫土を充填する。図 29 に示した立面図では、充填した土にあたる９層と 10 層が、それぞれ１段目から２段目の上端付近まで１層として分層されている。しかし、前述したように２段目の支持具は１段目より一回り大きく、１段目では直接支えることは不可能である。したがって、２段目は１段目の周囲に砂礫土を充填した後、充填した土の上に設置されたものと考えられる。３段目は、２段目の隅柱の上に下側の横桟を置き、その上部に前述したように、支柱と横桟を交互に積み上げていく。３段目より上部はほとんど残存していないが、３段目に対応する縦板は長さが３段目の高さより高いため、４段目まで積み上げた後に、縦板の設置と裏込め土の充填を行ったものと推定される。また、２段目の縦板と３段目の縦板の境界には、補強のためと考えられる横板が据えられている。

掘方内埋土 (褐色粘土層）からは弥生土器や瓦、陶磁器、レンガ等がコンテナ（60 × 40 × 15cm）半箱分出土しているが、いずれも小片のため図化することはできなかった。

近隣住民からの聞き取りによれば、昭和初期に使用していた井戸であるとのことであった。

②井戸２（図 28）

井戸２は３区北半中央西寄りの位置で検出した。断面図や立面図などが調査時に作成されておらず、正確な検出面や規模、構造は不明である。ただし、図版 17 に示したように井戸２の掘方が素掘溝を切っており、井戸枠の木材も残存状況からみて上方に続いていく可能性が高いと判断できる。したがって、井戸２は第１遺構面に帰属する遺構と認識した。

前述したとおり、詳細な記録は作成されていないが、図 28 や図版 17 から、掘方は直径３ｍ程度の不整円形で、その中に縦板と横板で構成された方形に組まれた井戸枠を検出したことがわかる。井戸枠の構造は情報が少ないが、縦板を方形に組み上げ、隅柱と思われる部材も写真に見受けられるため、井戸１の構造に近いものと思われる。出土遺物はなく成立時期や埋没時期は不明であるが、

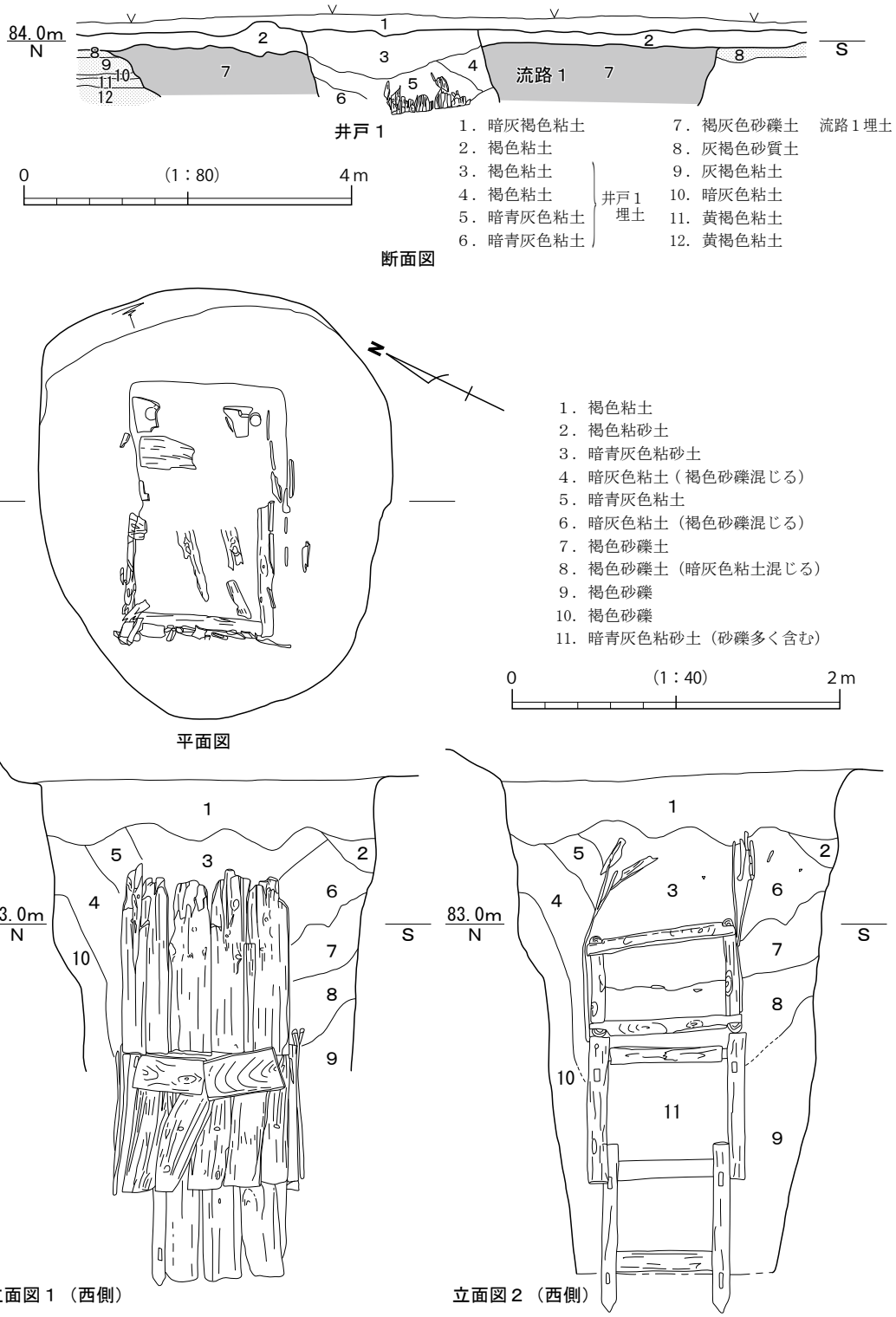


図 29　第１遺構面　井戸１　断面図　（S.＝1/80）・平面・立面図　（S.＝1/40）

検出した遺構面から近代以降の時期と考えられる。

③井戸３（図 28・図 30）

井戸３は３区中央付近の西壁に接した位置で検出した。井戸の西半分は調査区外であったため、東側の一部分を検出したのみに留めている。また、第２遺構面上で掘削を止めているため、検出した深さは約 44cm 程度（図 30）である。井戸２と同じく詳細な記録は残されていないが、図 28・30 から直径約 3.5 mの円形の掘方に板材を用いて井戸を構築していたと判断できる。出土遺物はなく成立時期や廃絶された時期は不明であるが、出土層位から井戸１や井戸２と大きな時期差はないものと考えられる。

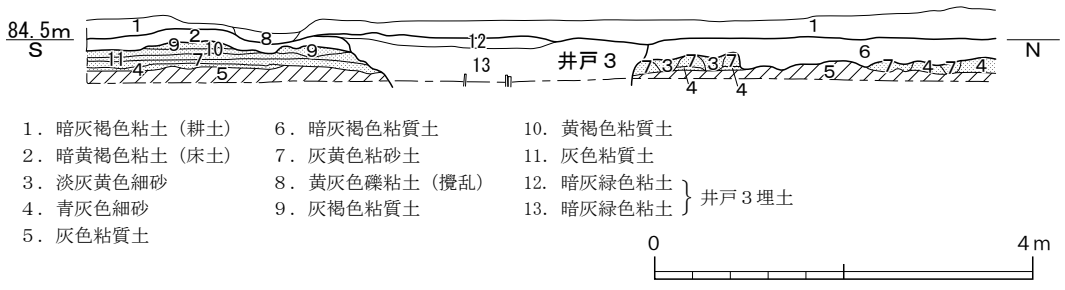
④溝１（図 20・図 21・図 22・図 28）

２区西端部で検出した。第５－１次調査時の５・６・６－２トレンチで検出したものとあわせて、検出長は 74.4 m、幅 1.8 m、深さ 0.9 ～ 1.5 mである。北から南へ弧を描くように延びており、現在の都市計画図に描かれた土地境界線とおおむね合致する。

また、溝１を境界にして東側と西側で土層の堆積状況が異なっていることは第３章基本層序の項で述べた。溝の西岸は西側の現代盛土の東端に沿って掘られており、またそれを切っていることから、盛土が施された後に設けられたものであることは明らかである。現地調査担当者の所見では、盛土から流れくる雨水等の排水を目的にした溝と想定されている。実際、６－２トレンチでは溝の埋土中からパイプなどの排水に関わるものが出土していることから、排水機能も有していたものと思われる。ただし、６－２トレンチの項でも触れたとおり、杭列を検出しており、第５－２次調査時においても図版 17 に示した調査写真から判断する限り、溝１の両岸のほぼ全体に杭列を確認することができる。これらの杭列は、調査時に詳細な記録が作成されておらず不明な点も多いが、おそらく溝を護岸するためのものと考えられる。

溝の埋土は暗灰褐色粘土で、礫を含んでいる。断面の形状は、第４章でも述べたようにＶ字状を呈しており、その両岸に前述した護岸杭を打ち込んでいる。

遺物は、瓦・陶磁器・須恵器・羽釜・レンガなどがコンテナ半箱程度出土している。いずれも小片であり、図化することはできなかった。



1．暗灰褐色粘土（耕土）
2．暗黄褐色粘土（床土）
3．淡灰黄色細砂
4．青灰色細砂
5．灰色粘質土
6．暗灰褐色粘質土
7．灰黄色粘砂土
8．黄灰色礫粘土（攪乱）
9．灰褐色粘質土
10．黄褐色粘質土
11．灰色粘質土
12．暗灰緑色粘土
13．暗灰緑色粘土
} 井戸３埋土

図 30　井戸３の検出層位　（Ｓ．＝1/80）

第２節　第２遺構面

１．遺構

第２遺構面の遺構は、１区から３区北半にかけては３層上面、３区南半では４層上面で検出している。ただし、１区に関しては記録が５層上面（第４遺構面）でとられたものであり、厳密には掲載した平面図や断面図は流路１と素掘溝を除いて遺構本来の規模を示すものではない。各遺構の詳細については後述する。

遺構の分布をみると、各区に溝や流路が認められる。そのなかでも３区は、流路２本にくわえ井戸３基や多数の土坑、ピット・柱穴が検出されており、最も遺構が密集している。また、２区西端では池状遺構が現在の土地境界線に沿うような形状で検出しており、埋土からは羽釜や瓦器の破片が出土していることから、中世頃までは池・あるいは沼地が広がっていたものと考えられる。調査区全体で中世以降と考えられる素掘溝を検出しており、切り合い関係から東西方向のものが先行して掘られ、それを切る形で南北方向の素掘溝が掘られている。

遺構の形成時期は、流路や井戸、大半の土坑は、弥生時代後期から古墳時代前期の土器を伴っており、その時期幅に収まるものであるが、２区で検出した土坑１は 11 世紀末から 12 世紀前半頃の土師器皿が出土

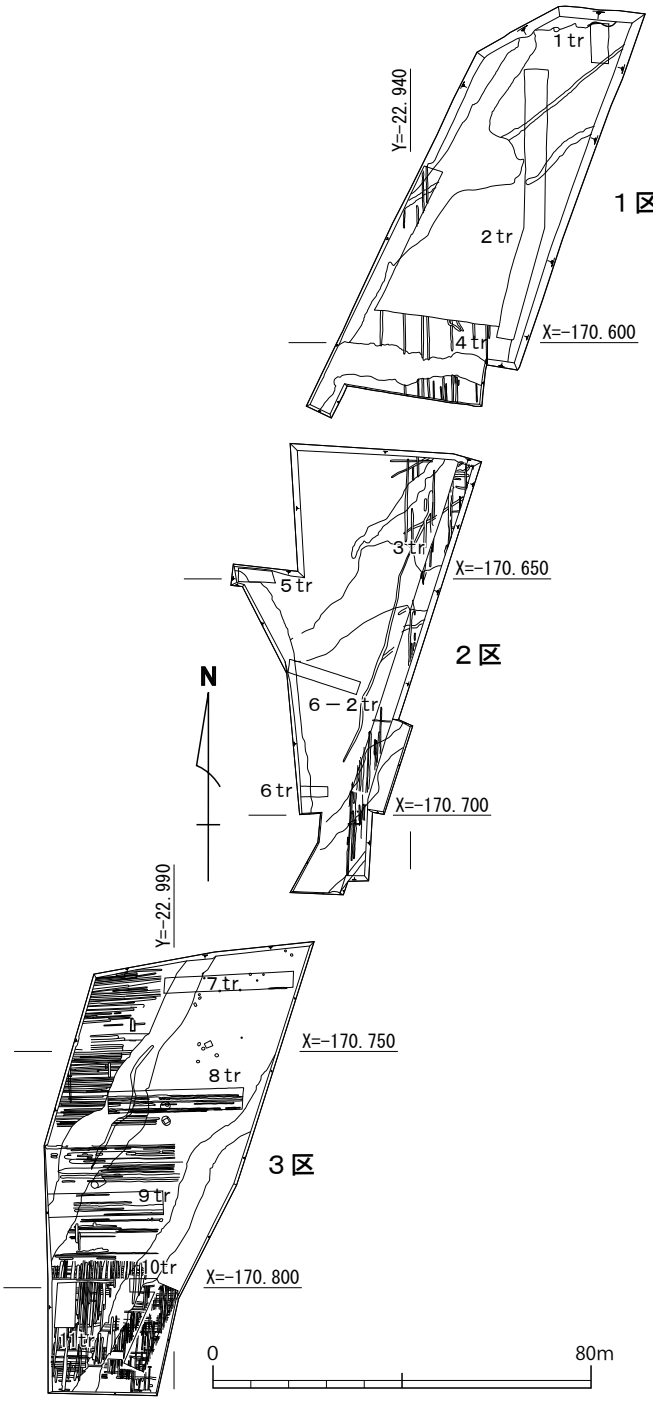


図 31　第２遺構面　平面図　（S．＝1/1,600）

しており、前述した池状遺構や素掘溝は中世以降の時期で捉えられるものである。また、遺構に伴うものではないが、第２遺構面の基盤層からは図 76 に掲げた（76 － 5 ～ 7）の石器が出土しているほか、弥生土器・庄内式土器・須恵器・瓦などがコンテナ約２箱分出土している。

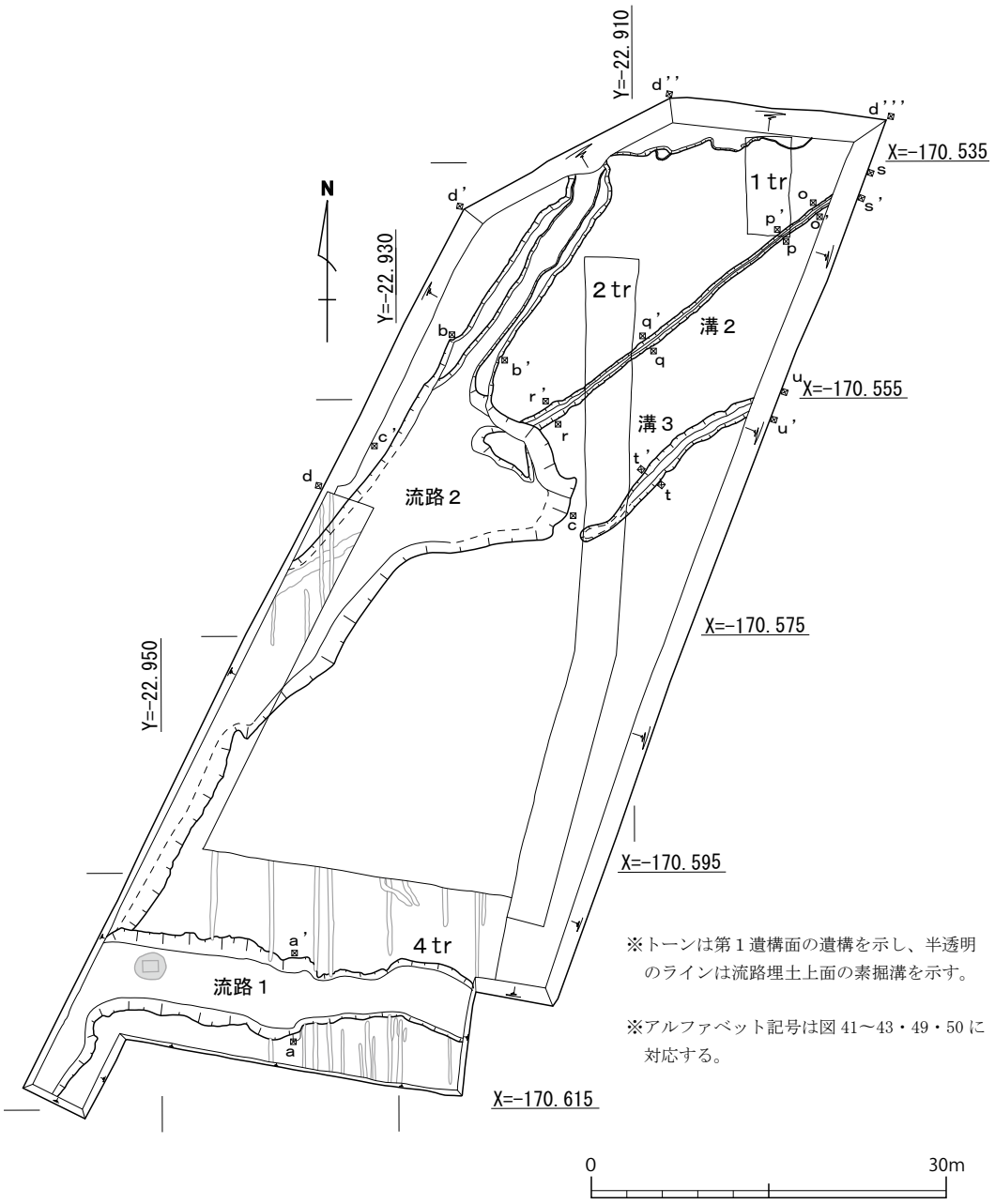


図 32　１区　第２遺構面　平面図　（S．=1/600）

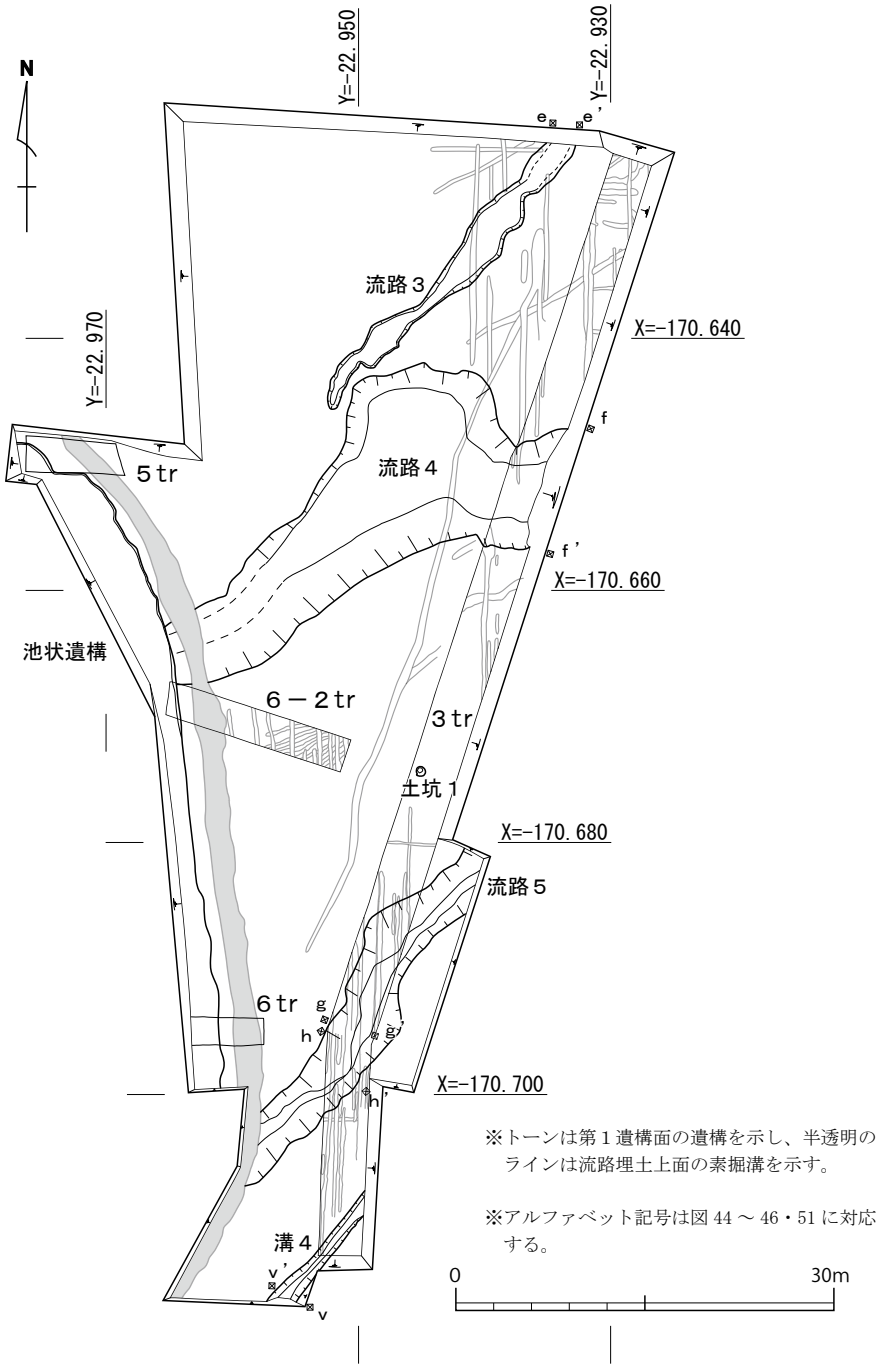


図 33　２区　第２遺構面　平面図　（S．=1/600）

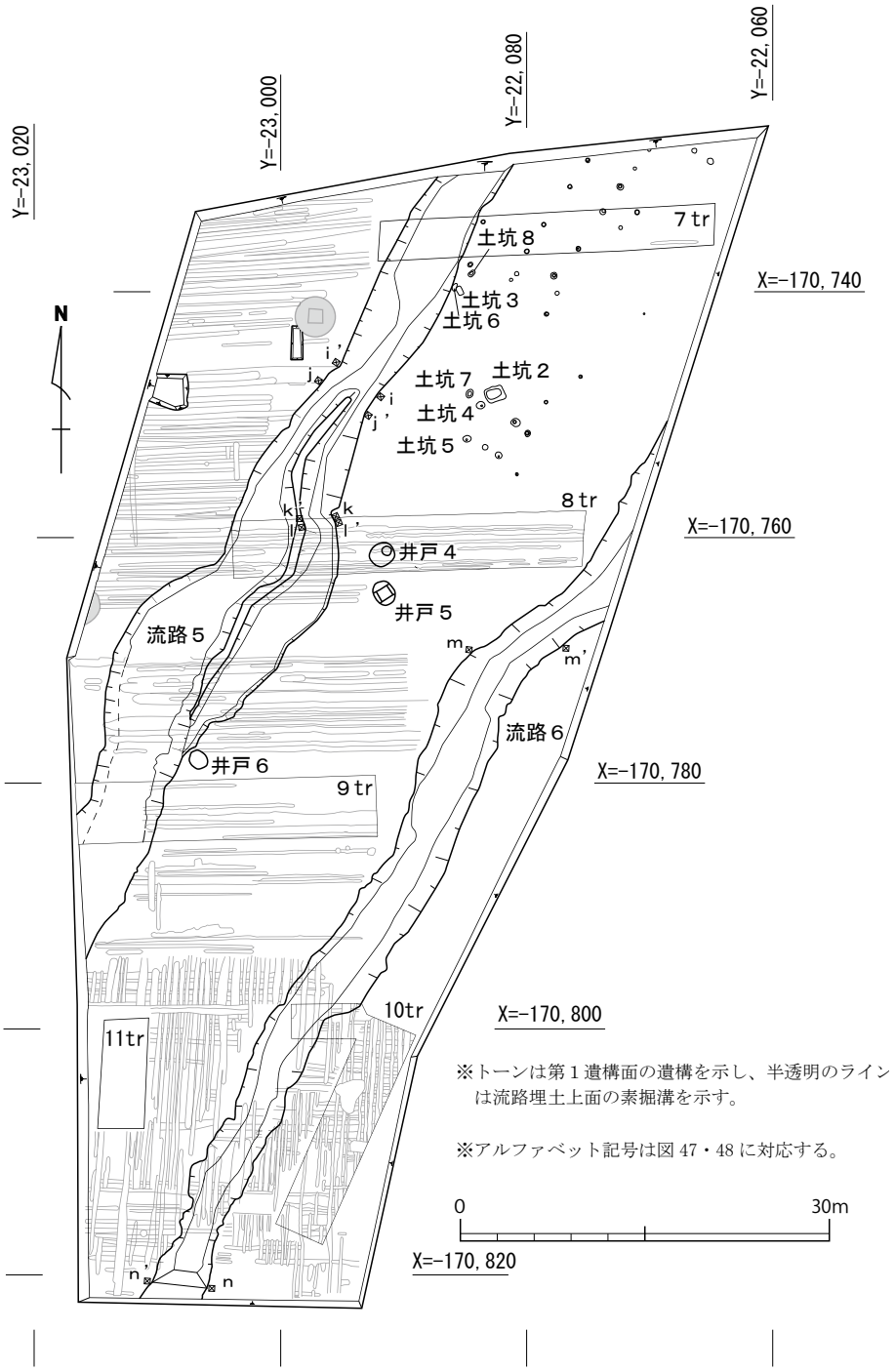


図 34　３区　第２遺構面　平面図　（S．=1/600）

①井戸４（図 34・図 35）

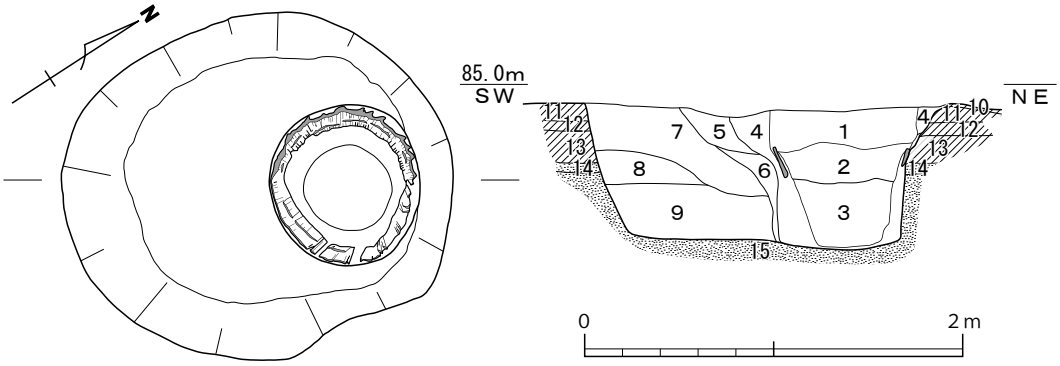
井戸４は３区中央北寄りの位置で検出された挿入式（鐘方 2003）の井戸である。そこは第５－１次調査の８トレンチ内にあたるが、その時点では確認できておらず、第５－２次調査時に下層を掘り下げた際に検出されたものである。図 35 に断面図を掲げているが、最上層である 10 層の黄褐色シルト層は４層に対応し、また原図にも水田検出面と注記がなされている。調査時の所見ではおおむね当時の状態を反映しているものと推定されているが、水田が営まれている面で井戸が設けられたとは考えがたく、３層上面で検出できず井戸掘方の上部を一部削平してしまったと考えるのが妥当であろう。したがって、井戸４は第２遺構面の遺構と認識できる。また、図 34 の平面図にみえるとおり、東西方向の素掘溝と切り合い関係があり、井戸４の方が古い時期の遺構とわかる。

井戸の掘方は東西 2.08 m、南北 1.84 mの不整円形を呈し、残存する上面から底部までの深さは 72cm である。西辺は緩やかな傾斜をもって掘削されているが、東辺は底面から 40cm ほど垂直に、それより上部は緩やかな傾斜をつけて掘り込まれている。井戸枠は上部を欠損しているが、直径 75cm の丸太を刳り貫いたものを掘方東辺寄りに設置している。逆に掘方の西側には井戸枠などの木材は存在せず、井戸枠を設置する際の作業スペースであったと考えられる。

遺物はどの層から出土したものか記録されておらず、厳密な出土層位が不明であるが、井戸枠内や掘方の埋土から土師器片が８点出土している。全て細片であり、図化することはできなかった。そのような状況から細かい時期比定は困難であるが、調整や形状などからおおむね布留式のものと推定される。そういった遺物や層位から、遺構の時期は古墳時代前期頃のものと考えられる。

②井戸５（図 34・図 36）

井戸４南端部から 1.2 mの近接した位置で検出された木組みの井戸である。図 36 に掲げた断面



1．灰褐色シルト
2．暗灰褐色シルト
3．青灰色粗砂（粘土混じる）
4．灰色粗砂
5．黄褐色シルト
6．褐色砂礫
7．褐色シルト（粗砂混じる）
8．黄褐色砂礫
9．灰色粘土（砂礫混じる）
10．黄褐色シルト（水田検出面）
11．灰褐色シルト（砂混じる）
12．明黄色シルト
13．灰褐色粗砂
14．灰色シルト
15．灰色砂礫

図 35　第２遺構面　井戸４　平面・断面図　（S.＝1/40）

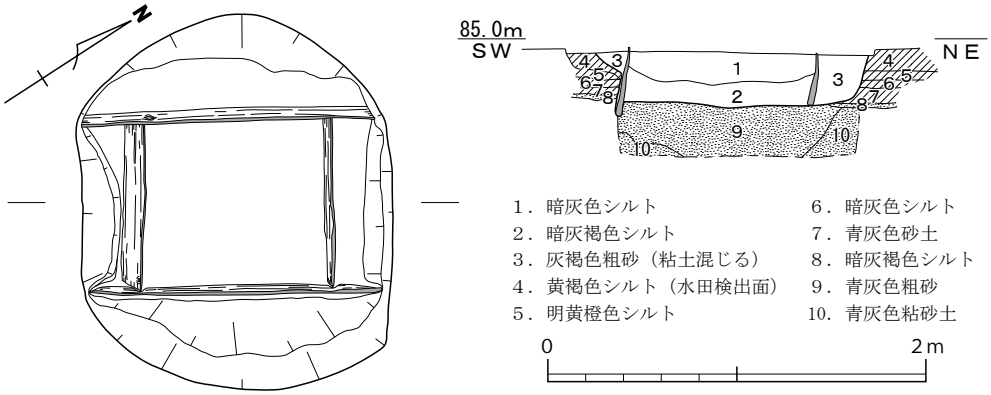


図 36　第２遺構面　井戸５　平面・断面図　（S．＝1/40）

図から判断すると、検出面は水田遺構を検出した第３遺構面上であるが、調査時には現状の深さがほぼ当時の状態を反映していると判断している。しかし、水田が存在した地点で検出されており、井戸４と同様に検出時に上部は幾分か削平してしまっていると捉えるのが妥当である。したがって、井戸５も第２遺構面の遺構として認識すべきものである。

南北２m、東西 1.64 m、深さ 32cm の隅丸方形を呈する掘方のほぼ中央に、４枚の板材を方形に組み合わせた井戸枠を据えた浅い井戸である。ただし、上述したように遺構の上部を検出の際に一部削平してしまっているため、正確な規模を示すものではない。井戸枠は、東西の板材に長さ 1.56 mの長いものを、南北の板材に 88cm の短い板材を用いている。東西方向の長い板材は、短い板材と組み合う箇所を掘りくぼめて、組み合わせしやすいように加工が施されている。

遺物は井戸内埋土の１層から土師器片が５点出土している。層位や出土遺物から井戸４と同時期と考えられる。

③井戸６（図 34・図 37）

３区中央南寄りの流路５東岸にほぼ接する位置で検出された。『概報』では土坑と報告されているが、調査時の図面には井戸と記録されている。図 37 の断面図をみると埋土最下層の７層は縦方向に分層のラインが描かれており、底面も７層の箇所だけやや窪んでいる。また、埋土から木片も認められるうえ、底面からの湧水が激しいことも原図に注記されていた。また、図版 19 上の写真にみえるように、検出面の中央では断面図の１層に対応する淡灰白色砂礫土層が平面円形に堆積している。以上のことから、この遺構は土坑ではなく井戸である可能性が高いと判断した。７層より上位の層には縦方向の分層ラインは認められないが、それは井戸枠が失われた際、掘方埋土が井戸枠内に流入したためと考えられる。

掘方の平面形は南北 1.6 m、東西 1.34 mのやや横長の円形であり、深さは最も深い中心付近で 58cm である。井戸枠は残存していないが、前述した７層の分層ラインや図版 19 を参考にすると、直径約 80cm 前後の円形の井戸に復原できると考えられる。

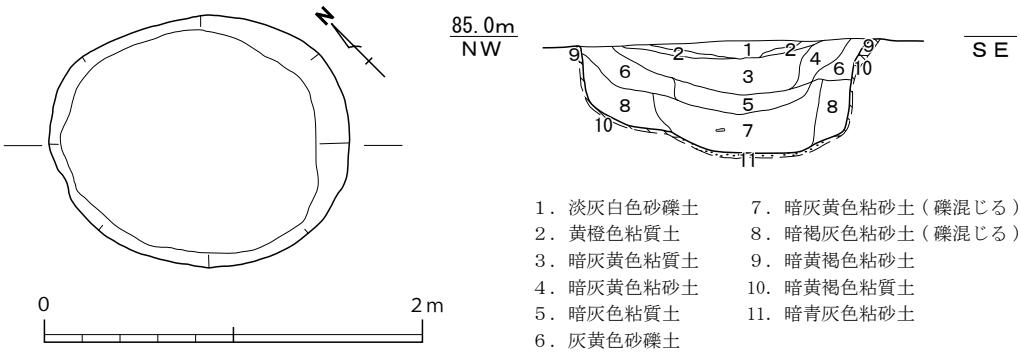


図 37　第２遺構面　井戸６　平面・断面図　（S.＝1/40）

遺物は出土しておらず、正確な年代把握は不可能であるが、図 34 の平面図でみえるように東西方向の素掘溝を切っており、新しい時期の井戸と判断できる。素掘溝は、後述するように少なくとも中世以降の形成であるから、井戸６の年代も中世以降と考えられる。

④柱穴・ピット（図 34）

柱穴ないしピットは 28 基検出された。３区北半の流路５東側に分布しており、その直下には第３遺構面の水田遺構が存在する。層位や出土した遺物の年代観から、水田埋没後それほど時間を置かずに設けられたものと思われる。詳細な平面図や断面図が残されていなかったため、正確な規模や埋土などはわからないが、直径 10 ～ 30cm の円形である。図 34 に掲げた平面図では、ピットは直線的に並んで分布していることが窺える。また図版 19 下の写真に見えるように、一部のピットには柱材も残存しているものも認められることから、これらのピット群は柱穴である可能性が高いと考えられる。３区北半には何らかの建物が存在したことはほぼ確実と考えられるが、建物の構造や規模、棟数等を復原するには至らなかった。

遺物は、弥生土器ないし土師器の小片が８点出土している。その年代観や層位から、弥生時代後期から古墳時代前期頃のものと考えられる。

⑤土坑１（図 33・図 38）

２区中央東端部付近で検出された東西 76cm、南北 78cm、深さ 11cm の不整円形の土坑である。南西側がやや張り出している。図 38 の立面図に掲げたように、検出面の中央北寄りの位置には完形の土師器皿（52 － 1）が内面を上に向けた状態で置かれており、なんらかの意味をもって据え置かれたものと推定される。

埋土の堆積状態は、断面図が記録されていないため詳細を知りえないが、図版 20 の写真に見えるように、土師器皿の周囲 30 ～ 40cm 程度が分層されており、やや異なった質の土が堆積しているようである。図 38 にみえるように、土坑の中央北寄りは底部がやや窪んでおり、それが図版 20 の写真に見える土色の違いに対応すると考えられる。

出土遺物は（52 － 1）のほか、出土位置・層位はわからないもののほぼ完形の土師器皿（52 － 2）

がもう１点出土しており、計２点である。その年代観から、土坑１の時期は 12 世紀代と考えられる。

⑥土坑２（図 34・図 39）

３区北半部中央付近で検出された。土坑の平面形は、南北 1.26 m、東西 1.58 mの隅丸長方形を呈し、深さは最も深いところで 34cm である。

埋土は、粗砂が混じって灰色ないしは褐色系統のシルト層の４層に分層されているが、埋没後の土壌変化によるものと思われ、堆積状態が埋没の時期差を示すものではないと考えられる。

土坑埋土からは庄内式土器が出土した。出土遺物の数量は土器片 25 点で、接合検討を行った結果、ある程度の大きさまで復元できたものの実測図を図 53 に示した。破片の接合状況はわからなかったが、山陰系の鼓形器台（53 － 1 ）である。他に出土した土器は完形に復元できるものはなく、ほとんどが甕の口縁部片である。逆に体部片などはほとんど認められず､そのような土器のあり方から壊れた土器の廃棄用土坑であった可能性が考えられる。

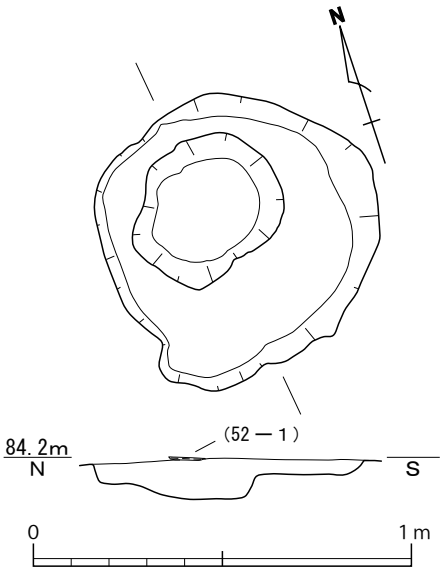


図 38　第２遺構面　土坑１　平面・立面図
（S.＝1/20）

土器は鼓形器台以外は細片であり、細かい時期を決定しうるものは認められない。鼓形器台は庄内３式のものと考えられる。ただし、図化できなかった甕の口縁部は内彎し端部が内面側に肥厚することから、布留式期にまで下る可能性がある。したがって、土坑２の年代は弥生時代終末期から古墳時代前期頃と考えられる。

⑦土坑３（図 34・図 40）

土坑３は、３区北半部の第５－１次調査における７トレンチの南側で検出された。土坑２と同じく、水田遺構の上面に位置しており、水田が洪水堆積によって埋没された後に掘られたものである。平面形は不整形の四角形で、南北 80cm、東西 56cm、深さ 14cm の小型の土坑になる。

埋土は３層に分層できるが、いずれも灰色系統の砂を含んだシルト、あるいは粗砂である。これらは土壌の変化に起因するものと考えられ、堆積状態が埋没時期の違いを示すものではない。遺物は出土しておらず、土坑の年代や性格についての詳細は不明である。しかしながら、土坑３の周辺には他にもほぼ同規模の土坑が数基検出されており、それらは同様の性格をもつ可能性が高い。

⑧土坑４（図 34）

土坑４は、土坑２の南西側に近接した位置で検出された。直径 60cm の円形土坑であるが、残念ながら、調査時に平面図や断面図、写真等の記録が残されておらず、深さや埋土の情報は不明である。

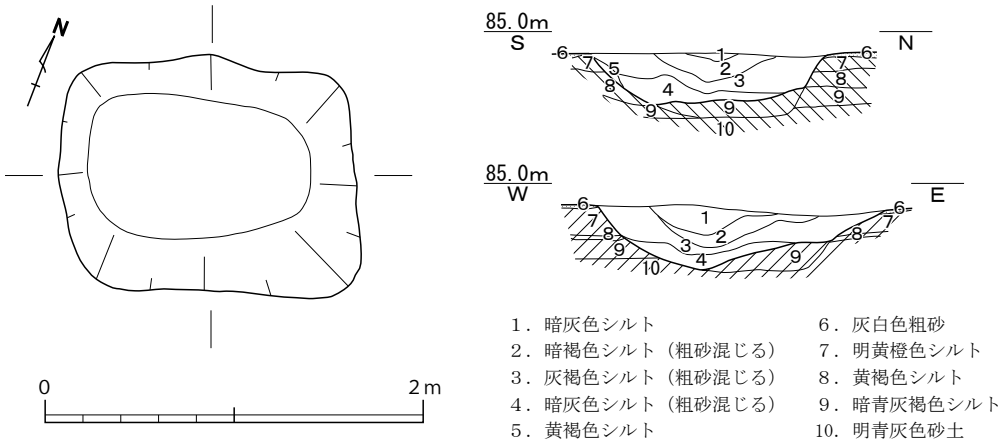


図 39　第２遺構面　土坑２　平面・断面図　（S．＝1/40）

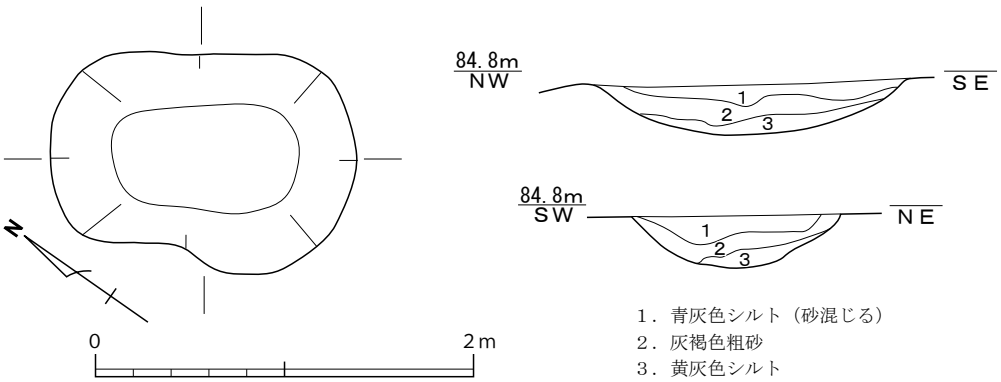


図 40　第２遺構面　土坑３　平面・断面図　（S．＝1/40）

出土遺物として土師器片が３点出土している。細片のため図化は不可能であったが、壺・甕の口縁端部である。これらから土坑４の形成時期・性格を特定するのは難しいが、おおむね土坑２と同時期かつ同様の性格をもつものと推定される。

⑨土坑５（図 34）

土坑４の南側で検出された長径 60cm、短径 50cm 程度の円形土坑である。第３遺構面の水田遺構の畦畔直上に位置している。土坑４と同様に詳細な記録が残されておらず、深さや埋土は不明である。

出土遺物は、土師器片が２点出土している。小片のため図化は行っていないが、甕の体部片と考えられるもので外面にハケ調整、内面にケズリ調整が施されていることから、庄内式から布留式の範疇に収まるものである。したがって、土坑５の時期は古墳時代前期と考えられ、他の土坑と同時期のものと考えられる。

⑩土坑６（図 34）

土坑３の西側に接した位置で検出された土坑である。長径１m、短径 35cm の楕円形を呈する。土坑３と切り合い関係があり、土坑６の方が古い。土坑４・５と同様の理由から、深さや埋土等は不明である。

出土遺物は土師器片４点があり、上述の土坑と同時期と思われる。

⑪土坑７（図 34）

土坑２の西側に 60cm の位置で検出された土坑である。土坑６と同じく第３遺構面の水田畦畔の直上に位置する。長軸 70cm、短軸 58cm の楕円形を呈す。土坑７に関しても、詳細な記録は残されていないため、深さや埋土の内容は不明である。

出土遺物には土師器片５点がある。いずれも小片であり、図化はできなかった。甕の体部片・口縁部片で、口縁端部が肥厚していることや外面にハケを、内面にケズリを施していることから、古墳時代前期に収まるものである。したがって、土坑７に関しても上述の土坑２～６と同様の時期と考えられる。

⑫土坑８（図 34）

土坑３の北東側で検出した。長辺 45cm、短辺 30cm の長方形を呈する。土坑８に関しても詳細な記録は残されておらず、深さや埋土の内容は不明である。

出土遺物は土師器の小片４点が出土しており、土坑２～７と同時期と考えられる。

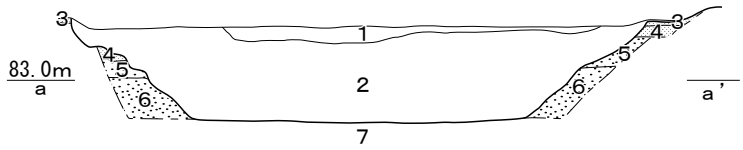
⑬流路１（図６・図 29・図 32・図 41）

１区南端部で検出した幅 7.5 m、長さ 44 m、深さ 1.5 mの自然流路である。第４章でもふれたとおり、『概報』では第１遺構面に対応する流路として報告されているが、図６・図 29 の断面図を参照すると検出面が３層上面であり、図 32 の平面図等にみえるように、流路の肩が素掘溝に切られていることから、第２遺構面の遺構と認識した。

南西方向から東方向に延びており、トレンチ南西隅付近で「く」の字状に南西方向に屈曲する。西寄りの中央付近には流路１埋没後に井戸１が設けられている。また、第５－１次調査の４トレンチで確認できたように、流路２とは切り合い関係があり、流路１の方が新しい時期のものである。

埋土は、図 41 の断面図上では礫を含んだ粗砂で構成されることがわかる。ただし、図版 22 下の写真から判断すると、粘質土もブロック状に少量堆積していることがわかる。

遺物は、埋土から土器片が５点出土しているが細片であり、詳しい年代まではわからない。ただし、前述したとおり、切り合い関係から流路２より新しい時期であることは確実である。流路２は、後述するように埋土中から弥生時代後期から古墳時代前期の土器が出土していることから、流路１の年代の上限は古墳時代前期と推定される。また、素掘溝に切られているので、少なくとも中世頃には埋没していたことがわかる。したがって、流路１は古墳時代前期から中世の間に収まる時期のものである。



1．白灰色粗砂
2．白灰色粗砂（礫混じる）　} 流路１埋土
3．黄褐色シルト
4．青灰褐色シルト
5．青黄褐色シルト
6．暗青灰色シルト（粗砂混じる）
7．暗青灰色粘土

※アルファベット記号は図 32 に対応する。

図 41　第２遺構面　流路１　断面図　（S.＝1/80）

⑭流路２（図 32・図 42・図 43）

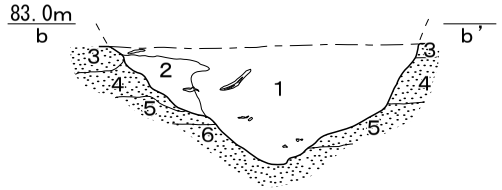
１区北端部から南西端部にかけて検出された南西－北東方向の自然流路である。

前述したとおり、図 32・42 に記録された規模は第４遺構面上におけるものであり、流路２本来の規模を示したものではない。流路の規模は検出長約 100 m、深さ３m、第４遺構面上における幅４～ 16.1 mである。幅には大きなバラつきが認められるが、おおむね５m 前後である。１区の中央部付近では、東岸が大きくふくらんで幅が10m以上となっており、溝２の南西端を切っている。また、１区北端部で「く」の字状に屈曲する。南端部は流路１に切られている。

埋土は灰色系統の砂礫や粗砂、粘質土で構成されている。図 42 に示したｂ－ｂ’断面とｃ－ｃ’断面は、第４遺構面から底面までの断面図である。それをみると、流路の中心には粗砂あるいは砂礫が中心に堆積し、流路の斜面には粘土あるいは粘砂土が堆積していることがわかる。

図 43 には１区の北壁・北西壁・西壁の断面図を掲げた。それには現地表面から第４遺構面上面付近までの層位が記録されている。ｄ”－ｄ”’断面には流路２の東岸が分層されているが、そこから 4.4 m西の地点でも斜め方向の分層が確認できる。その分層を境にして埋土の堆積状況が変化しているのは重要である。東側の肩と西側の肩の間の埋土は下層には粗砂、砂礫が認められるものの、上層には粘土や細砂といった粒子の細かい土が堆積しているのに対し、西側の分層から西側はそのほとんどが砂礫で構成されており、明らかに異なっている。前者は比較的緩やかな流れの時期に堆積したものと考えられるが、後者の埋土が堆積したときには流れが急になっていたと想定できる。

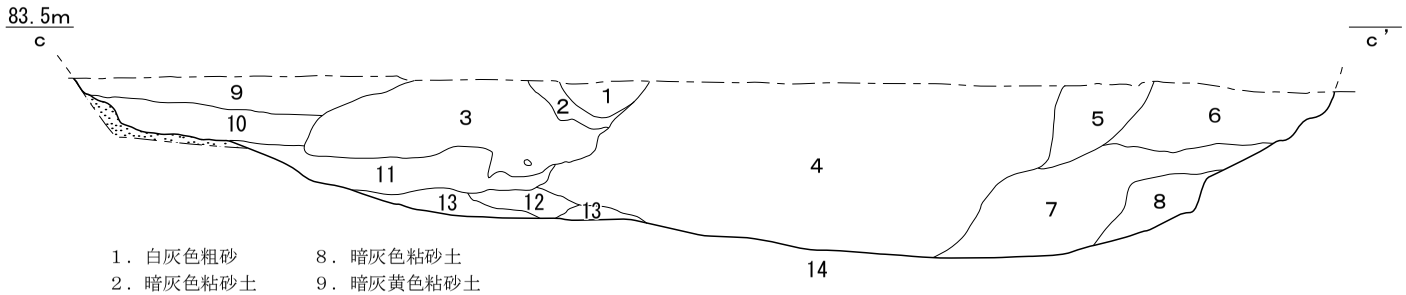
また、ｄ’－ｄ”断面では流路２の西岸が確認できる。流路が屈曲する直前での断面を捉えているもので、図 32 の平面図の位置とも対応する。西岸の斜面には粘土や粘土と砂礫の互層が堆積しており、屈曲後の埋土とは異なっている。西岸より西側は灰褐色礫層が中心に堆積しているが、ｄ－ｄ’断面に示したとおり、砂礫やシルト、細砂、粘土が互層となって堆積している。その堆積層をさらに観察すると、砂礫層にはラミナが確認できる。このような流路外側の堆積状況は、流路２が幾度も洪水やそれによる流土堆積を繰り返したことによるもので、流路２の氾濫原であったと考



1．灰黄色礫砂土
2．暗灰色粘土
3．黄灰色粘砂土
4．青灰色粘土（暗灰色粘土混じる）
5．暗灰色極細砂
6．明青灰色粘土

1．流路２（ｂ－ｂ’断面）

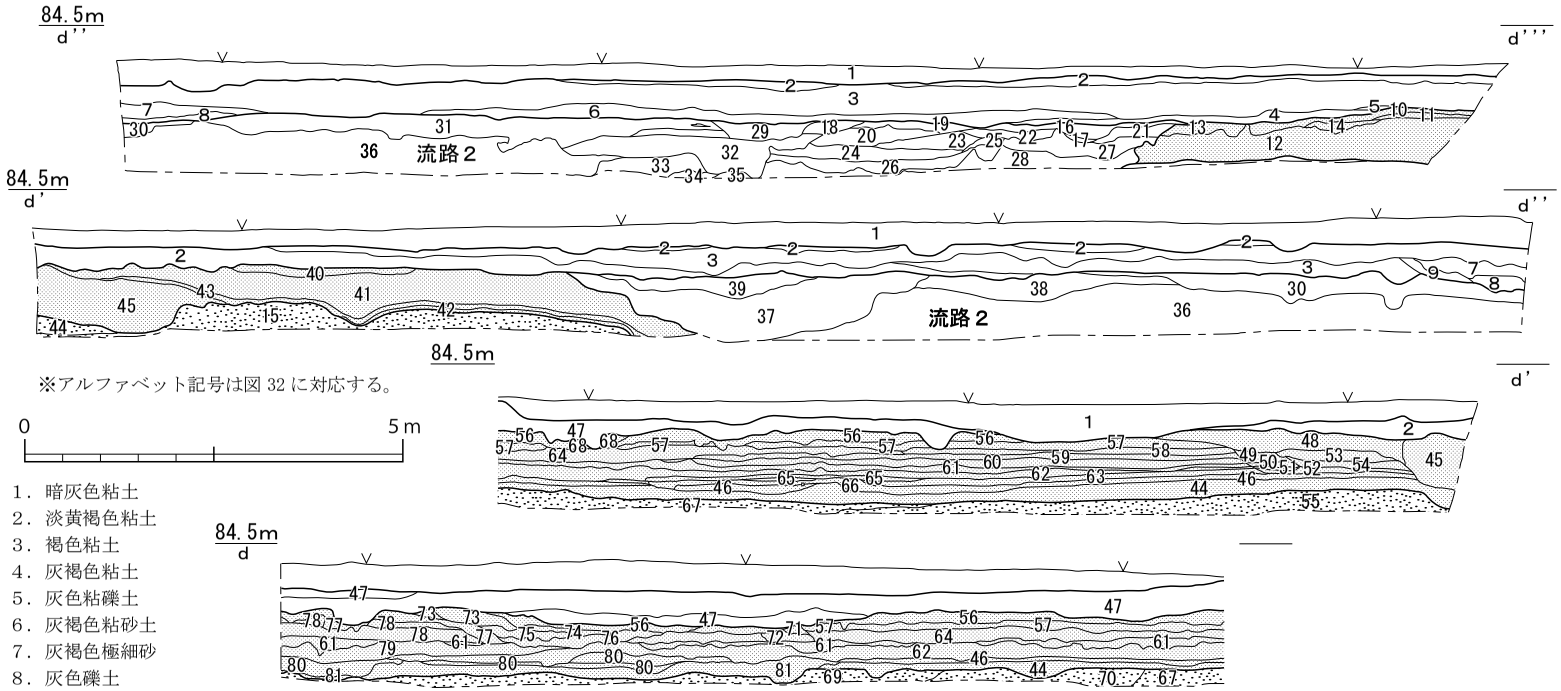
※アルファベット記号は図 32 に対応する。



1．白灰色粗砂
2．暗灰色粘砂土
3．灰黄色粗砂
4．灰黄色粗砂
5．灰色粘砂土
6．暗灰色粘砂土
7．黄灰白色粗砂
8．暗灰色粘砂土
9．暗灰黄色粘砂土
10．暗灰色粘質土
11．灰色粘砂土
12．黄灰色粗砂
13．暗灰色粗砂
14．暗青灰色粘質土

2．流路２（ｃ－ｃ’断面）

図 42　第２遺構面　流路２　断面図（１）（Ｓ．＝1/100）



1．暗灰色粘土
2．淡黄褐色粘土
3．褐色粘土
4．灰褐色粘土
5．灰色粘礫土
6．灰褐色粘砂土
7．灰褐色極細砂
8．灰色礫土
9．灰色粘砂土
10．灰白色粘土
11．灰色粘土
12．暗灰褐色粘土
13．淡灰色粘砂土
14．暗灰褐色粘砂土
15．暗青灰色粘土
16．灰色粘土
17．灰色粘土
18．灰色砂礫土
19．灰色細砂
20．暗灰色粘土
21．暗灰色粘土
22．灰色粘土（細砂混じる）
23．灰色粘土（粘り強い）
24．暗青灰色粘土
25．灰色粘土
26．灰色極細砂
27．灰色礫砂土
28．灰色粗砂
29．暗灰色極細砂
30．灰色細砂
31．暗灰色極細砂と灰色礫土の互層
32．灰色礫土
33．灰色粘土
34．灰色砂礫土
35．灰色粘土
36．灰色礫土
37．褐色粘土（砂礫含む）
38．灰白色礫
39．灰白色礫土と暗灰色粘土の互層
40．褐色粘砂土
41．灰褐色礫
42．暗灰色シルト
43．赤褐色礫（鉄分沈着）
44．暗青灰色粘土
45．灰褐色礫
46．暗灰色極細砂
47．褐色粘砂土
48．灰色粘礫土
49．灰色細砂
50．灰色砂礫土
51．灰色シルト
52．灰色粘礫土
53．灰褐色シルト
54．灰色細砂
55．灰色礫
56．暗灰色砂礫
57．褐色粘土
58．灰色極細砂
59．灰色極細砂
60．灰色極細砂
61．暗灰色砂礫
62．暗灰色砂礫
63．暗灰褐色細砂
64．灰色砂礫土
65．暗灰色細砂
66．暗灰色粘土
67．暗灰色粘砂土
68．黄褐色粘砂土
69．褐灰色砂礫
70．褐灰色砂礫
71．暗褐色粘砂土
72．灰白黄色土
73．褐色粘質土
74．灰白色砂質土
75．黄褐色粘砂土
76．青灰白色粘土
77．暗灰褐色粘砂土
78．灰色粘土（砂混じる）
79．青灰黄色粘土
80．暗青灰色粘砂土
81．暗青灰色粘砂土（砂多い）

図 43　第２遺構面　流路２　断面図（２）（S.＝1/100）

えられる。前述した東岸の堆積状況も同様に洪水が繰り返し起きていたことを示すものといえよう。

遺物は、埋土中から弥生後期から古墳時代前期の土器と石器が出土している。遺物の数量は、コンテナ1箱程度がある。このうち、ある程度の大きさまで復原することができた土師器1点（54－1）を図54に、石器は図76に掲げた。（54－1）は布留2式に比定できるものものであり、流路2の下限を示すものと考えられる。したがって、流路2の時期は弥生時代後期から古墳時代前期頃と考えられる。

⑮流路3（図33・図44）

2区北端部で検出された南西－北東方向の自然流路である。後述する流路4・5とおおむね平行しており、流路4に接するか接さないかの位置で終息している。検出長28.2 m、幅3m、深さ1mで、今回の調査で検出した流路のなかでは、最も規模の小さいものである。図44に掲げた断面図では流路の肩が第2遺構面基盤層より高くなっているが、図33の平面図上では素掘溝に切られていることや出土遺物の時期などから第2遺構面の遺構と判断できる。埋土は3層に分層でき、灰褐色あるいは灰黄色の粗砂が堆積している。

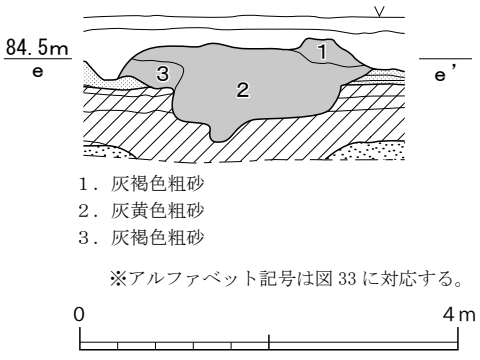


図44　第2遺構面　流路3　断面図　（S.＝1/80）

埋土中からは庄内式土器、土師器が出土しており、その数量は27点である。このうち、図化可能であった12点を図55・56に示した。（56－10・11）は東海系のS字甕とその脚台部であり、外来系土器を含んでいる。これらの土器は庄内3式から布留1式期に収まるものであり、流路3の年代は弥生時代終末期から古墳時代前期初頭頃と考えられる。

⑯流路4（図33・図45）

2区の中央部を横断するように検出された、「く」の字状を呈する南西－北東方向の自然流路である。

流路の規模は、検出長34.8 m、検出幅6～14.4 m、深さ2.3 mである。北岸の中央部は張り出し幅が広くなっていて、流路3の南西端との距離が60cm程度まで接近する。西端は溝1と池状遺構に、埋土上面は素掘溝に切られている。

埋土は、図45に示したように、灰色系統の砂礫・細砂が主体で、一部粗砂や粘土、シルトがブロック状ないし帯状に堆積している。これらは一度に堆積していたというよりは、何回かに分かれて堆積したものと考えられる。流路の底部には砂礫層が堆積しているが、そのなかでも図45の12層は14層・15層の上面が落ち込んでいることから、それらが流水による削平を受けた後に堆積したものと考えられる。12層も西側の上面はやや落ち込んでおり、その上層に堆積している砂礫や細砂も同様の状況を示している。この段階には砂礫を中心としながらも粘土と互層化していたり、

両岸付近には細砂などの細かい粒子の砂が堆積していることから、流水の勢いが弱くなっていたことがうかがえる。

また、図７に示した２区の東壁断面図をみると、流路４の両岸の外側には砂礫や粗砂、粘質土が混じり合って堆積していることがわかる。このような状況は、前述した流路２と同様に、流路４が繰り返し洪水やそれによる流土堆積を起こしたことによるものと考えられ、氾濫原であったと推定される。

出土遺物には庄内式土器 11 点がある。いずれも埋土中から出土した。そのうち、図化可能であった４点を図 57 に掲げた。これらの土器は、庄内１式の範疇で捉えられるものである。したがって、流路４の年代は弥生時代終末期であると考えられる。

⑰流路５（図 33・図 34・図 46・図 47）

２区南半部から３区中央西端部にかけて検出された南西－北東方向の自然流路である。流路の規模は、２区では検出長 27 m、幅６m、深さ 1.7 m、３区では検出長 66.6 m、最大幅 11.4 m、深さ 1.5 m であり、３区で幅広になる。２区・３区の間の調査対象外の箇所も含めると、推定長は約 130 m以上になる。当時の地表面は南西が高く北東が低いため、南西から北東方向へ緩やかに蛇行しながら流れていたものと考えられる。また、３区北半部の流路中央には、中州と考えられる長さ 33 m、幅 1.2 mの平面Ｓ字状を呈する高まりが存在する。また、残された図面に記録されていないため詳細については不明であるが、図 34 のｉ－ｉ’断面の北側の東岸で護岸杭２本が検出されている。

埋土は、灰色系統の粗砂・砂礫を中心に堆積しており、そこに粘土やシルトが混じる。２区、３区における断面図は、それぞれ図 46・47 に掲げた。その堆積状況は、細かく分層されている箇所も認めら

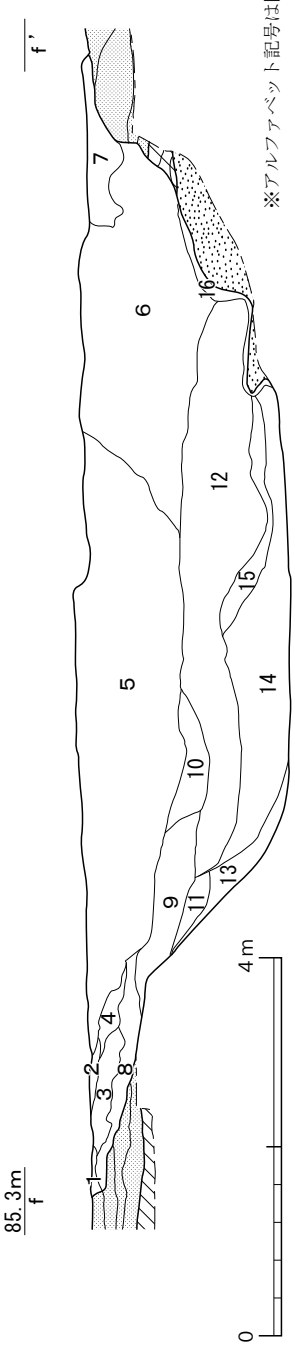
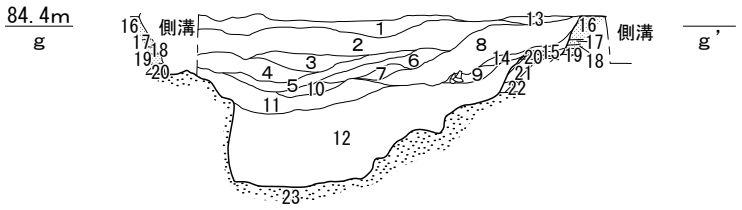


図 45　第２遺構面　流路４　断面図　（Ｓ．＝1/80）

れるが、比較的一層が厚く色調や土質も類似している。

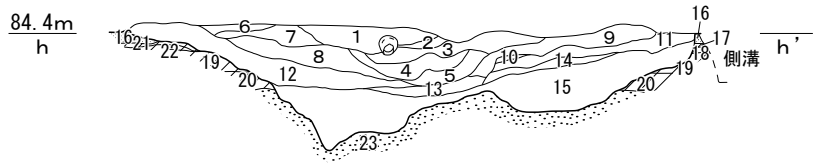
まず、２区における堆積状況を述べる。図 46 に掲げた断面図をみると、底面には灰色系統の砂礫が 70 ～ 80cm 堆積していることがわかる。その上層には砂礫や粗砂、細砂が互層となって堆積しているが、前述した砂礫層とは堆積状況が異なっており、時期差を示している可能性がある。また、出土遺物も写真から判断する限り、底面に堆積した砂礫層より上層から出土しているようにみえることも、時期差を示す根拠になると考えられる。

３区の埋土は２区に比べてややシンプルな堆積状況がみられる。図 47 のｉ－ｉ’断面とｊ－ｊ’断面は、中州の北端部の土層を記録したものであるが、中州の西側は灰色系統の砂が堆積しているのに対し、東側は砂礫が底面に堆積しその上層にシルトが堆積する。断面図の分層ラインをみるかぎり、西側の埋土の方が新しいと考えられる。ｋ－ｋ’断面とｌ－ｌ’断面は、３区中央付近の中



１．灰色砂礫土
２．灰褐色粘礫土の互層
３．灰色礫土
４．灰色礫土
５．青灰色粘土
６．灰黄色礫土
７．灰色礫
８．青灰褐色細砂
９．黄灰色細砂
10．灰色砂礫土
11．灰色礫土
12．灰黄褐色礫土
13．灰色砂礫土
14．灰黄色砂礫土
15．黄灰色細砂
16．灰色礫砂土
17．灰褐色砂礫土
18．暗灰色細砂
19．暗灰色粘質土
20．明黄褐色細砂
21．暗灰色細砂
22．暗青灰色粘質土（粗砂混じる）
23．青灰色粘質土

１．ｇ－ｇ’断面

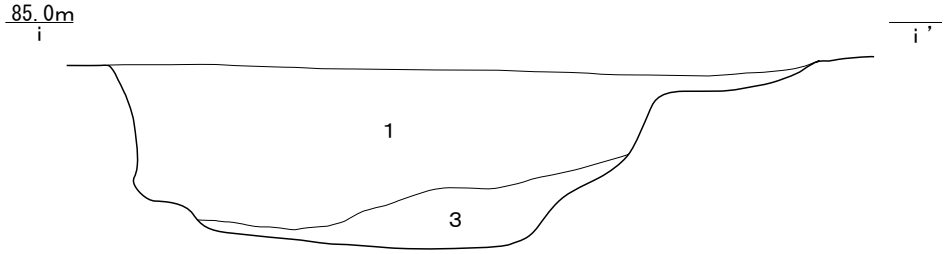


１．灰色礫土
２．灰色粗砂
３．灰色礫土
４．灰褐色砂礫土
５．褐色粗砂
６．灰色礫土
７．灰色粗砂
８．灰褐色細砂と灰色礫土の互層
９．褐色細砂
10．褐色粗砂
11．灰白色粗砂
12．灰褐色礫砂
13．褐色粗砂
14．灰褐色粗砂
15．灰色砂礫土
16．灰白色礫土
17．黄褐色細砂
18．暗褐色粘砂土
19．黄褐色砂礫土
20．赤褐色礫（鉄分含む）
21．黄褐色細砂
22．黄褐色砂礫土
23．青灰色粘砂土

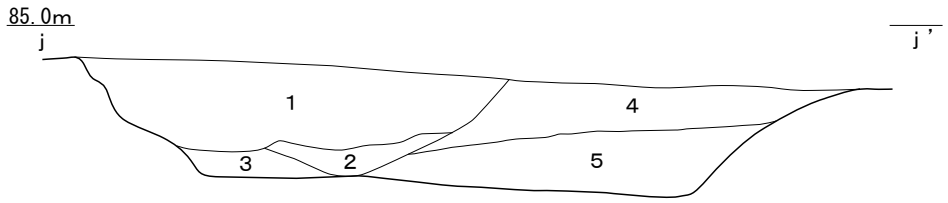
２．ｈ－ｈ’断面

※アルファベット記号は図 33 に対応する。

図 46　第２遺構面　流路５（２区）　断面図　（Ｓ．＝1/80）

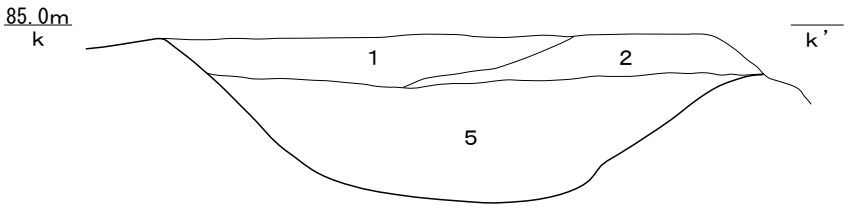


1．i－i’断面

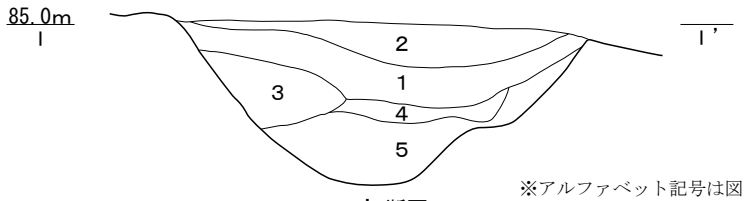


2．j－j’断面

1．黄灰褐色砂土
2．青灰色粗砂（粘土混じる）
3．灰白黄色砂土
4．灰色シルト
5．黄灰色砂礫土



3．k－k’断面



※アルファベット記号は図 34 に対応する。

4．l－l’断面

1．暗灰褐色シルト（炭含む）
2．灰白色粗砂
3．淡灰色シルト
4．暗灰赤褐色シルト
5．黄白灰色砂礫

図 47　第２遺構面　流路５（３区）　断面図　（S．=1/40）

洲東側の土層であるが、下層に砂礫、上層にシルトが堆積している状況が認められる。３区南半部に関しては、調査時の不手際によって断面図が記録されておらず、詳細は不明であるが、北半部と大きな差異はないものと考えられる。

埋土中からは、土器、石器、木製品が出土した。土器は庄内式土器、土師器がある。完形かそれに近い形に復元できるものが大量に出土しており、その中には鳥形土製品といった特異なものや、東海や山陰、北陸、四国東部などから搬入されたあるいは影響を受けたと考えられる外来系土器が含まれていた。石器は砥石などがあり、木製品は笠状木製品の一部と考えられる円盤状木製品などがある。遺物はコンテナ（60 × 40 × 15cm）79 箱、大コンテナ（60 × 40 × 30cm）10 箱の計 89 箱分出土した。そのうちピックアップした土器 144 点と石器２点、木製品１点を図化し、土器は図 58 ～ 74、石器を図 76、木製品を図 77 に示した。その詳細については後述する。

土器は流路５のほぼ全域で出土し、一部集中的に検出された箇所も存在するが、器種組成や出土状況に特異な様相は認められなかった。また、庄内１式から布留１式まである程度の時間幅を有しているが、そのなかでも庄内２式から布留０式のものが多い。また、これらの土器は新しい型式のものが埋土下層、古い型式のものが埋土上層から出土するような状況や調査区をまたいで土器片が接合するといった状況も認められることから、意図的な廃棄や流路形成から埋没までの時期差を示すものではないと考えられる。上述したように外来系土器が多く認められることは興味深い点であり、当該期に他地域と交流を行っていた集落が流路５の流域に存在していたものと推定される。

石器に関しては詳細な記録が残されていないため、詳しい出土状況は不明である。遺物袋に同封されたラベルを参考にすると、２区・３区で１点ずつ出土していることがわかる。

円盤状木製品は、３区南半部の底面付近で大型の板材と共に出土している。板材と円盤状木製品がセットのものかどうかは不明である。

流路５の年代は、出土遺物の年代観から弥生時代終末期から古墳時代前期前半頃と考えられる。

⑱流路６（図 34・図 48）

３区北半部東端ら３区南端にかけて検出された南西－北東方向の自然流路である。

前述した流路５とはほぼ平行している。南西側が高く北東側が低いことから、南西から北東方向へと流れていたと考えられる。検出長 82.8 m、最大幅 5.4 m、深さは深いところで 1.4 mである。３区南端部より緩やかに蛇行しながら、３区東端部中央まで延びている。

埋土は灰色あるいは褐色系の粗砂が中心に堆積しており、一部粘質土が混ざって、互層となっている。埋土上面は素掘溝に切られている。

遺物は出土状況・層位などは分からないものの、弥生土器・土師器・須恵器、竈あるいは甑の把手、石器等がコンテナ約１箱分出土した。大半が小片で、完形に復元できるものはなかった。そのうち、土器はある程度の大きさまで復元することができた３点を図化して図75に、石器は図76に示した。

流路の形成時期については、最も古相の遺物と考えられる弥生土器は、形状などから畿内Ⅴ様式

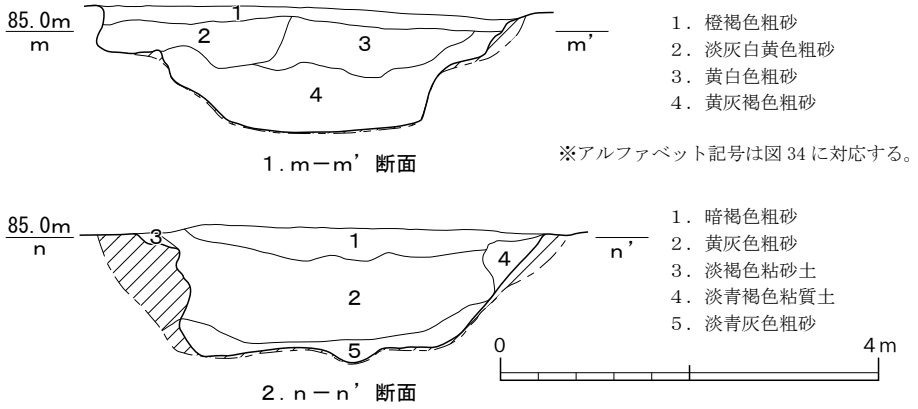


図 48　第２遺構面　流路６　断面図　（S．＝1/80）

のものと考えられるので、弥生時代後期に比定できる。逆に最も新しい時期の遺物と考えられる須恵器や把手は小片であり、細かな時期を特定することはできないが、おおむね古墳時代中期頃と考えられる。したがって、流路６の時期は弥生時代後期から古墳時代中期と考えられる。

⑲素掘溝（図 31・図 32・図 33・図 34）

素掘溝は調査区全体で検出された。その分布密度は１区は低く３区は高いというように、南側に多く認められる傾向にある。ただし、１区は前述したように第２遺構面上での検出がほとんど行えていないため、本来存在したはずの素掘溝を未検出のまま掘削を進めてしまった可能性は否定できない。

素掘溝の方向は、東西方向と南北方向の溝の両方が確認できる。それらは切り合い関係から、一部例外を除いておおむね東西方向のものが古く南北方向のものが新しいことがわかる。これらの素掘溝は、同時に平行して掘られた複数の溝群が存在したものと想定されるが、何らかの要因で埋没しては掘削を繰り返しており、同時並存した溝群を抽出することは困難である。また、同一遺構面上で検出した弥生時代から古墳時代の流路や土坑、井戸などとも切り合い関係が認められ、少なくともそれらが埋没した後に素掘溝が形成されていることがわかる。また、図 31 にみえるように、１区南半部のものと２区北半部のものは、その位置や方向、規模から同一の素掘溝群の可能性が高いと考えられる。

遺物はコンテナ約４箱分出土した。瓦器椀や羽釜、陶磁器、弥生土器、庄内式土器、古式土師器、宋銭などがあるが、弥生土器や土師器は流路埋土などからの混入と考えられるので、素掘溝の年代を示すと考えられるものは瓦器や羽釜、３区の南北方向の溝の一つから出土した宋銭の元豊通宝である。羽釜や瓦器は細片しかなく時期の特定は容易ではないが、元豊通宝の初鋳年が 1078 年であるから、少なくとも 11 世紀後半以降の形成と考えられる。

⑳溝２（図 15・図 32・図 49）

１区北東端から中央付近にかけて検出した。本節冒頭でも述べたとおり、図 32 における検出面

は第４遺構面上であり、幅・深さは遺構本来のものではない。図 15 の２トレンチの西壁断面図や図 49 の断面図をふまえると、規模は検出長 32 m、幅 3.6 m、深さ 1.28 mで、南西－北東方向に延びる。

埋土は溝の底部付近は暗灰色の粘土ないし粘砂土が、その上層には灰色系統の細砂あるいは粗砂が堆積している。溝の南西端は流路２に切られており、溝２のほうが古い時期の遺構である。

出土遺物には弥生土器 31 点があるが、細片のため詳細な時期は判断できなかった。しかし、検出面や流路２との切り合い関係から、弥生時代後期から古墳時代前期の間に収まると考えられる。

㉑溝３（図 32・図 50）

１区中央付近で検出された南西－北東方向に、緩やかに弧を描きながら延びる溝である。溝２とはおおむね平行している。

他の１区の遺構と同様に検出面が第４遺構面上であるため、平面図上の規模は遺構本来のものではない。図 50 に掲げた断面図を参考にすると、溝３の規模は上端幅 6.32 m、底部幅 80cm、深さ 1.6 m、検出長 18.5 mとなる。溝の断面形態は、両岸から深さ 25cm 付近までは、幅 1.2 ～ 1.6 m程度の平坦面を設けながら緩やかに下っていくが、そこから先は比較的傾斜をつけて底部まで下っていきＶ字状を呈する。溝の東端は調査区外に延びていくが、西端は流路２から 2.4 m程度まで近接した位置で終息する。また、第２遺構面上の遺構とは切り合い関係は認められないが、溝３の底部は第４遺構面の溝６と流路７を切っている。

埋土は、褐色あるいは灰色系統の細砂・粘質土が混ざり合って互層となっているが、粘質土の方が主体を占めている。

出土遺物には、埋土中から出土した弥生土器 29 点と土師器皿１点がある。後者が溝の年代を示すものと思われ、このことから溝３は中世以降の溝と考えられる。

㉒溝４（図 33・図 51）

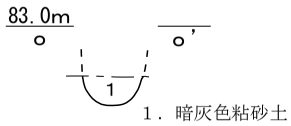
溝４は、２区南端部で検出された南西－北東方向に延びる溝で、流路５とおおむね平行するように掘られている。検出長 11.4 m、幅 1.8 m、深さ 76cm で規模で検出幅は南西がやや広く、北東がやや狭い。北岸の一部は素掘溝に切られる。溝の断面形状はＶ字形を呈するが、西岸は急な傾斜で下っていくのに対し、東岸はやや緩やかに下っていく。

埋土は底面付近には礫を含んだ青灰色細砂で、その上に灰褐色の砂礫、粘砂土が堆積する。

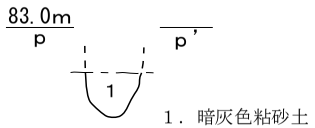
出土遺物はなく正確な時期は知りえないが、流路５と平行していることや素掘溝に切られていることをふまえると、流路５とほぼ同じ時期のものと考えられる。

㉓池状遺構（図 33）

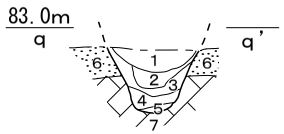
２区西端部に広がっている自然の池、あるいは沼地と考えられる遺構である。検出長 54.6 m、検出幅 3.6 mで、南側は直線状を呈するが流路４付近を境に北側は西側へと弧を描いて延びていく。第１遺構面の項でも触れたとおり、溝１と平行していることから、南側の調査範囲外の地点でも弧



1．o－o’断面（５層上面）

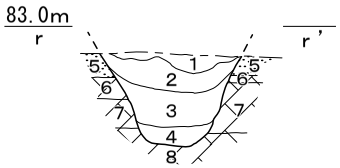


2．p－p’断面（５層上面）



3．q－q’断面（５層上面）

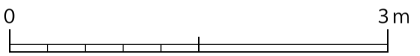
1．灰色極細砂と暗灰色極細砂の互層
2．灰色細砂と暗灰色極細砂の互層
3．暗灰色粘礫土
4．暗灰色粘砂土
5．暗灰色礫砂土
6．青灰色粘礫土
7．灰色粘礫土

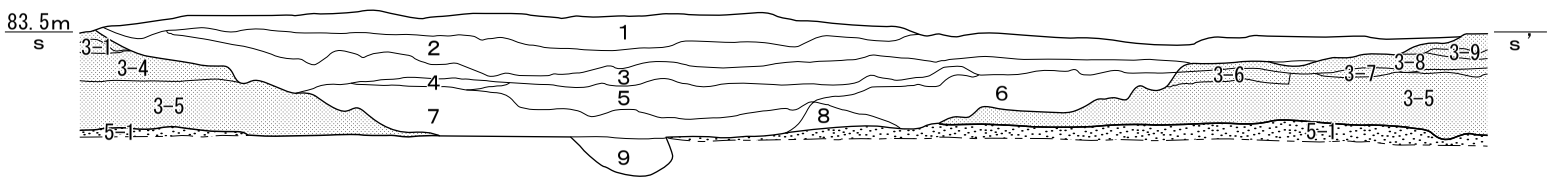


4．r－r’断面（５層上面）

1．灰色粘砂土（黄灰色粗砂混じる）
2．灰色粘砂土
3．暗灰色粘砂土
4．暗灰色粘質土
5．青灰色粘質土
6．明灰緑色粘質土
7．暗灰色粘質土
8．暗灰褐色粘質土

※アルファベット記号は図 32 に対応する。

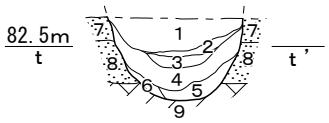




1．淡褐色粘土
2．淡褐色粘土
3．灰色粘土
4．褐色粗砂
5．灰色粘土
6．褐色粗砂
7．褐色粗砂
8．暗灰褐色粘土
9．灰色粘土
３－１．灰白色粘土
３－４．灰褐色粘土
３－５．暗灰褐色粘土
３－６．灰色粘砂土
３－７．黄灰色極細砂
３－８．灰色粘土
３－９．黄白色細砂
５－１．青灰色粘土

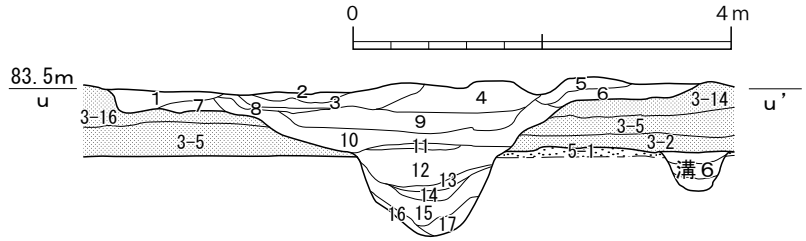
5．s－s’断面（３層上面）

図 49　第２遺構面　溝２　断面図　（S.＝1/60）



1．黄白色礫砂　6．暗灰色粘土（礫含む）
2．黄白色細砂　7．暗灰色粘礫土
3．灰色粘砂土　8．暗灰色細砂
4．暗灰色粘土　9．灰色礫土
5．暗灰色粘砂土

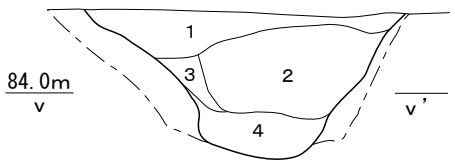
1．t－t’断面（5層上面）　※アルファベット記号は図 32 に対応する。



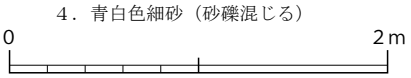
1．褐色粘砂土　7．褐色礫砂土　13. 黄白色細砂　3－2．灰色粘土
2．灰褐色粘砂土　8．暗灰褐色細砂　14. 灰色粘砂土　3－5．暗灰褐色粘土
3．暗灰褐色シルト　9．灰色粘砂土　15. 暗灰色粘質土　3-14. 褐色粘砂土
4．褐色粘土（礫含む）　10. 暗灰色粘礫砂土　16. 暗灰色粘砂土（礫含む）　3-16. 暗灰色粘礫土
5．褐色粘砂土　11. 暗灰色粘土（砂混じる）　17. 暗灰色粘砂土　5－1．青灰色粘土
6．褐色粘砂土　12. 青黄灰色細砂

2．u－u’断面（3層上面）

図 50　第２遺構面　溝３　断面図　（S．＝1/80）



1．灰褐色粘砂土
2．灰褐色砂礫
3．青白色細砂
4．青白色細砂（砂礫混じる）



※アルファベット記号は図 33 に対応する。

図 51　第２遺構面　溝４　断面図　（S．＝1/40）

を描いて西側に延びていくものと考えられる。また、遺構の外形線は現在の都市計画図に描かれている土地境界線とおおむね合致しており、これが土地境界の基準とされたものと調査時に推定されている。第３章の基本層序でも述べたとおり、池状遺構が埋没後その直上には造成土が盛土されており、それもおおむね池状遺構の外形に一致している。

埋土は、褐色系統の粗砂・砂礫、あるいは灰色系統の粘砂土が中心である。遺物の多くは後者の層に含まれていた。

遺物は、上述したように埋土中からコンテナ約１箱分出土した。瓦器片や羽釜片、須恵器片などの中世を中心とする時期の遺物が出土したが、須恵器の中には古墳時代のものと考えられるものも極少数認められる。いずれも小片であり、詳細な時期は不明である。

遺構の形成時期についてみると、流路４との切り合い関係からそれより後の時期に形成されたのは明らかであるが、詳細な時期については明らかにしえない。埋土に含まれた遺物は、瓦器片や羽釜片など中世の遺物が主体で含まれていることから、時期は中世以降と考えられる。

２．遺物

①土器・土製品

図 52 に第２遺構面土坑１から出土した土器を掲載した。（52 － 1・2）は土師器皿である。（52 － 1）は口縁部にナデを施し、端部を摘み上げる。（52 － 2）は口縁端部がやや尖り気味である。これらはそれぞれ形態からみて鎌倉時代（12 世紀）に属する。

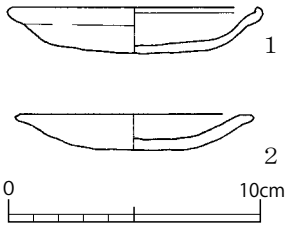


図 52　第２遺構面　土坑１　出土土器　（S．=1/3）

図 53 に第２遺構面土坑２から出土した土器を掲載した。（53 － 1）は山陰系の鼓形器台である。口縁部は斜め上方に開く。内外面にヘラミガキを密に施す。裾部内外面に炭化物が付着する。形態からみて庄内３式に属する。

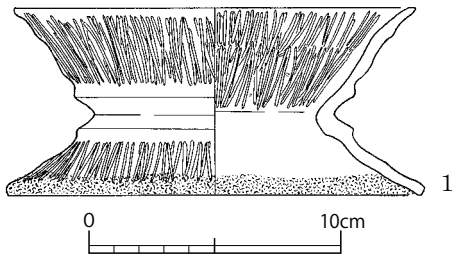


図 53　第２遺構面　土坑２　出土土器　（S．=1/3）

図 54 に第２遺構面流路２から出土した土器を掲載した。（54 － 1）は土師器甕である。口縁端部は内側に肥厚する。体部外面には横方向のハケを、内面にはケズリを施す。形態からみて布留２式に属する。

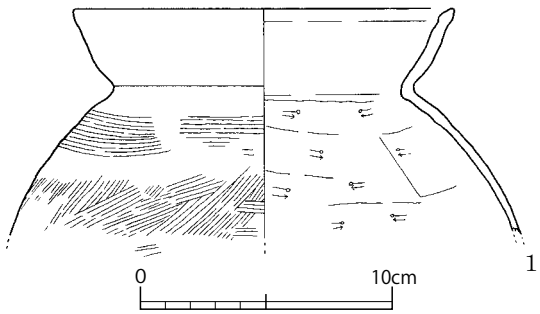


図 54　第２遺構面　流路２　出土土器　（S．=1/3）

図 55・56 に第２遺構面流路３出土土器を掲載した。（55 － 1）は庄内式土器壺の口縁部である。受口状を呈する。口縁部内面に煤が付着する。（55 － 2）は庄内式二重口縁壺の口縁部である。外面に円形浮文、波状文を施す。また、２箇所に穿孔がみられる。（55 － 3）は土師器甕である。口縁部内面に横方向のハケ、体部外面にハケ、内面にケズリを施す。（55 － 4）は庄内式土器鉢である。口縁部内面に横方向のハケ、体部外面にケズリとハケを施す。（55 － 5・6）は庄内式土器高杯である。杯部は中程で屈曲し、端部は上方に摘みあげる。（55 － 5）は外面全体と杯部内面、（55 － 6）は杯部内面に密なヘラミガキを施す。（55 － 7）は手焙形土器である。これらの土器の形態的特徴から、いまだ（55 － 3）は定形化した布留式甕ではないことから布留０式に、その他は庄内３式に属する。

（56 － 8）は大形壺の頸部から体部である。外面ヘラミガキ、内面にハケを施す。（56 － 9）は受口状を呈する壺口縁部である。(56 － 10)は東海系Ｓ字甕である。体部外面に粗いハケを施す。(56 － 11）は東海系Ｓ字甕の脚台部である。外面にハケが僅かに残る。（56 － 12）は庄内式土器高杯

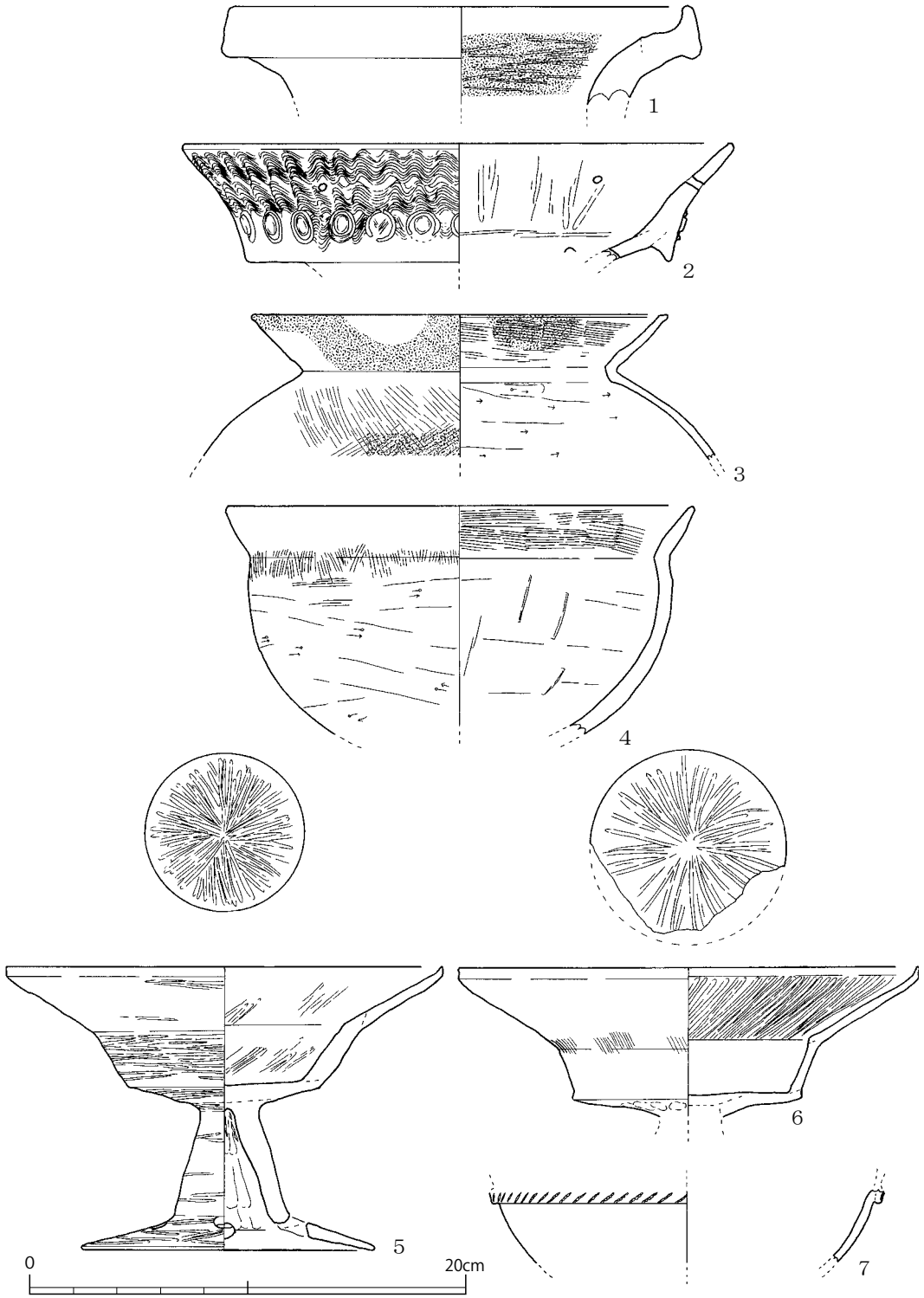


図 55　第２遺構面　流路３　出土土器（１）（S.＝1/3）

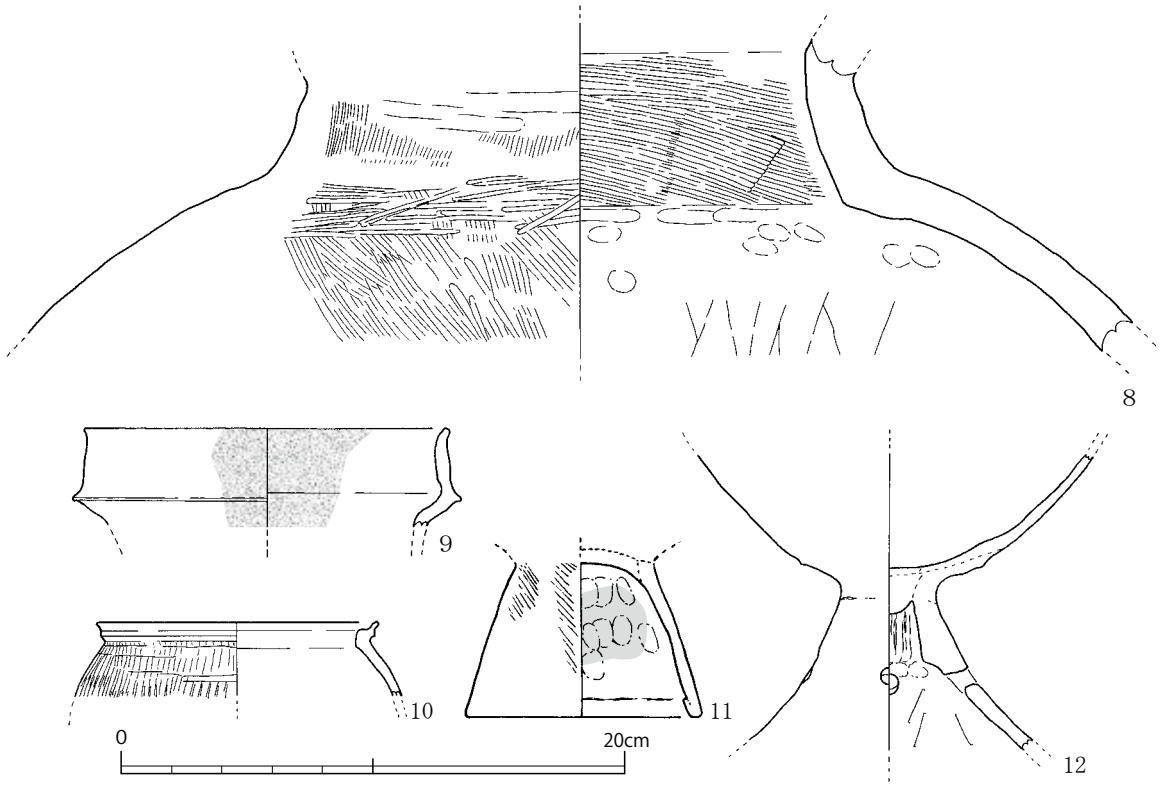


図 56　第２遺構面　流路３　出土土器（２）（S.＝1/3）

である。脚部に４箇所透孔が認められる。これらの土器は形態的特徴から、(56 － 12)が庄内２式、(56 － 10）が布留１式に属することから庄内２式～布留１式まで時期幅がある。

図 57 に第２遺構面流路４出土土器を掲載した。(57 － 1）は庄内式土器二重口縁壺である。口縁部外面に刺突文、内面にヘラミガキを施す。(57 － 2）は庄内期の弥生系広口壺の体部から底部である。外面にヘラミガキを、内面にケズリを施す。(57 － 3・4）は庄内式土器甕である。両者とも外面にタタキメが残る。これらの土器は形態的特徴からみて庄内１式に属する。

図 58 ～ 74 に第２遺構面流路５出土土器を掲載した。

(58 － 1 ～ 64 － 44）は壺である。

(58 － 1）は口縁部を肥厚させる庄内式土器壺である。口縁端部外面に直線文、体部外面に直線文および波状文を施す。口縁部内外面にヘラミガキを施す。形態からみて東海から関東系の可能性がある。(58 － 2）は讃岐、阿波系の庄内式土器壺である。口縁部はやや水平に屈曲する。端部に擬凹線を施す。頸部外面にはハケを施す。(58 － 3）は庄内式土器二重口縁壺である。外面に棒状浮文を施す。(58 － 4 ～ 8）は庄内式土器広口壺である。(58 － 4・5）は外面にヘラミガキを、(58 － 6 ～ 8）は内外面にハケを施す。(58 － 6）は外面にタタキメが残る。これらの土器は、形態から見て（58 － 4 ～ 6）は庄内期の弥生系土器であるが、このほかの遺物の状況から庄内３式に属

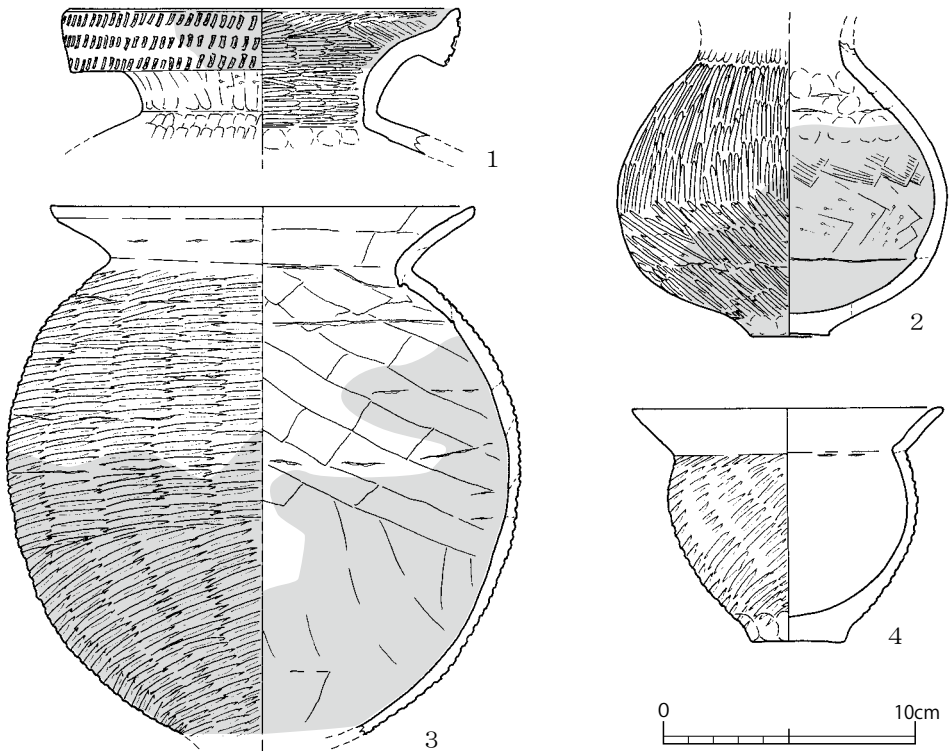


図 57　第２遺構面　流路４　出土土器　（S．=1/3）

する。

（59 － 9 ～ 14）は庄内式土器広口壺である。（59 － 9 ・ 11）は外面にヘラミガキを施す。（59 － 10・12 ～ 14）は内外面にハケを施す。（59 － 13）は体部下部にケズリを施す。（59 － 14）は肩部に波状文を施した後、縦方向のハケを施す。形態からみて東海系の可能性がある。これらの土器は形態からみて庄内２式に属する。

（60 － 15 ～ 19）は広口壺、（60 － 20）は直口壺または細頸壺である。（60 － 15）は内外面を板ナデで仕上げる。（60 － 16 ～ 18）は体部内面にハケ、外面にヘラミガキを施す。（60 － 19）は体部内面に板ナデを施し、外面上方にヘラミガキ、下方にハケを施す。（60 － 20）は外面にヘラミガキを施し、体部に穿孔する。これらの土器は形態からみて庄内２～３式に属する。

（61 － 21･22)は土師器広口壺である。(61 － 21)は外面に粗いヘラミガキ及びハケを施す。(61 － 22）は体部の内外面にハケを施す。両者は形態からみて庄内２～３式に属する。

（62 － 23･24）は受口状口縁部をもつ壺である。（62 － 23）は口縁部外面に粗い波状文を施す。体部は外面にハケののち粗いヘラミガキを、内面にはケズリを施す。（62 － 24）は頸部外面に僅かにハケメが残る。両者は形態からみて山陰系、北陸系壺の影響が考えられる。

（62 － 26・27）は瓢形壺である。両者とも精製土器で内外面に丁寧なヘラミガキやハケを施す。

（62 － 25・28 ～ 34）は二重口縁壺である。（62 － 25）は体部外面に波状文と直線文を施し、ヘラミガキをおこなう。（62 － 28・29）は両者ともナデで仕上げる。

（62 － 30 ～ 34）は壺の頸部から体部である。いずれも外面はヘラミガキにより仕上げられる。また、いずれも頸部下端に突帯を巡らせる。（62 － 30・33）は突帯の先端に刻目を施し、下端には刺突文が見らる。（62 － 34) は突帯に刺突文を施し、体部に直線文と波状文を施す。

これらの土器は形態的特徴からみて（62 － 30 ～ 33）は庄内１式､それ以外は庄内２式に属する。

（63 － 35 ～ 41）は庄内式土器二重口縁壺である。（63 － 38・39）は口縁部である。（63 － 38)は内外面にハケを施した後､内面にヘラミガキを施す。(63 － 39)は内外面にヘラミガキを施す。（63 － 35 ～ 37）は頸部、（63 － 40･41）は頸部から体部である。（63 － 35･36）は突帯に刻目、（63 － 37）は刺突文を施す。（63 － 35・37）は内外面にヘラミガキを施し、（63 － 36）は内面にヘラミガキを施す。(63 － 40)は肩部に５条の沈線を施す。(63 － 41)は頸部に突帯を貼り付け、刻目を施す。また、その直下に綾杉状の櫛描列点文を施す。体部外面にはヘラミガキを施す。これらの土器はその形態的特徴から（63 － 35 ～ 37･41）は庄内１式、それ以外は庄内２式に属する。

（64 － 42 ～ 44）は庄内式土器二重口縁壺である。（64 － 42）は口縁部外面に２個１対の円形浮文を貼り付ける。外面はハケ､内面はヘラミガキを施す。頸部には粘土帯を貼り付け刻目を施す。内外面にはヘラミガキを施す。肩部には直線文を施す。（64 － 43）は口縁部端部外面に円形浮文、上方に簾状文、下方に直線文を施し、内面に波状文を施す。内外面ともヘラミガキで仕上げる。体部外面には波状文、直線文を施し、ヘラミガキで仕上げる。内面にはハケがみられる。（64 － 44）は体部の一部である。横方向の粘土帯に直交して２条の粘土帯が付き、それぞれ刻目を施す。これらの土器は形態的特徴から（64 － 42）は庄内１式、（64 － 43）は庄内２式に属する。（64 － 44）は他出土遺物の状況から庄内１～２式に属する。

（65 － 45 ～ 69 － 91）は甕である。

（65 － 45 ～ 47･50･51)は口縁端部を上方に摘み上げる。そのうち(65 － 46･51)は面を持つ。(65 － 45 ～ 47・49・51）は体部外面にタタキを施す。（65 － 48）はナデで仕上げる。（65 － 50）はハケのみで仕上げる。（65 － 51）はタタキの後、ハケを施す。（65 － 49）は体部下半のみにタタキを施している。（65 － 46・50・51）の内面はケズリを施す。（65 － 45・47・48）は板ナデを施す。(65 － 49)はナデで仕上げる。これらの土器は口縁部の形態及び体部の調整からみて､(65 － 45・47 ～ 49）は庄内式期に属する弥生系甕、その他は庄内１式に属する。

（66 － 52）は口縁部がくの字に屈曲し、体部外面の上半に細かいタタキを施した後、全体をハケで仕上げる。（66 － 53 ～ 57）は体部外面にハケを施す。このうち（66 － 53）は縦方向のハケのみで仕上げる。それ以外は縦方向のハケの後、横方向のハケを施す。内面は全てケズリをおこなうが、（66 － 52・53・56）が頸部までであるのに対し、（66 － 54・55・57）は頸部の直下までで留めているのが特徴的である。また、口縁端部は（66 － 52）は上方に摘み上げる。(66

－ 53・55）は外方にやや尖り気味であるのに対し、（66 － 54）は内側に肥厚する。（66 － 56、57）はやや面を持つ。これらの土器は（66 － 52）が庄内２～３式の特徴を持つが、それ以外の甕の口縁部の形態や内外面の調整からみて、布留０式に属する可能性がある。

（67 － 58・59・61）はいわゆる布留式甕、（67 － 60・62 ～ 65）は小形甕である。

（67 － 58･59･61）は体部外面をハケで仕上げる。また、内面はケズリを施す。口縁端部は（67 － 58）は丸く納め、（67 － 59）は面を持ち、（67 － 61）はやや内側に肥厚する。これら三点は内面のケズリが体部上端まで及ぶことから、布留０式に属する可能性がある。

小形甕は体部外面に（67 － 60）はヘラミガキ、（67 － 62 ～ 64）はハケ、（67 － 65）はタタキを施す。（67 － 63）は下半にケズリを施す。内面は（67 － 60・62・65）は板ナデ、（67 － 64）はケズリ、（67 － 63）はナデで仕上げる。口縁部はそれぞれくの字に外反し、端部は丸く収める。（67 － 65）はやや尖る。これらの土器は（67 － 65）がやや古式の特徴を持つが、それ以外は新しい特徴を持つため、庄内２式～布留式に属する可能性がある。

（68 － 66）は体部外面にハケ、内面にはケズリを頸部までおこなう。口縁端部は丸く収める。それに対して（68 － 67）はケズリを口縁部までおこなっている。端部は上方に摘み上げる。（68 － 68）は大形甕である。外面にハケを施した後、肩部までナデをおこなう。内面はナデで仕上げる。（68 － 69 ～ 73）は小形甕である。体部外面を（68 － 69）はハケ、（68 － 70・72）はタタキ、（68 － 71）はナデ、（68 － 73）はヘラミガキで仕上げる。内面は（68 － 69･70）は板ナデ、（68 － 71 ～ 73）はナデで仕上げる。（68 － 74 ～ 76）は口縁部が直立する山陰系甕である。（68 － 76）は体部外面に直線文および波状文を施す。内面はそれぞれケズリをおこなう。これらの土器は（68 － 66）が布留式、（68 － 67）は庄内式の特徴を持ち、山陰系のものもやや古式の特徴を持つことから、庄内３式～布留０式に属する可能性がある。

（69 － 78・79・81 ～ 86）は山陰系甕である。口縁部は直立する。（69 － 77・80）は北陸系甕である。外面に擬凹線を施す。（69 － 77・78・80・83・85）は内面にケズリを施す。（69 － 79）は口縁部が内傾する。（69 － 87･90）は受口状の口縁部を持つ。両者とも内面はケズリを施す。

（69 － 88・89）は東海系Ｓ字甕である。両者とも体部外面に粗いハケを施す。（69 － 91）は直立する口縁部を持つ。体部外面に横方向のハケ、内面にケズリを施すことから、山陰系の影響を受けて成立した可能性が考えられる。また、（69 － 87･90）も東海系の影響による可能性もあろう。これらの土器は（69 － 80）が庄内１式並行期、（69 － 88）は布留１式並行期と考えられることから、時期幅があると思われる。

（70 － 92 ～ 99）は鉢である。（70 － 92・93）は底部に穿孔をしていることから甑としての用途が考えられる。（70 － 92）は外面にタタキを、内面に板ナデを施す。（70 － 93）は全体的にナデで仕上げる。（70 － 94 ～ 98）は小形鉢である。（70 － 96 ～ 98）は、くの字口縁部を持つ。（70 － 95･97）は底部を持ち、それ以外は丸底である。（70 － 94）は内外面に板ナデを施す。（70

－ 95）は内外面にヘラミガキを施す。（70 － 97）は内面に板ナデ、（70 － 98）は外面にハケ、内面に板ナデを施す。（70 － 99）は山陰系の精製鉢である。口縁部に強いナデを施す。体部内面にはハケを施す。これらの土器は形態、調整からみて、（70 － 92 ～ 95・97）は弥生系の鉢の系譜を引くものである。これに対し、（70 － 96・98）は庄内１～２式に出現するものである。また、（70 － 99）は布留式期に成立する。これらの特徴から庄内１式～布留１式までの時期幅があると考えられる。

（70 － 100）は受口状の口縁部を持つ小形壺である。外面にヘラミガキ、内面にヘラミガキ及び板ナデを施す。形態から見て近江から東海系の可能性がある。（70 － 101 ～ 103）は高杯である。（70 － 101）は杯部内外面にヘラミガキを施す。（70 － 102）は外面にヘラミガキ、内面にハケを施す。（70 － 103）は脚台部に３箇所透孔が認められる。内外面ともヘラミガキで仕上げる。これらの土器は（70 － 101）は有段高杯の系譜であり、庄内１式に属する。（70 － 102）は口縁端部が内側に肥厚することから布留式期に成立するものであろう。（70 － 103）は庄内２式に属する。これらの特徴から庄内１式～布留１式までの時期幅があると考えられる。

（71 － 104 ～ 106）は小形精製高杯である。（71 － 104・105）は内外面にヘラミガキを施す。（71 － 106）は外面にヘラミガキ、内面にハケを施す。（71 － 105・106）は脚台部に４箇所透孔が認められる。（71 － 107）は高杯の脚台部である。外面にヘラミガキ、内面にハケを施す。裾部に４箇所透孔が認められる。これらの土器は、庄内２式に属するとみられる。

（71 － 108）は直立する口縁部を持つ北陸系の壺の可能性がある。内外面をナデで仕上げる。（71 － 109 ～ 114）は小形精製器台である。（71 － 109・111）は口縁端部を上方に摘み上げる。全て外面にヘラミガキを施す。（71 － 110）は杯部に一部ケズリを施す。（71 － 109・110）の杯部内面にはヘラミガキを施す。（71 － 109・111）の脚部内面には板ナデを、（71 － 110・112・114）はハケ、（71 － 112）はケズリを施す。（71 － 111・112）は３箇所、（71 － 109・110・114）は４箇所の透孔が認められる。（71 － 115）は粗製の鳥形土製品である。短く直立する口縁部を持つ。体部には１箇所穿孔がみられる。全体をナデで仕上げる。用途は不明である。鳥形を模していると考えられる。これらの土器は形態的特徴からみて庄内３式に属すると考えられる。

（72 － 116 ～ 120）は壺である。このうち（72 － 116 ～ 118）は精製土器である。（72 － 119）は小形丸底壺である。（72 － 116 ～ 119）は外面にヘラミガキを施す。（72 － 116 ～ 118）は内面にハケを、（72 － 119）はヘラミガキを施す。（72 － 120）は粗製の壺である。全体をナデで仕上げる。これらの土器は形態的特徴からみて庄内２式～布留０式に属すると考えられる。

（72 － 121 ～ 73 － 126）は甕である。（72 － 121・123）は体部外面にハケを、内面にはケズリを施す。（72 － 122）は体部外面に矢羽根状タタキを施し、内面にハケを施す。口縁端部にはそれぞれ面を持つが、（72 － 122）は僅かに摘み上げる。これらの土器は（72 － 122）の存在や、形態的特徴からみて、いまだ定形化した布留甕ではないことから庄内３式～布留０式に属すると考

えられる。

（73 － 124 ～ 126）は全て体部外面にハケを、内面にケズリを施す、口縁端部は（73 － 124・125）はやや尖り気味であるが、（73 － 126）は僅かに面を持つ。（73 － 126）の肩部にはごく一部に赤色の塗布物が残っている。顔料である可能性があるが定かではない。これらの土器は形態的特徴から、いまだ定形化した布留甕ではないことから布留０式に属する。

（73 － 127 ～ 132）は鉢である。このうち（73 － 127・130・131）は小形精製鉢である。これらは外面にヘラミガキを施すが、（73 － 131）は口縁部にはハケを施す。（73 － 127）は内面全体に赤彩を施している。外面全体には漆と思しきやや光沢の黒色の塗布物が見られる。（73 － 128）は小形鉢である。外面にケズリ、内面に板ナデを施す。（73 － 129）は大形鉢である。内外面にケズリを施す。(73 － 132)は粗製鉢である。直立する口縁部を持つ。底部外面にケズリを施し、全体をナデで仕上げる。これらの土器は庄内３式～布留０式に属するとみられる。

（73 － 133 ～ 74 － 138）は高杯である。（73 － 133）は小形である。脚台部外面に僅かにヘラミガキが残る。（73 － 134）は有段高杯である。内外面をヘラミガキで仕上げる。（73 － 135）は脚台部である。外面にヘラミガキを施す。裾部には３箇所透孔が認められる。これらの土器は形態的特徴からみて庄内３式～布留０式に属すると考えられる。

（74 － 136）は外面全体と杯部内面にヘラミガキをおこなう。（74 － 137）は有段高杯であろう。外面全体にヘラミガキを施す。（74 － 137・138）は脚台部内面にハケの後ケズリを施す。また、両者とも裾部に４箇所透孔が認められる。

（74 － 139 ～ 143）は小形器台もしくは小形精製高杯である。（74 － 139・140）は器台である。両者とも外面にヘラミガキを施し、（74 － 139）は受部内面にもヘラミガキをおこなう。脚台部内面にはハケを施し、（74 － 139）には４箇所の透孔が認められる。（74 － 140）の透孔は、欠損のため不明確であるが、３方透しとみられる。

（74 － 141 ～ 143）は脚台部である。それぞれ外面にヘラミガキを施す。（74 － 141）は内面に僅かにケズリが残る。また、（74 － 141）には４箇所、（74 － 142・143）には３箇所透孔が認められる。（74 － 144）は甕形の製塩土器である。外面には僅かにタタキメが残り、内面には板ナデを施す。これらの土器は庄内２式～布留０式に属すると考えられる。

図 75 に第２遺構面流路６から出土した土器を掲載した。

（75 － 1 ～ 3）は弥生土器である。（75 － 1）は台付鉢である。杯部は内外面ともヘラミガキで仕上げる。（75 － 2）は高杯の杯部である。（75 － 3）は高杯の脚台部である。外面にヘラミガキを施す。裾部には３箇所透孔が認められる。これらの土器は形態的特徴から畿内第Ⅴ様式に属する。

②石器・石製品

図 76 に第２遺構面流路２・５・６、第２遺構面下層から出土した石器を掲載した。

（76 － 1）は流路２から出土した流文岩製の石包丁である。背部が直線形、刃部が半円形を呈す

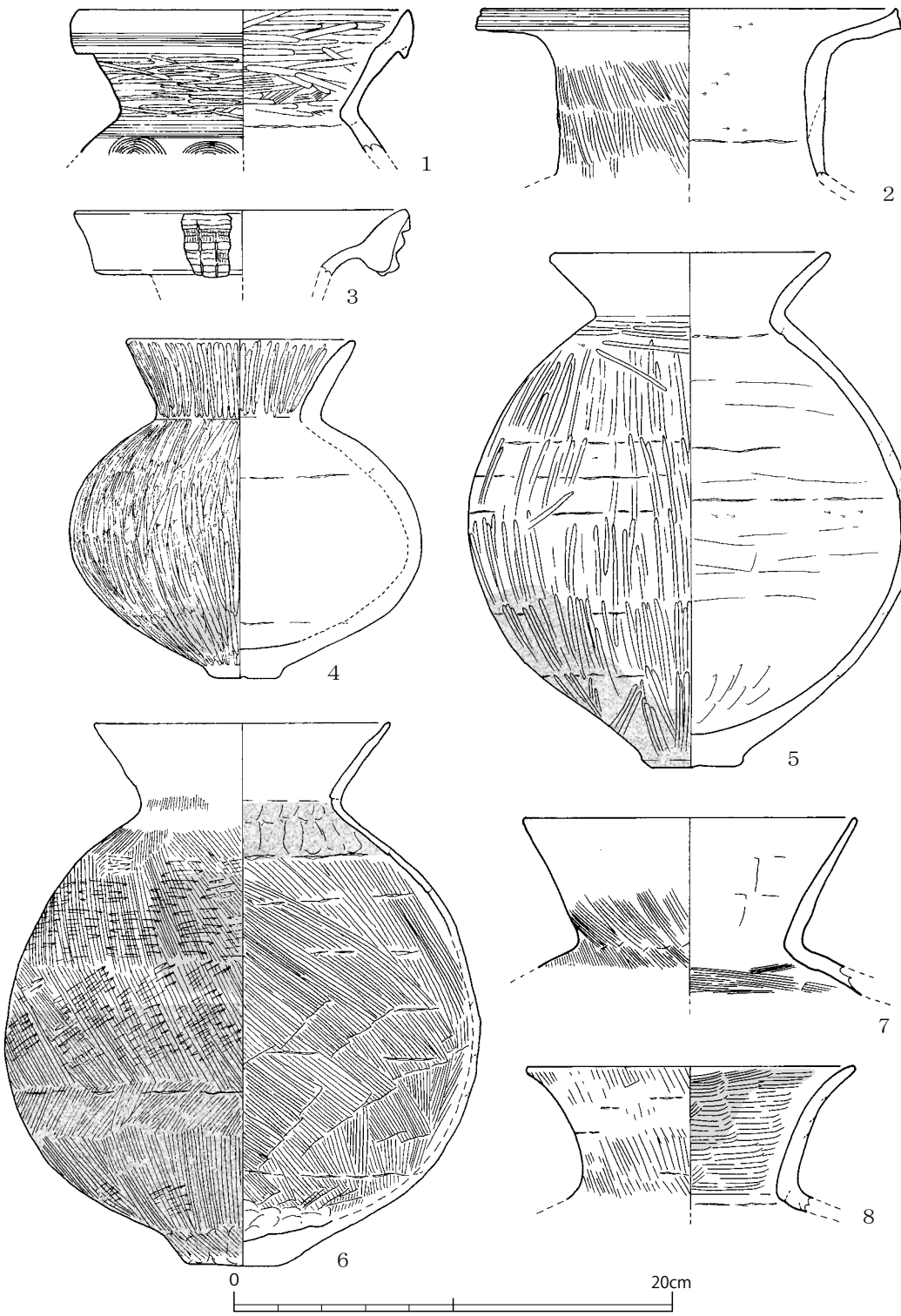


図 58　第２遺構面　流路５　出土土器（１）（S．=1/3）

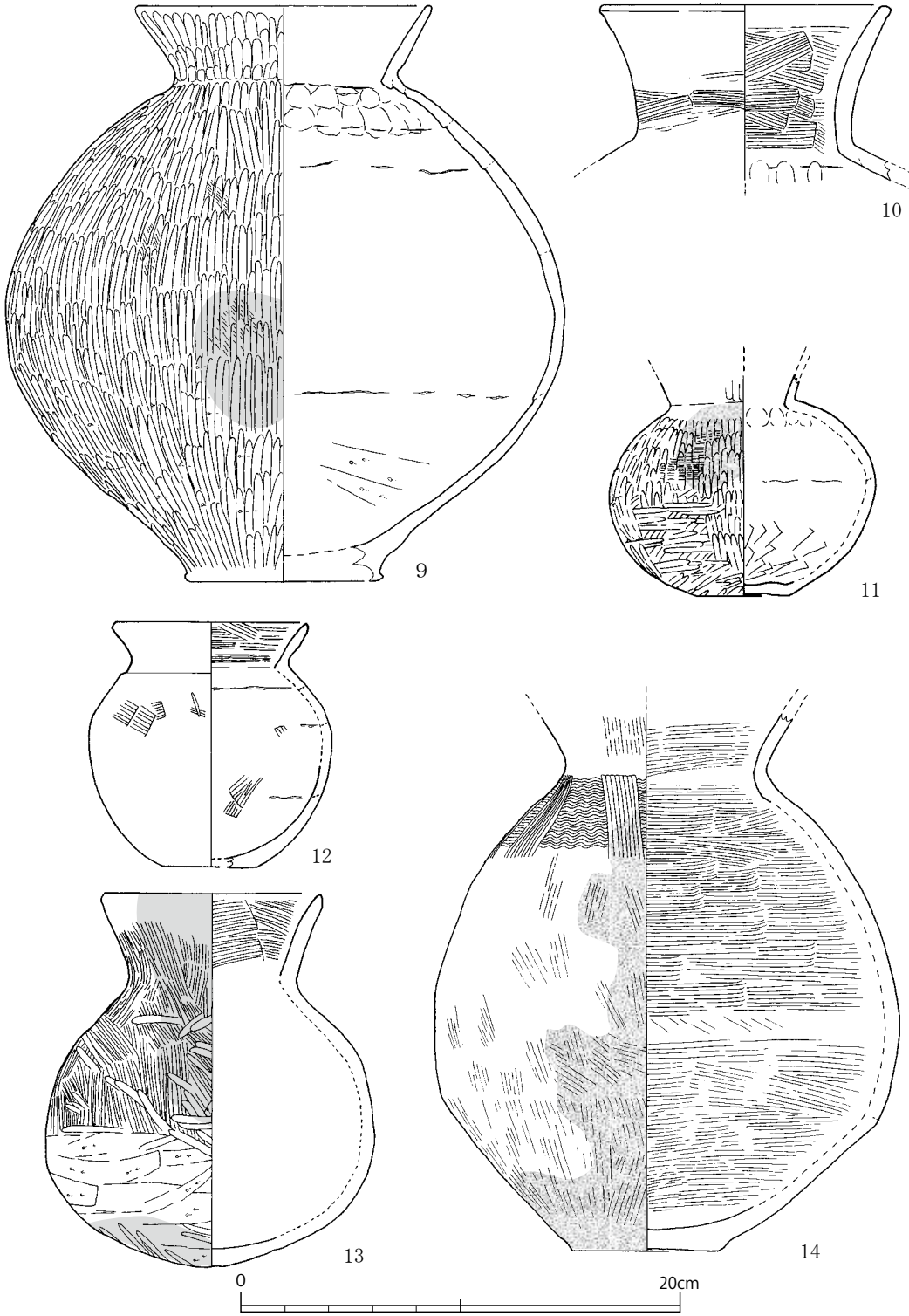
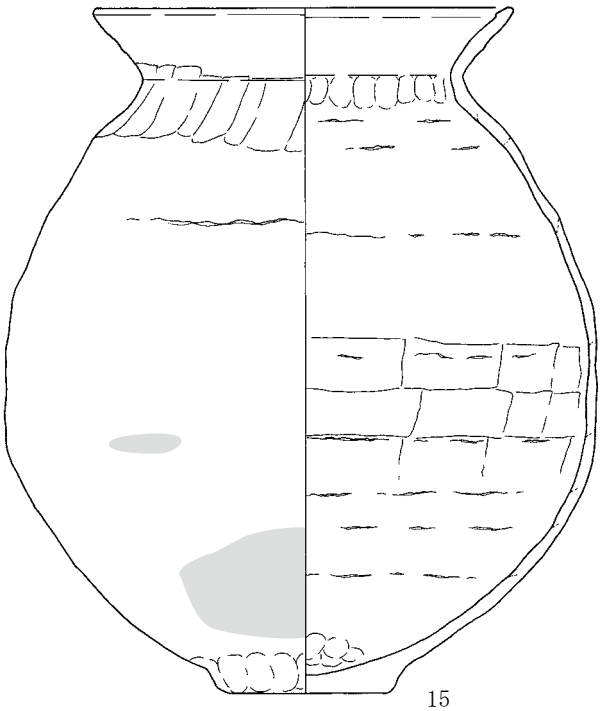
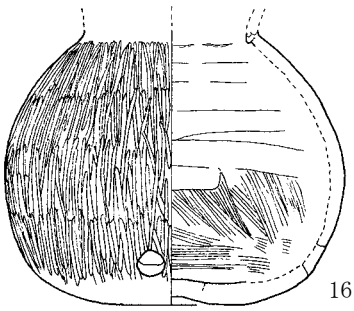
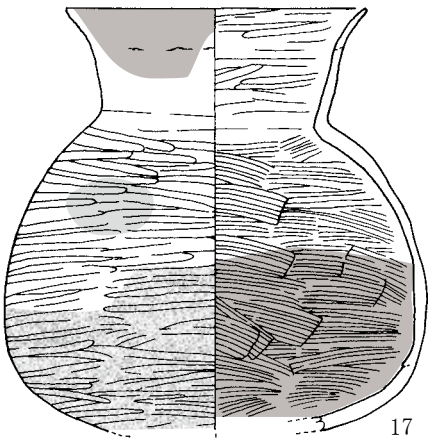
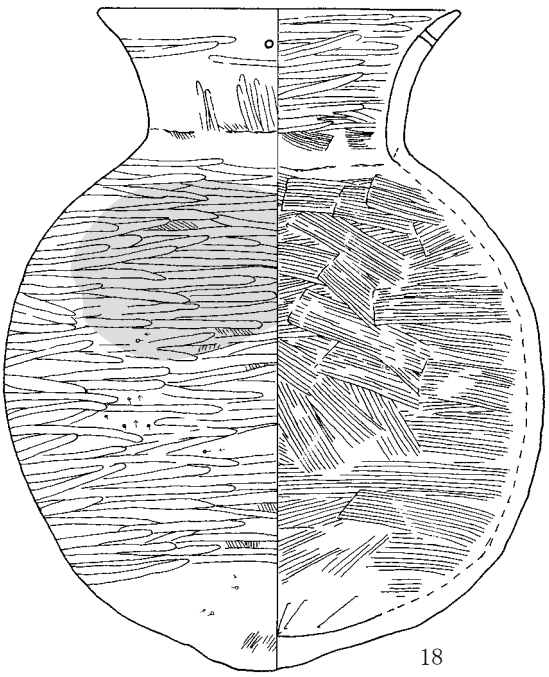


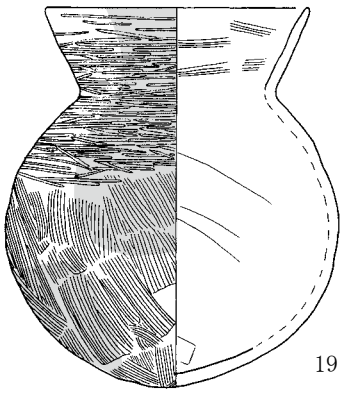
図 59　第２遺構面　流路５　出土土器（２）（S.＝1/3）











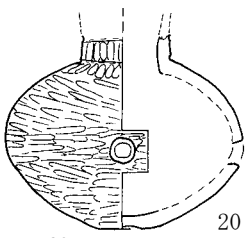
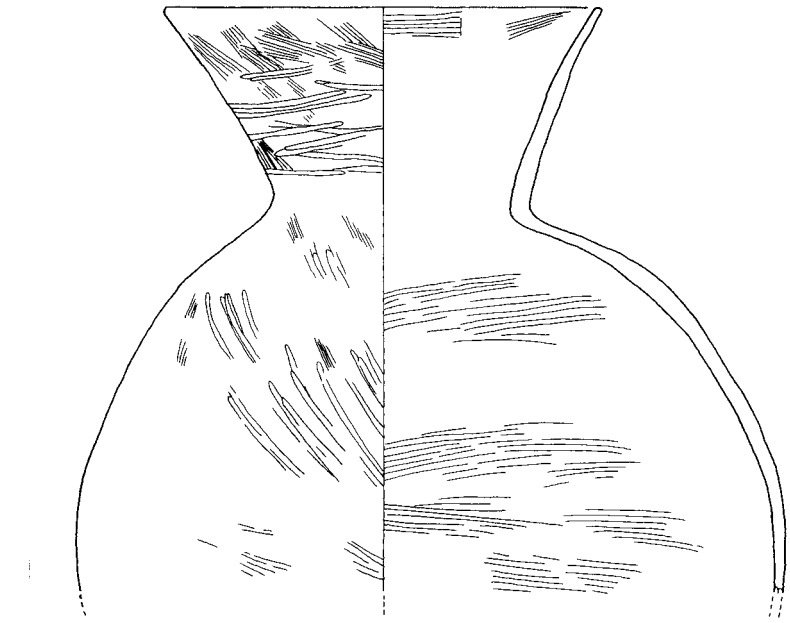


図 60　第２遺構面　流路５　出土土器（３）（S．=1/3）



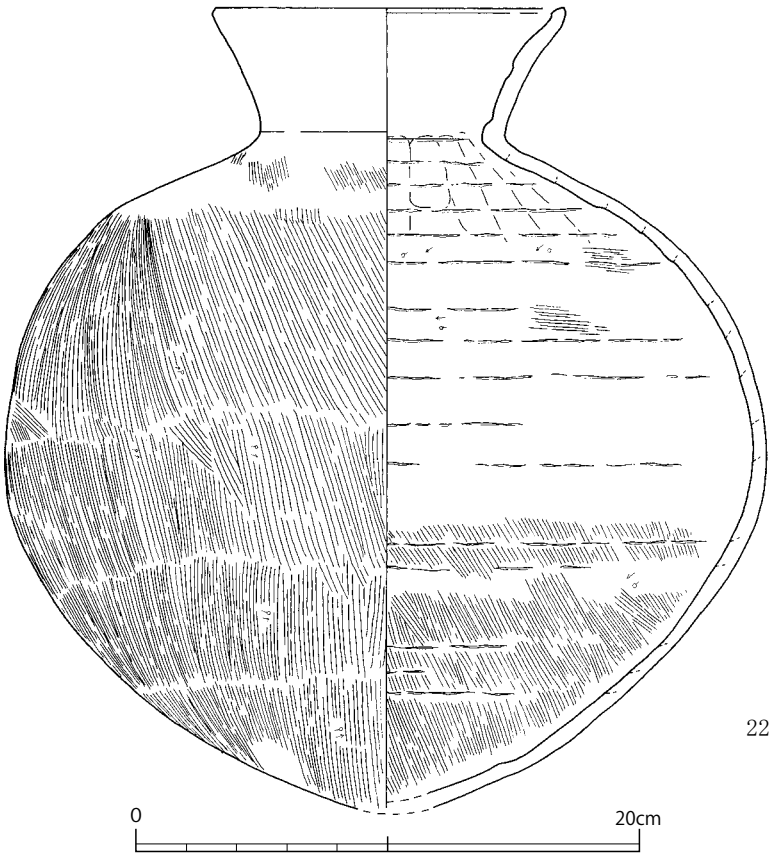


図 61　第２遺構面　流路５　出土土器（４）（S．=1/3）

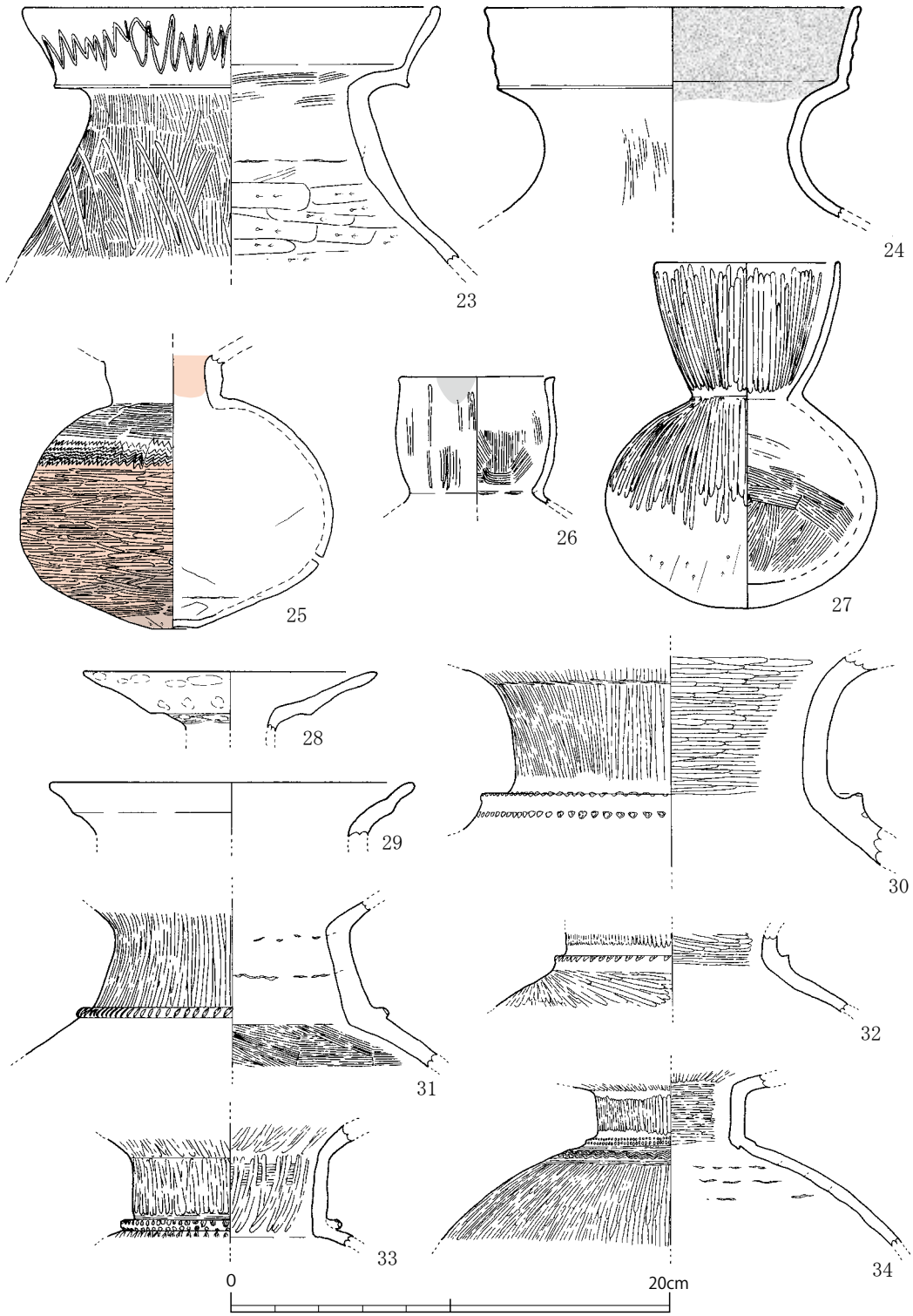


図 62　第２遺構面　流路５　出土土器（５）（S．=1/3）

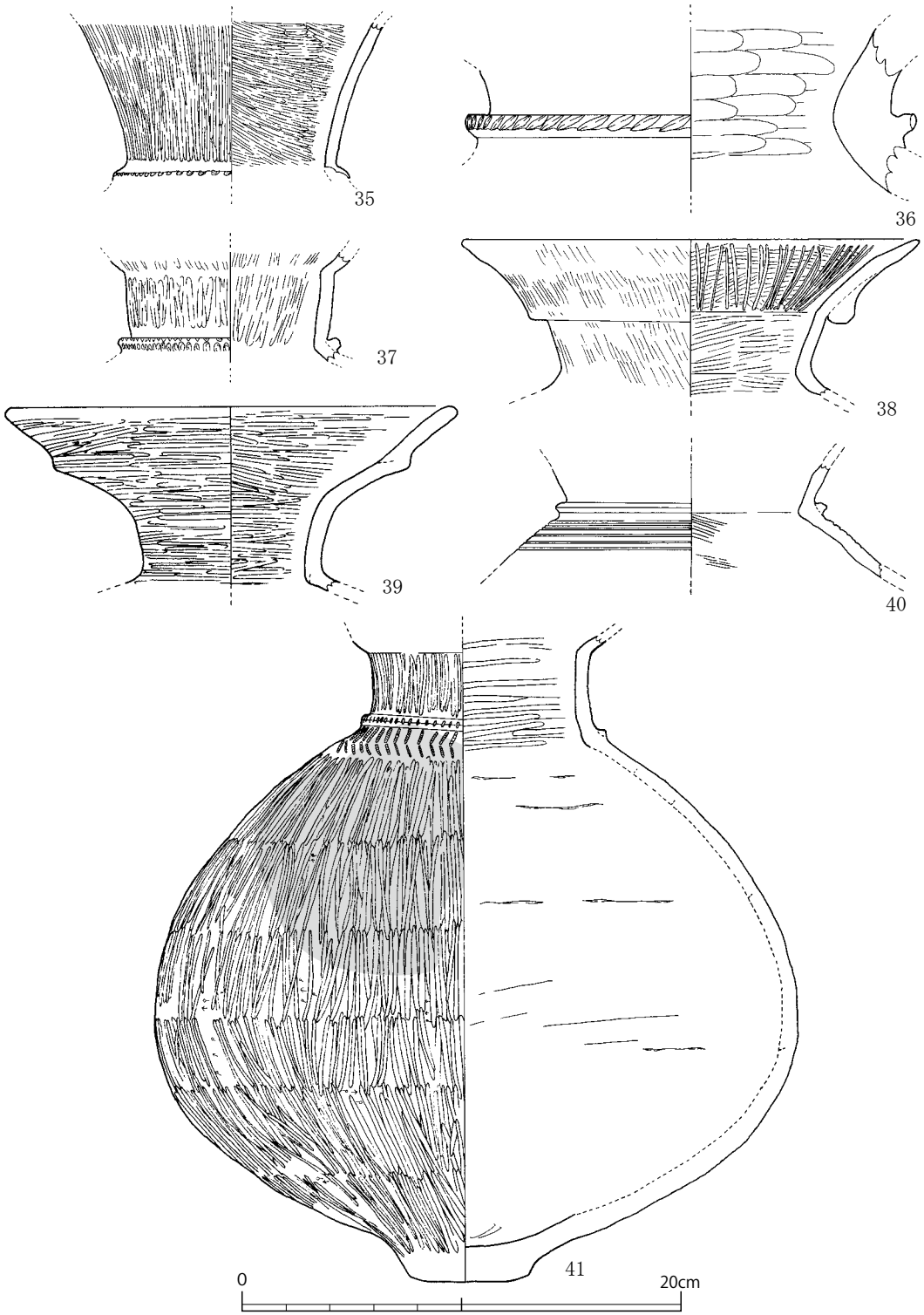


図 63　第２遺構面　流路５　出土土器（６）（S.＝1/3）

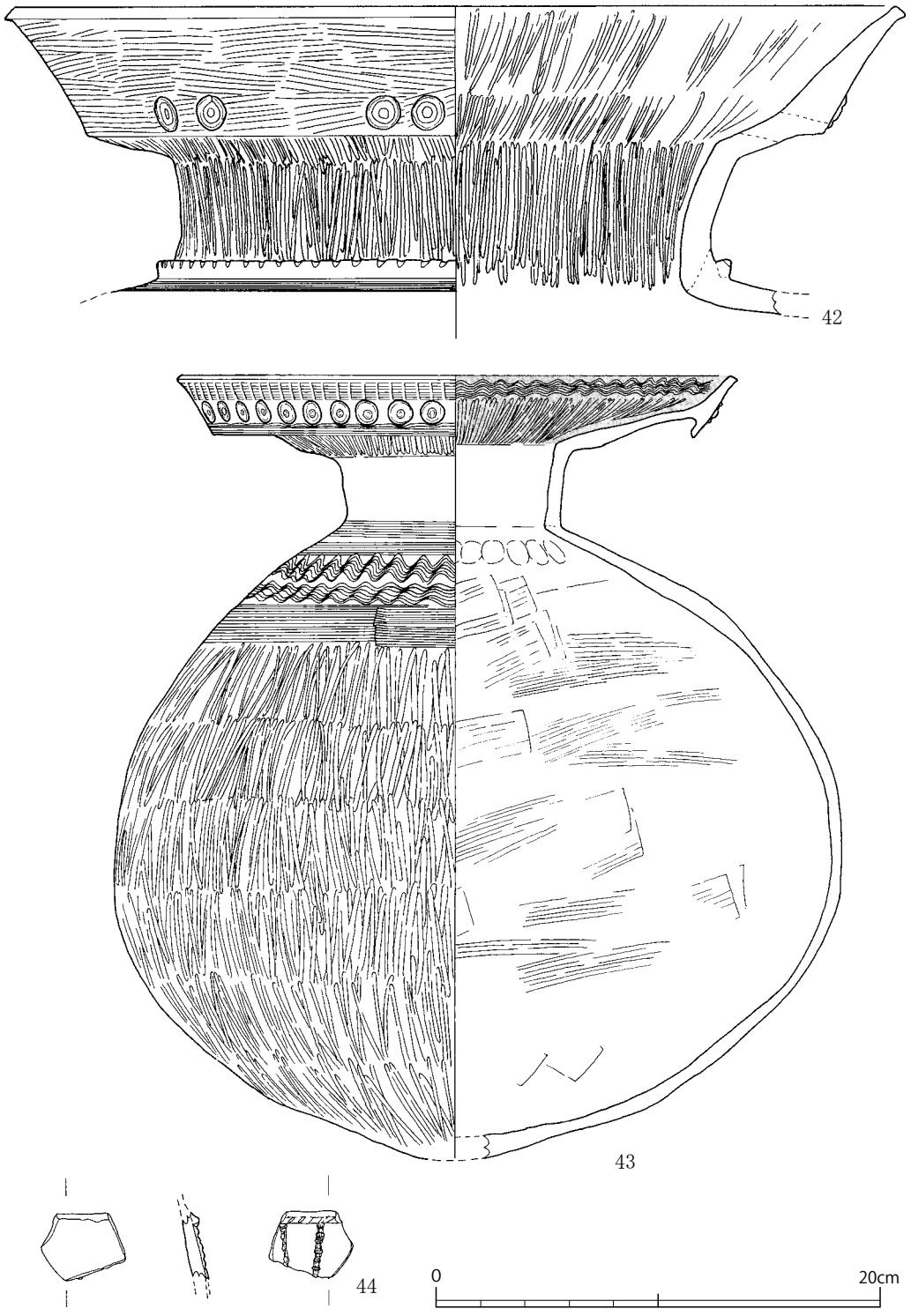


図 64　第２遺構面　流路５　出土土器（７）（S．=1/3）

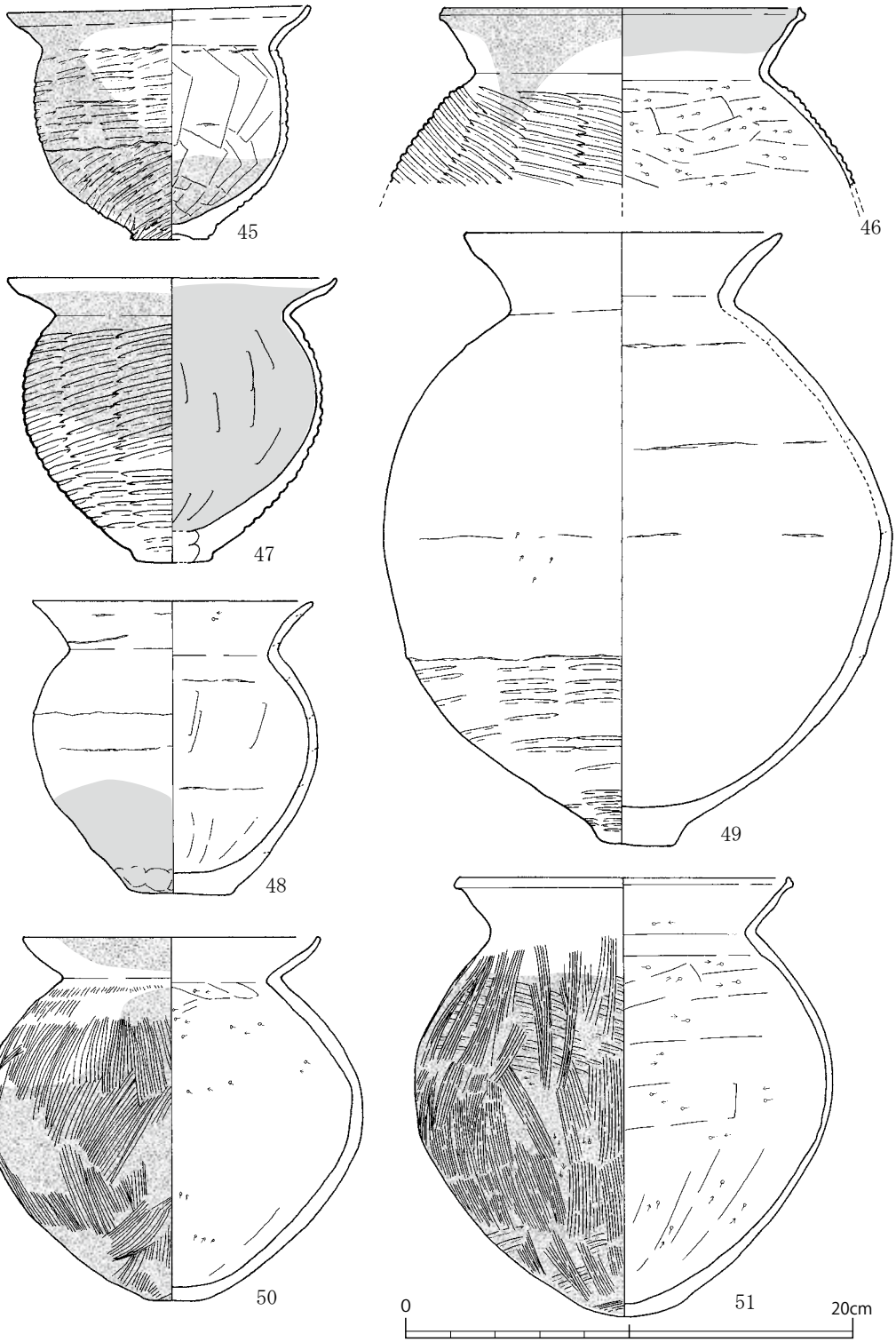


図 65　第２遺構面　流路５　出土土器（８）（S.＝1/3）

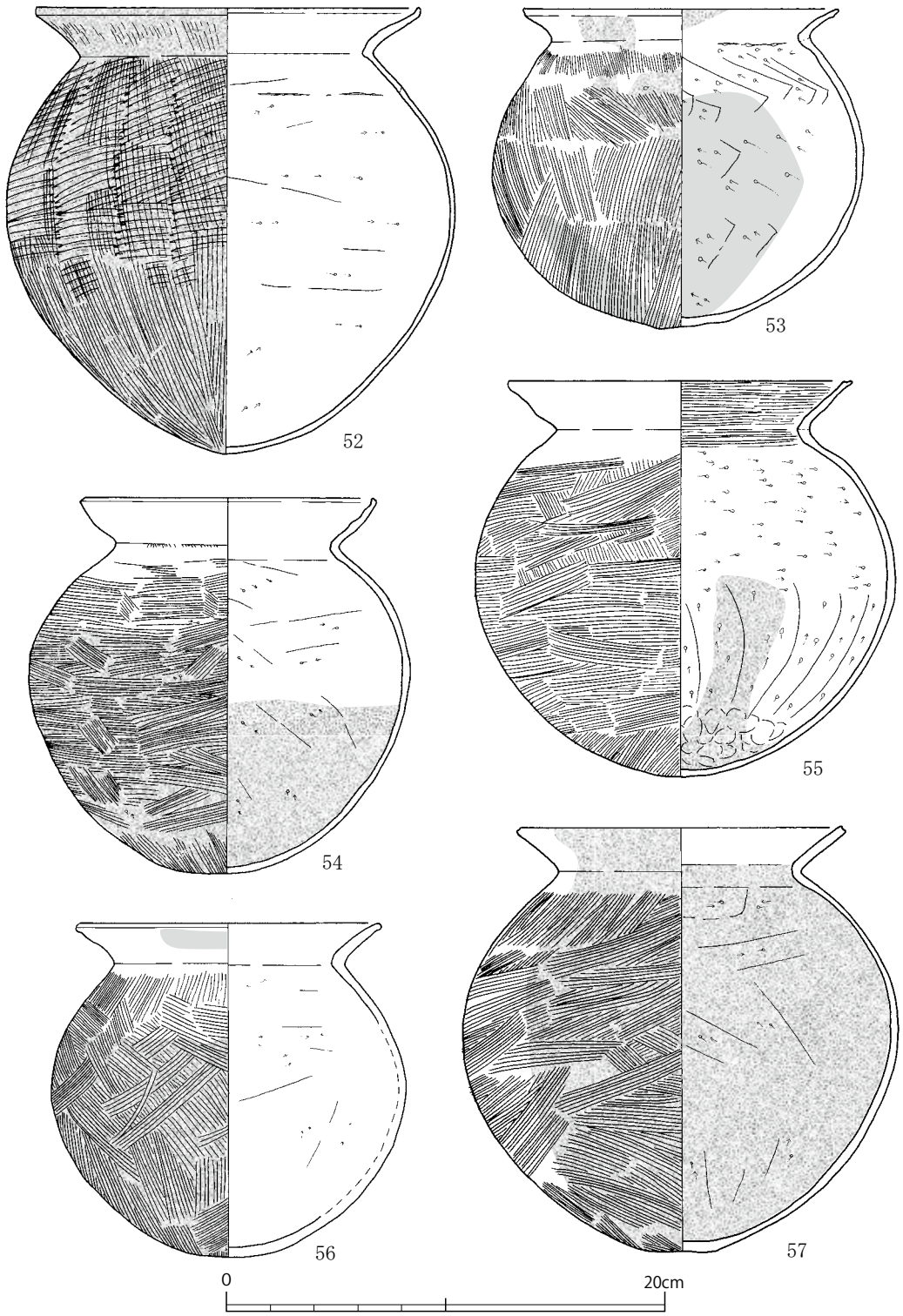


図 66　第２遺構面　流路５　出土土器（９）（S．=1/3）

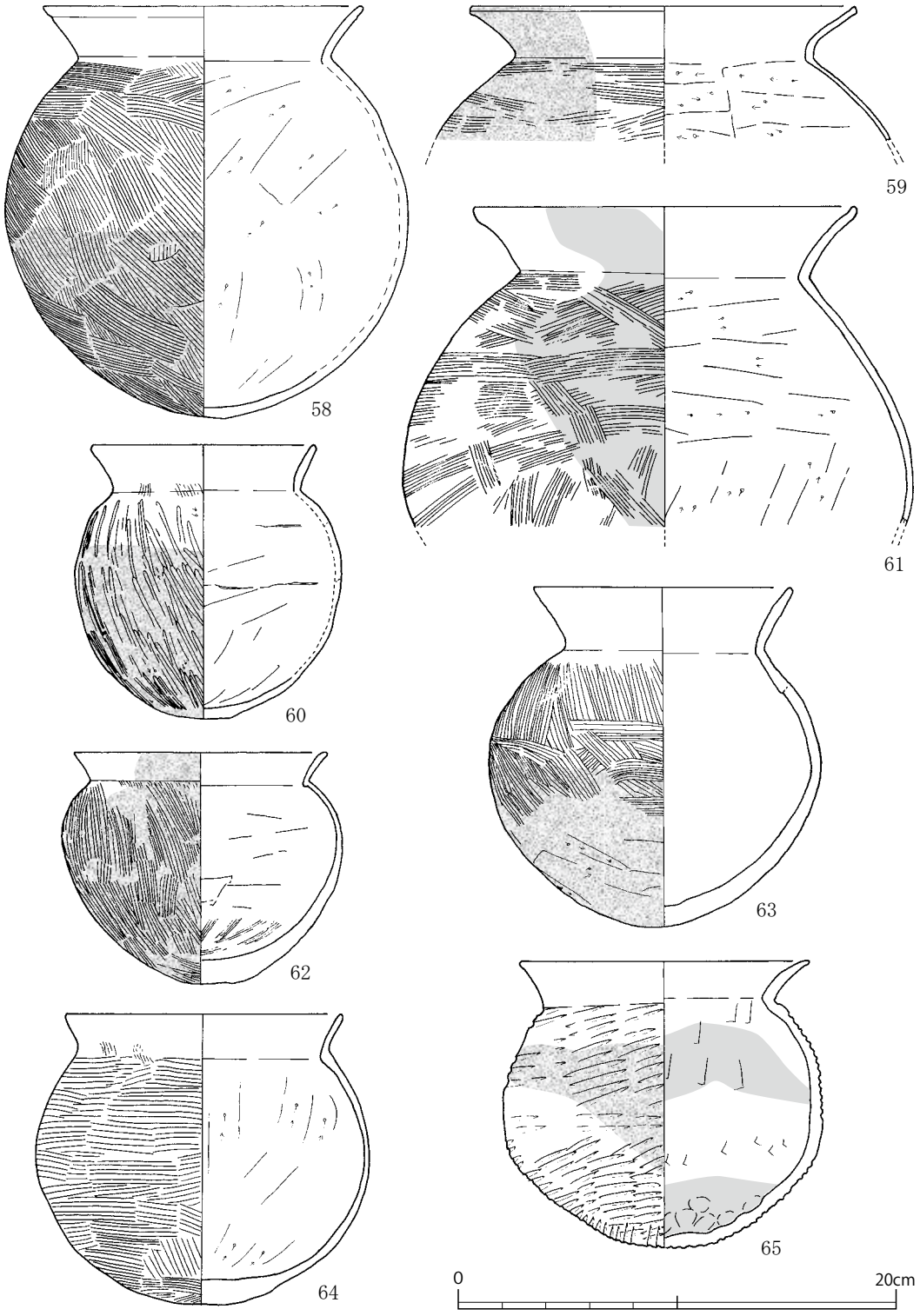


図 67　第２遺構面　流路５　出土土器（10）（S．=1/3）

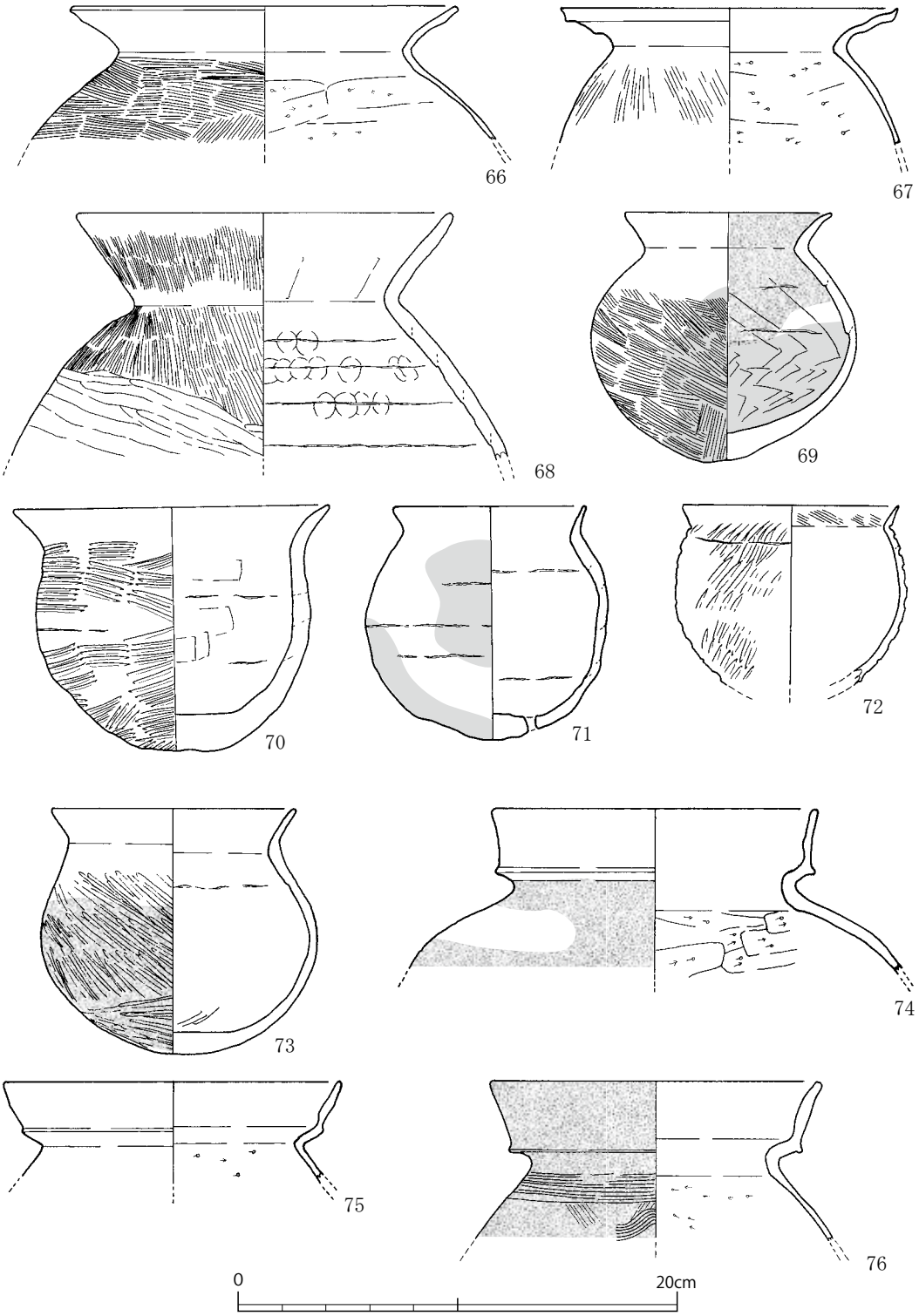


図68　第２遺構面　流路５　出土土器（11）（S．=1/3）

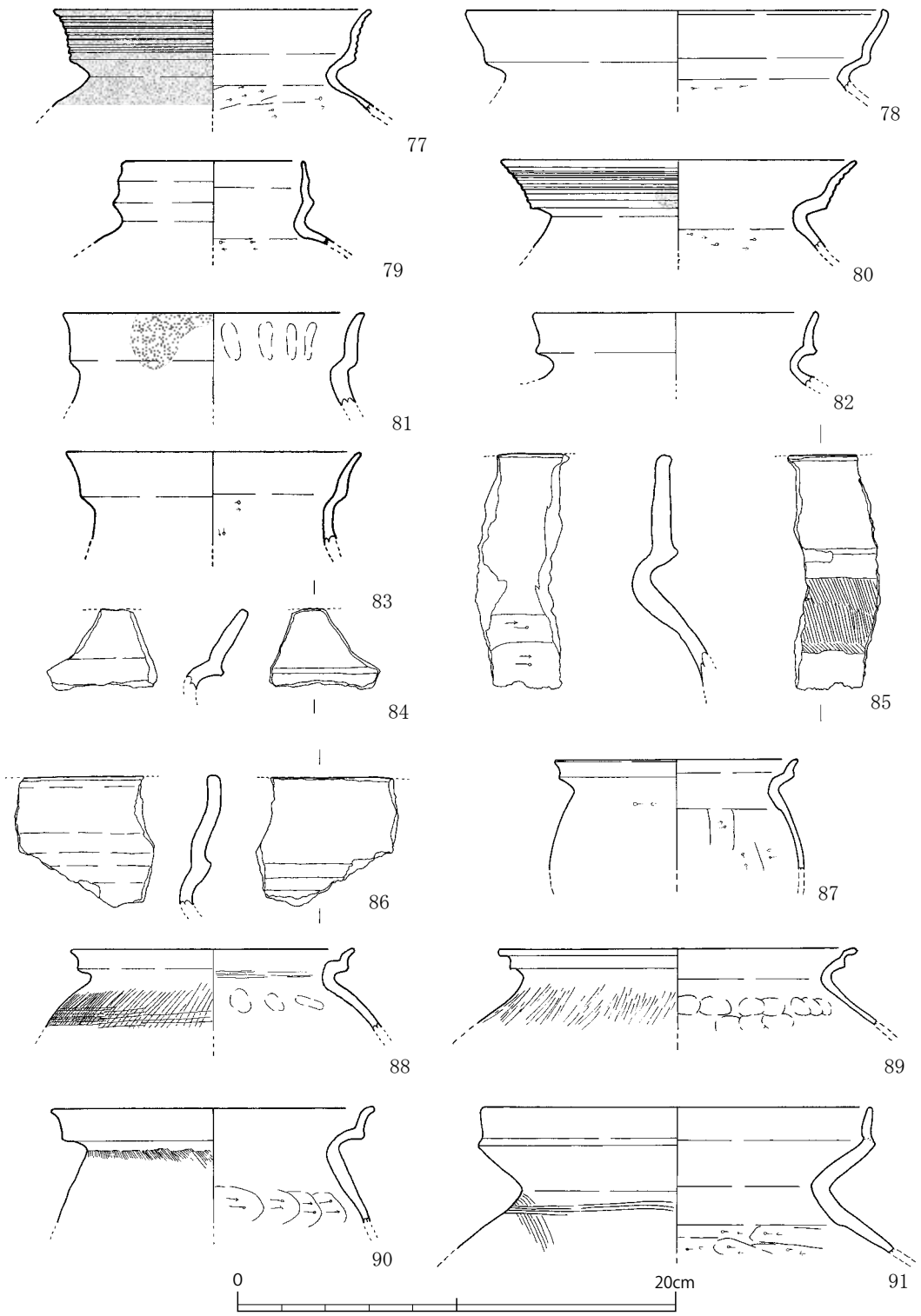


図 69　第２遺構面　流路５　出土土器（12）（S．＝1/3）

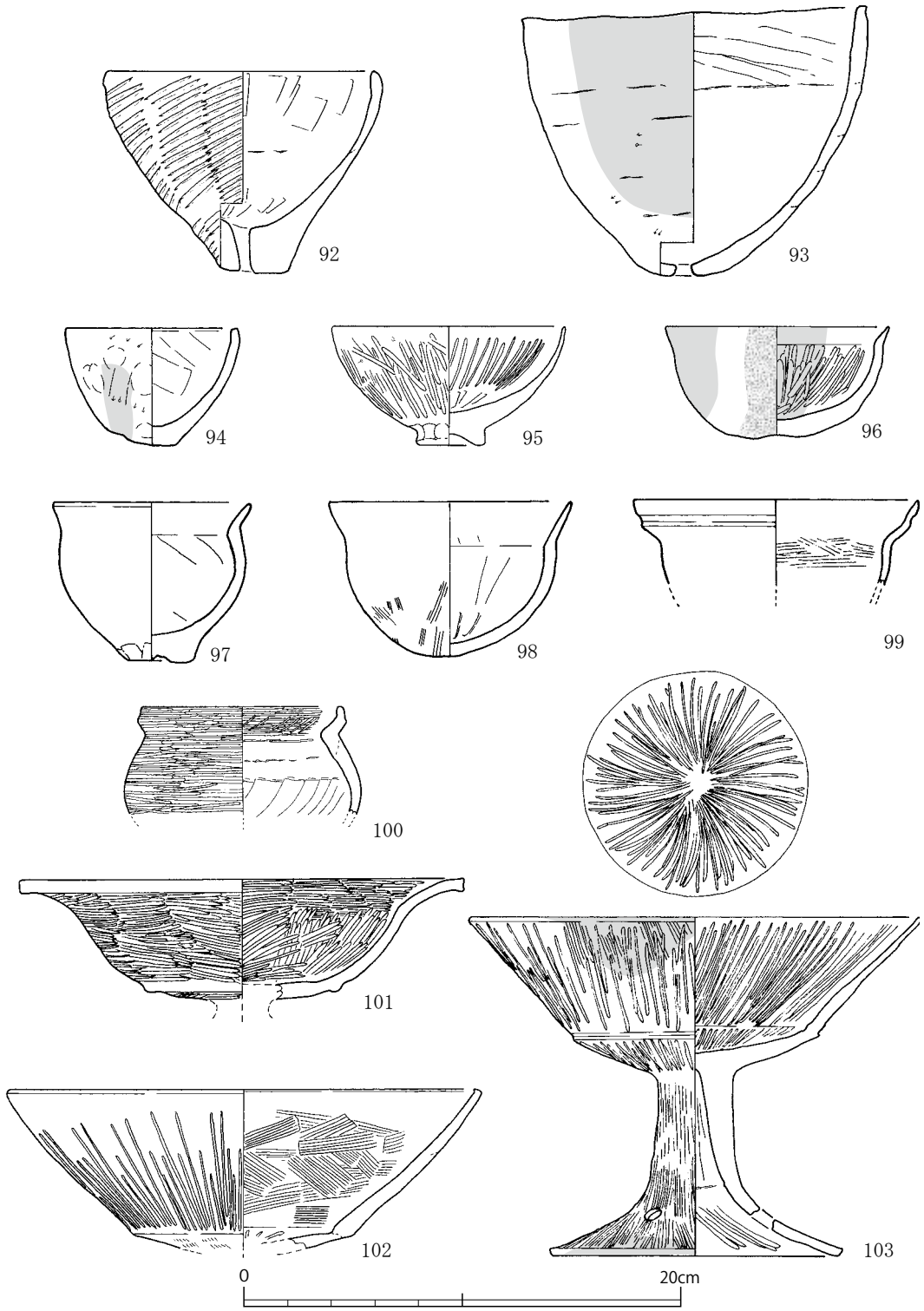


図 70　第２遺構面　流路５　出土土器（13）（S．=1/3）

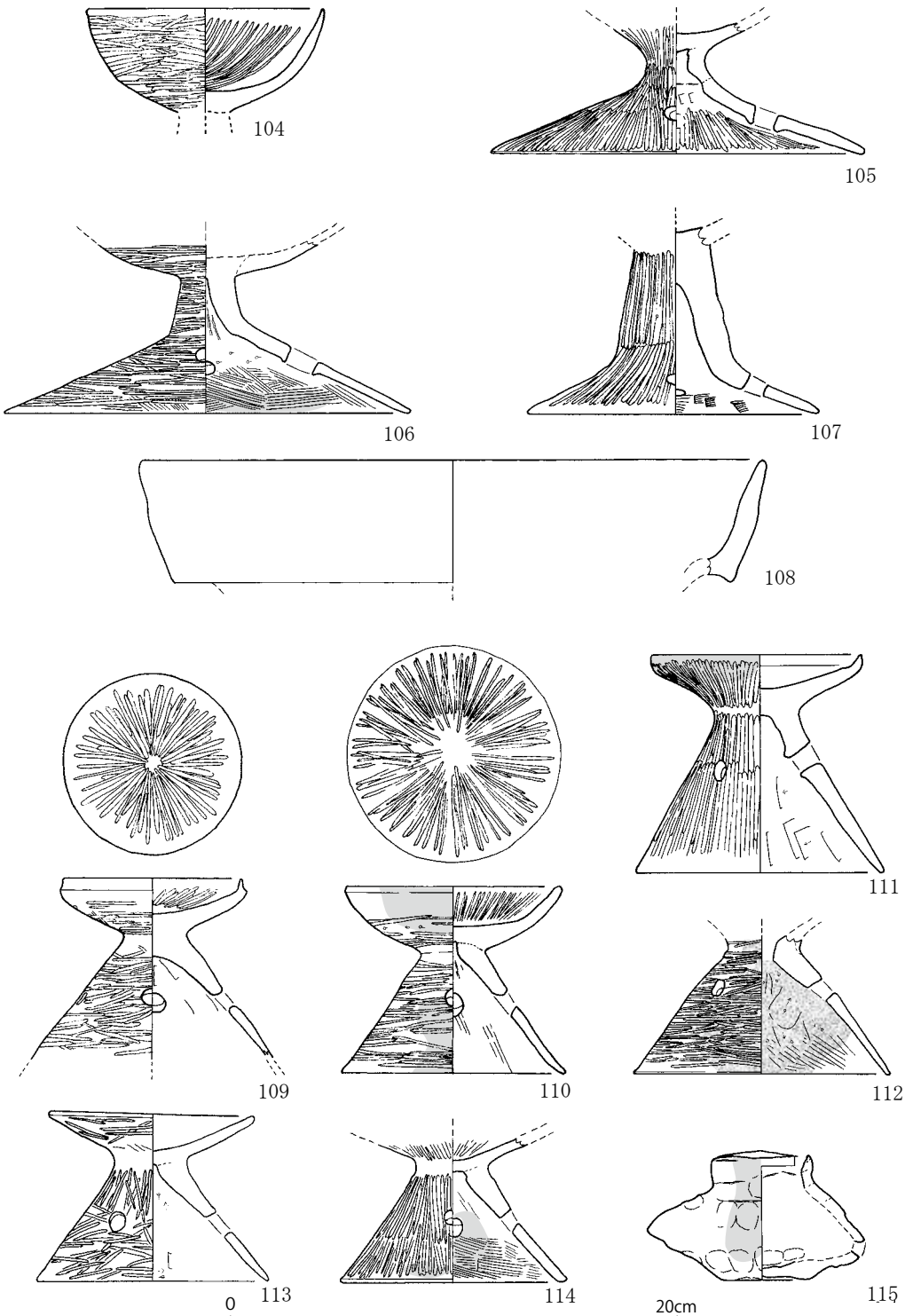


図71　第２遺構面　流路５　出土土器（14）（S.＝1/3）

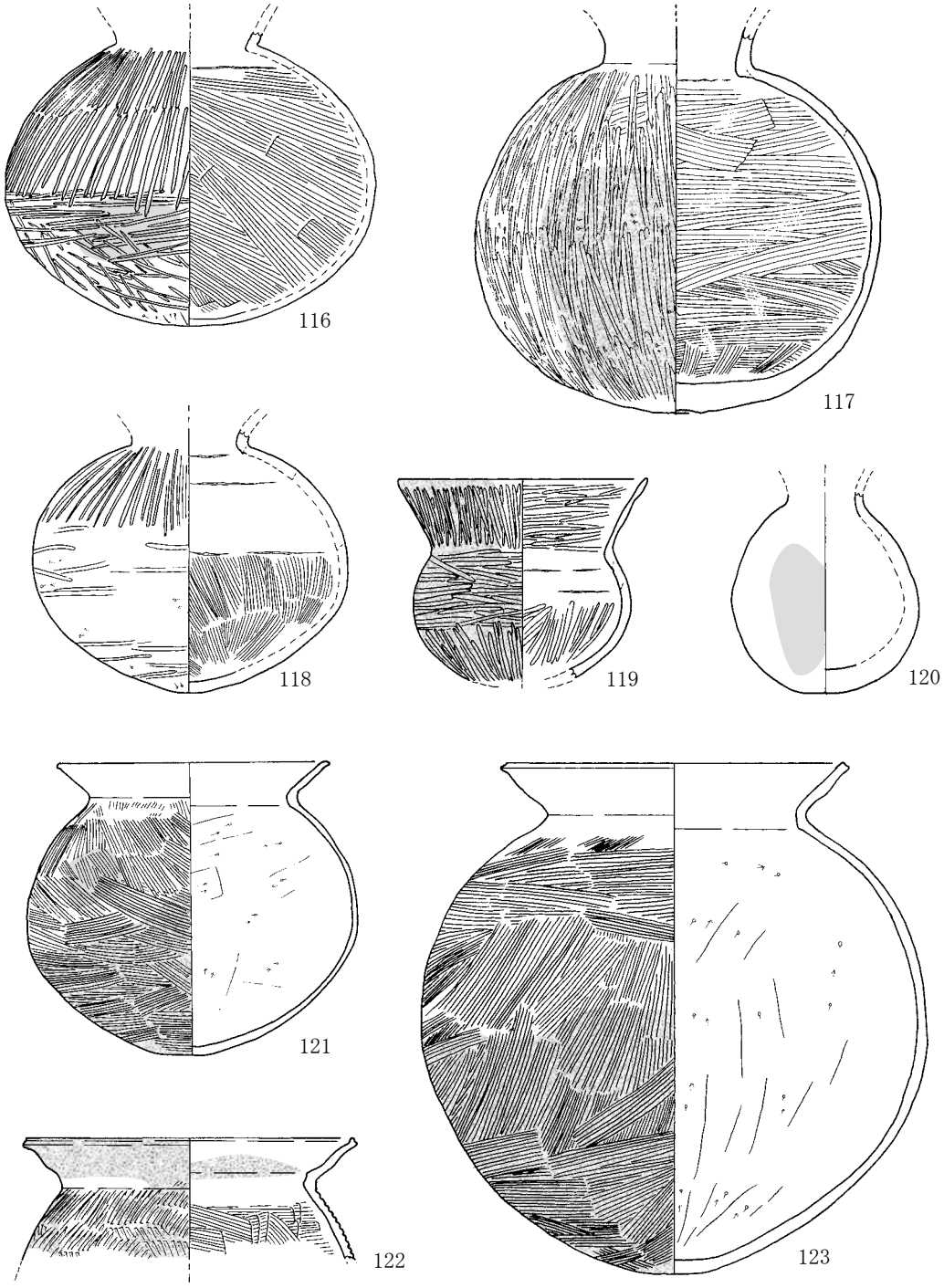


図 72　第２遺構面　流路５　出土土器（15）（S．＝1/3）

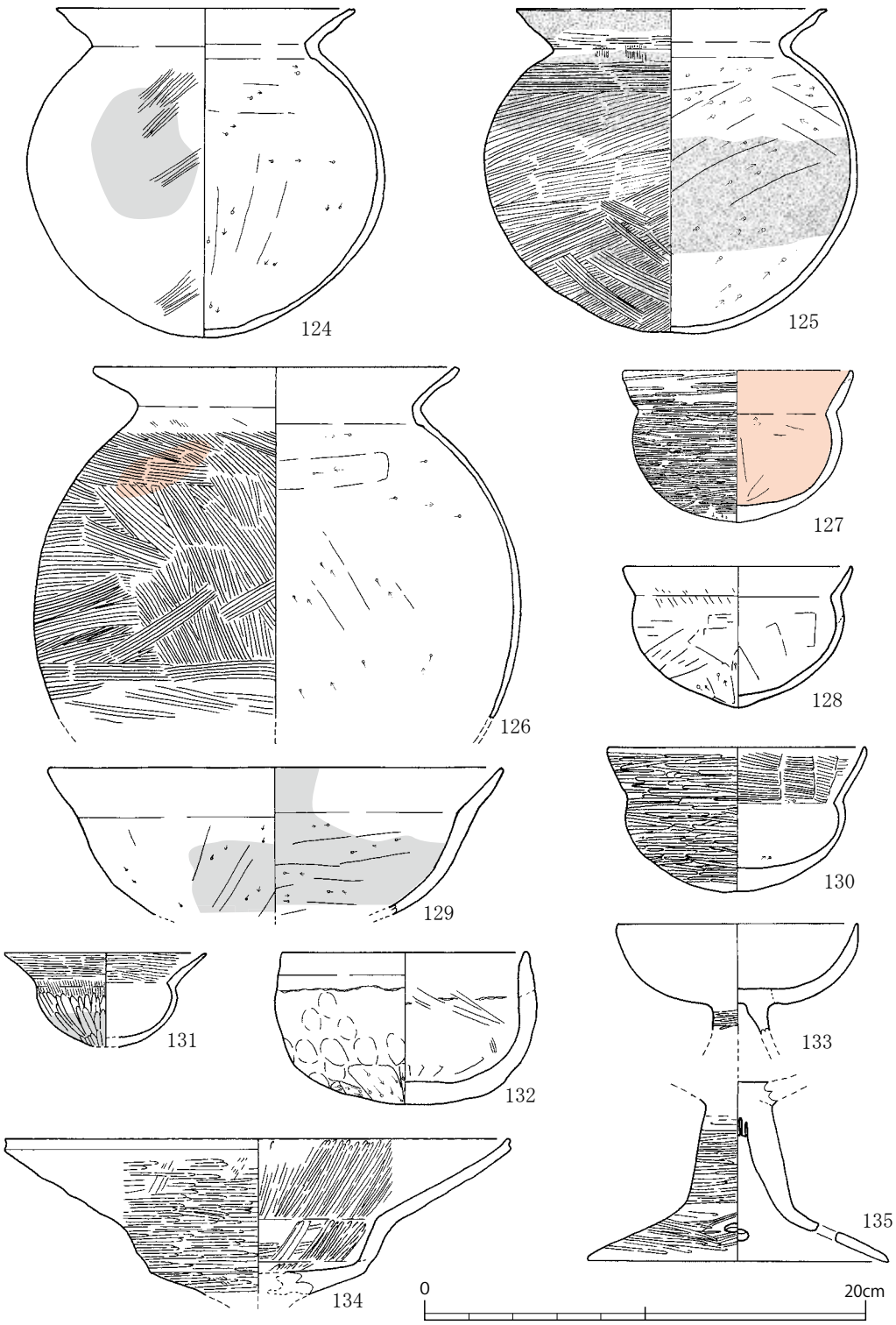


図 73　第２遺構面　流路５　出土土器（16）（S．＝1/3）

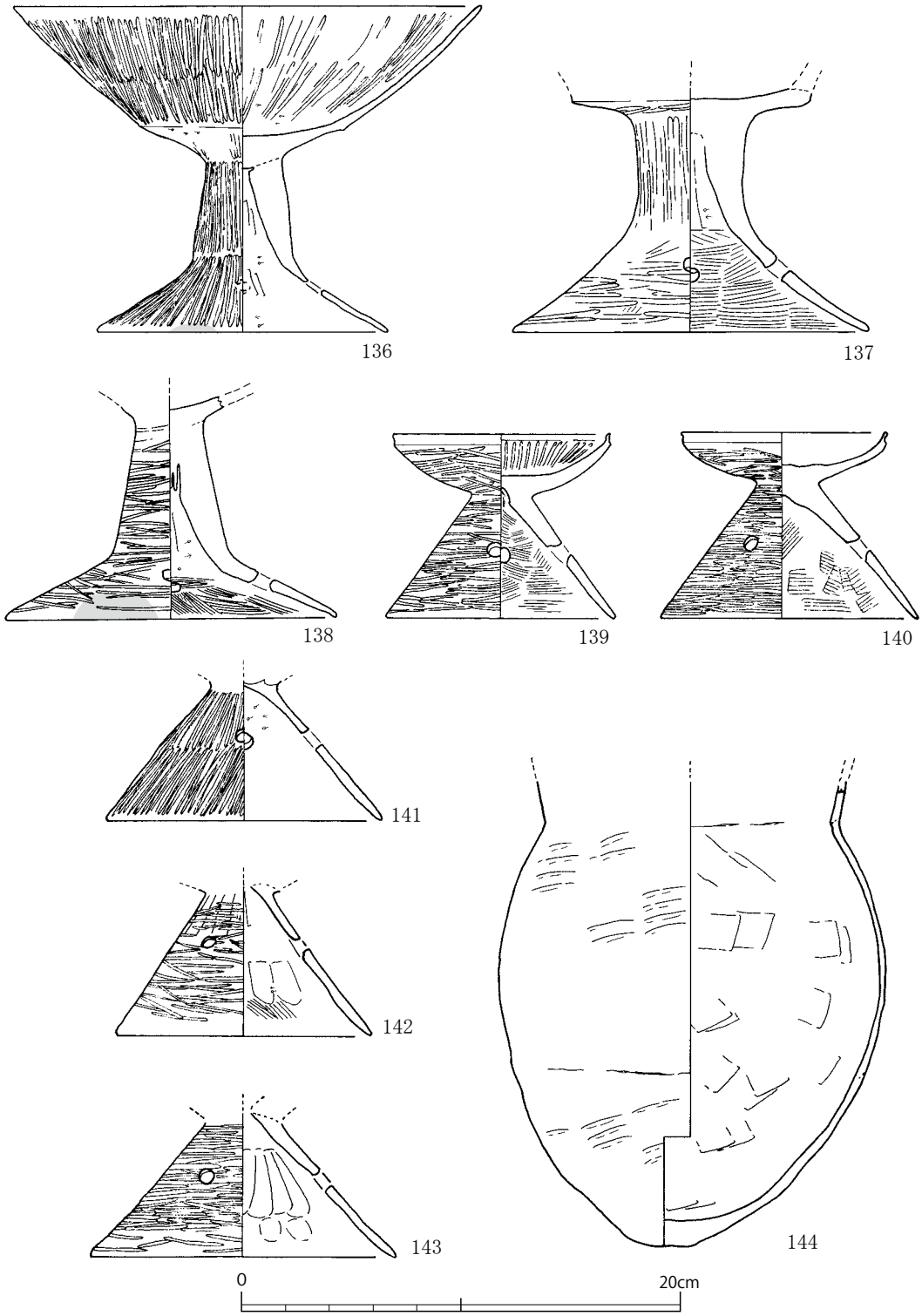


図 74　第２遺構面　流路５　出土土器（17）（S．＝1/3）

る外湾刃半月形である。約 4/5 を欠失しており、背部・刃部・穿孔の一部が残る。耳成山産の流文岩を用いる。

（76 －２・３）は流路５から出土した。（76 －２）は原礫面の残る縦長のサヌカイト剝片である。

（76 －３）は凝灰岩製の砥石である。４面にわたって砥面が形成されており、肌理の細かい仕上げ用の砥石である。被熱による変色がみられる。

（76 －４）は流路６から出土したサヌカイト製の石錐の基部である。1/2 を欠失する。棒状の平面形で、断面形は紡錘形を呈する。側縁部は全体に白く潰れており、使用によるものと思われる。

（76 －５～７）は第２遺構面下層から出土した。（76 －５）はサヌカイト製の凹基式石鏃である。基部の一部を欠損する。基部と先端部に摩滅がみられる。（76 －６）はサヌカイト製の石錐である。頂部に原礫面が残る。平面形は棒状を呈し、断面形は三角形を呈する。先端部には白く潰れる部分がみられる。（76 －７）は熱変性を受けた砂岩製の磨製石斧である。基部と刃部の両端を欠失する。その後施されたと思われる敲打が全体にみられ、基部の断面には丸く潰れる部分があることから、敲き石、磨石への転用が考えられる。

③木器・木製品

第２遺構面における木製品は、３区流路５から出土した円盤状木製品１点の図化を行った。

（77 －１）は最も残存度の高いところで、直径 30.3cm、厚さ 2.4cm である。表面の中心には直径 21cm の円形の平坦面を作り出している。その周囲は緩やかな傾斜をもつように削り出されており、笠状を呈する。中心から先端にいくにつれて薄くなっていき、先端部分は厚さ２mm とかなり薄くなっている。裏面には直径 12.7cm、深さ 1.5cm の円形の刳りこみがあり、その中央付近には１cm 程度の小孔が二つ穿孔されている。刳りこみと小孔は一対のものと考えられ、刳りこみに

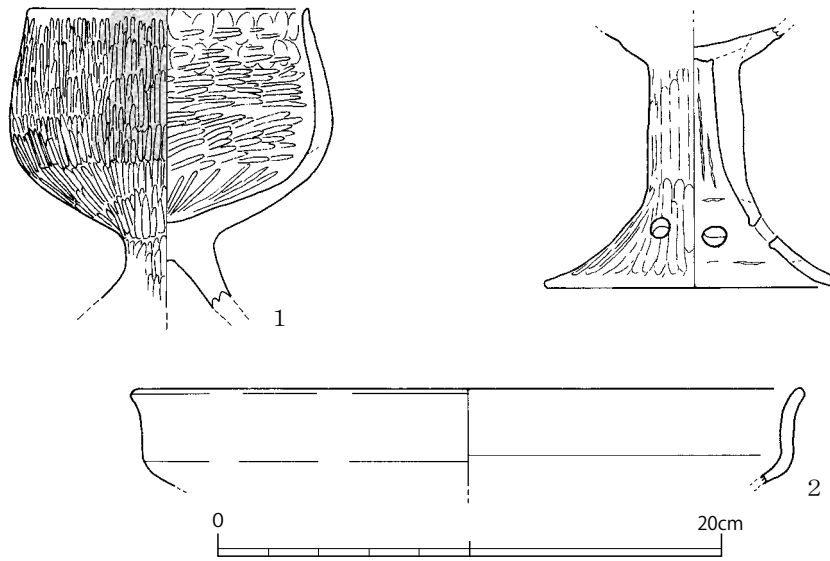


図 75　第２遺構面　流路６　出土土器　（S．=1/3）

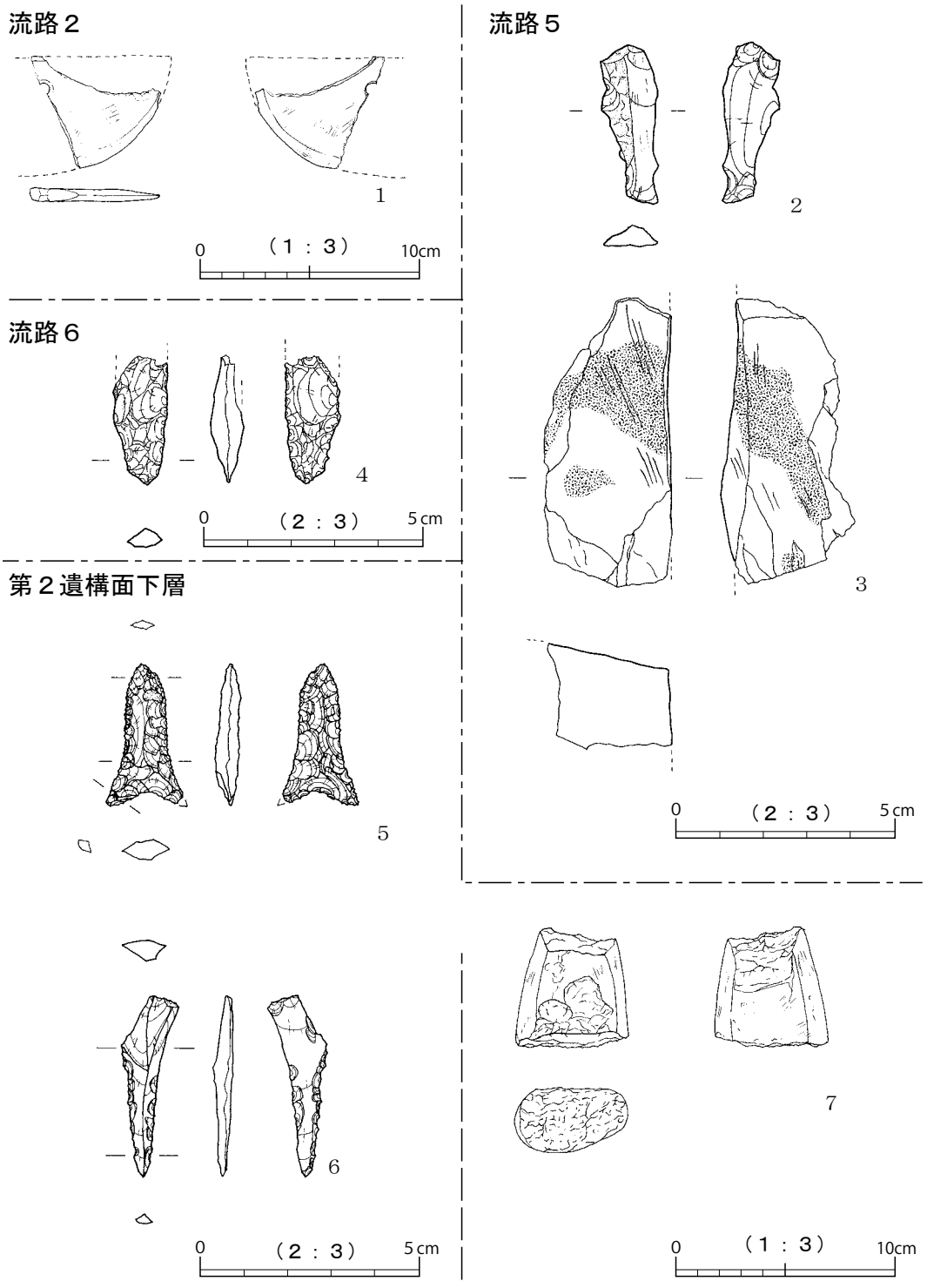


図 76　第２遺構面　流路２・５・６、第２遺構面下層　出土石器　（１・７；S.＝1/3，２～６；S.＝2/3）

なんらかの部材をはめ込み、表面から小孔に釘を打つなどして固定していた可能性が考えられる。理化学分析の結果によると、原材の樹種はヒノキ科アスナロ属である。この円盤状木製品の器種が何であるかは不明であるが、その形状から笠か、あるいは容器の蓋であった可能性が考えられる。

遺物そのものから時期を推定することは困難を極めるが、流路５から出土した土器は前述したとおり、弥生時代終末期から古墳時代前期前半の間に収まるものと考えられるため、（77 － 1）も同様の時期のものと考えられる。

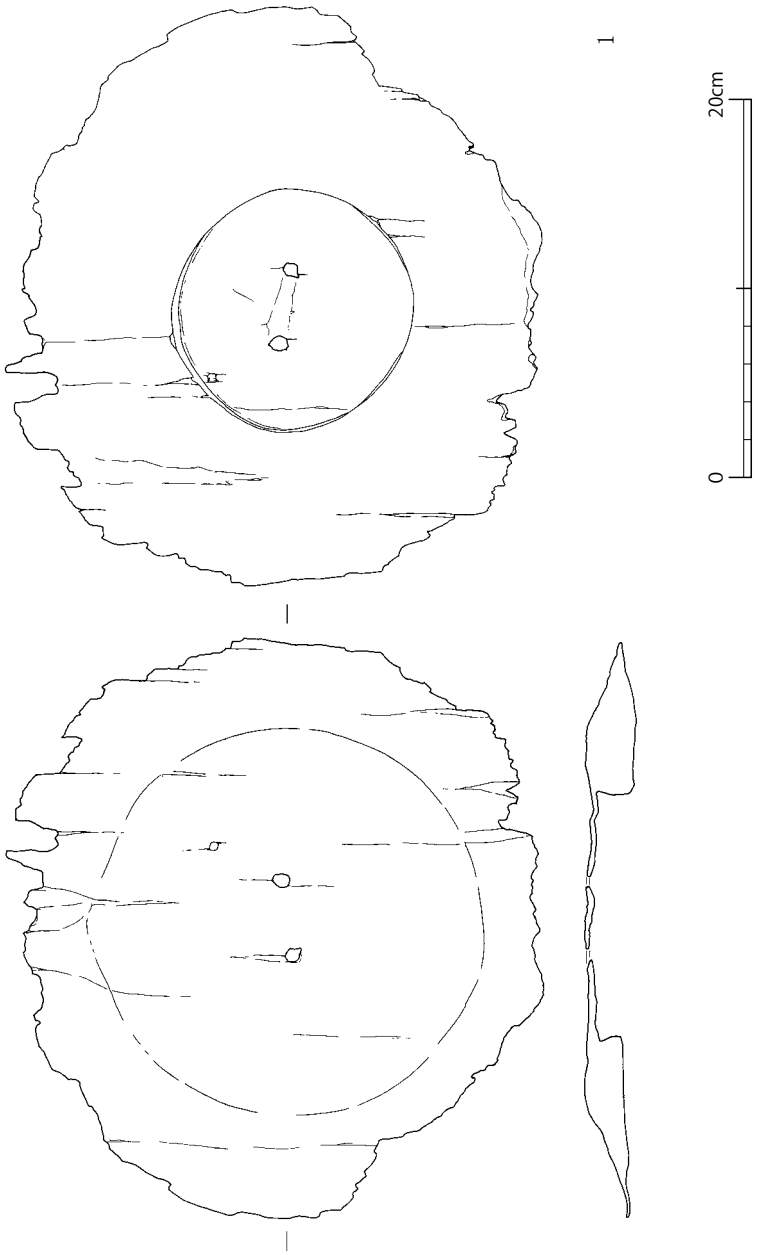


図 77　第２遺構面　流路５　出土木製品　（S.＝1/4）

第３節　第３遺構面

１．遺構

第３遺構面は、基本層序の項でも触れたように年代を細かく絞ることはできないが、弥生時代におさまることは確実である。第３遺構面の基盤層である４層は、２区から３区にかけて広がっているが、遺構は３区北半部の水田遺構に限られる。２区では遺構が確認できず、３区においても南半部は３層と４層の一部が削平を受けている可能性が高く、遺構は認められなかった。

①水田遺構（図 79）

水田遺構は３区北半部で検出された。第４章でも述べたとおり、第５－１次調査時には検出できておらず、８トレンチでは下層確認の深掘によって水田遺構の大部分が未検出のまま失われた可能性が高い。

３層にあたる灰白色粗砂層にパックされるかたちで残存しており、３層と水田面が削平を受けたと考えられる３区南半では確認できなかったが、本来は南北へさらに水田遺構が広がっていたと推定される。基本層序の項でも述べたとおり、2013 年に橿原考古学研究所が３区南東端から南東へ約 20 mの地点で行った第７次調査（岡田雅彦 2015）では、３層に相当する灰白色砂層が堆積しており、その下層から水田遺構は検出されなかったものの、３区水田遺

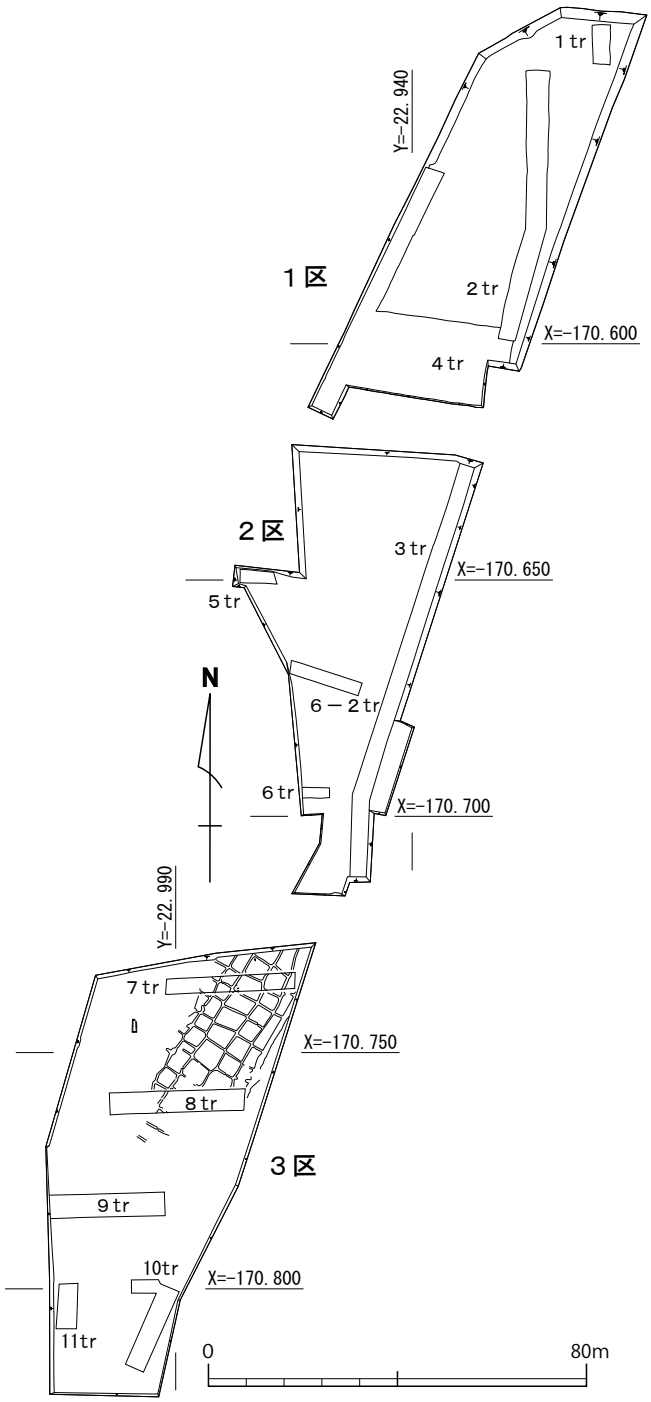
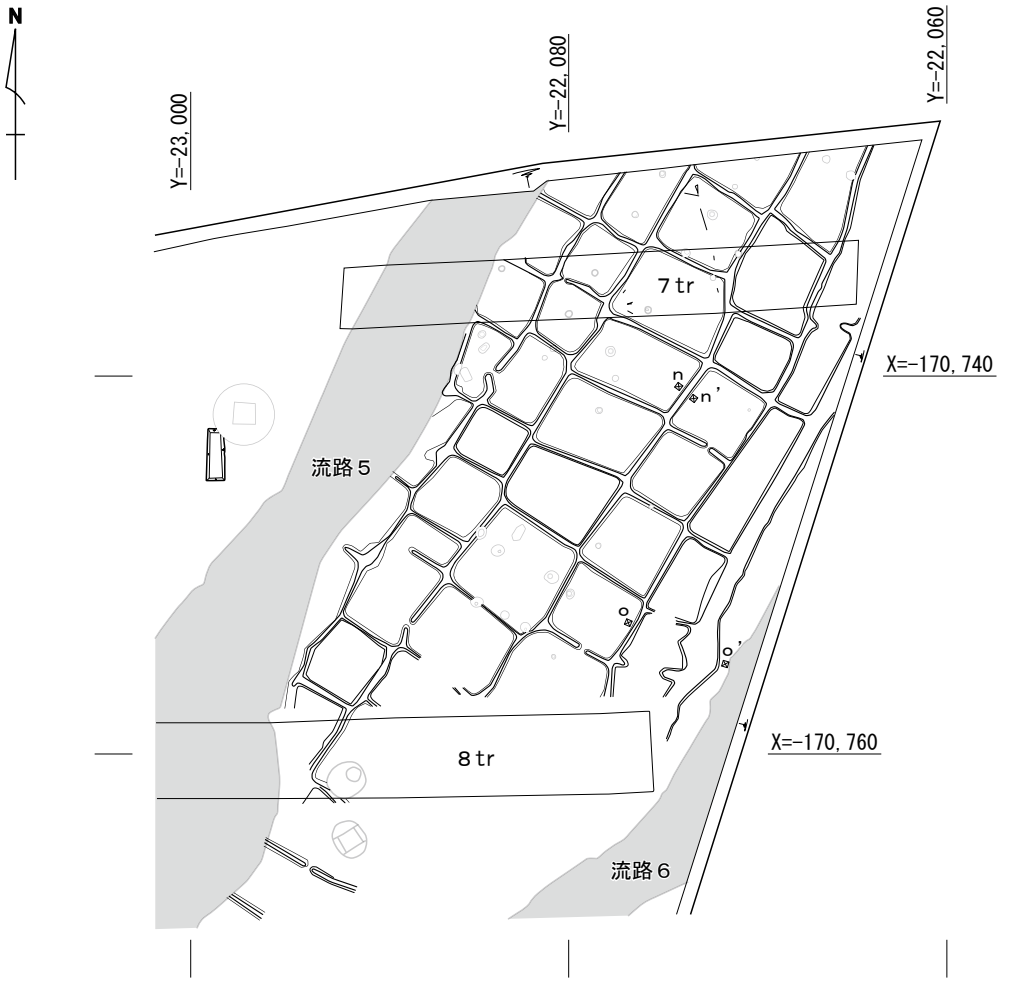


図 78　第３遺構面　平面図　（S．＝1/1, 600）



※アルファベットは下図に対応する。
トーンは第２遺構面の遺構を示す。

0 (1：400) 20m

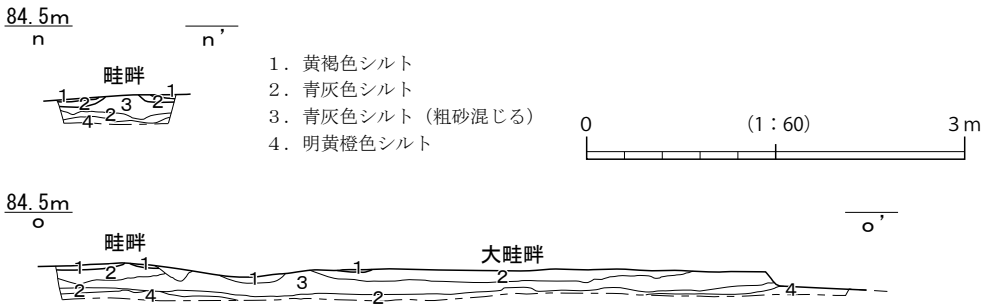


図 79　第３遺構面　水田遺構　平面図　（S．＝1/400）・断面図　（S．＝1/60）

構が形成された黄褐色シルト層に相当する明黄褐色シルト層が確認されている。また、水田遺構が形成された４層は１・２区で第４遺構面の遺構が形成された５層の上層にあたり、後述する第４遺構面の遺構より新しい時期の遺構と考えられる。ただし、１区では４層が認められないことから、そこで検出された第４遺構面の遺構には同時期の可能性も残る。

水田遺構は、幅 40 ～ 50cm の小畦畔によって区切られた一辺 1.6 ～ 5.6 mの耕作面に区画されていた。耕作面の面積は、４～ 25㎡と様々であるが、12 ～ 17㎡前後のものが最も多い。水田の形状は正方形に近いものから、長方形状を呈するものまで多様である。また耕作面には人間の足跡とみられる痕跡もいくつか検出している。水田遺構の西端は第２遺構面の流路５に切られており、そこより西側における遺構の広がりは不明であるが､本来は水田が存在していたものと考えられる。

次に小畦畔についてみていきたい。南西－北東方向のものはほぼ一直線に目地が通って長く延びていくのに対し、北西－南東方向のものは目地が通らず南西－北東方向の畦畔の間をつなぐように配置されている。したがって、南西－北東方向のもので大きく区画し、北西－南東方向のもので水田面を小区画していたと考えられる。また、小畦畔には何箇所か途切れるところがあり、水田に水を取り入れるための水口であったと考えられる。３区東端部では、南西－北東方向に延びる検出長 24.8 m、幅 1.6 m前後の大畦畔が検出された。大畦畔より東側は、そのほとんどが調査区外であったため、水田遺構の有無は不明である。

図 79 に示したとおり、耕作面には黄褐色ないし青灰色シルトが堆積しており、畦畔は灰色系統のシルト・粗砂層を基盤に形成されている。水田の上面は前述したとおり３層に帰属する灰白色粗砂層が覆っており、洪水堆積によって埋没したものと考えられる。

遺物が出土しなかったため、水田遺構の年代を決定しうる資料は存在しない。ただし「第３章　基本層序」で述べたように、層位の検討から第３遺構面は弥生時代の範疇に収まるものである。したがって、水田遺構の年代も同様の時期であるが、詳細な時期については不明である。

第４節　第４遺構面

１．遺構

第４遺構面は、５層上面に形成された遺構面である。遺構は、１区でピットや流路、溝が、２区で流路と溝が認められた。遺構の形成時期は、出土遺物から弥生時代後期以前と考えられる。どこまで遡れるかは定かではないが、５層内から縄文時代晩期から弥生時代前期の土器片が出土していることから、それがおおよその上限になると考えられる。

①ピット（図 81・図 83 ～図 90）

ピットは１区北半部で 61 基検出された。『概報』では柱穴と報告されているが、柱痕や柱材が残存するものはほとんどなく、確実に柱穴と認定できるものがない。したがって、本報告ではピットとしたが、ピット 12・13（図 85）のように木材が検出されたものも認められるので、柱穴の可能性も充分に考えられる。

図83にみえるように、全てのピットが流路２より東側、流路７より北側の地点に比較的まとまって分布している。ピット 50 ～ 54・61 などは流路７にかなり近接した位置で検出されている。特にピット 54 は流路７との距離が 15cm 程度しか離れていない。これらはさらにピット 01 ～ 23・29・30 の北側の群と 24 ～ 28・31 ～ 61 までの南側の群に大別できる。ピット 07 ～ 09・

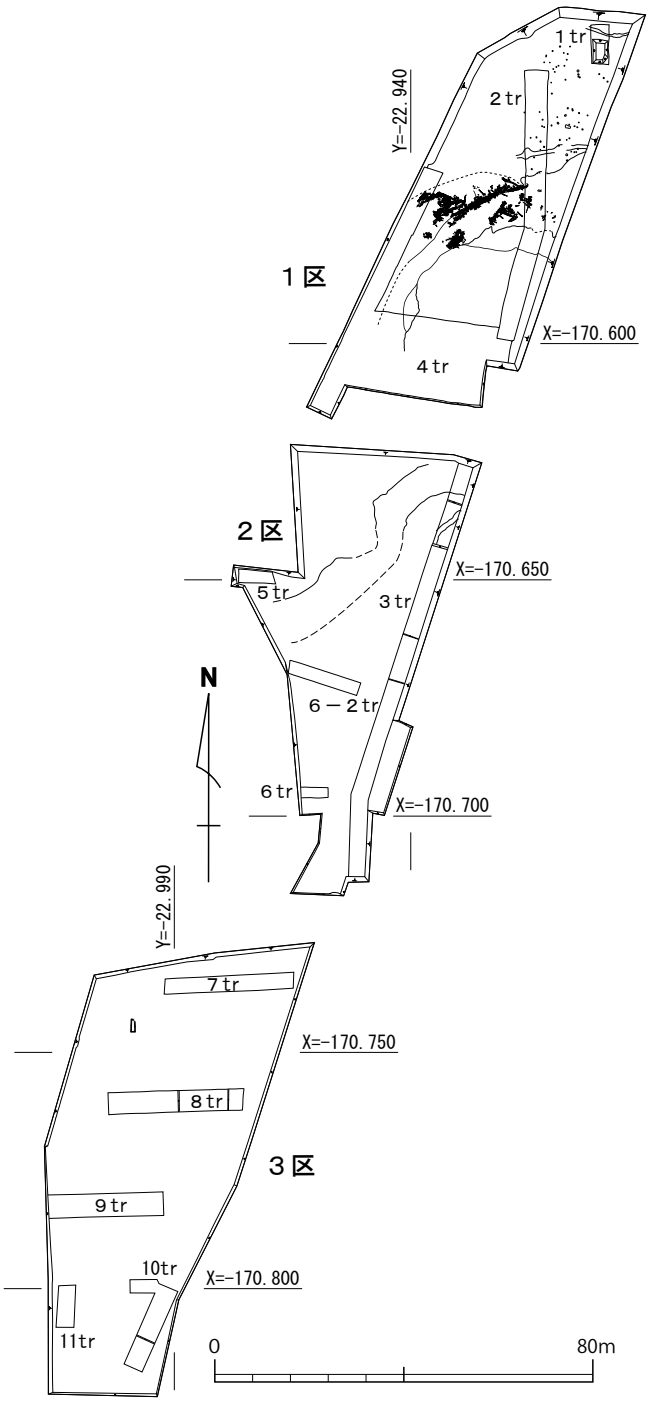


図 80　第４遺構面　平面図　（S.＝1/1,600）

40 などはそれらとは距離がやや離れており、別の群である可能性が高い。これらを柱穴と想定するなら、一つのピット群が建物が建てられた位置を示すのかもしれない。ただし、ピット 01・03・06・14 や 07 ～ 09 のように、ほぼ等間隔で直線的に並ぶものも認められるが、建物跡などを復原することはできなかった。

検出したピットごとの平面図・断面図は、図 84 ～ 90 に掲げた。調査時に記録された図面や写

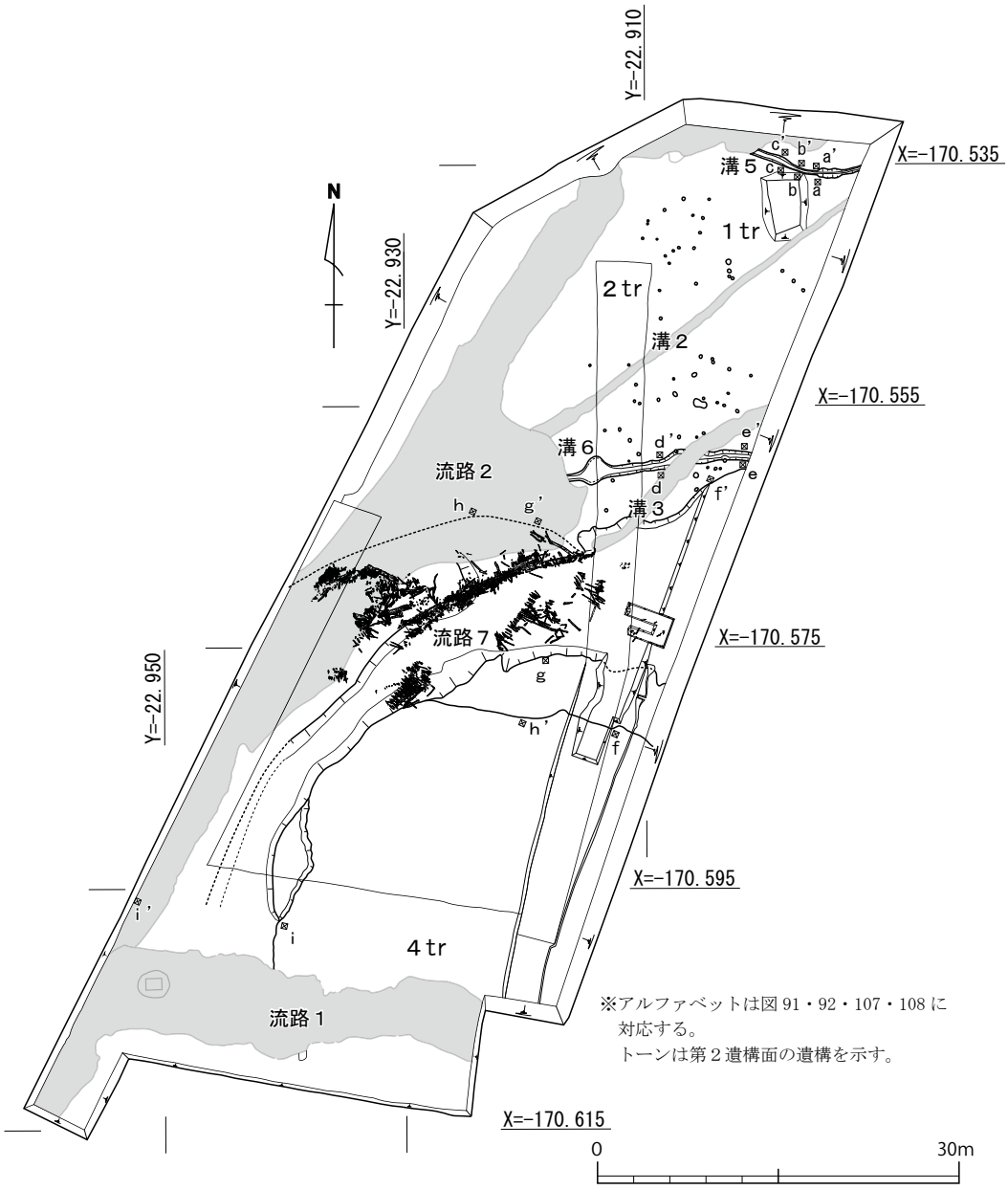


図 81　１区　第４遺構面　遺構平面図　（S.＝1/600）

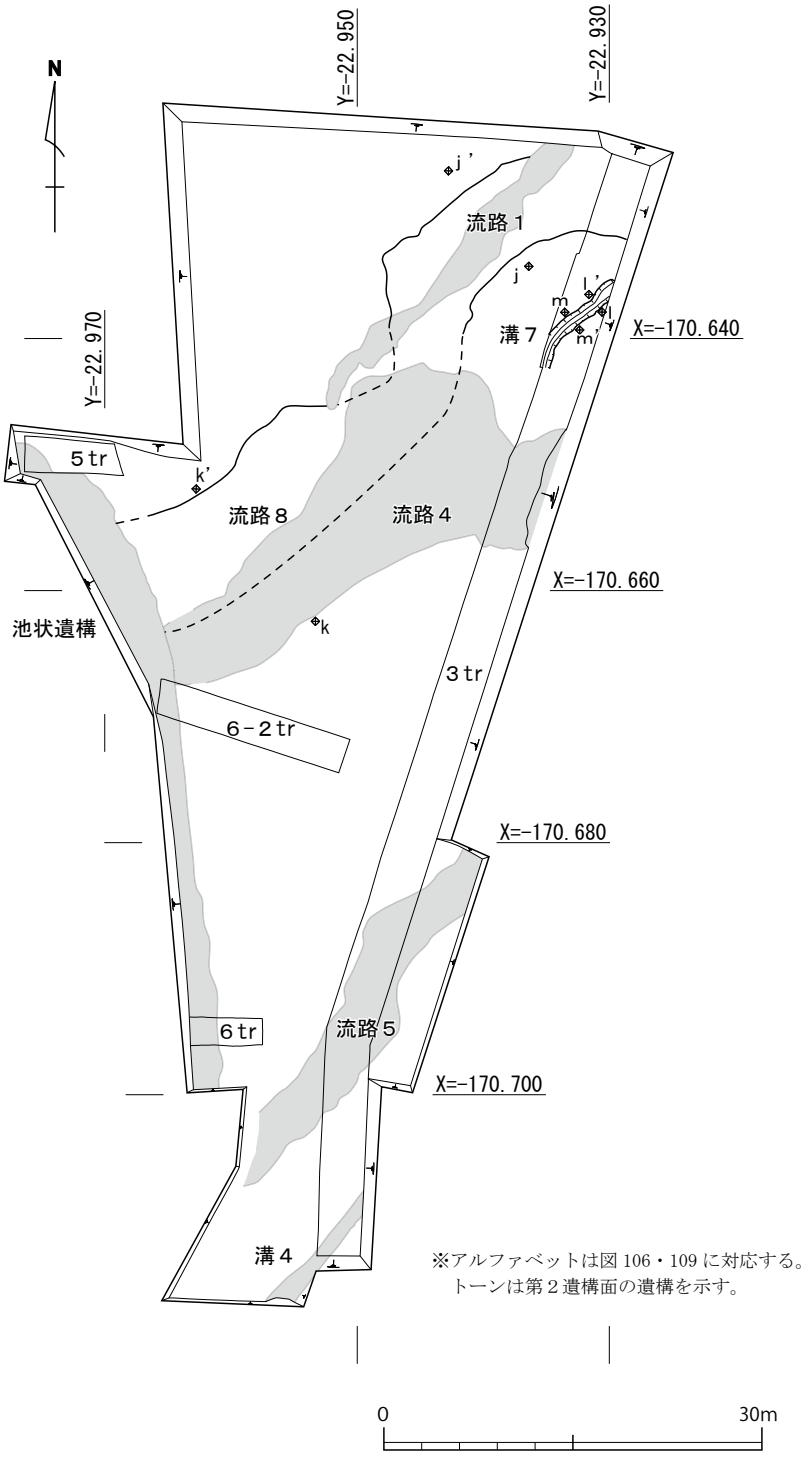


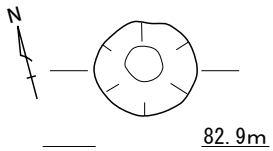
図 82　２区　第４遺構面　遺構平面図　（S.＝1/600）

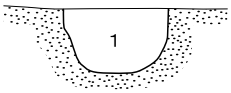
※01 ～ 61 の数字はピット番号を示し、図 84 ～ 90 に対応する。
アルファベット記号は図 107・108 に対応する。
トーンは第２遺構面の遺構を示す。

図 83　１区　第４遺構面　遺構平面図（北半）（S.＝1/300）

真を見ると、５～ 10cm 前後ピット内全体を掘り下げた後、ピットを半裁する幅 40 ～ 60cm、深さ 20 ～ 50cm の断ち割りを入れている。しかし、遺憾ながらピットの完掘状況が記録されていないものも多く、その場合は下端を断面図から復原しているので、その精度はやや信頼性を欠いている。断面図に関しても、土色・土質が記録されていないものがあり、それに関しては写真からも判断が難しいため、ここでは空欄のまま提示している。埋土はほとんどが暗灰色粘土である。

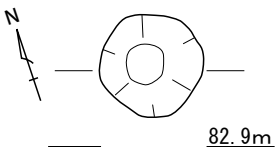
ピットの平面形は円形で、断面形状は一部例外を除いてＵ字形あるいはＶ字形を呈する。規模はおおむね直径 20 ～ 40cm 前後、深さ 10 ～ 30cm 前後に収まるものであるが、一部直径や深さが 40cm を超えるものも認められる。ピットの計測値は表１にまとめた。

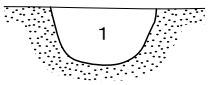




1．暗灰色粘土

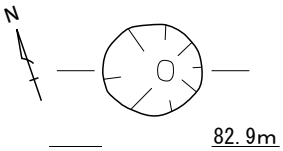
1．ピット 01

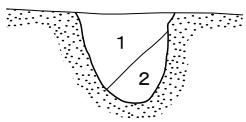




1．暗灰色粘土

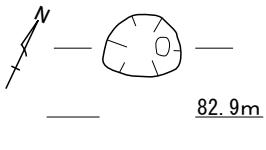
2．ピット 02

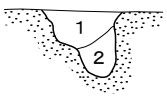




1．暗灰色粘土（黄褐色粘土混じる）
2．黄褐色粘土

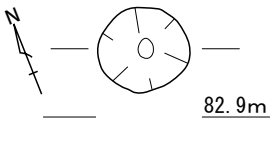
3．ピット 03

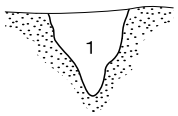




1．暗灰色粘土
2．暗灰褐色粘土

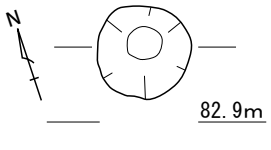
4．ピット 04

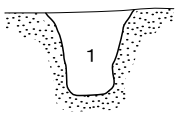




1．暗灰色粘土

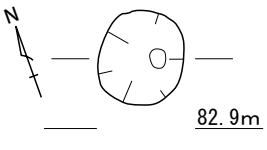
5．ピット 05

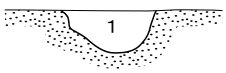




1．暗灰色粘土

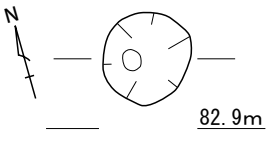
6．ピット 06

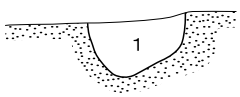




1．暗灰色粘土

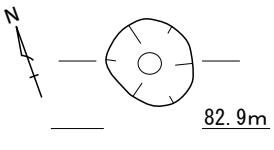
7．ピット 07

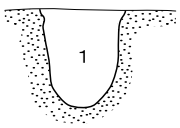




1．暗灰褐色粘土

8．ピット 08



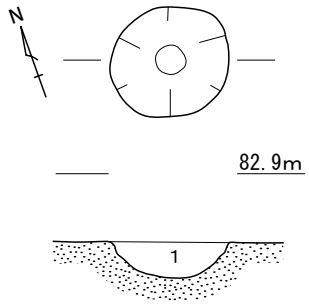


1．暗灰色粘土

9．ピット 09

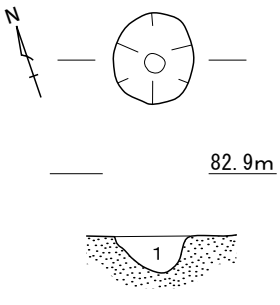
※ピット番号は図 83 に対応する。

図 84　第４遺構面　ピット１～９　平面図・断面図　（S．＝1/20）



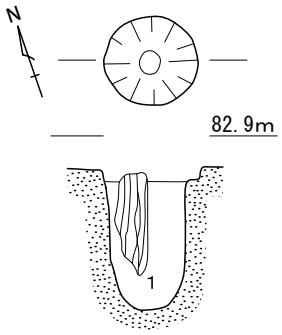
1．暗灰褐色粘土

1．ピット 10



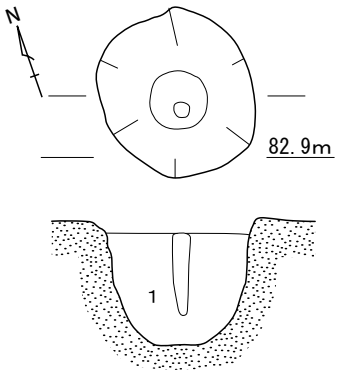
1．暗灰褐色粘土

2．ピット 11



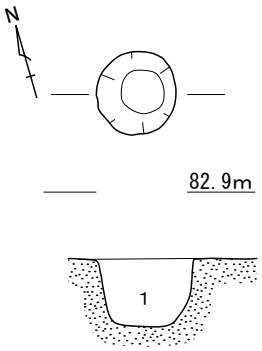
1．青灰色粘土（礫混じる）

3．ピット 12



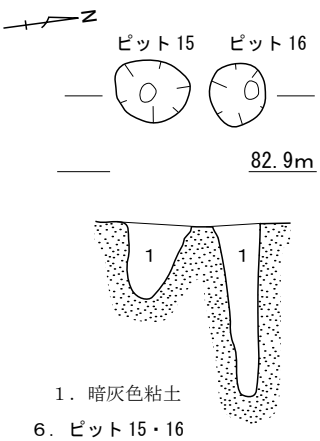
1．暗灰褐色粘土

4．ピット 13



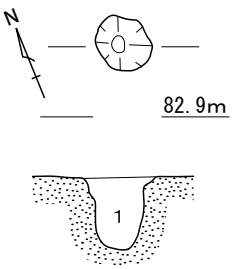
1．暗灰色粘土

5．ピット 14



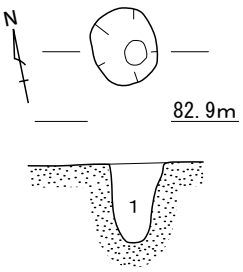
1．暗灰色粘土

6．ピット 15・16



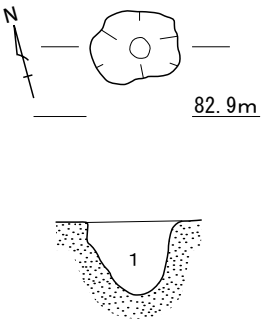
1．暗灰色粘土

7．ピット 17



1．暗灰色粘土

8．ピット 18

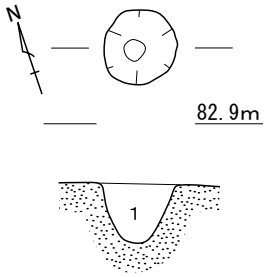


1．暗灰色粘土

9．ピット 19

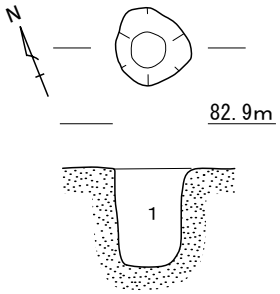
※ピット番号は図 83 に対応する。

図 85　第 4 遺構面　ピット 10 ～ 19　平面図・断面図　（S．=1/20）



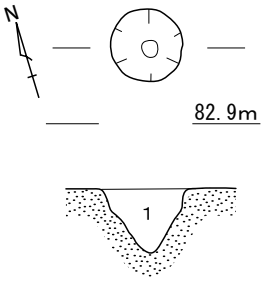
1．暗灰色粘土

1．ピット 20



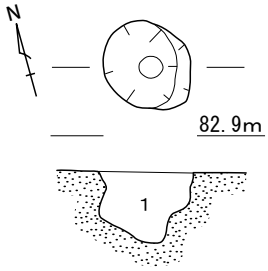
1．暗灰色粘土

2．ピット 21



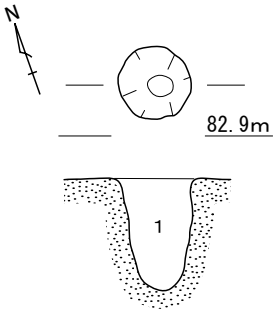
1．暗灰色粘土

3．ピット 22



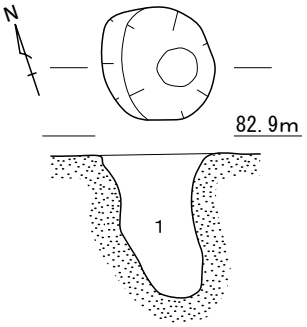
1．暗灰色粘土（黄褐色粘土混じる）

4．ピット 23



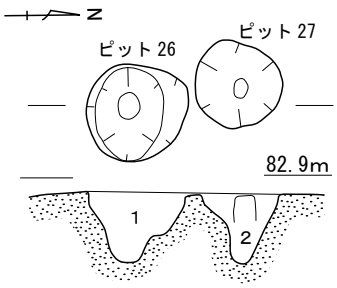
1．暗灰色粘土

5．ピット 24



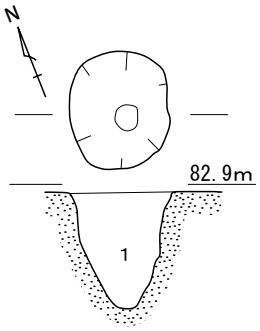
1．暗灰色粘土

6．ピット 25



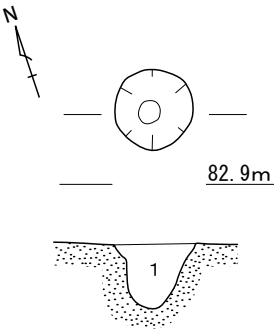
1．暗灰色粘土
2．暗灰褐色粘土

7．ピット 26・27



1．暗灰色粘土

8．ピット 28

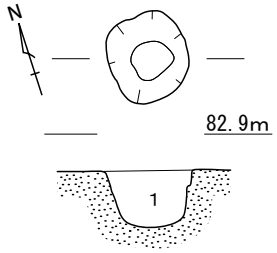


1．暗灰色粘土

9．ピット 29

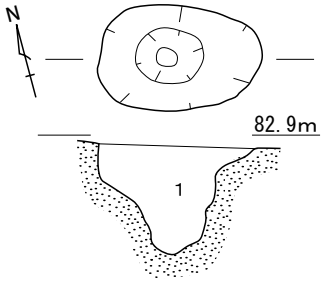
※ピット番号は図 83 に対応する。

図 86　第４遺構面　ピット 20 ～ 29　平面図・断面図　（S．=1/20）



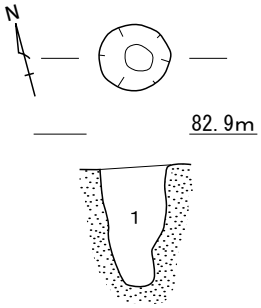
1．暗灰色粘土

1．ピット 30



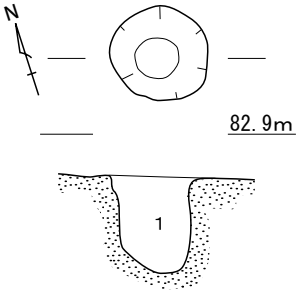
1．暗灰色粘土

2．ピット 31



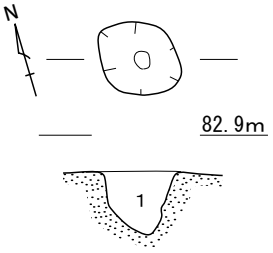
1．暗灰色粘土

3．ピット 32



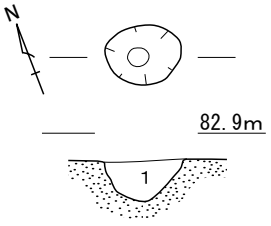
1．暗灰色粘土

4．ピット 33



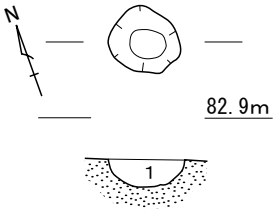
1．暗灰色粘土

5．ピット 34



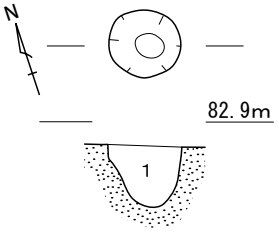
1．暗灰色粘土

6．ピット 35



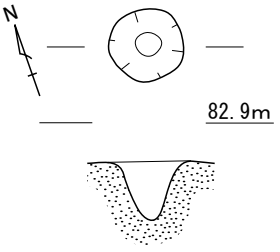
1．暗灰色粘土

7．ピット 36



1．暗灰色粘土

8．ピット 37



9．ピット 38

※ピット番号は図 83 に対応する。

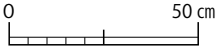
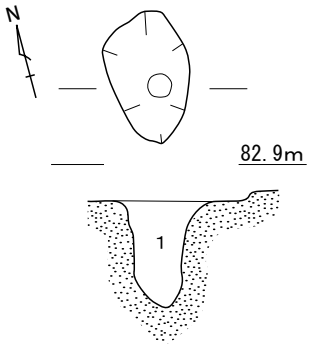
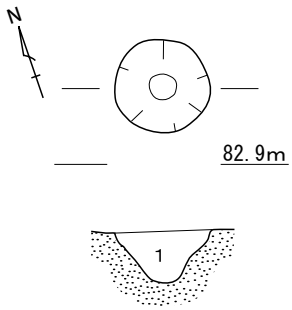


図 87　第４遺構面　ピット 30 ～ 38　平面図・断面図　（S．=1/20）



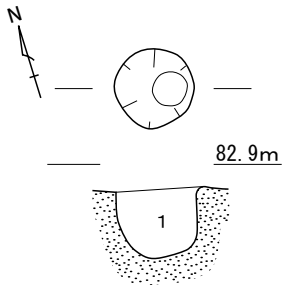
1．暗灰色粘土

1．ピット 39



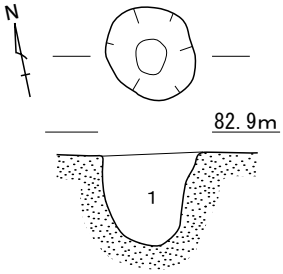
1．暗灰色粘土

2．ピット 40



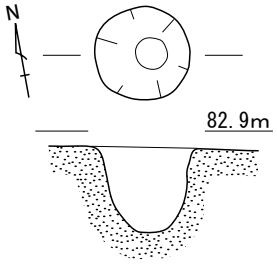
1．暗灰色粘土

3．ピット 41

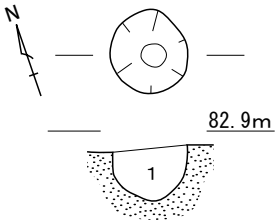


1．暗灰色粘土

4．ピット 42

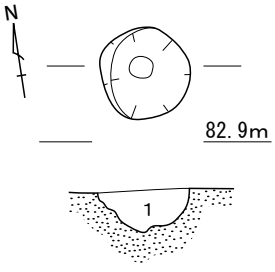


5．ピット 43



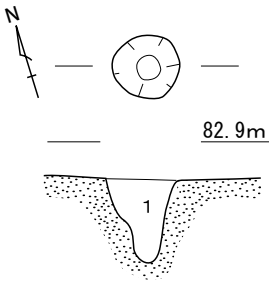
1．暗灰色粘土

6．ピット 44



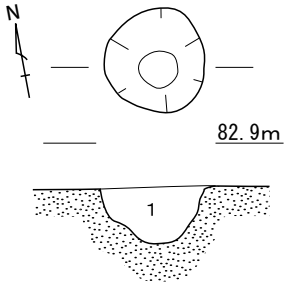
1．暗灰色粘土

7．ピット 45



1．暗灰色粘土

8．ピット 46

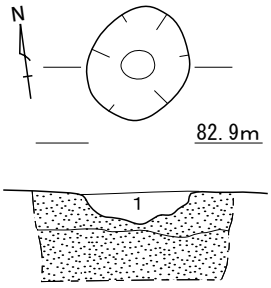


1．暗灰色粘土

9．ピット 47

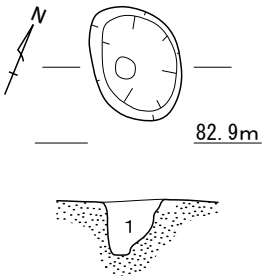
※ピット番号は図 83 に対応する。

図 88　第４遺構面　ピット 39 ～ 47　平面図・断面図　（S．=1/20）



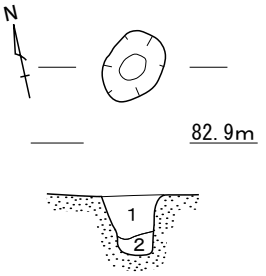
1．暗灰色粘土

1．ピット 48



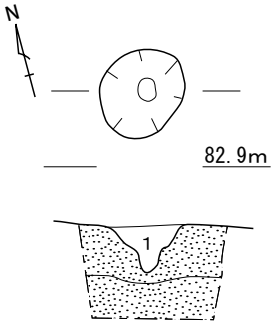
1．暗灰色粘土

2．ピット 49



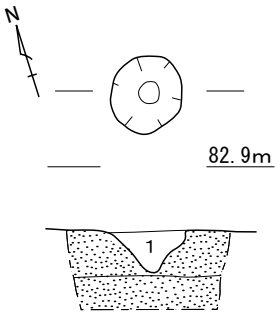
1．暗灰色粘土
2．暗灰色粘土（黄褐色粘土混じる）

3．ピット 50



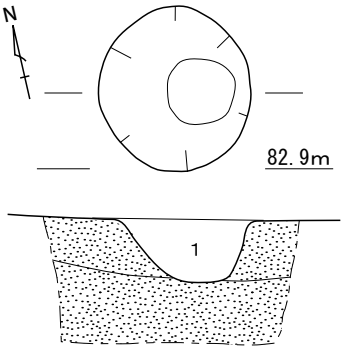
1．暗灰色粘土

4．ピット 51



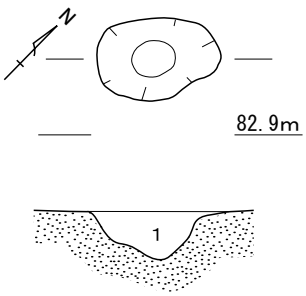
1．暗灰色粘土

5．ピット 52



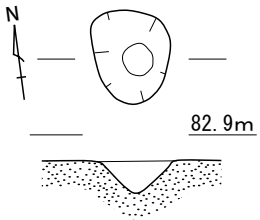
1．暗灰色粘土

6．ピット 53

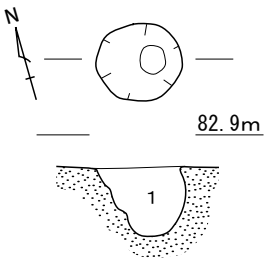


1．暗灰色粘土

7．ピット 54



8．ピット 55



1．暗灰色粘土

9．ピット 56

※ピット番号は図 83 に対応する。

図 89　第 4 遺構面　ピット 48 ～ 56　平面図・断面図　（S．=1/20）

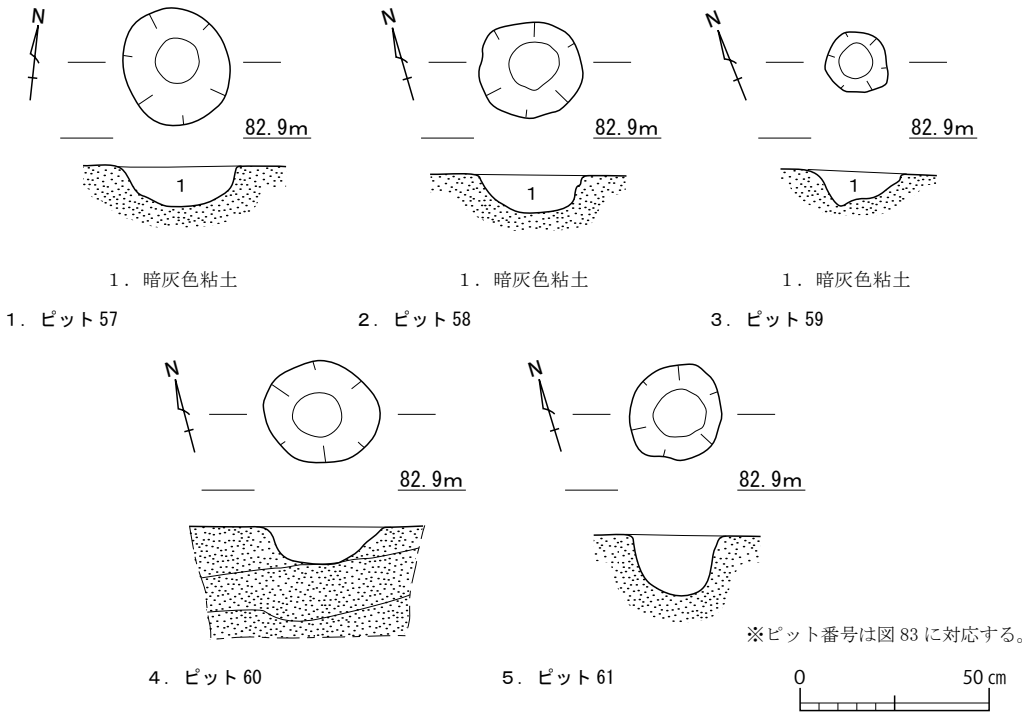


図90　第4遺構面　ピット57～61　平面図・断面図（7）（S.＝1/20）

表1　第4遺構面　ピット計測表

遺構名称	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺構名称	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	遺構名称	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
ピット01	28	26	18	ピット22	24	22	18	ピット42	25	23	24
ピット02	30	27	15	ピット23	26	24	20	ピット43	26	24	23
ピット03	27	26	24	ピット24	20	—	30	ピット44	22	20	14
ピット04	22	17	18	ピット25	34	30	38	ピット45	26	24	12
ピット05	24	23	22	ピット26	28	24	18	ピット46	19	17	22
ピット06	26	25	22	ピット27	24	20	19	ピット47	29	28	15
ピット07	26	24	12	ピット28	32	26	32	ピット48	30	28	10
ピット08	26	—	15	ピット29	22	—	18	ピット49	30	22	14
ピット09	24	22	28	ピット30	24	22	15	ピット50	20	15	17
ピット10	32	28	10	ピット31	42	28	30	ピット51	20	18	13
ピット11	24	22	10	ピット32	20	18	32	ピット52	22	19	11
ピット12	24	22	38	ピット33	27	25	26	ピット53	46	40	17
ピット13	46	44	34	ピット34	24	18	18	ピット54	32	22	13
ピット14	34	30	18	ピット35	22	16	12	ピット55	26	20	10
ピット15	20	17	21	ピット36	20	17	7	ピット56	24	20	19
ピット16	18	16	47	ピット37	20	18	18	ピット57	32	26	12
ピット17	16	—	20	ピット38	22	20	16	ピット58	28	26	10
ピット18	22	18	20	ピット39	36	21	28	ピット59	16	—	8
ピット19	24	18	22	ピット40	26	24	14	ピット60	30	26	10
ピット20	20	—	16	ピット41	21	—	19	ピット61	26	24	16
ピット21	20	—	26								

出土遺物がないためピットの年代を直接示す資料がなく、またその形成順序もピット同士に切り合い関係が認められないことから不明である。しかし、ピット 48・49 は後述する溝６と切り合い関係があり、溝６より後に形成されたことがわかる。溝６は弥生時代後期の遺構であるため、検出面を含めて考えるとピットもおおむね弥生時代後期頃の形成と考えられる。

②流路７（図 81・図 91 〜図 105）

１区中央部東端からトレンチ南西端にかけて検出された自然流路で、検出長 55 m、幅 18 m、深さは深いところで２mである。１区南西部では南北方向であるが、１区中央部付近で「く」の字に折れ曲がり東西方向へと変化する。東岸、南岸は比較的明瞭に検出することができたが、北岸は流路２や溝３といった第２遺構面の遺構に切られており、1 区東端部付近でしか検出されなかった。図 81 などでは北岸を破線で示しているが、それは良好に残存する東端部付近の幅や後述する護岸施設の位置を参考に復原したものである。流路の南端部は流路１に切られている。流水方向は南西から北東方向である。

流路７の断面図は図 91・92 に示した。それをみると、埋土は黄色系統の粗砂、砂礫あるいは暗灰色粘土が主体で、両者が混じり合い互層となって堆積している。

埋土中からは、コンテナにして２箱分の縄文土器・弥生土器・石器が出土している。土器に添付されたラベルから出土層位がわかるものをみると、大半は黄色系統の粗砂層から出土している。このうち、図化可能であった縄文土器６点、弥生土器 18 点、石器６点を実測して図 110 〜 114 に掲げた。土器は縄文時代晩期から弥生時代後期までの幅広い時期の遺物が認められる。

最も古い時期の縄文時代晩期の土器（110 － 1 〜 6）は船橋式から長原式のものであり、晩期後葉に比定できる。第３章で前述した５層出土の縄文土器は、晩期前葉末から中葉初頭頃のものであり、（110 － 1 〜 6）とは時期差が認められる。弥生土器は第Ⅰ様式、第Ⅲから Ⅳ様式、第Ⅴ様式と時期幅があるが、大半が第Ⅰ様式あるいは第Ⅴ様式である。特に（111 － 24）の高杯は流路の底面で出土したことがわかる数少ないものであり、その特徴から第Ⅴ様式の範疇で捉えられるものである。したがって、流路７は少なくとも弥生時代後期まで存続していたことがわかる。流路の形成時期が縄文時代晩期後葉まで遡るかは不明であるが、出土土器がおおむね縄文晩期から弥生時代前期と弥生時代後期に大別でき、前者は５層内出土土器とほぼ同じ時期幅に収まるので、５層内からの混入品である可能性も考えられる。第４遺構面の他の遺構の年代観をふまえるなら、弥生時代後期以前の遺構と考えるのが妥当であろう。

護岸施設は、流路７が南北方向から東西方向へ屈曲する地点付近を中心に検出された。その検出状況は図 93 に示した。流路に平行あるいは直交に近い方向で検出されており、杭と矢板、横木の護岸材によって構成されている。これらは第５－１次調査時の段階で 55 本検出していたが、第５－２次調査では 2,000 本以上検出しており、その総量は 2,262 本に上る。このような護岸材の数量から、厳重に護岸が行われていた様子がみてとれる。これらは調査時に、一部例外を除いて便宜

的にA～Qの17列で記録・取り上げを行った。本報告ではそれらを精査し、図94のように5列の護岸杭列、6箇所の堰に整理した。そのうち188本の護岸材は、取上げ時に混乱があり、残念ながら杭列ないし堰のどの群に帰属するのか不明である。杭列は、杭や矢板を密に打ち込んでそれを大型の横木で支持しているのに対し、堰は杭列ほど密に杭や矢板を打ち込んでおらず横木もほとんど認められないなど、護岸材の使用状況が異なっている。

次に整理した護岸杭列と堰に沿って記述する。なお、杭列は図95～99に、堰は図100～105に群ごとの詳細な平面図と立面図を掲載しているので、併せて参照されたい。

護岸杭列は、前述したとおり5列認められ、方向は流路の方向とおおむね平行している。杭列A～Dは北岸に、杭列Eは南岸に設けられている。杭列は最も残存している杭列Dで約16ｍにわたって検出された。杭は丸太杭を中心に用いているが、一部に半裁したものや断面扇形を呈するものも認められるほか、矢板も使用している。それらは粘土・シルトと粗砂・砂礫の互層にほとんど間隔を空けることなく乱雑に打ち込まれ、これを横木で支持していた。また、理由は良く分からないが、据えられた横木そのものに杭を打ち込んでいるものも認められ、おそらく杭か横木のどちらかを固定するための処置と考えられる。北岸に4列、南岸に1列というように、流路の外側にあたり水流による削平を強く受ける北岸を重点的に護岸している様子がうかがえ、数回にわたって杭を打ち直しているものと推定される。流路7の北側に前述したピット61基が検出されているものの、周辺に居住域等の存在を示す明確な痕跡は認めら

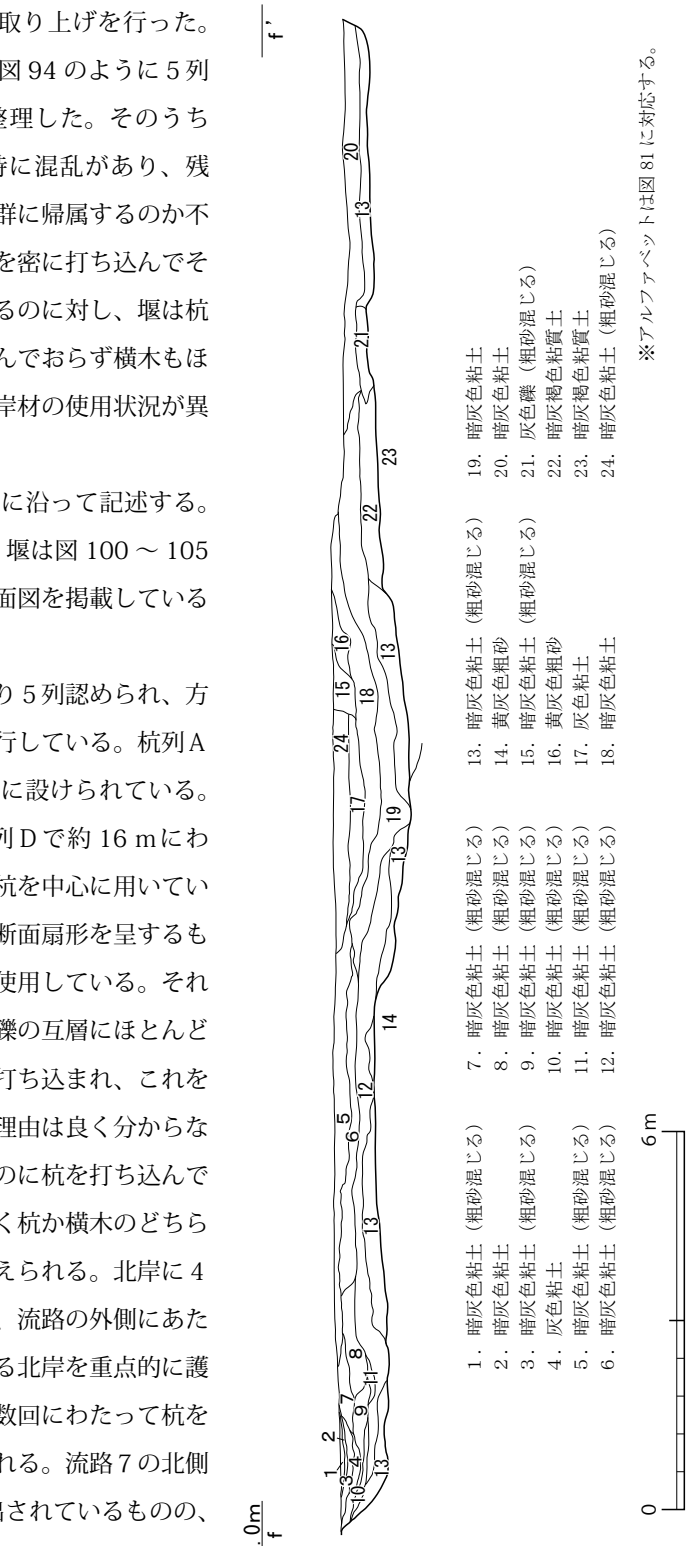
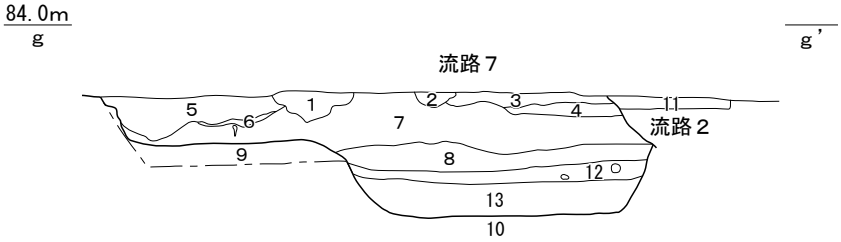
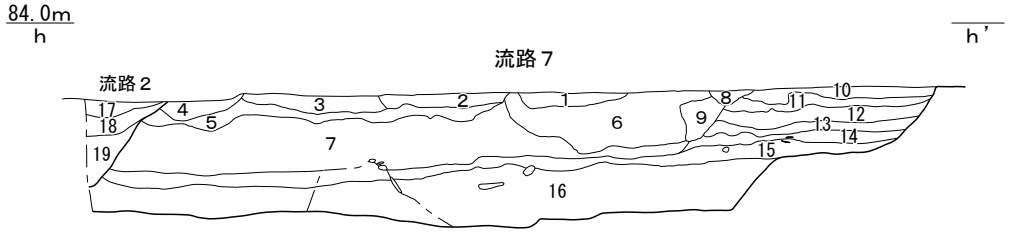


図91　第4遺構面　流路7　断面図（1）（S.＝1/120）



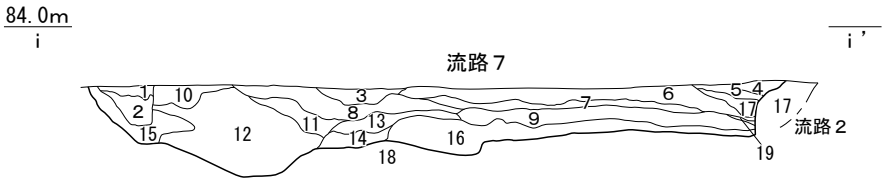
1．灰色粗砂土
2．暗灰色粘土
3．黄灰色粗砂
4．黄灰色粗砂（灰色粘土混じる）
5．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
6．灰色粘土
7．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
8．黄白色礫
9．暗灰褐色シルト
10．暗灰褐色シルト
11．灰色粗砂（灰色粘土混じる）
12．淡緑灰色粘砂土
13．黄灰色礫砂土

１．ｇ－ｇ’断面



1．灰色粘砂土
2．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
3．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
4．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
5．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
6．黄白色粗砂と灰色粘土との互層
7．暗灰色粘土
8．灰色粘砂土
9．暗灰色粘土
10．暗灰色粘土（粗砂混じる）
11．暗灰色粘土
12．暗灰褐色粘土
13．暗灰色粘土（砂礫混じる・木片含む）
14．暗灰色粘土（砂礫混じる・木片含む）
15．暗灰色粘土（砂礫混じる・木片含む）
16．暗灰色粘土（砂礫混じる・木片含む）
17．暗灰色粘土
18．暗灰色粘土と黄白色粗砂の互層
19．黄白色粗砂

２．ｈ－ｈ’断面



1．黄灰色細砂
2．青灰色細砂
3．青灰色細砂と粘土との互層
4．黄青灰色粗砂
5．暗褐青灰色粗砂
6．暗灰黄色粘砂土
7．灰色粘土と黄白色礫
8．黄青灰色粘土
9．暗灰白色粗砂
10．青灰色粘土と黄白色粗砂
11．白黄色粗砂
12．黄褐色礫砂
13．暗灰色粘土
14．暗灰色粘土（黄白色細砂混じる）
15．暗青灰色粘土
16．暗灰色粘砂
17．黄灰色粗砂
18．黄白色粗砂
19．青灰色粘土

３．ｉ－ｉ’断面

※アルファベットは図 81 に対応する。

図 92　第４遺構面　流路７　断面図（２）（Ｓ．＝1/120）

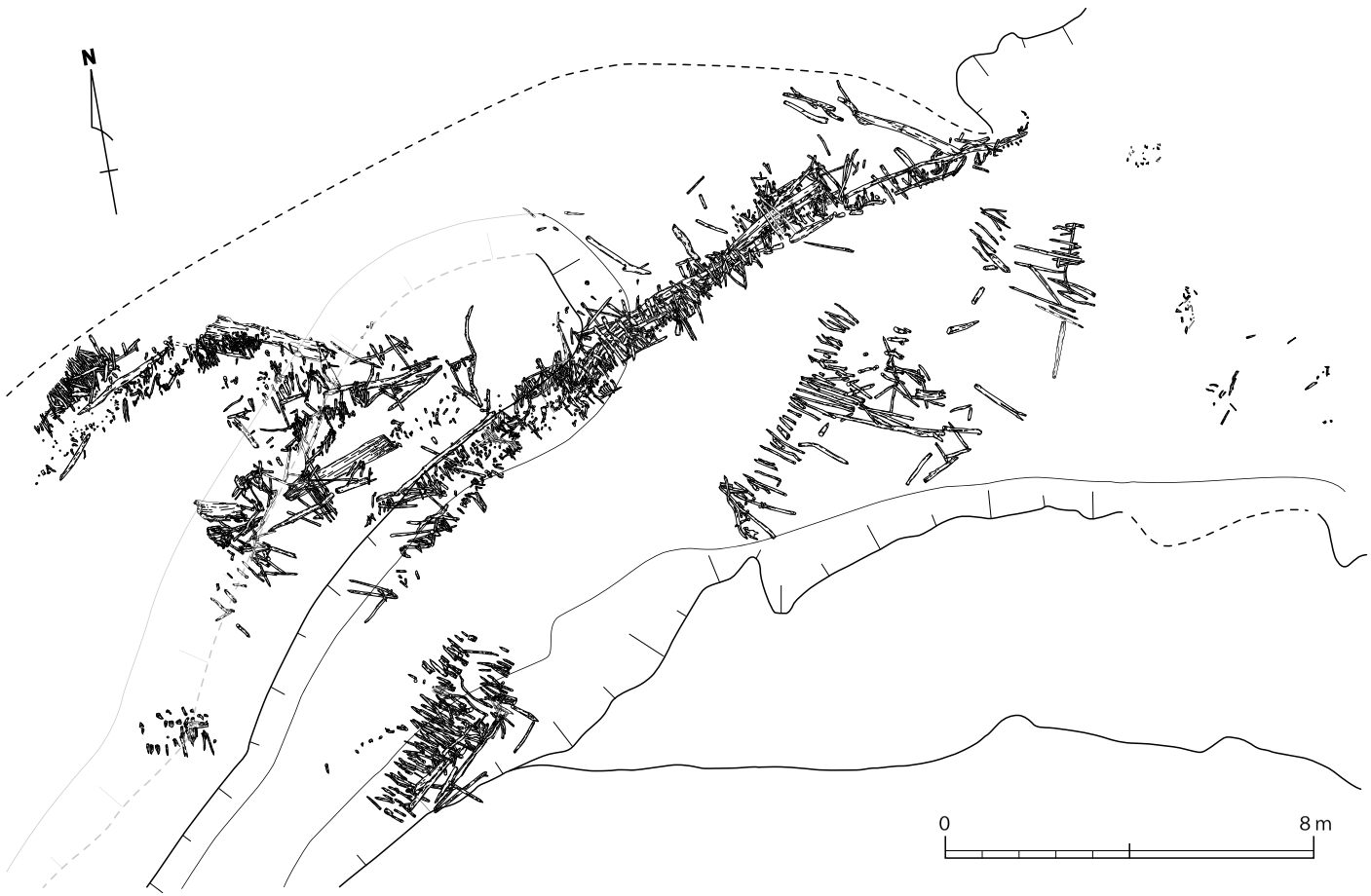


図 93　第４遺構面　流路７　護岸施設　（Ｓ．＝1/160）

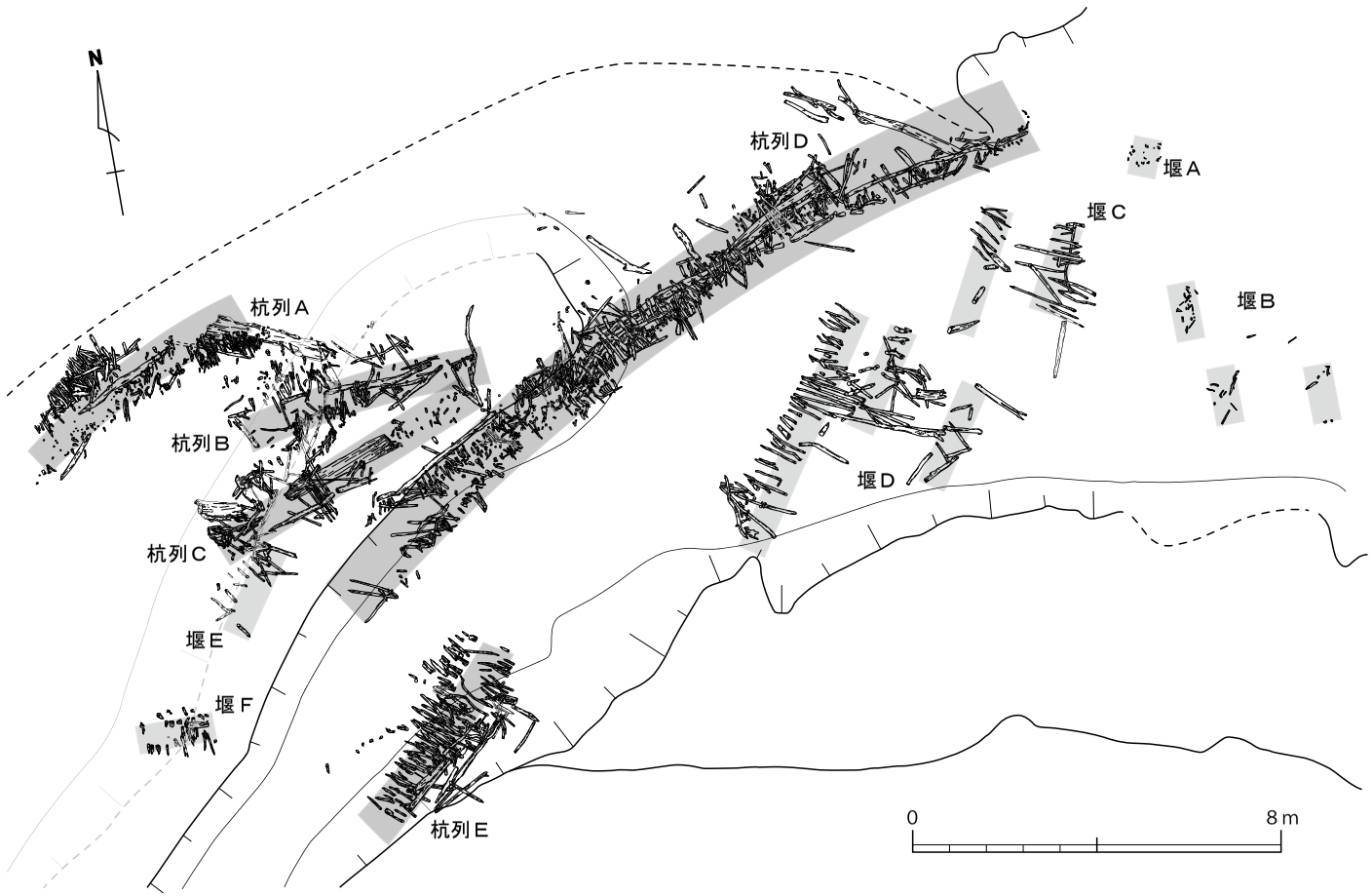


図 94　第４遺構面　流路７　護岸施設　杭列名称　（S.＝1/160）

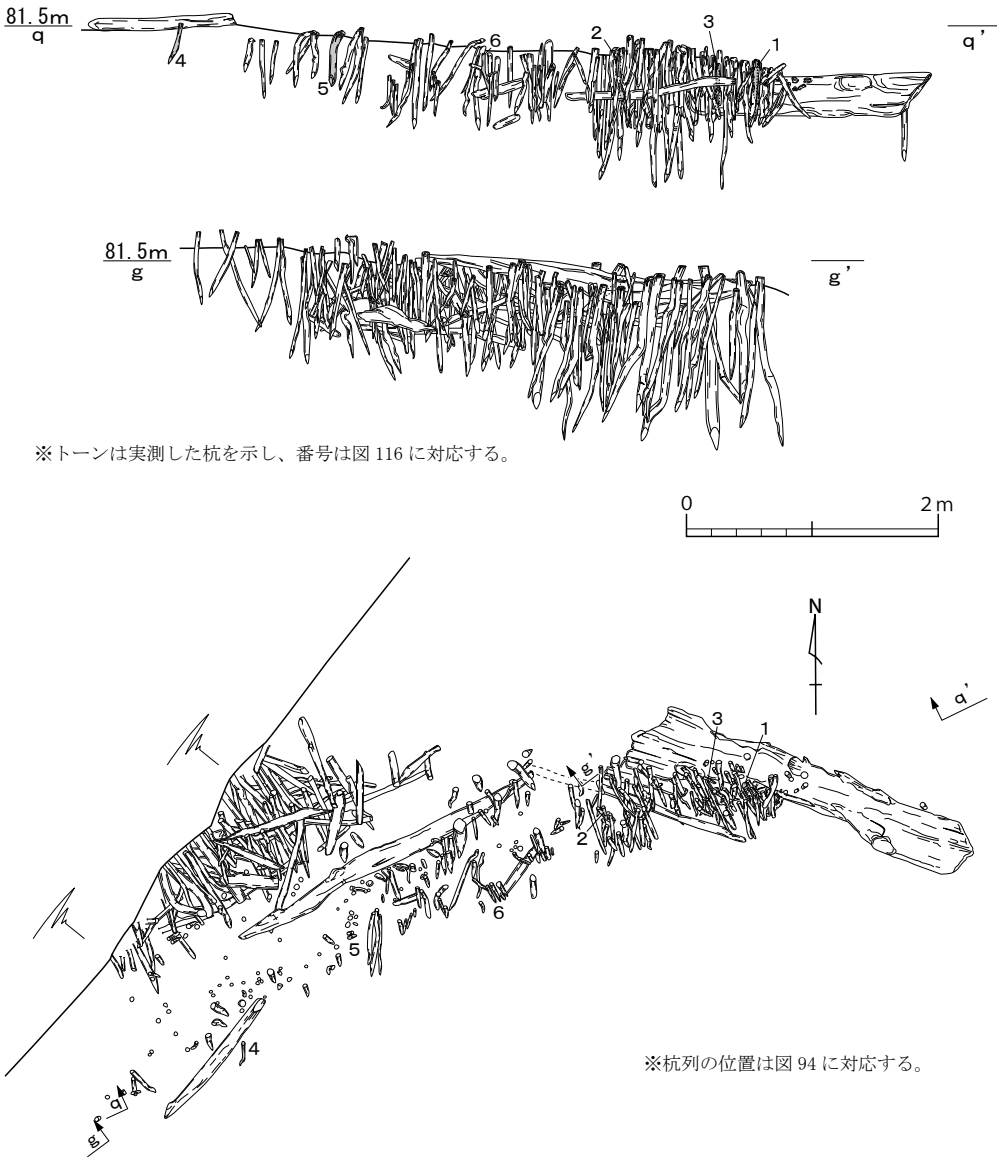


図 95　第４遺構面　流路７　杭列Ａ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

れない。しかし、このような厳重な護岸施設を設けていることから、近辺で人間が生活していた可能性が高いと推定される。なお、杭列の設けられた詳細な時期や堰との対応関係は不明である。

５列の杭列のうち、流路７北岸に設けられたのが杭列Ａ～Ｄである。図 94 に示したとおり、北側の杭列からＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄの順に呼称している。それぞれに時期差があることを明確に示すものは認められないが、おそらく北側の杭列Ａが古く、それが埋没して杭列Ｂを、また埋没して杭列Ｃを、といったように北側から南側の順に杭列が設けられたものと推定される。実際、杭列の状況をみると、最も南側の杭列Ｄが最も残存状況が良く、くわえて前述した内側の岸に沿って設けられて

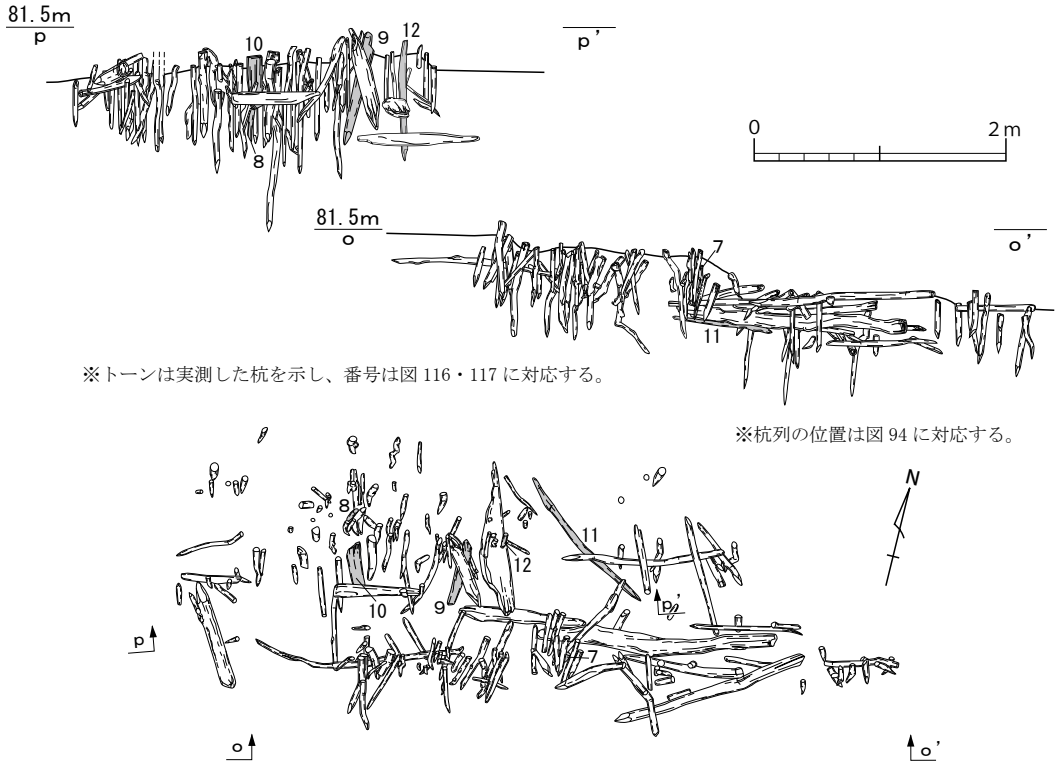


図 96　第４遺構面　流路７　杭列Ｂ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

いることがわかる。

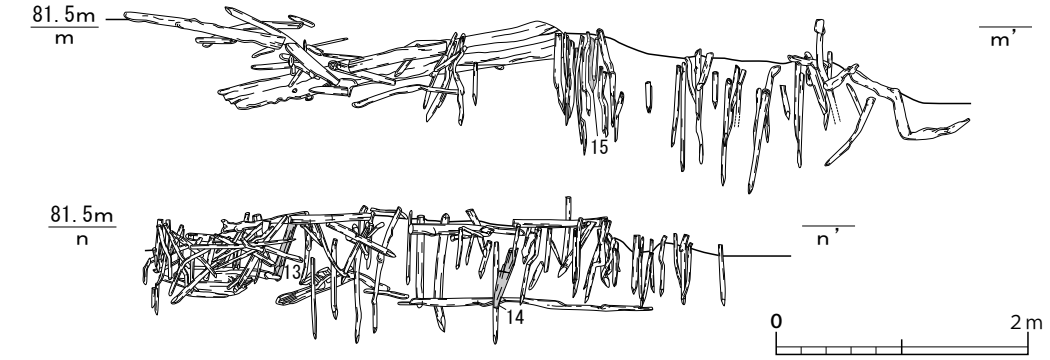
杭列Ａは最も北側に位置しており、検出長約 4.5 ｍである。442 本の杭･矢板が用いられており、一部横木も認められる。直線的に杭を打つのではなく弧を描くように打ち込んでいることから、杭列Ａが設けられた時の流路７北岸がその付近で屈曲していたものと推定される。横木の方向が杭列と同様の方向に合わせて変化していくこともそれを示しているものと考えられる。図 81 などに示した流路７の北岸ラインはこれを参考に復原している。

杭列Ｂは、杭列Ａの南東側に約 1.5 ｍ離れた位置で検出された。検出長は約 5.8 ｍで、170 本の杭･矢板･横木が用いられている。杭や横木の方向が杭列Ａと異なっており、やや南に振っている。

杭列Ｃは、杭列Ｂの南側に近接する位置で検出された。しかし、杭列Ｂとは杭や横木の方向が異なっていることから、異なる杭列と判断した。

検出長約 6.6 ｍで、合計 178 本の杭・矢板・横木が認められた。良好に残存する西側に対して東側はやや杭の本数が少ない。横木には大型の木材を用いており、最大のものでは長さ 2.7 ｍ、幅 0.5 ｍがある。南西端は後述する堰Ｅとほぼ接している。

杭列Ｄは北岸に設けられたものの中で最も南側で検出した。前述したように杭列の中では残存長約 16 ｍと残存度が最も良好であり、809 本の杭や矢板、横木で構成されている。図 98 に図示し



※トーンは実測した杭を示し、番号は図 117 に対応する。　※杭列の位置は図 94 に対応する。

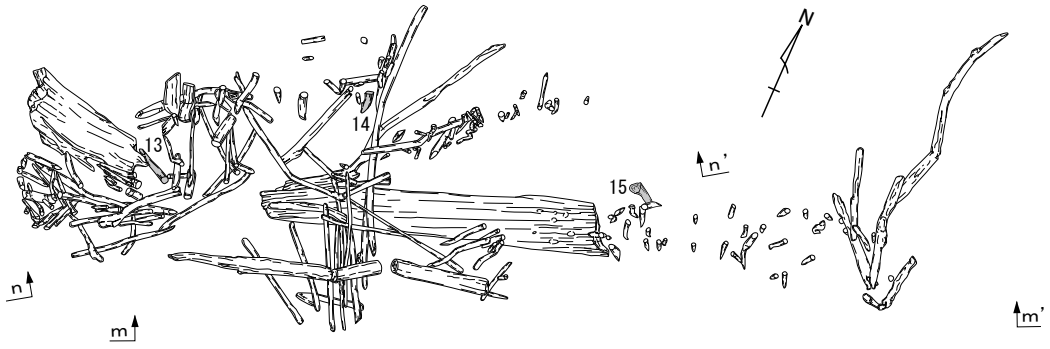


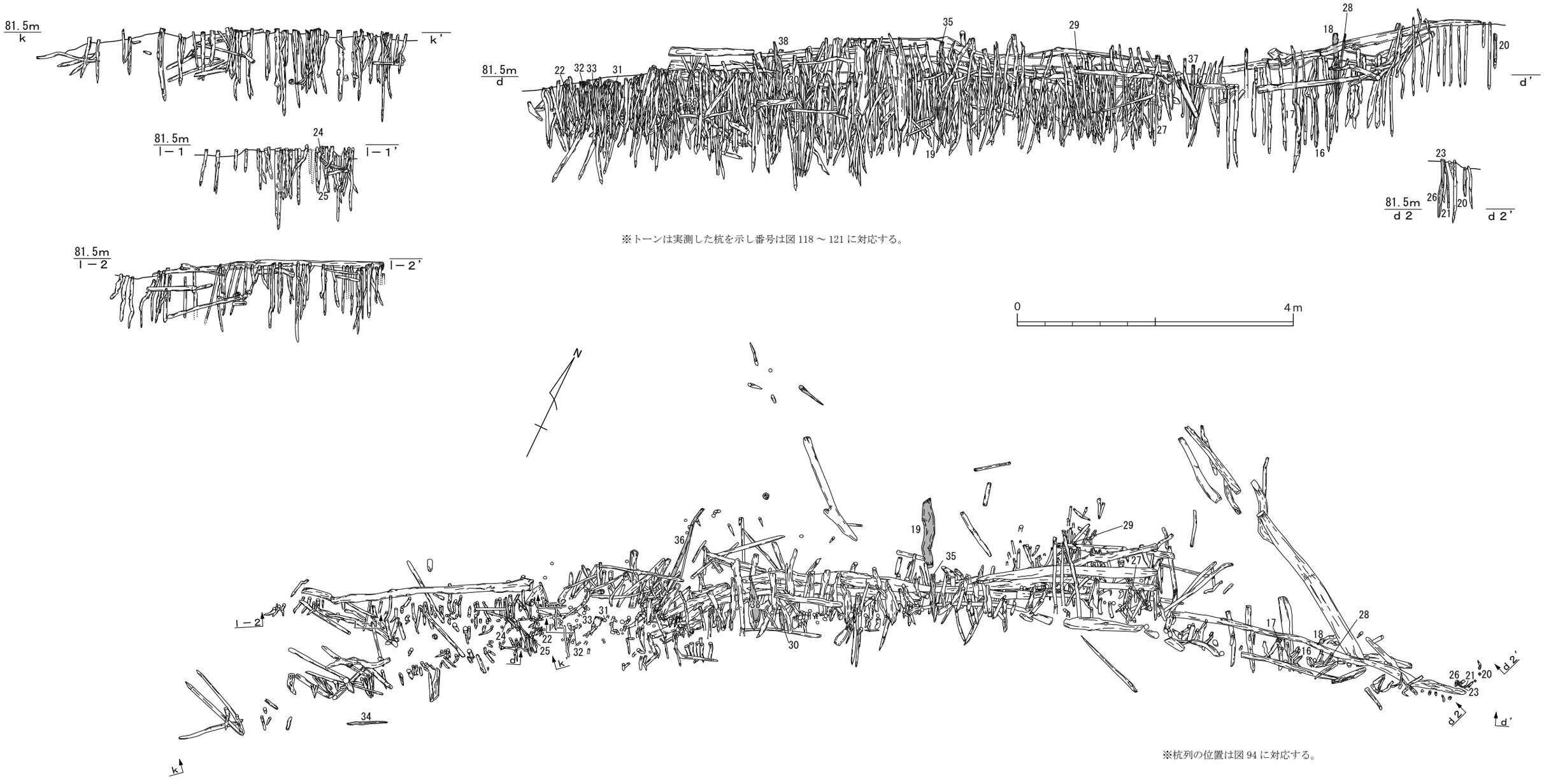
図 97　第４遺構面　流路７　杭列Ｃ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

たとおり、杭や矢板はほとんど隙間なく密に打ち込まれており、流路７の水流の強さがうかがえる。図 93 をみると、杭列は流路７の今回検出できた最終段階と考えられる北岸に沿っており、杭列Ｂ・Ｃの方向からみて杭列Ｄは前二者を切っているようにみえる。したがって、杭列Ｄが最も新しい杭列である可能性が高い。

杭列Ｅは、唯一南岸で検出された。検出長は 4.62 ｍで、166 本の杭・矢板などを北岸の杭列と同様に隙間なく密に杭を打ち込んでいる。杭列は内側の南岸に沿って設けられており、杭列Ｄと方向が対応していることから、一連の杭群と考えられる。図 99 をみると、おおむね杭列の方向は一定しているが、ｅ－１・ｅ－１’の杭列のみ東西方向になっていて他と異なっており、杭が打ち込まれた数も少なく間隔も広くなっていることから、この部分は堰である可能性も考えられる。

次に、上述した杭列や流路の岸とは明らかに方向が異なっており、流路の方向に直交とまではいかないものの斜め方向に打ち込まれた杭群を堰と判断した。調査時の記録などをみると、いくつかの列に分かれて構成されている。ここに堰を設けることで、どのようなメリットがあったのかは不明である。護岸杭列と同様に杭や矢板、横木を用いて構成されているが、横木は杭列に比べると少なくなっている。

堰Ａは、第５－１次調査時に検出されたもので、２トレンチで検出された北側の杭群にあたる。



※トーンは実測した杭を示し番号は図 118 ～ 121 に対応する。

※杭列の位置は図 94 に対応する。

図 98　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

東西方向に打ち込まれた 27 本の杭で構成されているが、杭が打ち込まれた密度はあまり高くなくややまばらである。残存度は良好ではなく、詳細については不明である。

堰Ｂは、堰Ａと同じく第５－１次調査時に検出されており、２トレンチの南側の杭群がそれに相当する。検出された位置は護岸施設の中で最も東側で、流路７の南岸よりの地点である。おおむね流路７南岸に垂直の方向で設けられている。53 本の杭で構成されている。堰Ａと同様に残存度が低くその詳細は不明であるが、図 94 に示したように、杭の位置関係から２～３列に分かれるものと考えられる。

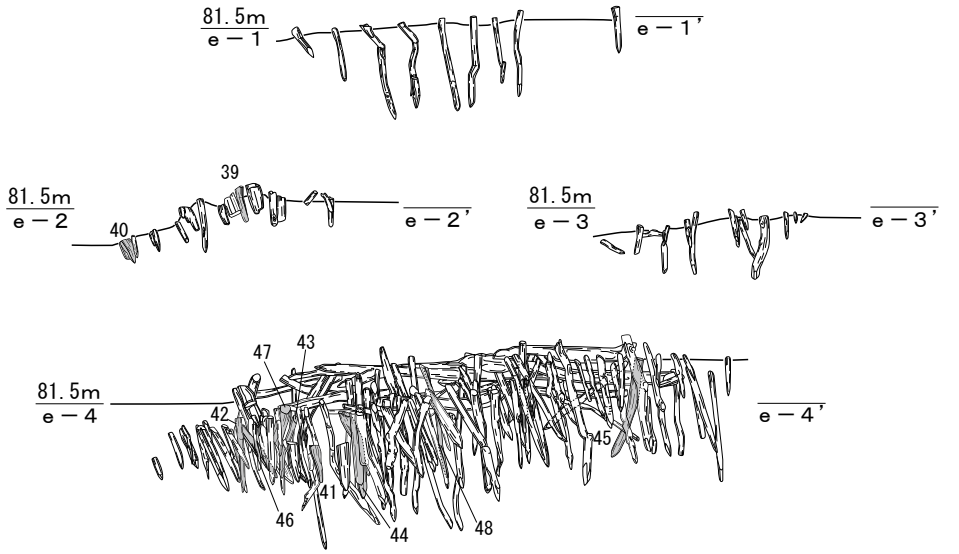
堰Ｃは、堰Ｂの西側 2.4 ｍ離れた位置で、２列にわたって検出された。検出長は 2.4 ｍである。35 本の杭と横木で構成されている。立面図は東側の列をｂ－ｂ’断面に、西側の列をｃ－ｃ’立面として、平面図とあわせて図 102 に掲げた。堰の構造は杭を垂直方向に打ち込みそれを横木で支持したものであるが、そのほとんどが東側に向かって横倒しかそれに近い状態で検出されている。杭は東側に倒れており、その方向が流路７の流水方向と一致することから、埋没時に洪水等の強い流水を受けて倒れたと考えられる。

堰Ｄは、堰Ｃの南西約１ｍの位置で検出されたもので、検出長は 7.8 ｍで、計 124 本の杭・矢板・横木が残存していた。南端は流路７の南岸に近接している。堰は３列設けられているが、図 94・図 103 にも示したように、最も西側のｉ－１・ｉ－１’の杭は東から西に向かって打ち込まれているのに対し、中央と東側のｉ－２・ｉ－２’、ｉ－３・ｉ－３’は西から東に向かって打ち込まれていて、杭の方向が異なっている。最も残存度の良かったｉ－１・ｉ－１’は、北側は杭は比較的密に打ち込まれているが、南側はやや間隔を空けている。ｉ－２・ｉ－２’、ｉ－３・ｉ－３’は残存度が良好ではないが、やや間隔を空けて杭を打ち込んでいる。

堰Ｅは、杭列Ｃの南西端にほぼ接する位置で検出された。検出長 2.24 ｍで、31 本の杭が残存していた。杭列とあまり方向が変わらないようにみえるが、流路７の方向が変わる地点に位置しており、おおむね流水方向に直交し他の堰ともほぼ平行であるので、杭列ではなく堰と認識した。堰Ｅが検出された地点は杭列Ｄより西側であり、杭列ＡからＣのいずれかの段階に対応する可能性が高いと考えられる。

堰Ｆは、護岸施設の中で最も南西の位置で検出されたものである。検出長 1.6 ｍで、39 本の杭・矢板が残存していた。東西方向にのびていて流路の方向とほぼ直交しており、周辺の杭列とも明らかに方向が異なっている。堰Ｅと同様に流路の方向変換点に設けられており、堰Ｅとあわせて流路７の方向変換点の流水を調整していた可能性が考えられる。

以上のように、流路７は５列の杭列と６列の堰が設けられた状況がみてとれた。流路７の周辺には前述したピット群が存在するものの、明確な人間の生活痕跡は認められない。しかし、これだけ厳重な護岸を行っていることから、周辺に居住域ないしは生産域があった可能性が高いと考えられる。



※トーンは実測した杭を示し、番号は図 122 ～ 123 に対応する。

※杭列の位置は図 94 に対応する。

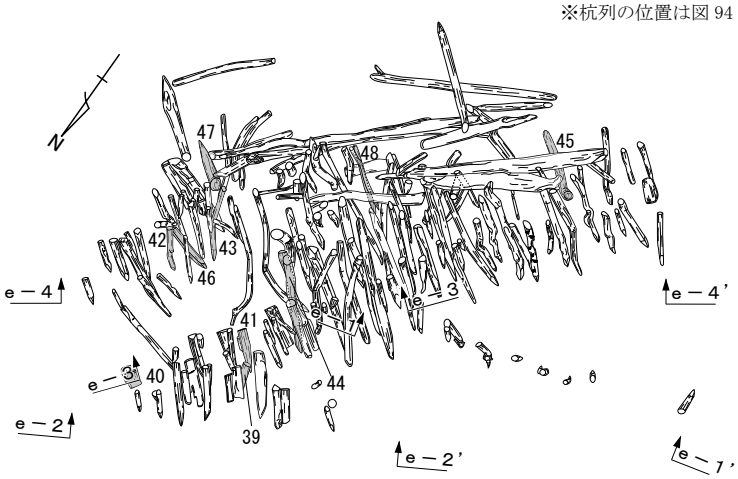


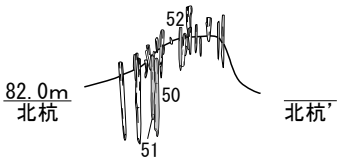
図 99　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

③流路８（図 82・図 106）

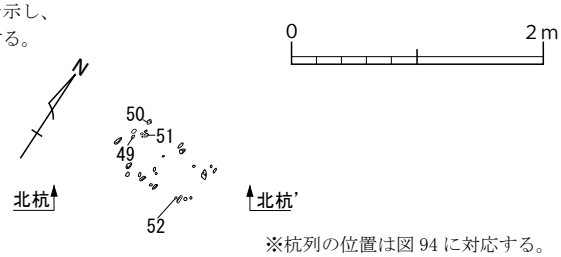
２区の北端付近で検出した検出長 56.4 m、幅 6.6 m、深さ 2.5 mの南西－北東方向の自然流路である。中央付近で２度屈曲し、Ｓ字状を呈する。北岸の一部と南岸の大半は流路４に切られており、それぞれ一部しか検出できていない。流路７とは規模は異なるものの、形状や流水方向は類似している。

埋土は、流路の底面から２m程度の厚さで粗砂や砂礫土が堆積しており、その上に薄い細砂や粘土が堆積している。粗砂が中心であることから、比較的流れが急な流路であったと考えられる。

出土遺物は弥生土器が４点ある。いずれも小片で図化することはできなかった。そのうち壺の頸

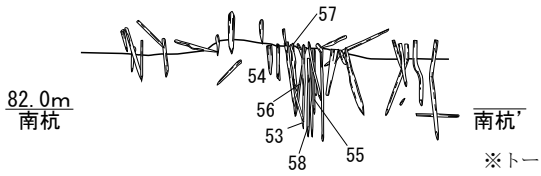


※トーンは実測した杭を示し、
番号は図 124 に対応する。

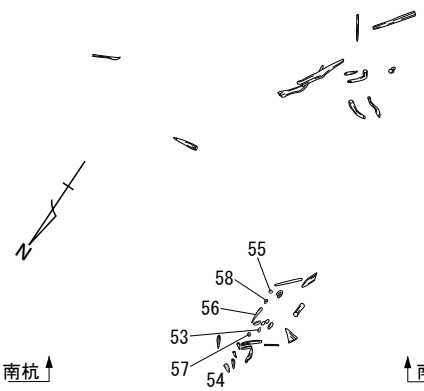


※杭列の位置は図 94 に対応する。

図100　第４遺構面　流路７　堰Ａ　平面図・立面図　（Ｓ．＝1/60）

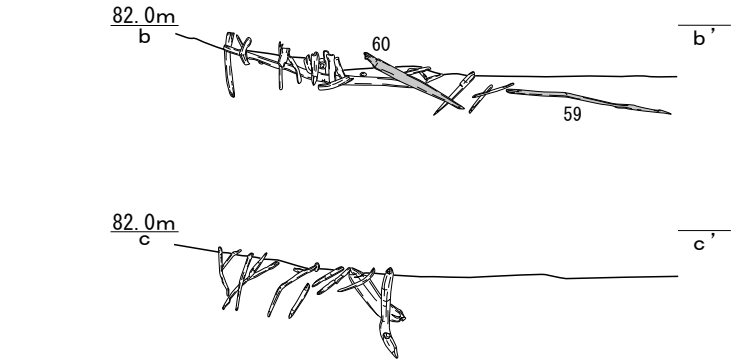


※トーンは実測した杭を示し、
番号は図 124 に対応する。

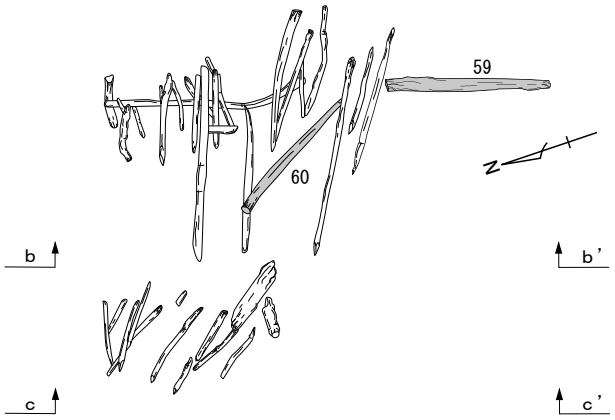


※杭列の位置は図 94 に対応する。

図 101　第４遺構面　流路７　堰Ｂ　平面図・立面図　（Ｓ．＝1/60）



※トーンは実測した杭を示し、番号は図 125 に対応する。



※杭列の位置は図 94 に対応する。

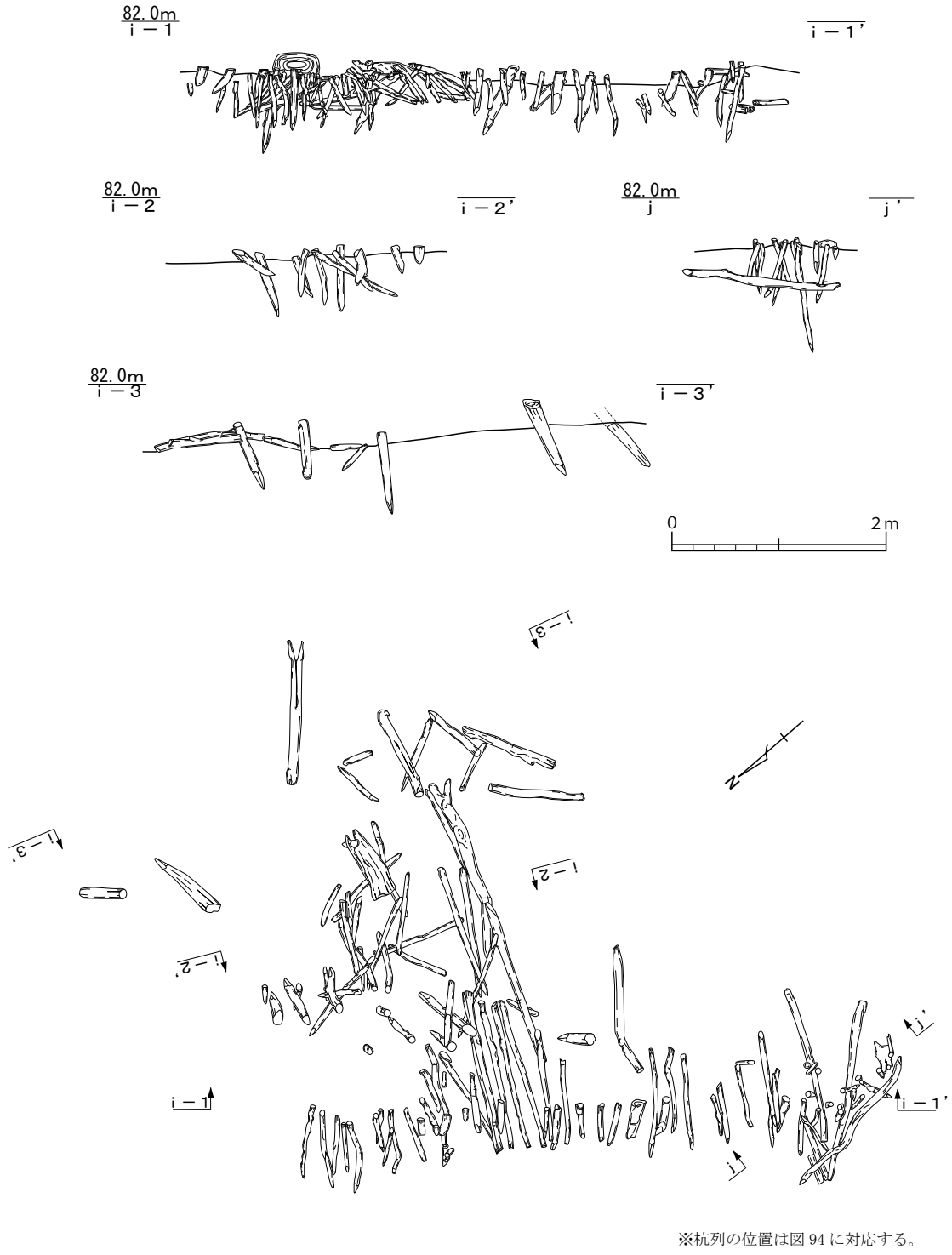
図102　第４遺構面　流路７　堰Ｃ　平面図・立面図　（Ｓ．＝1/60）

部の破片と考えられるものには、削出突帯が２条施されていることから、畿内第Ⅰ様式の範疇で捉えられる。

④溝５（図 81・図 83・図 107）

第５－１次調査時に１トレンチで検出された溝とその延長部分である。検出長９ｍ、幅 60cm、深さ 64cm の幅が狭い割りに深さの深い溝で、緩やかに弧を描きながら東西方向に延びている。中央やや東寄りの地点でやや幅広になる。断面形態は縦長のＵ字形を呈する。溝の西側は流路２によって切られている。埋土は灰色系統の粘土が２～３層に分かれて堆積している。

出土遺物は縄文土器や弥生土器がコンテナ約半箱分程度ある。いずれも小片のため詳細な時期はわからない。したがって、溝５の時期比定は困難であるが、検出した層位をふまえると流路７や溝６とほぼ同時期の弥生時代後期頃と推定される。



※杭列の位置は図 94 に対応する。

図 103　第４遺構面　流路７　堰D　平面図・立面図　（S.＝1/60）

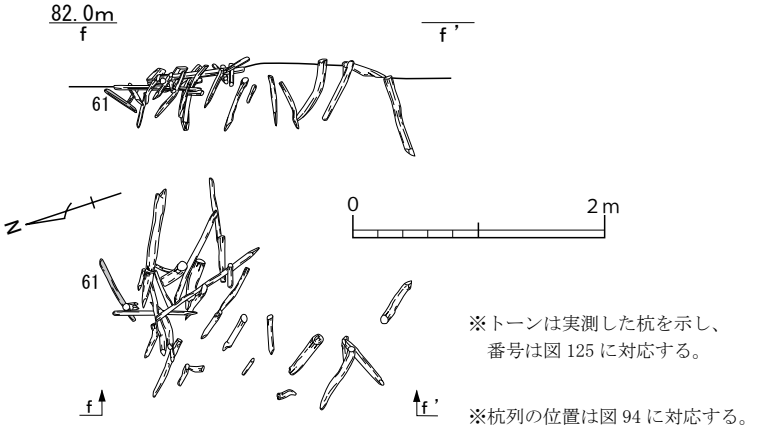


図 104　第４遺構面　流路７　堰Ｅ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

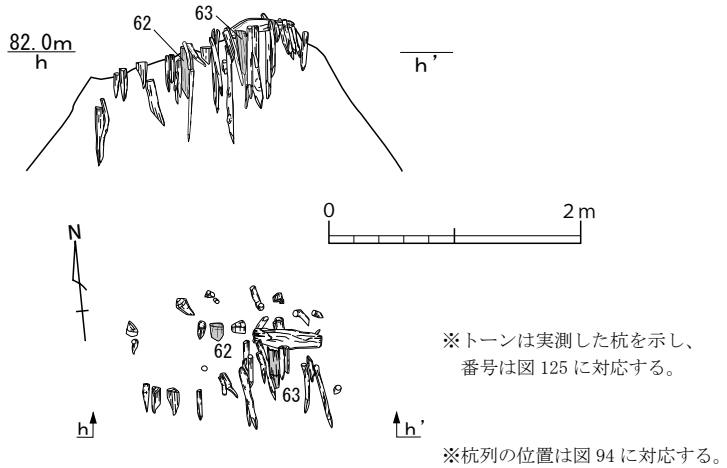


図 105　第４遺構面　流路７　堰Ｆ　平面図・立面図　（Ｓ.＝1/60）

⑤溝６（図 81・図 83・図 108）

１区中央付近で検出した、検出長 15.3 m、幅 0.9 ～ 2.1 m、深さ 46cm の東西方向の溝である。西端は流路２に切られている。また、一部ピットとも切り合い関係が認められる。両者は同一遺構面であるが、溝６は少なくとも切り合い関係があるピットより先行して掘削されたことがわかる。前述したとおり幅にバラつきがあるが、おおむね 90cm 前後で西端付近のみ両岸がふくらんで幅が２m程度になる。断面の形状は、上方がやや開いたＵ字形を呈する。

埋土は青灰色の粘質土で３層に分けられ、上層には鉄分が沈着している。しかし、それは堆積状況の違いに起因するものであり、時期差を示すものではない。

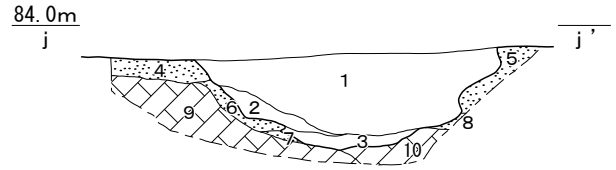
出土遺物には、弥生土器片３点と石器２点がある。土器は小片であるが、タタキ調整を施した甕の破片等が認められることから、弥生時代後期のものである。したがって、溝の時期も弥生時代後

期と考えられる。石器は、サヌカイト製の打製石鏃などがある。

⑥溝７（図 82・図 109）

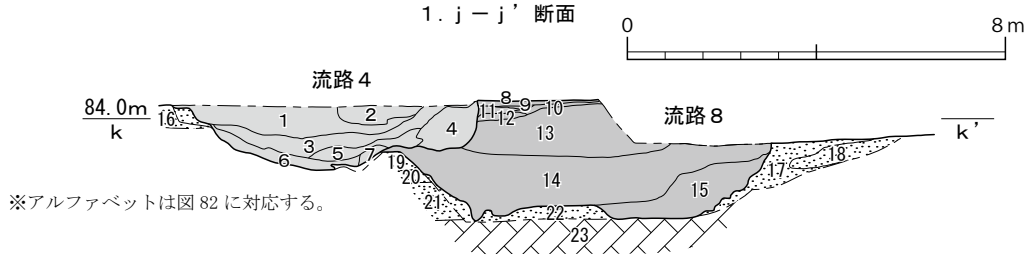
３トレンチの下層確認の際に検出された、検出長 8.6 m、幅 1.1 m、深さ 16cm の溝である。その位置は２区北東隅近くになる。南側は流路４が近接しているため、第５－２次調査時には延長部分の検出が行われていない。図 109 に示したように断面図が記録されているが、埋土に関しては記述がなく写真も残されていないため不明である。図７の２区東壁断面図を参考にするなら青灰色系統の粘質土であったとも考えられるが、本来あるべきはずの溝の断面がみられないため確実なことはわからない。

出土遺物もなく遺構の時期について明確に決定しうる根拠に欠けるが、検出されたのは遺構のレベルから考えて５層上面であることから、弥生時代後期以前と推定できる。図 82 をみてもわかるように流路８と平行に延びており、時期的にも併行する可能性が高いものと思われる。



1．黄白色粗砂
2．青灰褐色粘土（シルト混じる）
3．黄青白色粗砂
（流路８埋土）
4．暗褐灰色粘土（粗砂混じる）
5．青灰色粘土（粗砂混じる）
6．暗青褐色粘土（粗砂混じる）
7．青黄色細砂
8．暗灰褐色粘土（粗砂混じる）
9．黄白橙色粗砂
10．青黄白色粘土（粗砂混じる）

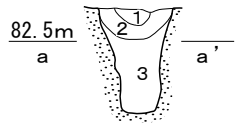
１．ｊ－ｊ’断面



1．黄褐色粘土（黄白色細砂混じる）
2．撹乱土
3．黄白色細砂（灰褐色極細砂混じる）
4．灰白色極細砂
5．黄橙色粗砂
6．黄橙色礫土
7．黄灰色極細砂
（流路４埋土）
8．黄橙色粘土
9．灰褐色極細砂
10．灰褐色極細砂
11．黄灰色極細砂
12．黄灰色極細砂
13．黄白褐色礫砂土
14．黄灰色粗砂
15．青灰色極細砂と黄灰色粗砂の互層
（流路８埋土）
16．黄褐色粘土
17．青灰色粘土
18．黄褐色粗砂
19．青灰色粘土
20．暗灰褐色粘土（粗砂混じる）
21．青灰色粘土（粗砂混じる）
22．青灰色粘土（粗砂混じる）
23．黄白橙色粗砂

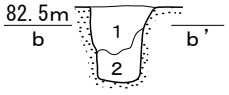
２．ｋ－ｋ’断面

図 106　第４遺構面　流路８　断面図　（S.＝1/160）



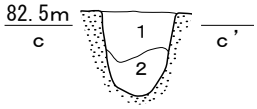
1．灰黄色粘土
2．青灰褐色粘土
3．暗灰色粘土

1．a－a’断面



1．灰色粘砂土
2．暗灰色粘砂土

2．b－b’断面

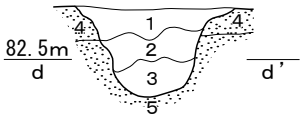


1．灰色粘砂土
2．暗灰色粘砂土

3．c－c’断面

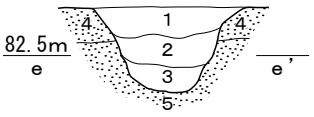
※アルファベットは図 81・83 に対応する。

図 107　第４遺構面　溝５　断面図　（S.＝1/40）



1．灰褐色粘質土（砂混じる・鉄分沈着）
2．明青灰色粘質土（砂混じる・鉄分沈着）
3．暗青灰色粘質土（砂混じる）
4．明黄褐色粘質土（鉄分沈着）
5．明青灰色粘質土

1．d－d’断面



1．灰褐色粘質土（砂混じる・鉄分沈着）
2．明青灰色粘質土（砂混じる・鉄分沈着）
3．暗青灰色粘質土（砂混じる）
4．明黄褐色粘質土（鉄分沈着）
5．明青灰色粘質土

2．e－e’断面

※アルファベットは図 81・83 に対応する。

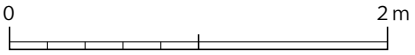


図 108　第４遺構面　溝６　断面図　（S.＝1/40）

1．l－l’断面

2．m－m’断面

※アルファベットは図 82 に対応する。

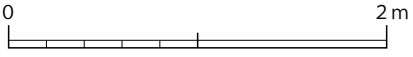


図 109　第４遺構面　溝７　断面図　（S.＝1/40）

２．遺物

①土器・土製品

図 110・111 に第４遺構面流路７から出土した土器を掲載した。

（110 － 1 ～ 6）は縄文時代晩期の深鉢である。（110 － 3・6）は体部である。貼付突帯が付き、刻目を施す。（110 － 1・2・4・5）は口縁部である。それぞれ刻目突帯が付く。突帯の形状から（110 － 1 ・ 2）は長原式、（110 － 4 ・ 5）は船橋式に属する。

（110 － 7 ～ 13）は弥生時代前期の土器である。（110 － 7）は鉢である。外面にヘラ描沈線文が８条巡る。（110 － 8・9）は壺の肩部である。（110 － 8）は削出突帯が２条巡る。（110 － 9）は細かいヘラ描沈線文が４条巡る。（110 － 10 ～ 13）は甕である。（110 － 10 ～ 12）は口縁端部に刻目を施す。（110 － 13）はナデを施す。口縁部直下にはヘラ描沈線文がそれぞれ巡る。（110 － 10）は３条以上、（110 － 11・13）は３条、（110 － 12）は６条である。これらの土器は形態的特徴から、縄文時代晩期船橋式～畿内第Ⅰ様式新段階に属し、時期幅が存在する。

（111 － 14 ～ 24）は弥生土器である。（111 － 14）は甕の口縁部から体部である。（111 － 15 ～ 17・19）は畿内第Ⅰ様式の壺である。（111 － 15 ～ 17・19）は底部である。（111 － 15）は内外面にケズリを施す。（111 － 17･19）は外面にハケを施す。（111 － 16）は内面にハケを施す。（111 － 18）は畿内第Ⅴ様式の壺である。内外面にハケを施す。（111 － 22）は畿内第Ⅲ～Ⅳ様式の甕である。内外面にハケを施す。（111 － 20・21・23）は畿内第Ⅴ様式の土器の底部である。（111 － 21）は内面にクモの巣状ハケが残る。（111 － 24）は畿内第Ⅴ様式の高杯の脚台部である。外面にヘラミガキを施す。裾部には２段の穿孔があり、上段３孔、下段１孔が残る。これらの土器は形態的特徴から弥生時代前期～後期までの時期幅が存在する。

②石器・石製品

図 112 ～ 114 に第４遺構面流路７から出土した石器を掲載した。

（112 － 1）はサヌカイト製の打製石剣である。基端部に原礫面が残る。断面形は紡錘形を呈する。両側縁は幅広にならずほぼ並行で、1/4 から先端にかけて厚み・幅ともに減じる。先端に古い欠損があるものの、側縁部には摩滅や刃潰れはみられず、ほぼ未使用であると思われる。

（112 － 2）は緑泥片岩製の石包丁である。背部が半月形､刃部が直線形の直線刃半月形を呈する。紐穴から背部にかけてわずかに潰れる部分があり、使用の際の紐擦れによるものと思われる。

（113 － 3）はサヌカイト製の削器もしくは楔形石器である。横長剝片の側縁部に細部調整を施し刃部とする。刃部は丸く潰れる部分がみられ、対向する頂部にも敲打痕があることから楔形石器の可能性がある。

（113 － 4）はサヌカイト製の削器である。横長剝片の打点部に細部調整を施し、側縁部を鈍くする。細部調整をしない方の側縁部を使用した可能性がある。

（113 － 5）は結晶片岩製の石鋸である。三角形の板状の素材で、節理を斜めに用いる。長辺の

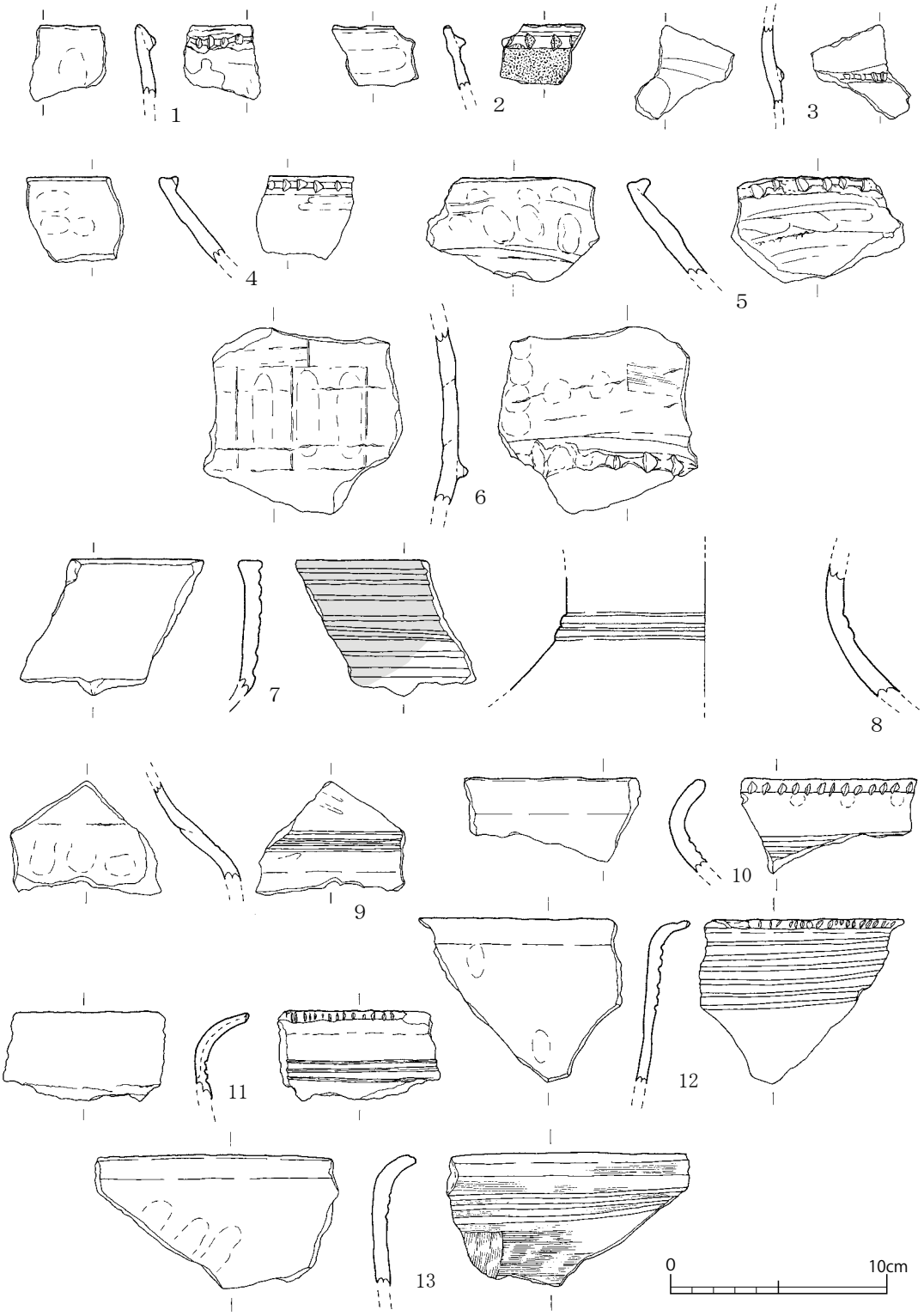


図 110　第４遺構面　流路７　出土土器（１）（S.＝1/3）

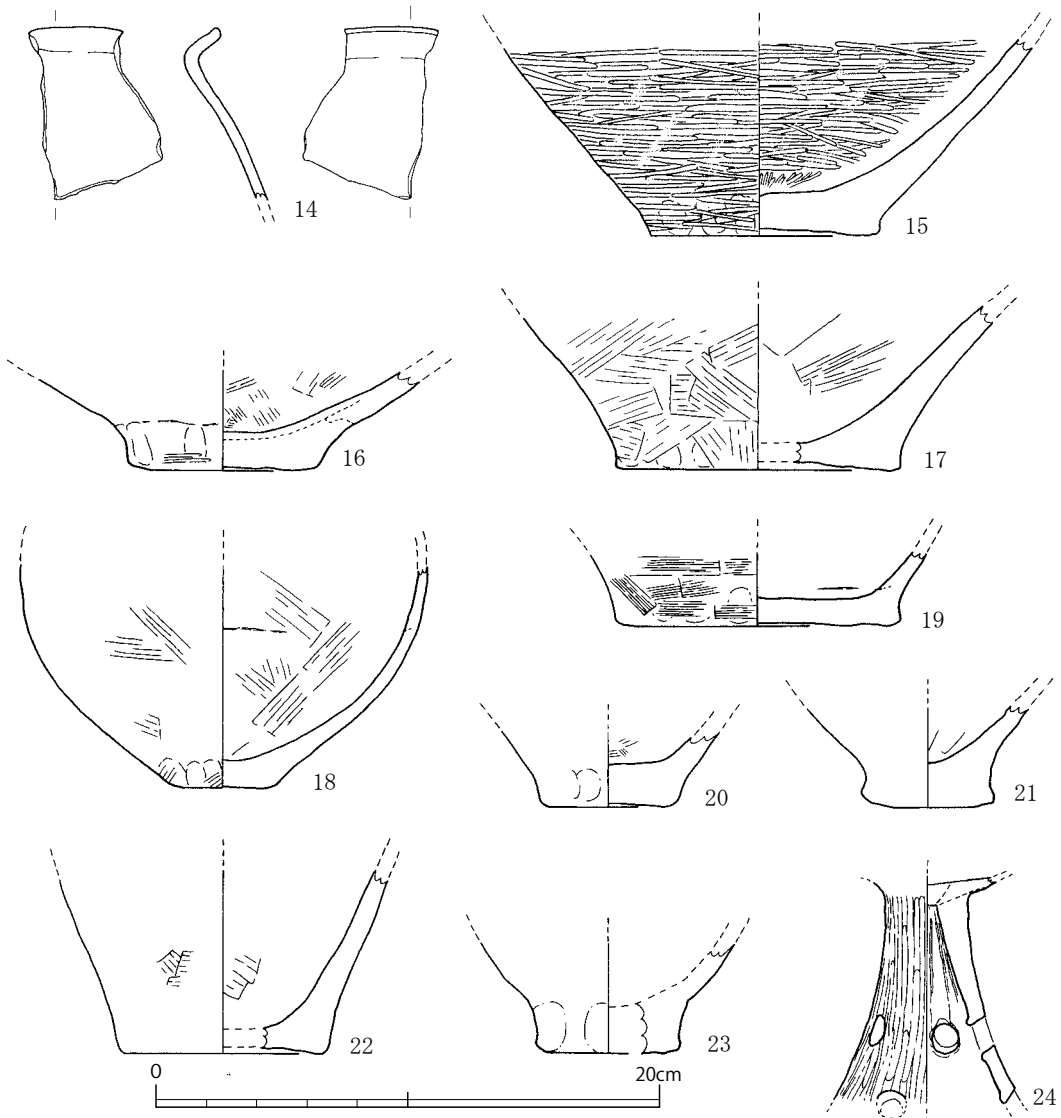


図 111　第４遺構面　流路７　出土土器（２）（S.＝1/3）

下部が切削面として利用される。

（114 －６）は安山岩製の敲き石である。柄を装着したと思われる部分に摩滅があり、磨製石斧の刃部を欠失したものを転用したものと思われる。欠損面に複数の敲打痕がみられる。

図 115 に第４遺構面ピット、溝５・６から出土した石器を掲載した。

（115 －１）はピット、（115 －２）は溝５、（115 －３）は溝６からそれぞれ出土した。

（115 －１）はサヌカイト製の削器もしくは石匙の未成品である。細部調整は部分的であり、連続性はみられない。

（115 －２）は砂岩の小礫である。全体に被熱による赤変がみられ、1/3 を欠失する。加工など

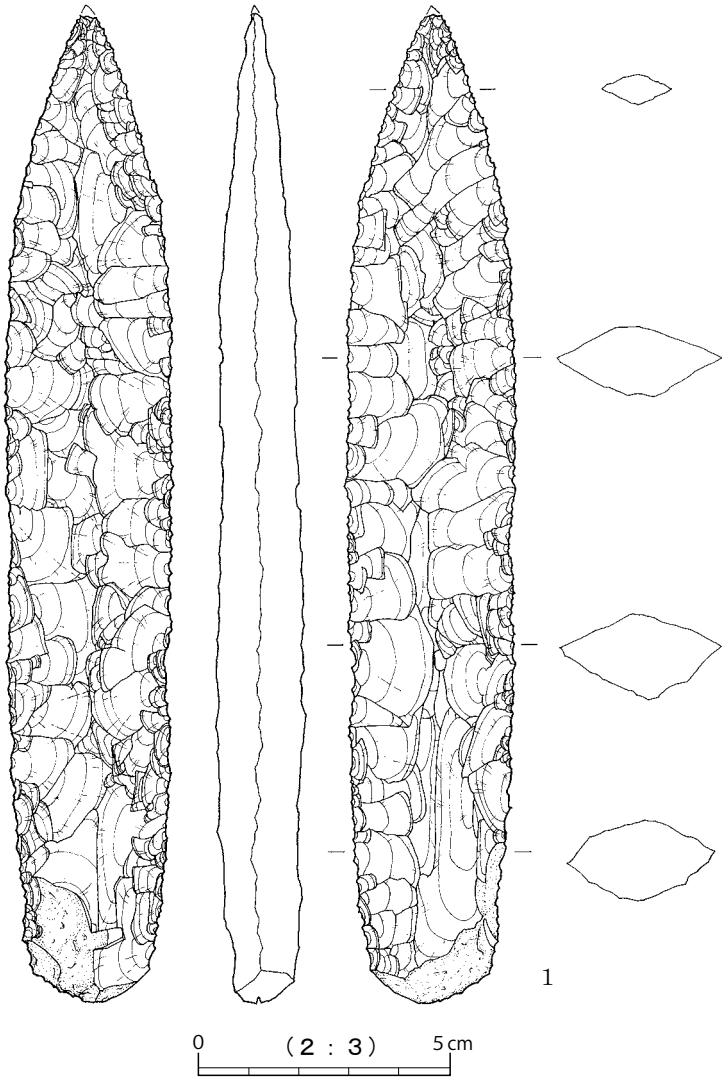


図 112　第４遺構面　流路７　出土石器（１）（１；S.＝2/3，２；S.＝1/3）

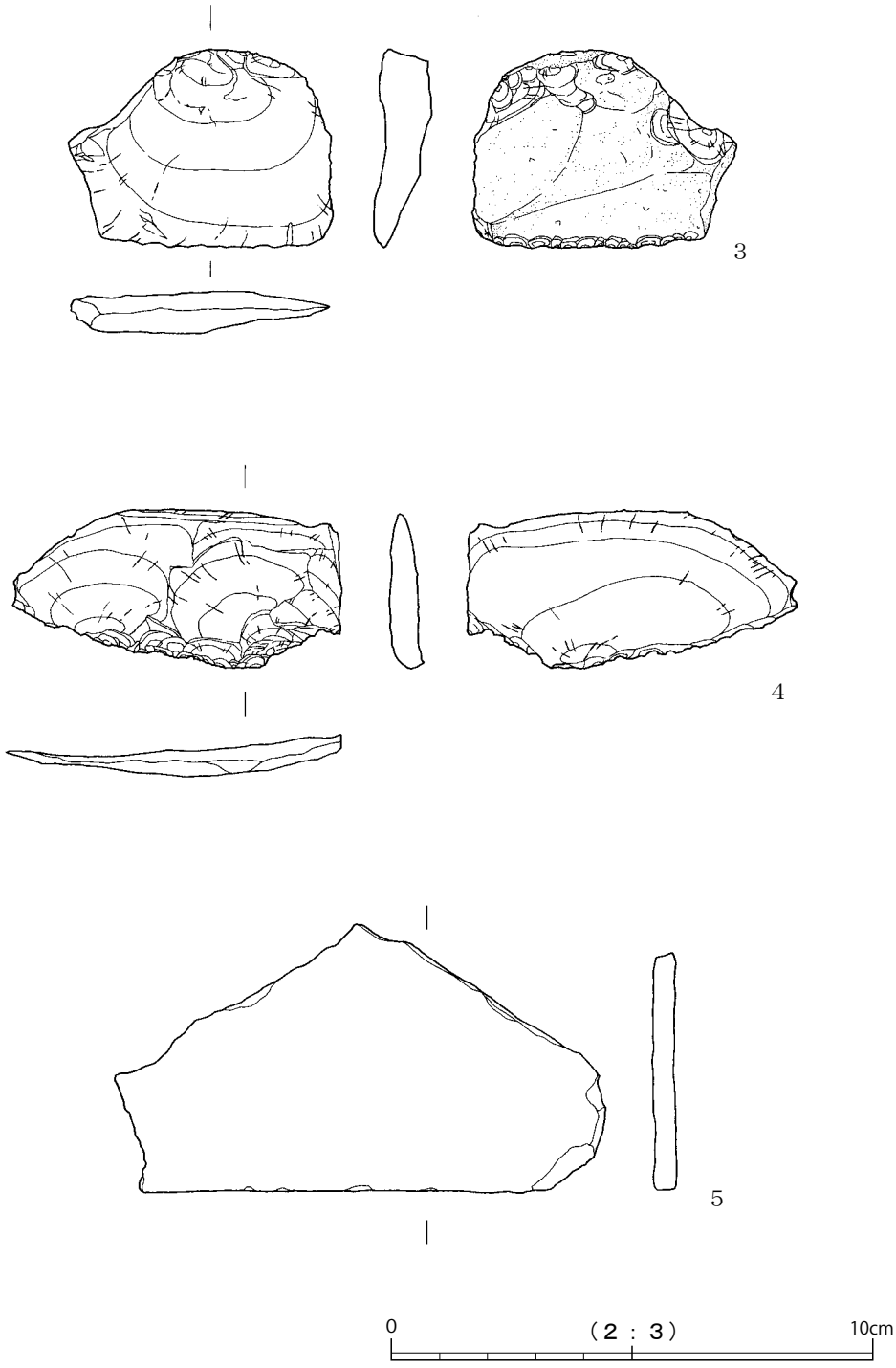


図 113　第４遺構面　流路７　出土石器（２）（S.＝2/3）

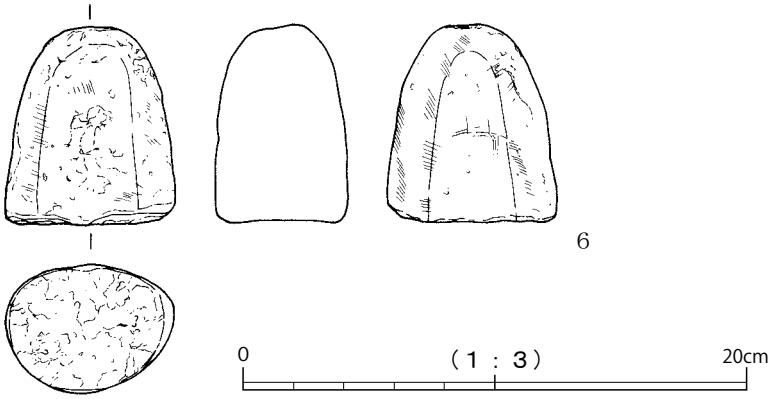


図 114　第４遺構面　流路７　出土石器（３）（S.＝1/3）

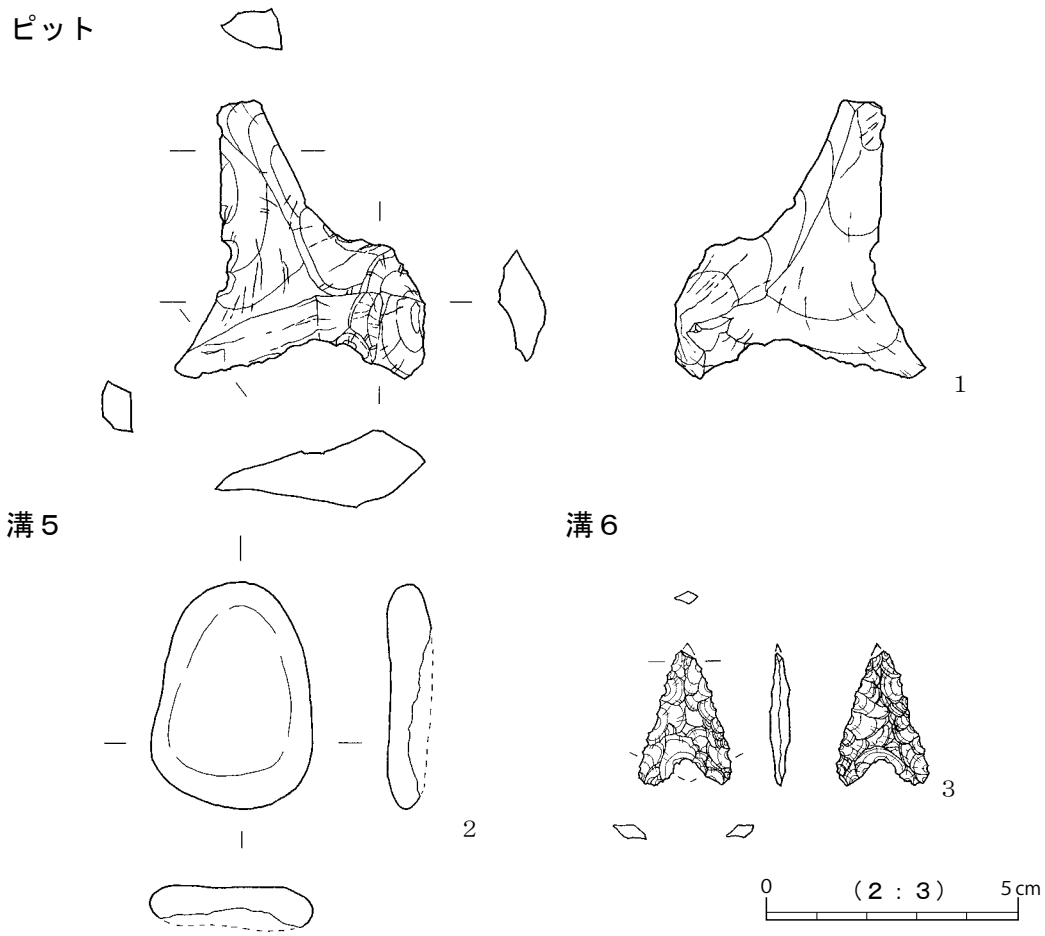


図 115　第４遺構面　ピット、溝５・６　出土石器　（S.＝2/3）

はみられない。

（115 － 3）はサヌカイト製の凹基式石鏃である。断面形は紡錘形を呈し、先端部をわずかに欠失する。側縁部の細部調整は鋸歯縁をつくりだす。

③木器・木製品

第 4 遺構面から出土した木製品は、流路 7 の護岸施設に用いられた杭・矢板等である。前述したようにその総数は 2,262 本（杭 2,142 点・矢板 49 点・横木 69 点・板材 1 点・有頭棒 1 点）に上るが、そのうち先端加工の痕跡が明瞭に残るものなど 63 点を抽出して図化を行い、図 116 ～ 125 にその実測図を掲載した。また、各々の計測値等は別表 4 － 1 にまとめている。

特徴的なものとして杭列Dに用いられた杭に転用されたとみられる有頭棒（119 － 27）がある。

これらのうち流路 7 で検出された杭や矢板等の木製品のうち任意に選んだ 129 点について樹種同定を行い、その結果も別表 4 － 1 に記載している。種別ごとには、杭 109 点、矢板 16 点、横木 3 点、有頭棒 1 点の樹種同定を行った。

杭に最も多く用いられているのはブナ科シイ属の 19 点で、それにブナ科コナラ属アカガシ亜属の 18 点、ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節 14 点、クワ科クワ属の 14 点、ツバキ科ツバキ属 10 点、ツバキ科サカキ属サカキ 10 点が続く。他にも多くの樹種が認められるが、 1 ～ 3 点確認できる程度である。検出した 2,000 本を超える杭の内の約 5 %に過ぎないものであるが、傾向としてブナ科の木材を主体にしているようで、同定を行った試料の約 50%を占める。

矢板はブナ科シイ属が、同定を行った試料 16 点中 9 点と全体の 50%以上を占めている。ブナ科の総数で見ると 16 点中 14 点となって全体の 87.5%になるので、杭で見た樹種の選択傾向とはやや異なるが、ブナ科シイ属が多いことは共通する。

横木は分析を行ったものが 3 点と少ないため傾向をみることはできないが、これについても杭とおおよそ同様の樹種を用いている。

以上のことから、護岸材の原材はその用途によって樹種の選択傾向がやや異なる可能性が考えられるが、おおむねブナ科シイ属の樹木がよく使われた傾向が認められる。ただし、有頭棒にはマキ科マキ属イヌマキが用いられており、杭や矢板、横木などとは異なった樹種の木材が使用されている。

また、これらの杭のうち任意に選んだ 2 点（120 － 29、125 － 62）の放射性炭素年代測定を行った。その結果は別表 1 に示したが、そのうち最も確率の高い数値をとると、暦年較正年代は、（120 － 29）で Cal BC 209 － 91、（125 － 62）で Cal BC 233 － 108 となっている。この年代は弥生時代中期に相当するものと考えられる。護岸材が検出された流路 7 の年代は、前述したとおり出土土器から弥生時代後期以前と考えられるので、おおむね一致する。

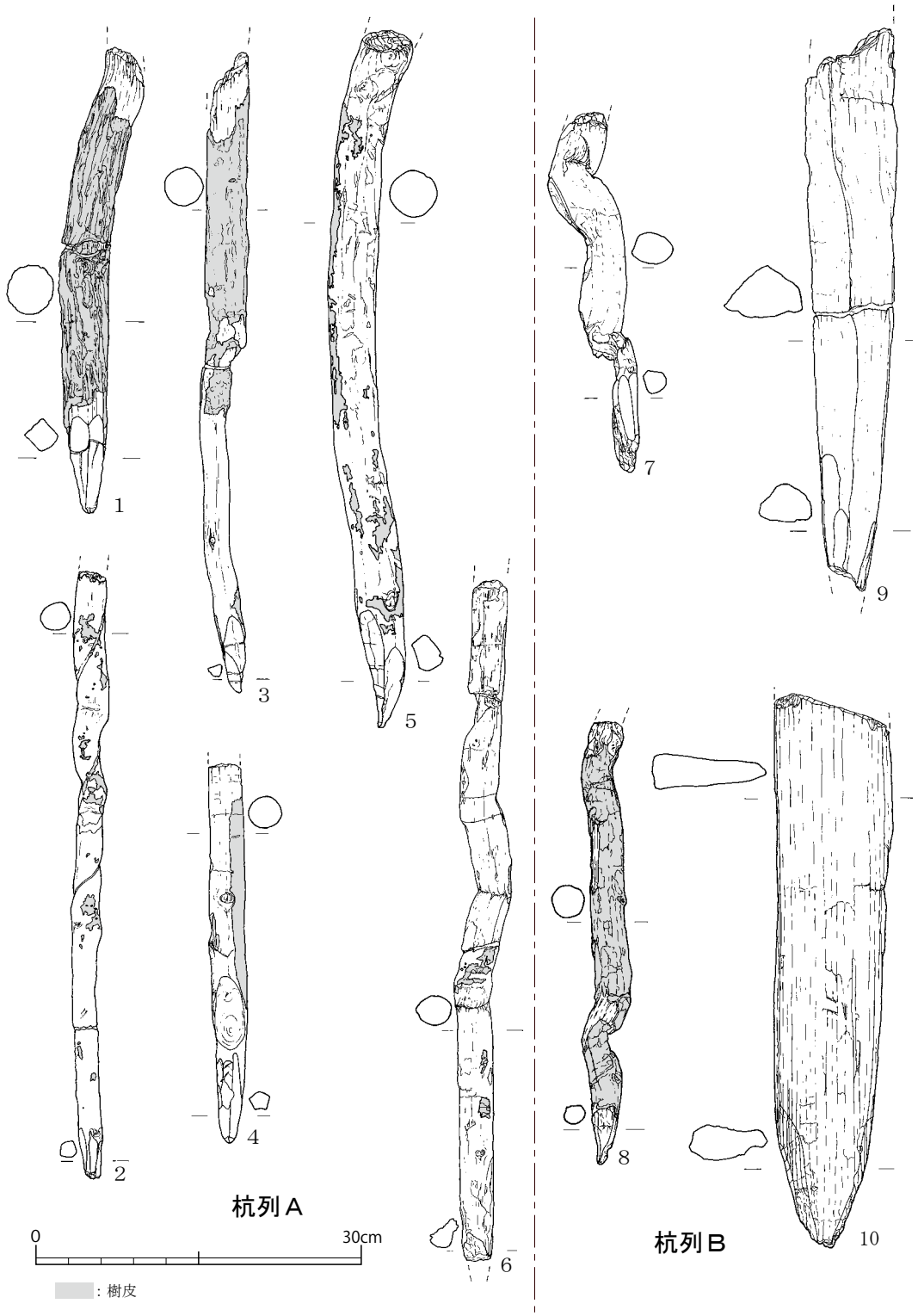


図 116　第４遺構面　流路７　杭列A・杭列B（１）　出土木製品　（S．＝1/6）

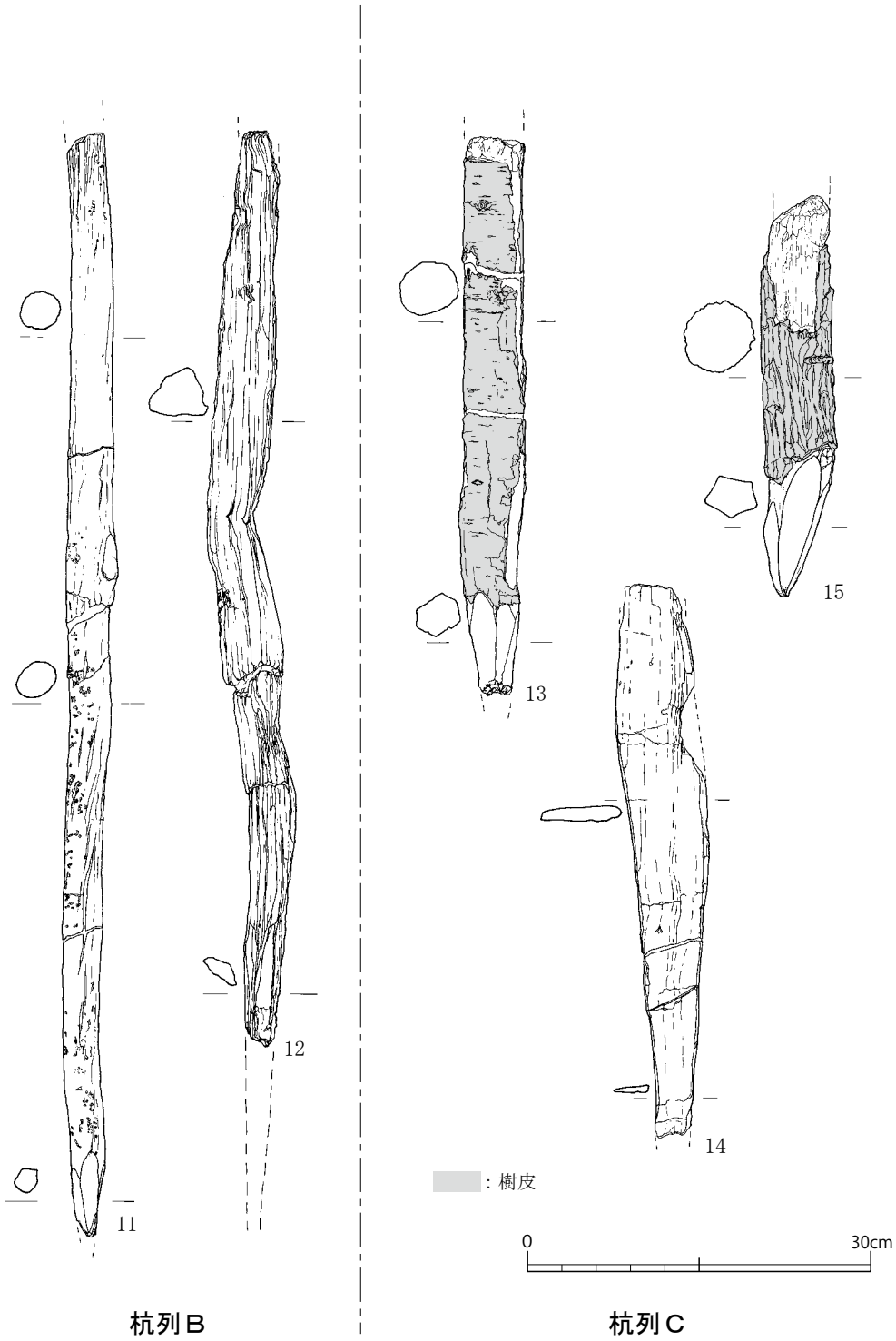


図 117　第４遺構面　流路７　杭列Ｂ（２）・杭列Ｃ　出土木製品　（Ｓ．＝1/6）

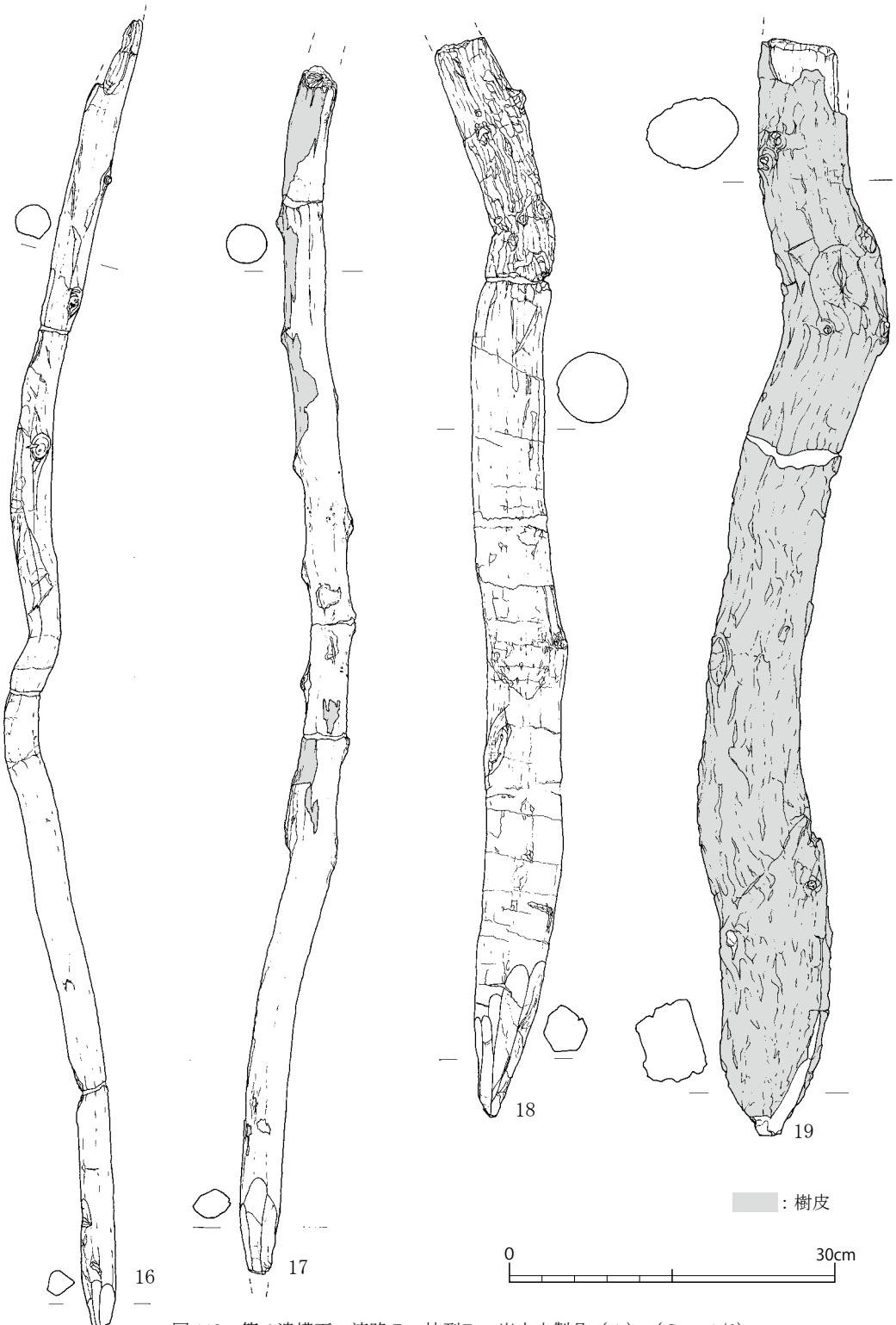


図 118　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（１）（Ｓ．＝1/6）

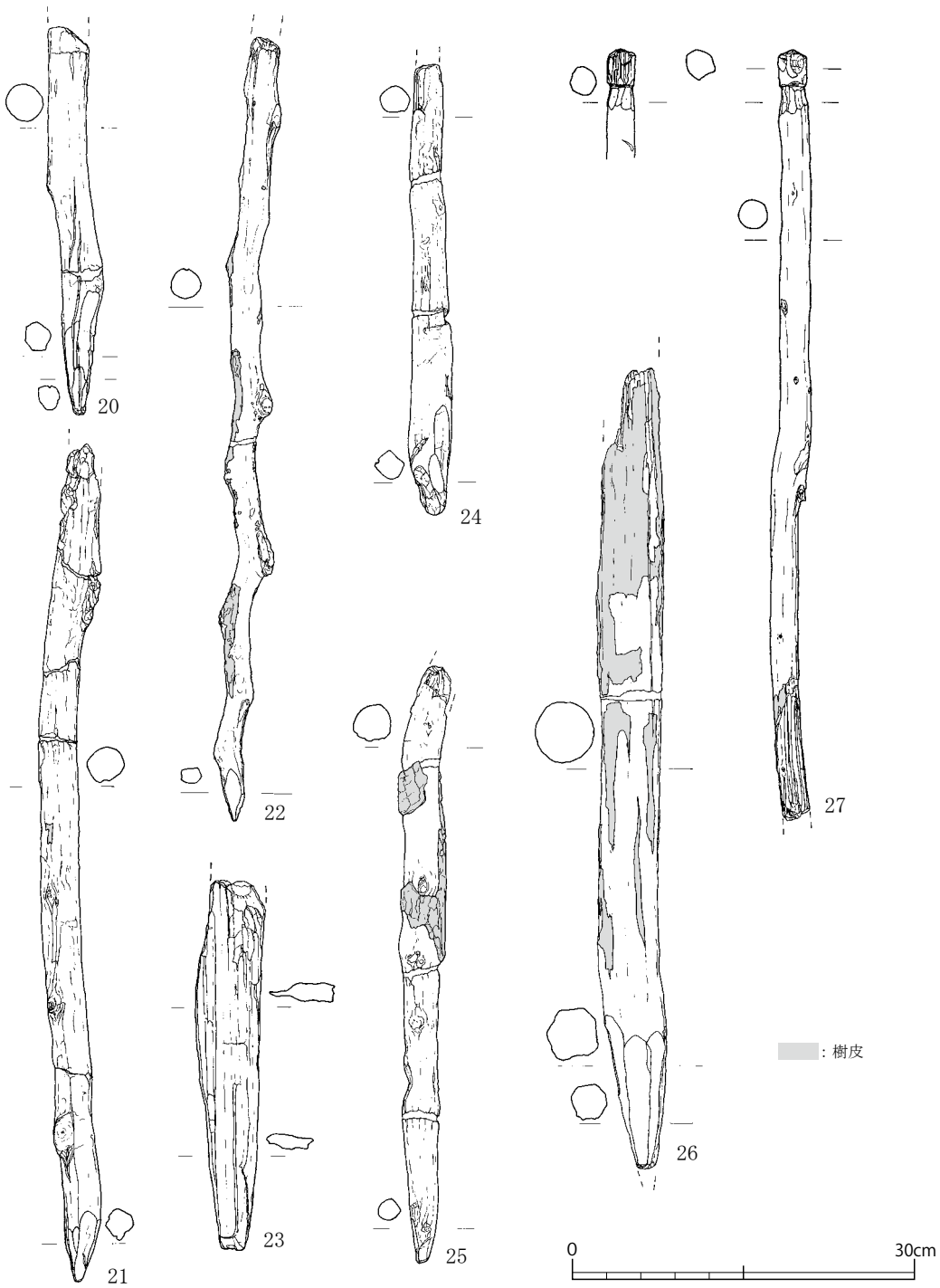


図 119　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（２）（Ｓ.＝1/6）

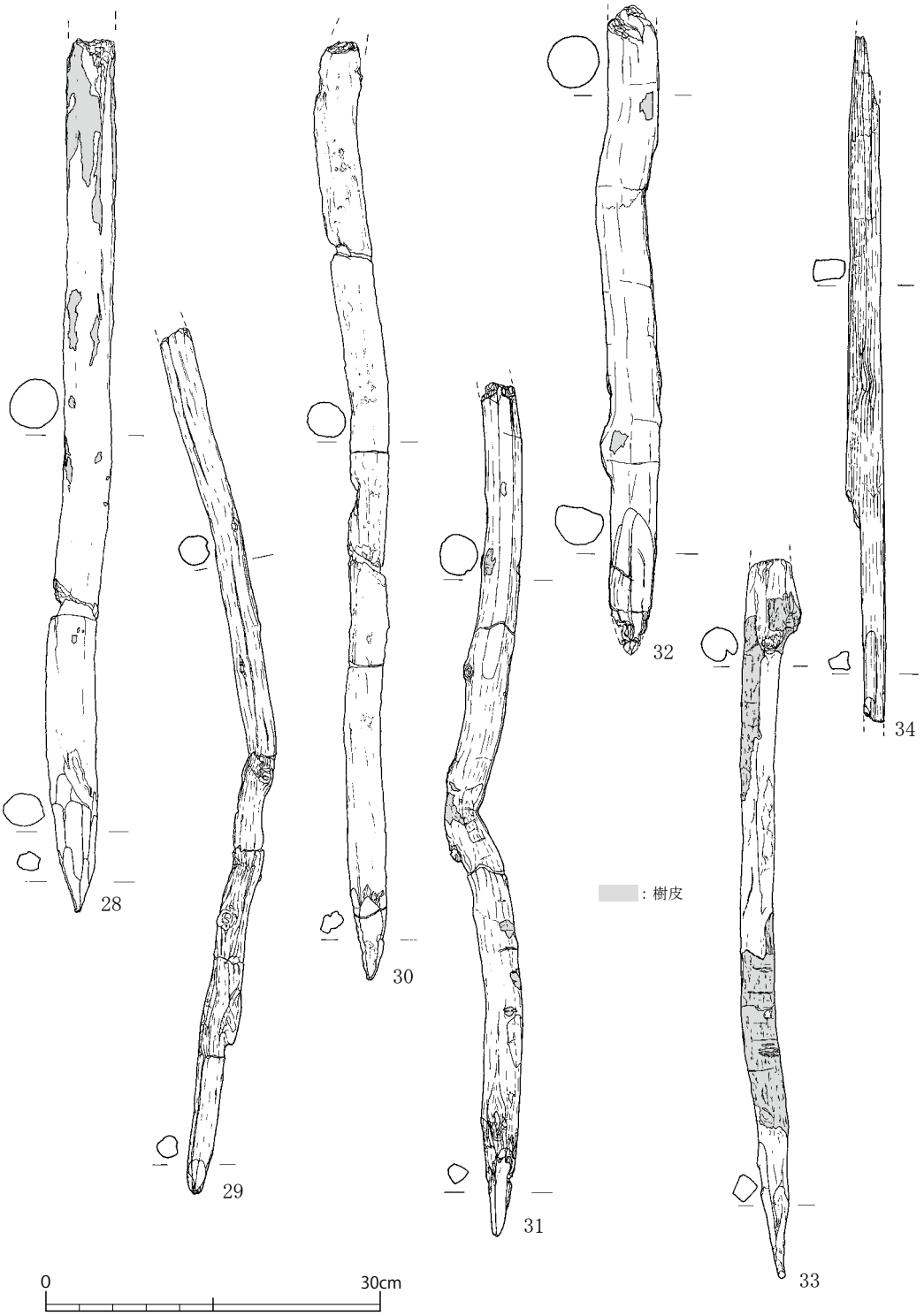


図 120　第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　出土木製品（３）（Ｓ．＝1/6）

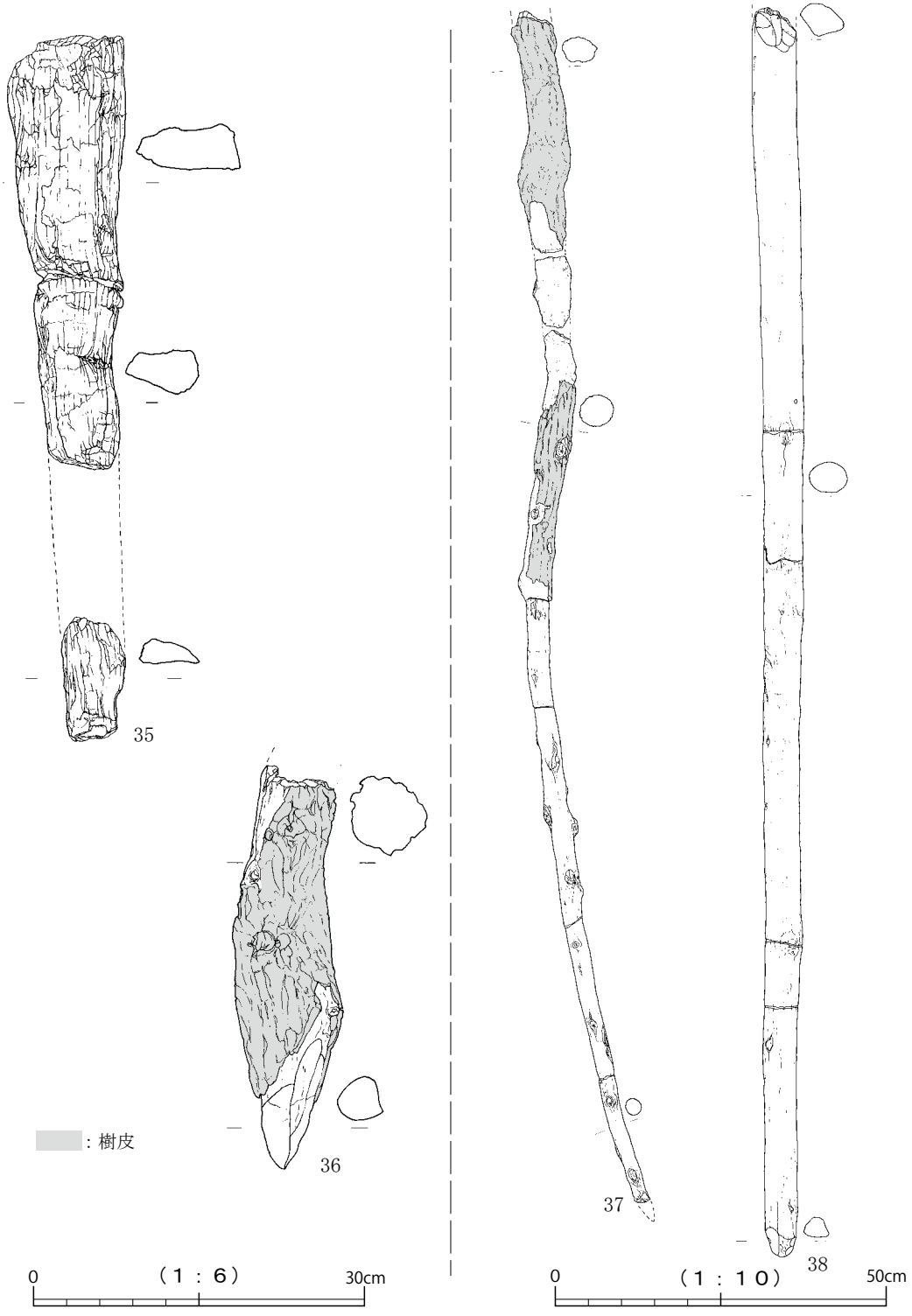


図 121　第４遺構面　流路７　杭列D　出土木製品（４）（S.＝1/6・1/10）

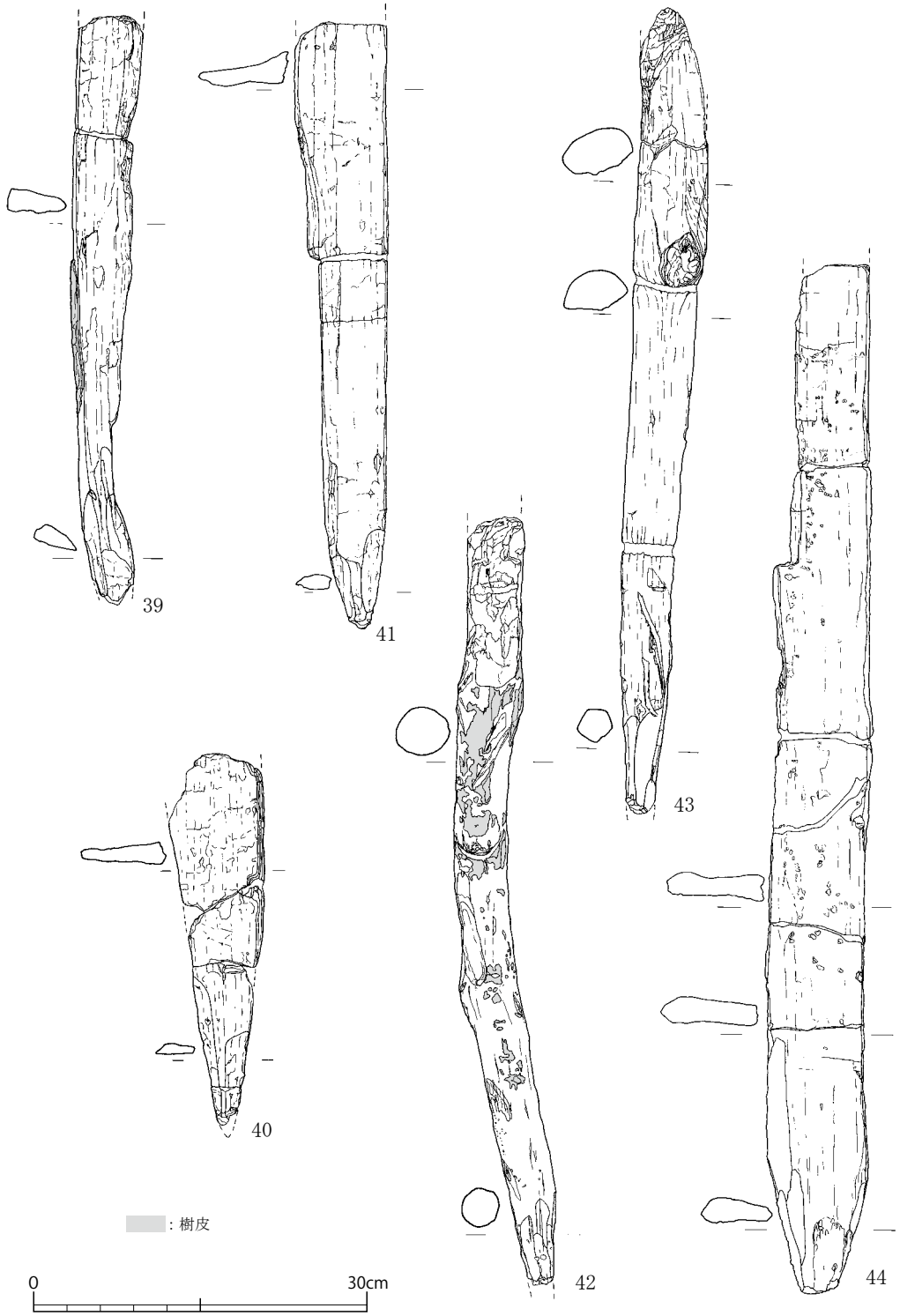


図 122　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　出土木製品（１）（Ｓ.＝1/6）

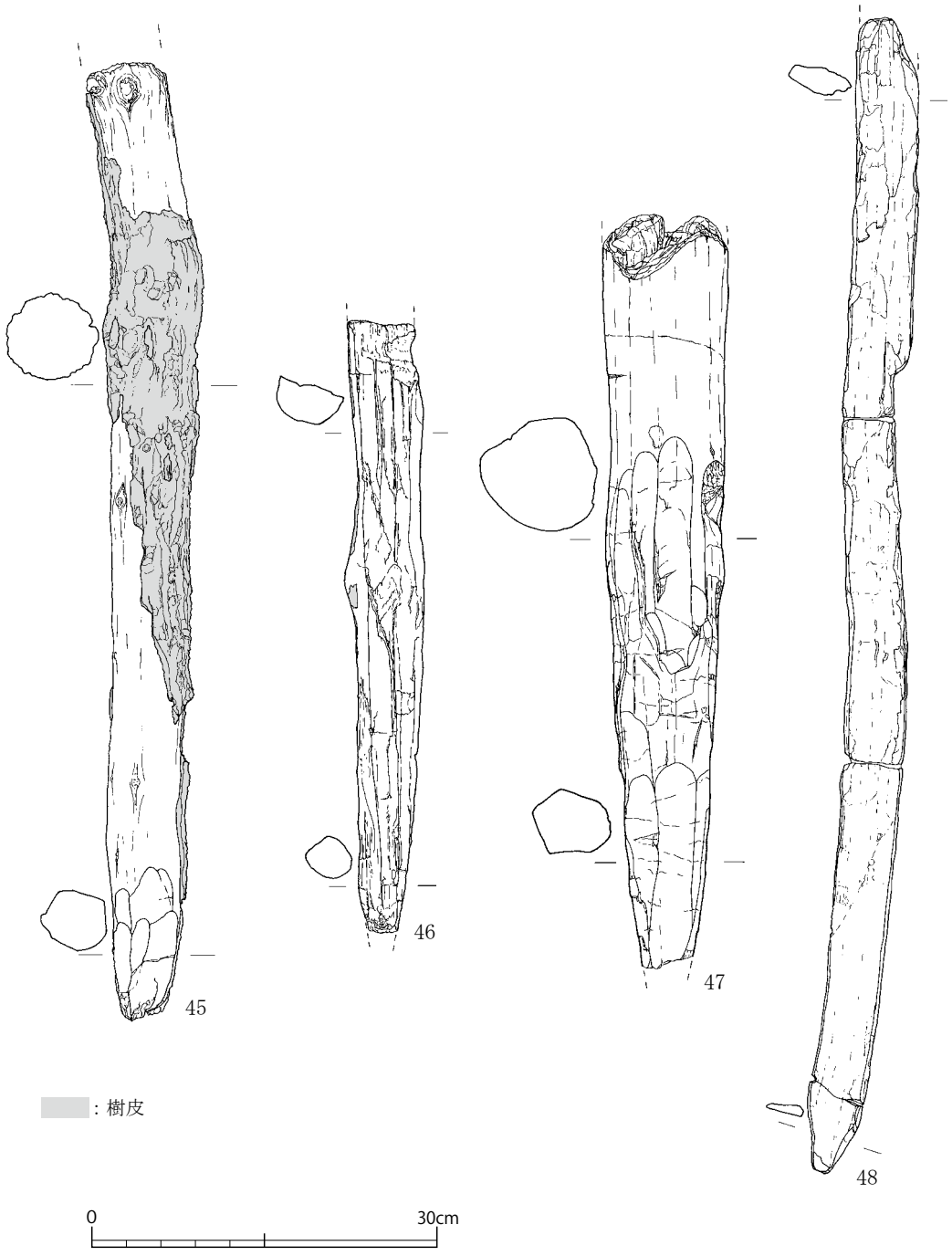


図 123　第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　出土木製品（２）（Ｓ．=1/6）

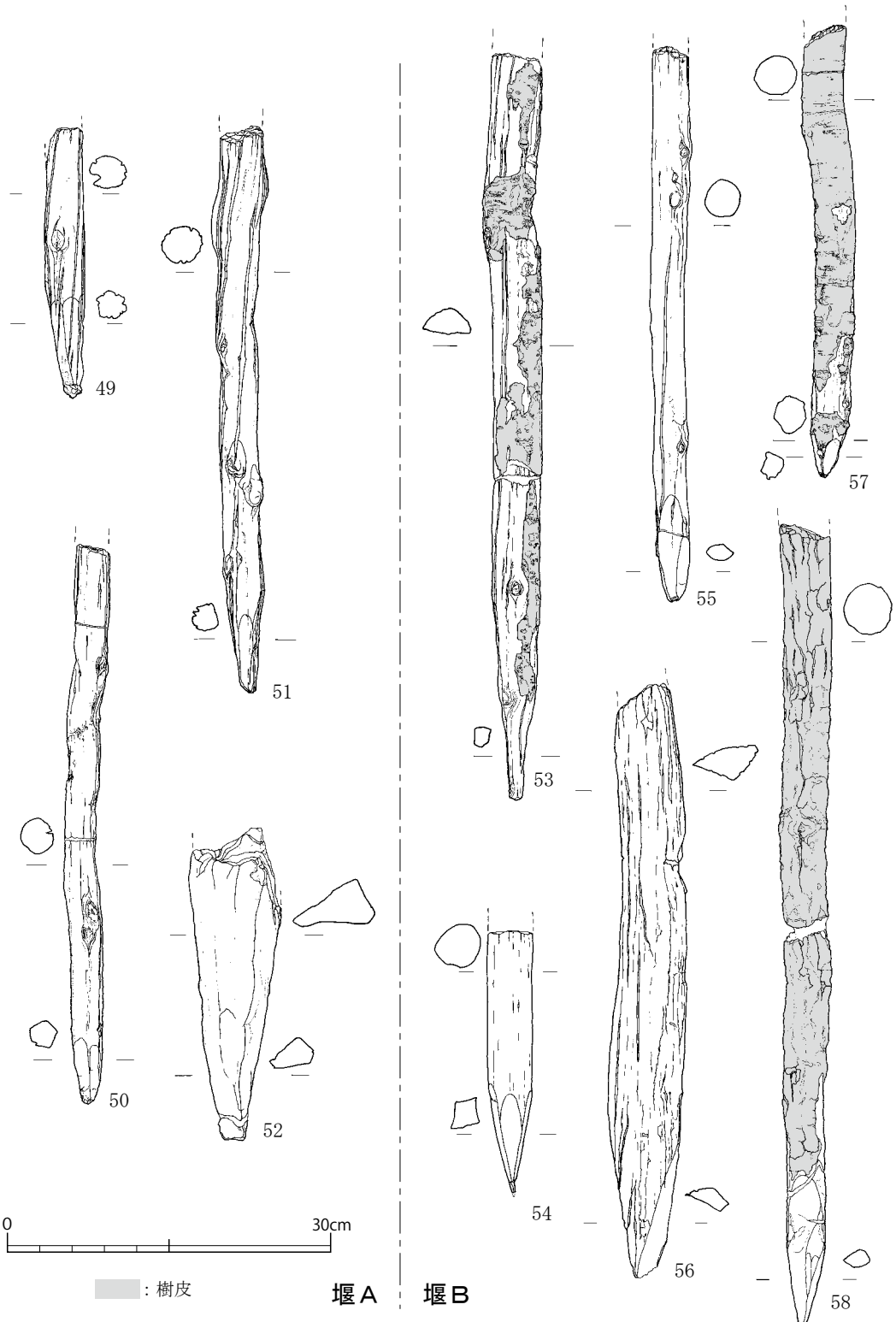


図124　第４遺構面　流路７　堰Ａ・Ｂ　出土木製品　（Ｓ．＝1/6）

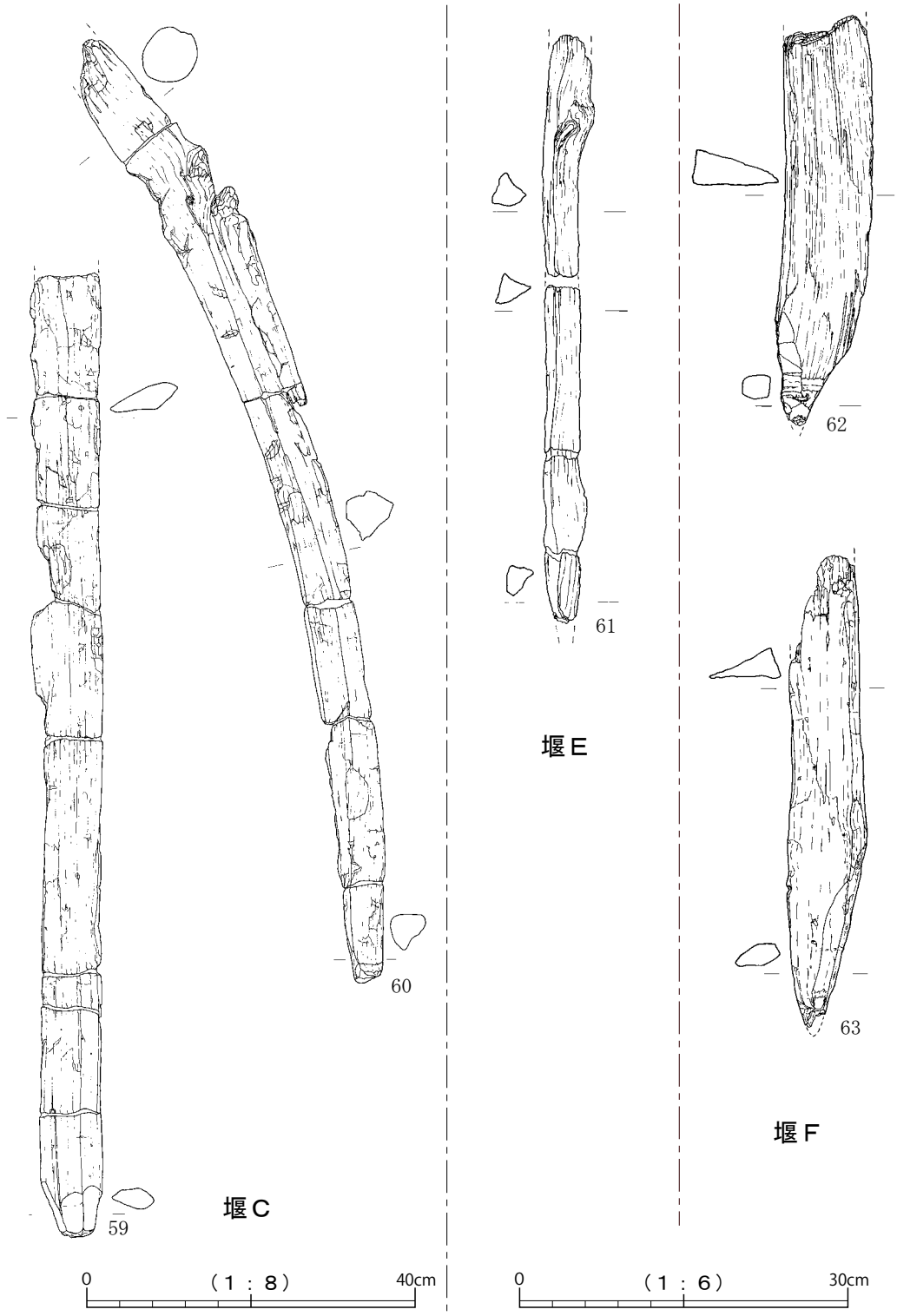


図 125　第４遺構面　流路７　堰C・E・F　出土木製品　（S.＝1/6・1/8）

第６章　まとめ

前章までに詳述したように、京奈和自動車道建設に伴って茅原中ノ坊遺跡の発掘調査を実施した。

当初の対象面積は 16,000㎡であったが、発掘調査が必要な面積や深さ、遺構面数を確定するため、先立ってトレンチ調査（第５－１次調査）を実施した。トレンチは 12 箇所を設定し、その面積は 2,700㎡である。このトレンチ調査の成果を受けて、面的に実施するべき発掘調査の面積を決定した。最終的に 8,650㎡の発掘調査を実施した。

トレンチ調査では、弥生時代から近現代に至る各時代ごとの遺構面を４面確認し、それぞれの遺構面の深さについても、一定の見通しを得た。それにしたがって、続く第５－２次調査では、調査対象とした第１遺構面、第２遺構面、第３遺構面、第４遺構面の各面の発掘調査を行った。

第１遺構面では、近現代以降の遺構が検出された。

近現代以降に形成された遺構は井戸３基と溝１条であり、このうち１区で検出した井戸１は周辺住民に対する聞き取り調査の結果、昭和初期頃に使用されたものであることがわかった。３区で検出した井戸２や井戸３は出土遺物がなく時期不詳の遺構であるが、検出面や構造から近現代以降のものと想定した。

２区で検出された溝１は、第２遺構面で検出された池状遺構の外形線に沿って掘られており、現在の土地境界線におおむね一致する。溝１はプラスチック製の波板や塩化ビニル製のパイプなどが出土したことから、現代の遺構と考えられる。

第２遺構面では、弥生時代後期から古墳時代前期、古代、中世以降に至る幅広い時期の遺構が検出された。

弥生時代後期から古墳時代前期の遺構は、井戸２基、土坑７基、柱穴・ピット 28 基、流路６本、溝２条がある。井戸や土坑、柱穴・ピットは、３区北半部で検出されており、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物が出土している。流路からは、それぞれ細かい時期差は認められるものの、庄内式期を中心とする土器が出土しており、一部弥生時代後期の土器や古墳時代前期初頭のものが認められる。そのなかでも２区南半部と３区にまたがって検出された流路５からは、完形かそれに近い土器が大量に出土している。それらは庄内式期を中心としており、山陰や東海、四国東部などの外来系土器も多く含まれていた。また、鳥形土製品や円盤状木製品などの稀有な遺物も認められる。

古代の遺構は、２区中央東端付近で検出された土坑１基がある。遺物は 12 世紀頃の土師器皿２点があり、そのうち１点は土坑１の埋土上面で口縁部を上に向けた状態で出土した。

中世以降の遺構は、調査区全面で認められた素掘溝のほか、１区中央部では溝１条、２区西端部で池状遺構、３区中央部で井戸１基が検出されている。１区で検出された溝３からは土師器皿、池状遺構からは瓦器椀や羽釜などの破片が出土しており、素掘溝に関しても同様の遺物のほか、北宋銭の元豊通宝が出土していることから、中世以降に形成されたものと考えられる。３区で検出され

た井戸６に関しては、遺物が認められないものの素掘溝を切っていることから、中世以降に形成されたものである。

第３遺構面では、弥生時代の遺構が検出された。３区北半部で検出された水田遺構のみである。検出された水田遺構の面積は 488.9㎡で、幅 40 ～ 50cm の小畦畔によって区切られた一辺 1.6 ～ 5.6 m、４～ 25㎡の方形の耕作面が形成されていた。また、東端部では南西－北東方向に延びる幅 1.6 mの大畦畔が検出されている。水田遺構の時期は、出土遺物等がなく細かい時期を特定することはできなかったが、検出層位から弥生時代に収まることは確実である。

第４遺構面は、弥生時代後期以前のピット 61 基や２本の流路、溝３条が検出された。ピットは１区北半部で検出されたもので、その位置は流路７より北側に限られている。一部柱材の可能性がある木材が出土しており柱穴の可能性も想定されるが、その位置関係から建物等を復原することはできなかった。

２本の流路のうち１区で検出された流路７は、縄文時代晩期～弥生時代後期の土器が認められるが、底面付近から畿内第Ⅴ様式の弥生土器が出土しているので、弥生時代後期の遺構と認識した。また、2,000 点以上の護岸材を用いた護岸施設が流路７の方向変換点を中心に検出されたことは特筆すべきである。それらは検出状況から杭列５箇所と堰６箇所を捉えることができた。周辺には、前述したピット群や溝以外は遺構が認められず、どのような意図をもって設けられたものかは不明であるが、護岸材の数からもわかるように厳重な護岸が行われているので、周辺に居住域ないし生産域があった可能性が高いと推定される。

以上のように、茅原中ノ坊遺跡における今次調査では、近現代以降、中世以降、古代、弥生時代後期から古墳時代前期、弥生時代の遺構・遺物が出土した。

茅原中ノ坊遺跡はこれまで吉祥草寺に関わる調査以外ほとんど行われておらず、遺跡の内容はほとんど知られていなかった。今回の調査において上述した遺構・遺物が確認でき、新知見が得られたことは大きな成果といえる。

今次調査は、現地調査担当者が報告書刊行に向けての整理作業が本格化するまでに退職したため、調査担当者と整理担当者が異なっている。したがって、報告書の作成は整理担当者が残された図面や写真などの記録を元にして行った。現地調査の際に記録された図面や写真は数多く残されており、たとえば 2,000 点以上の護岸材を使用した護岸施設の記録が、護岸材の取上げも含め図や表に提示したようなかたちで残されていたことは、現地調査担当者らの注力の賜物である。その一方で、実際に図面等の整理を進めていくと一部に記録の遺漏が認められるのも事実であった。そうした場合でも、調査担当者が報告書作成を行っていれば調査時の記憶などで補うこともあり得るが、今回はかなわなかった。遺漏部分に関しては走り書きのようなメモも含めて精査し補填するべく努めたが、調査記録としてやや不十分な点があるのは否めない。それでも、現体制下で、このようなかたちで調査記録を公刊したことで、一旦の責務を果たし得たと考える。

〈参考文献〉

網干善教　1965 「鴨都波遺跡」『御所市史』

岡田圭司　2010 「今出遺跡－第５次発掘調査報告－」(『御所市文化財調査報告書』第 36 集)

岡田憲一　2011 「近畿地方縄文晩期土器編年と奈良県下基準資料」『重要文化財　橿原遺跡出土品の研究』(『橿原考古学研究所研究成果』第 11 冊)

岡田憲一編　2017 『中西遺跡Ⅰ－京奈和自動車道「御所区間」建設に伴う調査報告書（８)』(『奈良県立橿原考古学研究所調査報告』第 123 冊)

岡田憲一・松岡淳平　2012 「秋津遺跡第５次調査」『奈良県遺跡調査概報　2011 年』第二分冊

岡田憲一・絹畠歩・中東洋行　2013 「秋津遺跡第６次調査」『奈良県遺跡調査概報　2012 年』第一分冊

岡田憲一・木村理恵　2015 「秋津遺跡第７－３次調査」『奈良県遺跡調査概報　2014 年』第一分冊

岡田憲一・中野咲　2015 「秋津遺跡第７－１次・７－２次調査」『奈良県遺跡調査概報　2013 年』第二分冊

岡田雅彦　2015 「茅原中ノ坊遺物散布地」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第２分冊

岡見智紀　2015a 「新村遺物散布地」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第二分冊

岡見智紀　2015b 「新村遺物散布地第４次調査」『奈良県遺跡調査概報　2014 年度』第一分冊

岡見智紀　2016 「新村・柳原遺跡第５次調査」『奈良県遺跡調査概報　2014 年度』第二分冊

岡見智紀　2017 「新村・柳原遺跡第６・７次踏査」『奈良県遺跡調査概報　2015 年度』第二分冊

鐘方正樹　2003 『井戸の考古学』(『ものが語る歴史』８）同成社

奥田智子･木許守　2011 『吉祥草寺－茅原中ノ坊遺跡　第４次･第６次調査報告－』(『御所市文化財調査報告書』第 38 集)

絹畠歩　2015 「秋津遺跡第８次調査」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第二分冊

絹畠歩・岩越陽平・西川加奈子　2017 「中西遺跡第 27－１・27－２次調査」『奈良県遺跡調査概報　2016 年度』第一分冊

絹畠歩・西川加奈子・松吉祐希　2015 「秋津遺跡第９－２次調査」『奈良県遺跡調査概報　2014 年度』第一分冊

木許守　1990 『中西遺跡－第２次調査報告－』(『御所市文化財調査報告書』第９集)

木許守編 1992 『鴨都波　11 次　発掘調査報告』(『御所市文化財調査報告書』第 11 集)

木許守　2008 「(22)　茅原中ノ坊遺跡（第４次調査・吉祥草寺本堂)」『平成５～ 19 年度市内遺跡発掘調査』(『御所市文化財調査報告書』第 34 集)

木許守･井ノ上佳美編　2017 『中西遺跡－第 12 次発掘調査報告－　京奈和自動車道建設に係る発掘調査成果』(『御所市文化財調査報告書』第 54 集)

木許守・小泉翔太・村島有紀編　2017 『玉手遺跡－京奈和自動車道建設に係る発掘調査報告－』(『御所市文化財調査報告書』第 52 冊)

木許守・西村慈子編　2015 『観音寺本馬遺跡－京奈和自動車道建設に係る発掘調査報告－』(『御所市文化財調査報告書』第 48 集)

御所市教育委員会　2009 『京奈和自動車道関連遺跡発掘調査概報』Ⅱ(『御所市文化財調査報告書』第 35 集)

御所市教育委員会　2014 『茅原のトンド　総合報告書』(『御所市文化財調査報告書』第 46 集)

古代の土器研究会編　1992 『古代の土器（１）　都城の土器集成』

小林達雄　1994 『縄文土器の研究』 小学館

小林行雄編　1968 『弥生土器集成』 東京堂出版

佐原眞　1968 「近畿地方」『弥生土器集成』本編２　日本考古学協会

田辺昭三　1966 『陶邑古窯址群』Ⅰ(『研究論集』第 10 号）平安学園考古学クラブ

田辺昭三　1981 『須恵器大成』 角川書店

中世土器研究会編　1995 『概説　中世の土器・陶磁器』

寺沢薫編　1986 『矢部遺跡』(『奈良県史跡名勝天然記念物調査報告』第 49 冊)

中里由佳絵　2015 「観音寺本馬遺跡隣接地」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第二分冊

中里由佳絵　2016 「観音寺本馬遺跡」『奈良県遺跡調査概報　2014 年度』第二分冊
中野咲編　2016 『今出遺跡Ⅰ－京奈和自動車道「御所区間」に伴う調査報告書（6）－』（『奈良県文化財調査報告書』第 169 集）
藤田和尊　1992 「護岸材について」『鴨都波　12 次　概報』（『御所市文化財調査報告』第 12 集）
藤田和尊・尼子奈美枝編　1992 『鴨都波　12 次　概報』（『御所市文化財調査報告書』第 12 集）
松吉祐希　2015 「秋津遺跡第 9－1 次調査」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第二分冊
本村充保　2011 「今出遺跡第 7 次調査－京奈和自動車道　池之内北Ⅰ・Ⅱ区－」『奈良県遺跡調査概報　2010 年度』第一分冊
本村充保　2015 「中西遺跡第 21 次調査」『奈良県遺跡調査概報　2013 年度』第二分冊
本村充保・中野咲　2013 「中西遺跡第 18 次調査」『奈良県遺跡調査概報　2012 年度』第一分冊
本村充保・前田俊雄・中野咲・杉山拓己・佐々木芽依　2017 「中西遺跡第 26 次調査」『奈良県遺跡調査概報　2015 年度』第二分冊
家根祥多　1982 「近畿地方の土器」『縄文文化の研究　4　縄文土器Ⅱ』雄山閣
家根祥多　1994 「篠原式の提唱－神戸市篠原中町遺跡出土土器の検討－」『縄紋晩期前葉－中葉の広域編年－文部省科学研　究費（総合Ａ）研究成果報告書－』北海道大学文学部
米川裕次　2009 「京奈和自動車道蛇穴 1 区の試掘調査」『奈良県遺跡調査概報　2008 年度』第三分冊
米川裕次　2012 「蛇穴中地区（南・北）」『奈良県遺跡調査概報　2011 年度』第一分冊
米川裕次　2013 「御所道路蛇穴中地区（北）追加」『奈良県遺跡調査概報　2012 年度』第一分冊
米川裕次　2014 「京奈和自動車道　御所区間　蛇穴北地区 2012 年度調査」『奈良県遺跡調査概報 2012 年度』第二分冊

別　表

別表１　放射性炭素年代測定結果　一覧表（パリノサーヴェイ株式会社）…… 152
別表２　出土土器観察表（千喜良敦）…… 153
別表３　出土石器観察表（影山美智与）…… 179
別表４　出土木製品等　一覧表…… 181
　１．護岸材　一覧表（西村慈子・花熊祐基・木許守）…… 182
　２．護岸材以外の木製品等　一覧表（花熊祐基）…… 219

別表１　放射性炭素年代測定結果　一覧表

番号	調査区	遺構	図-番号 別表4-1-番号	樹種	処理方法	測定年代 BP	δ 13 C (‰)	補正年代 BP	暦年較正年代(cal)				Code No.
									誤差	calAD/BC	calBP	相対比	
1	1区	第3遺構面 溝7	120-29 別表4-1-806	クヌギ節	AAA	2,140 ± 20	-25.11 ± 0.48	2,140 ± 30 (2,139 ± 24)	σ	cal BC 341 - cal BC 328	cal BP 2,290 - 2,277	0.104	IAAA-93145
										cal BC 204 - cal BC 158	cal BP 2,153 - 2,107	0.709	
										cal BC 134 - cal BC 116	cal BP 2,083 - 2,065	0.187	
									2 σ	cal BC 350 - cal BC 303	cal BP 2,299 - 2,252	0.164	
										cal BC 209 - cal BC 91	cal BP 2,158 - 2,040	0.821	
										cal BC 72 - cal BC 60	cal BP 2,021 - 2,009	0.015	
2	1区	第3遺構面 溝7	125-62 別表4-1-2038	ムクロジ	AAA	2,150 ± 30	-24.48 ± 0.48	2,160 ± 30 (2,156 ± 25)	σ	cal BC 349 - cal BC 312	cal BP 2,298 - 2,261	0.415	IAAA-93146
										cal BC 208 - cal BC 167	cal BP 2,157 - 2,116	0.585	
									2 σ	cal BC 356 - cal BC 287	cal BP 2,305 - 2,236	0.393	
										cal BC 233 - cal BC 108	cal BP 2,182 - 2,057	0.607	

１．放射性炭素年代測定は、御所市教育委員会が提供した資料について、パリノサーヴェイ株式会社が行った。
２．処理方法は、酸処理－アルカリ処理－酸処理（AAA 処理）で、アルカリ濃度が 1N 未満の場合は AaA と表記している。
３．年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用した。
４．BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
５．付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68%が入る範囲）を年代値に換算した値。
６．暦年較正年代の計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV6.0（Copyright 1986-2010 M Stuiver and PJ Reimer）を使用した。
７．暦年較正年代には、補正年代の欄の括弧内に示した、一桁目を丸める前の値を使用している。
８．暦年較正年代値は、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。
９．統計的に真の値が入る確率はσは 68%、2 σは 95% である。
10．相対比は、σ、2 σのそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

別表２　出土土器観察表

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調　・外面 ・内面	備考
52 － 1 土師器　皿 2 区　土坑 1	口径　9.6cm　（完形） 残存高　1.8cm 底径　　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ	良好	φ 3mm 以下の石英、金雲母、長石含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・7.5YR6/4 にぶい橙色	・鎌倉時代（12 世紀）
52 － 2 土師器　皿 2 区　土坑 1	口径　9.4cm　（口縁部残存1/2） 残存高　1.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ、指頭圧痕 ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ、指頭圧痕	良好	φ 3mm 以下の石英、雲母、長石、赤色斑粒含む	・7.5YR7/3 にぶい橙色 ・7.5YR7/4 にぶい橙色	・鎌倉時代（12 世紀）
53 － 1 庄内式土器　鼓形器台 3 区　土坑 2	口径　15.8cm　（全体残存4/5からの回転復原） 残存高　7.4cm 底径　16.2 ・外面　ヘラミガキ 内面　ケズリのちヘラミガキ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ケズリのちヘラミガキ、ナデ ・外面　ヘラミガキ、ナデ 内面　ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・7.5YR6/2 灰褐色 ・7.5YR6/2 灰褐色	・庄内 3 式 ・山陰系土器 ・裾部内外面に煤付着
54 － 1 土師器　甕 1 区　流路 2	口径　15.0cm　（全体残存1/5） 残存高　8.8cm 底径　　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ(4～5条/cm) 内面　ナデ、ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の石英、長石、雲母、赤色斑粒含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR6/2 灰黄褐色	・布留 2 式
55 － 1 庄内式土器　壺 2 区　流路 3	口径　21.1cm　（口縁部残存1/10回転復原） 残存高　4.5cm 底径　　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ヘラミガキ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR4/2 灰黄褐色	・庄内 3 式 ・口縁部内面に煤付着
55 － 2 庄内式土器　二重口縁壺 2 区　流路 3	口径　25.0cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　5.4cm 底径　－ ・外面　円形浮文、波状文3段(11条/1.6cm)、ナデ、ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・5YR5/4 にぶい赤褐色 ・10YR5/4 にぶい黄褐色	・庄内 3 式 ・口縁部に 2 箇所穿孔
55 － 3 土師器　甕 2 区　流路 3	口径　19.0cm　（口縁部残存1/3からの回転復原） 残存高　6.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ハケ(4～5条/cm)のちナデ ・外面　ナデのちハケ(4～5条/cm) 内面　ハケ(4～5条/cm)のちナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR6/3 にぶい褐色 ・7.5YR6/4 にぶい橙色	・布留 0 式 ・口縁部内外面、体部外面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
55 － 4 庄内式土器　鉢 2 区　流路 3	口径　21.4cm　(残存2/5からの回転復原) 残存高　10.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ハケ(8条/cm) ・外面　ハケ(8条/cm)、ケズリ 内面　ハケ(8条/cm)、板ナデ ・　－	良好	φ 1 ～ 2mm の長石含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・2.5Y6/3 にぶい黄色	・庄内 3 式
55 － 5 庄内式土器　高杯 2 区　流路 3	口径　19.8cm　(残存3/5からの回転復原) 器高　4.3cm 底径　13.3cm ・外面　ヘラミガキ、ナデ 内面　ヘラミガキ、ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、ナデ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　シボリメ、ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・7.5YR6/6 橙色	・庄内 3 式 ・透孔（円形）2 方向残る ・接合法が用いられる
55 － 6 庄内式土器　高杯 2 区　流路 3	口径　10.8cm　(杯部1/2残存) 器高　6.8cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ヘラミガキ ・外面　ナデ、ハケ(7条/cm)、指頭圧痕 内面　ヘラミガキ、ナデ ・　－	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい黄橙色 ・7.5YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 3 式
55 － 7 庄内式土器　手焙形土器 2 区　流路 3	口径　－　(破片からの回転復原) 器高　3.3cm 底径　－ ・　－ ・外面　ナデ、突帯端面に刺突文 内面　ナデ ・　－	良好	φ 1mm の長石含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/3 にぶい黄橙色	・庄内 3 式
56 － 8 土師器　大形壺 2 区　流路 3	口径　－（ 頸部から体部残存1/3からの回転復原） 残存高　12.4cm 底径　－ ・外面　ハケ(5条/cm)のちナデ 内面　ナデ、ハケ(5条/cm) ・外面　ハケ(5条/cm)のちヘラミガキ 内面　指ナデ、指頭圧痕、板ナデ ・　－	良好	φ 2mm 以下、石英、雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・10YR8/3 浅黄橙色	・庄内 2 式～布留 1 式
56 － 9 土師器　壺 2 区　流路 3	口径　14.2cm　(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高　3.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 1 式 ・山陰系土器
56 － 10 土師器　甕 2 区　流路 3	口径　11.2cm　(口縁部残存1/10からの回転復原) 器高　2.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(4条/cm) 内面　ナデ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・布留 1 式 ・東海系土器
56 － 11 土師器　甕 2 区　流路 3	口径　－　(脚部のみ完形) 残存高　6.0cm 底径　9.1cm ・　－ ・　－ ・外面　ハケ（5条/cm）のちナデ 内面　ナデ、指頭圧痕	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・庄内 2 式～布留 1 式 ・東海系土器

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
56 － 12 庄内式土器　高杯 2 区　流路 3	口径　－　（体部3/5残存からの回転復原） 器高　11.7cm 底径　－ ・　－ ・外面　ヘラミガキ(摩滅) 内面　ヘラミガキ(摩滅) ・外面　ヘラミガキ（摩滅） 内面　ヘラミガキ（摩滅）、板ナデ、指頭圧痕	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式 ・脚台部に透孔（円形）4 孔
57 － 1 庄内式土器　二重口縁壺 2 区　流路 4	口径　15.2cm　（口縁部から頸部のみ完形） 残存高　5.7cm 底径　－ ・外面　ナデ、刺突文3段 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、指頭圧痕、ナデ ・　－	良好	φ 4mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・7.5YR6/6 橙色	・庄内 1 式
57 － 2 庄内式土器　壺 2 区　流路 4	口径　－　（体から底部ほぼ完形） 残存高　11.4cm 底径　3.0cm ・　－ ・外面　ヘラミガキ、ケズリのちヘラミガキ 内面　板ナデのちナデ、指頭圧痕、ケズリのち板ナデ ・外面　指頭圧痕 内面　ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・2.5Y6/2 灰黄色	・庄内 1 式
57 － 3 庄内式土器　甕 2 区　流路 4	口径　16.6cm　（口縁部残存1/2） 残存高　20.9cm 底径　－ ・外面　タタキのちナデ 内面　ケズリのち板ナデ ・外面　タタキ(3条/cm) 内面　ケズリのち板ナデ ・　－	良好	φ 8mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・体部外面下半および内面に黒斑
57 － 4 庄内式土器　甕 2 区　流路 4	口径　12.2cm　（ほぼ完形） 残存高　9.3cm 底径　3.7cm ・外面　タタキのちナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ(3条/cm) 内面　ナデ ・外面　指頭圧痕、ナデ 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・5YR5/4 にぶい赤褐色 ・5YR5/4 にぶい赤褐色	・庄内 1 式
58 － 1 庄内式土器　壺 2 区　流路 5	口径　15.0cm　（口縁部残存3/4からの回転復原） 残存高　6.5cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、直線文（8条/cm） 内面　ハケ(11条/cm)、ヘラミガキ ・外面　直線文(8条/cm)、波状文(8条/cm) 内面　ナデ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 3 式 ・東海から関東系土器か？
58 － 2 庄内式土器　壺 3 区　流路 5	口径　18.6cm　（口縁部のみ完形） 残存高　7.6cm 底径　－ ・外面　ナデ、擬凹線(口縁端部)、ハケ(9条/cm)（頸部） 内面　ケズリのちナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm の長石を含む	・10YR8/3 浅黄橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・庄内 3 式 ・讃岐、阿波系土器
58 － 3 庄内式土器　二重口縁壺 3 区　流路 5	口径　14.8cm　（口縁部残存1/5回転復原） 残存高　3.0cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ（8～9条/cm）、棒状浮文 内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 3 式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
58 － 4 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　10.2cm　(完形) 残存高　15.3cm 底径　3.2cm ・外面　ナデ、ヘラミガキ 　内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ 　内面　ナデ ・外面　ナデ 　内面　ナデ	良好	φ 1mm の長石、赤色斑粒含む	・7.5YR5/4 にぶい褐色・2.5Y 黄灰色 ・7.5YR8/4 浅黄橙色・7.5YR5/4 にぶい褐色	・庄内 3 式 ・全体に鉄分付着
58 － 5 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　12.2cm　(全体残存4/5) 残存高　23.4cm 底径　3.6cm ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 　内面　ケズリのち板ナデ(1.1cm) ・外面　ナデ 　内面　ケズリのち板ナデ(1.1cm)	良好	φ 1mm 以下の長石、赤色斑粒含む	・5YR7/6 橙色 ・10YR8/3 浅黄橙色	・庄内 3 式 ・体部から底部の外面に煤付着
58 － 6 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　13.0cm　(ほぼ完形) 残存高　24.6cm 底径　4.3cm ・外面　ハケのちナデ 　内面　ナデ ・外面　タタキ(3条/cm)のちハケ(5条/cm) 　内面　指頭圧痕、ハケ(5条/cm) ・外面　指頭圧痕、ナデ 　内面　ハケのち指頭圧痕	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・庄内 3 式 ・体部から底部の外面および肩部内面に煤付着 ・体部上半に黒斑残る
58 － 7 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　15.0cm　(口縁部残存1/2からの回転復原) 残存高　8.1cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ(5条/cm) 　内面　板ナデ ・外面　ハケ 　内面　ナデ、ハケ(5条/cm) ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 3 式
58 － 8 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　14.6cm　(口縁部のみ完形) 残存高　6.1cm 底径　－ ・外面　ナデのちハケ(4条/cm) 　内面　ハケ(4条/cm)、ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR にぶい黄橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 3 式 ・口縁部内面に黒斑残る
59 － 9 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　13.2cm　(残存1/2からの回転復原) 残存高　26.2cm 底径　8.5cm ・外面　ナデのちヘラミガキ 　内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm) のちケズリ、ケズリのちヘラミガキ 　内面　指頭圧痕、ナデ、ケズリのちナデ ・外面　ナデ 　内面　ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、石英含む	・7.5Y7/4 にぶい橙色 ・7.5Y7/6 橙色・5YR6/6 橙色	・庄内 2 式 ・体部外面中位に黒斑残る
59 － 10 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　12.6cm　(頸部のみ完形) 残存高　7.9cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ 　内面　ナデ、ハケ ・外面　ナデ 　内面　指頭圧痕 ・　－	普通	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
59 － 11 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　－　（体部から底部ほぼ完形） 残存高　10.0cm 底径　4.0cm ・　－ ・外面　ハケ(10条/cm)のちヘラミガキのちナデ 内面　ナデ、指頭圧痕、ナデ ・外面　ヘラミガキのちナデ 内面　板ナデのちナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、石英、雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・10YR6/1 褐灰色・7.5YR7/4 にぶい橙色	・庄内 2 式 ・体部上半外面に炭化物付着
59 － 12 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　8.8cm　（残存3/4からの回転復原） 残存高　11.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ハケ ・外面　ハケのちヘラミガキ 内面　ハケ ・外面　ケズリ 内面　ハケ	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5YR8/4 淡黄色 ・5Y6/2 灰オリーブ色	・庄内 2 式
59 － 13 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　9.8cm　（完形） 残存高　16.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(7条/cm)のちヘラミガキ、ケズリのちヘラミガキ 内面　ハケのちミガキ ・外面　ヘラミガキ 内面　ミガキ	良好	φ 3mm の長石、φ 1mm の雲母含む	・2.5YR8/4 淡黄色 ・2.5YR8/4 淡黄色	・庄内 2 式 ・口縁部から体部、底部外面に黒斑残る
59 － 14 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　－　（口縁部欠損） 残存高　24.2cm　（全体残存3/4） 底径　6.8cm ・外面　ハケ(5条/cm)のちナデ 内面　ハケ(5条/cm) ・外面　波状文(6条/cm)、肩部に等間隔に縦方向のハケ（8条/cm） 内面　ハケ(上半7条/1.2cm、下半5条/cm) ・外面　ナデ、ケズリ 内面　ハケ(5条/cm)	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR4/2 灰黄褐色・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・5YR6/6 橙色	・庄内 2 式 ・東海系土器か？ ・体部上位から底部外面に炭化物付着
60 － 15 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　16.1cm　（全体残存3/5） 残存高　27.1cm 底径　6.0cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　板ナデ、ナデ 内面　板ナデのちナデ ・外面　指頭圧痕 内面　指頭圧痕	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・2.5Y8/2 灰白色 ・2.5Y8/2 灰白色	・庄内 2 ～ 3 式 ・体部中位、下位外面に黒斑残る
60 － 16 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　－　（体部～底部のみ完形） 残存高　10.8cm 底径　－ ・外面　－ 内面　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデ、板ナデ、ハケ(7条/cm) ・外面　ナデ？ 内面　ハケ	良好	φ 1mm の長石含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・庄内 2 ～ 3 式 ・体部に穿孔
60 － 17 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　11.8cm　（残存3/5からの回転復原） 残存高　16.6cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ 内面　ハケ(8条/cm) ・外面　ヘラミガキ 内面　ハケ(8条/cm)	良好	φ 3mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色・5YR6/6 橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色	・庄内 2 ～ 3 式 ・体部下半外面に炭化物付着 ・口縁部、体部下半内面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
60 － 18 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　14.0cm （完形） 器高　26.0cm 底径　－ ・外面　ハケ(8条/cm)のちヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・外面　ケズリのちハケのちヘラミガキ 内面　ハケ(8条/cm) ・外面　ケズリのちハケのちナデ 内面　ハケ(8条/cm)のちナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR8/4 浅黄橙色・5YR7/8 橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色	・庄内 2 ～ 3 式 ・口縁部に穿孔 ・体部上半外面に黒斑残る
60 － 19 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　10.2cm （完形） 残存高　15.0cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキのちナデ 内面　ハケのちナデ ・外面　ハケのちヘラミガキ 内面　板ナデ ・外面　ハケ 内面　板ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5YR4/6 赤褐色 ・7.5YR5/6 明褐色	・庄内 2 ～ 3 式 ・口縁部から体部外面に黒斑残る
60 － 20 庄内式土器　広口壺 3 区　流路 5	口径　－ （頸～体部残存のみ完形） 残存高　7.6cm 底径　1.8cm ・外面　板ナデのちヘラミガキ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・7.5YR5/4 にぶい褐色 ・7.5YR5/4 にぶい褐色	・庄内 2 ～ 3 式 ・体部に穿孔
61 － 21 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　17.2cm 残存高　13.0cm （全体3/5残存） 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ（5条/7mm）のち粗いヘラミガキ 内面　ハケ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、赤色斑粒、雲母含む	・5YR 橙色 ・10YR4/1 ～ 5/1 褐色	・庄内 2 ～ 3 式
61 － 22 庄内式土器　広口壺 2 区　流路 5	口径　15.6cm 残存高　31.7cm （全体残存3/4） 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ（5条/7mm）のちナデ 内面　ナデ、ケズリのちハケ（5条/7mm） ・外面　ケズリのちハケ（5条/7mm） 内面　ケズリのちハケ（5条/7mm）	良好	φ 1 ～ 2mm 以下の長石、石英、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・7.5YR7/6 にぶい橙色	・庄内 2 ～ 3 式
62 － 23 庄内式土器　壺 3 区　流路 5	口径　18.4cm （口縁部残存1/2） 残存高　11.7cm 底径　－ ・外面　ナデのちヘラ描波状文 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ(6条/cm)のち粗いヘラミガキ 内面　ハケ(6条/cm)のちナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式 ・山陰系、北陸系土器
62 － 24 庄内式土器　壺 3 区　流路 5	口径　16.8cm （口縁部残存2/5からの回転復原） 残存高　9.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ(9条/cm) 内面　ナデ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR8/4 浅黄橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色	・庄内 2 式 ・山陰系、北陸系土器 ・口縁部内面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
62 － 25 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－　（頸部から底部のみ完形） 残存高　2.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・外面　ナデ、直線文(9条/cm)、波状文(6条/cm))、ケズリのちヘラミガキ 　内面　ナデ、ケズリ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 　内面　ケズリ	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/3 浅黄色・10R6/6 赤橙色 ・5Y7/2 灰白色	・庄内 2 式 ・東海系土器 ・体部に穿孔 ・体部外面、頸部内面に赤彩
62 － 26 庄内式土器　瓢形壺 4 区　流路 5	口径　6.9cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　5.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ、ナデ 　内面　ハケ(8条/cm)、ナデ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式 ・東海系土器 ・口縁部外面に黒斑残る ・精製土器
62 － 27 庄内式土器　瓢形壺 2 区　流路 5	口径　8.2cm 残存高　15.7cm　（ほぼ完形） 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 　内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ、ケズリ 　内面　ヘラミガキ、ハケ(10条/cm) ・外面　ケズリ 　内面　ハケ(10条/cm)	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色	・庄内 2 式 ・東海系土器 ・精製土器
62 － 28 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　13.2cm　（口縁部残存1/6からの回転復原） 残存高　2.7cm　（全体3/10残存） 底径　－ ・外面　指頭圧痕、ハケ（条数不明） 　内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・7.5YR6/4 にぶい橙色	・庄内 2 式
62 － 29 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　16.4cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　2.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 3mm 以下の石英、チャート含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式
62 － 30 庄内式土器　二 重口縁壺 2 区　流路 5	口径　－　（頸部残存1/5からの回転復原） 残存高　9.5cm 底径　　－ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、刺突(突帯上方)、刻目（突帯下方） 　内面　ヘラミガキ、ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 1 式
62 － 31 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－ 残存高　7.5cm　（頸部のみ完形） 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、刻目（突帯） 　内面　ナデ、指頭圧痕 ・外面　ナデ 　内面　ハケ（10条/cm） ・　－	良好	φ 0.5mm 以下の石英、チャート含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色～ 10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR5/4 にぶい黄褐色	・庄内 1 式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
62 － 32 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－　（頸部残存1/5からの回転復原） 残存高　3.6cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、刻目（突帯） 内面　ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ、ナデ 内面　ヘラミガキ、ナデ、指頭圧痕 ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、チャート含む	・7.5Y8/2 浅黄橙色、7.5YR8/4 浅黄橙色 ・2.5Y7/2 灰黄色、2.5Y2/1 黒色	・庄内 1 式
62 － 33 庄内式土器　二 重口縁壺 2 区　流路 5	口径　－　（頸部残存2/5からの回転復原） 残存高　4.0cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、刻目（突帯上方）、刺突文（突帯下方） 内面　ヘラミガキ、ハケ（8条/cm）、指頭圧痕 ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・7.5YR6/6 にぶい橙色	・庄内 1 式
62 － 34 庄内式土器　二 重口縁壺 2 区　流路 5	口径　－　（頸部のみ完存） 残存高　7.7cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、刺突（突帯） 内面　ヘラミガキ ・外面　直線文（8条/cm）、波状文（8条cm）、直線文（8条/cm）、ヘラミガキ 内面　指頭圧痕 ・　－	良好	φ 1mm 前後の石英、チャート含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式
63 － 35 庄内式土器　二 重口壺 3 区　流路 5	口径　－　（頸部残存1/3からの回転復原） 残存高　7.2cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、刻目（突帯） 内面　ヘラミガキ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 前後の石英、チャートを含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・7.5YR7/4 にぶい橙色	・庄内 1 式
63 － 36 庄内式土器　二 重口縁壺 2 区　流路 5	口径　－　（頸部のみ残存1/5からの反転復原） 残存高　7.4cm 底径　－ ・外面　ナデ、刻目（突帯） 内面　ヘラミガキ、ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・5Y2/1 黒色	・庄内 1 式
63 － 37 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－　（頸部のみ残存1/4からの回転復原） 残存高　5.0cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、刺突（突帯） 内面　ヘラミガキ ・　－ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英含む	・2.5YR7/2 灰黄色 ・2.5YR7/2 灰黄色	・庄内 1 式
63 － 38 庄内式土器　二 重口縁壺 2 区　流路 5	口径　20.4cm　（口縁部はほぼ完存） 残存高　0.1cm 底径　－ ・外面　ハケ（6条/cm）のちナデ 内面　ハケ（6条/cm）のちヘラミガキ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式
63 － 39 庄内式土器　二 重口縁壺 3 区　流路 5	口径　20.4cm　（口縁部残存3/5からの回転復原） 残存高　8.4cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、ナデ ・　－ ・　－	軟質	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5YR5/8 明赤褐色 ・2.5YR5/8 明赤褐色	・庄内 2 式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
63 － 40 庄内式土器　二重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－　（体部残存1/10からの回転復原） 残存高　5.2cm 底径　－ ・外面　ナデ、突帯 内面　ナデ ・外面　沈線5条 内面　ナデ、ハケ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、赤色斑粒、雲母を含む	・10YR4/4 褐色 ・2.5Y 黄灰色	・庄内 2 式
63 － 41 庄内式土器　二重口縁壺 2 区　流路 5	口径　－　（全体残存3/4） 器高　29.3cm 底径　5.3cm ・外面　ナデのちヘラミガキ、突帯、刻目（突帯） 内面　ヘラミガキ ・外面　綾杉状の櫛描列点文、ケズリのちヘラミガキ(3mm幅) 内面　板ナデ ・外面　ナデ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR7/6 橙色、7.5YR7/4 にぶい橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色、10YR4/1 褐灰色	・庄内 1 式 ・体部上半外面に黒斑残る
64 － 42 庄内式土器　二重口縁壺 3 区　流路 5	口径　39.4cm　（口縁～頸部残存3/4） 残存高　13.7cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ、円形浮文、ヘラミガキ、頸部突帯に刻目 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　直線文 内面　ナデ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式
64 － 43 庄内式土器　二重口縁壺 3 区　流路 5	口径　24.2cm　（全体残存4/5） 残存高　35.3cm 底径　－ ・外面　簾状文(8条/cm)、円形浮文、直線文(12条/cm)、ヘラミガキ、頸部はナデ 内面　波状文(6条/cm)、ヘラミガキ、頸部はナデ ・外面　直線文(10条/cm)、波状文(10条/cm)、直線文(10条/cm)、ヘラミガキ 内面　指頭圧痕、ハケ ・外面　ヘラミガキ 内面　ハケ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式 ・口縁部内面に炭化物付着
64 － 44 庄内式土器　二重口縁壺 3 区　流路 5	口径　－（体部片） 残存高　3.0cm 底径　－ ・　－ ・外面　ナデ、刻目のある粘土帯 内面　摩滅のため不明 ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・2.5YR5/6 明赤褐色 ・7.5YR8/4 浅黄橙色	庄内 1 ～ 2 式
65 － 45 庄内式土器　弥生系甕 3 区　流路 5	口径　13.4cm　（ほぼ完形） 残存高　10.4cm 底径　3.5cm ・外面　タタキのちナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ(3条/cm)のちナデ 内面　板ナデ ・外面　ナデ 内面　板ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・2.5YR7/4 淡赤橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・外面全体、底部内面に煤付着
65 － 46 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　15.6cm　（口縁部残存1/5からの回転復原） 残存高　8.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR にぶい黄橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・口縁部から体部上位に煤付着 ・口縁部内面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
65 － 47 庄内式土器　弥生系甕 2 区　流路 5	口径　14.6cm　(全体残存1/2) 残存高　12.6cm 底径　3.4 ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ 内面　板ナデ ・外面　タタキのちナデ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR5/3 にぶい黄褐色 ・N4/0 灰色	・庄内 1 式 ・口縁部から体部中位外面に煤付着 ・内面全体に黒斑残る
65 － 48 庄内式土器　弥生系甕 2 区　流路 5	口径　12.4cm　(ほぼ完形) 残存高　13.0cm 底径　4.6cm ・外面　ナデ 内面　ケズリのちナデ ・外面　摩滅のため不明 内面　板ナデ ・外面　指頭圧痕、ケズリ 内面　板ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・体部下半から底部外面に黒斑残る
65 － 49 庄内式土器　弥生系甕 2 区　流路 5	口径　13.9cm　(完形) 器高　27.2cm 底径　3.0cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　摩滅のため不明、タタキ 内面　ナデ ・外面　タタキ 内面　ナデ	やや不良	φ 5mm 以下の長石含む	・7.5YR8/3 浅黄橙色 ・7.5YR8/3 浅黄橙色	・庄内 1 式 ・全体的に摩滅している
65 － 50 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　13.3cm　(完形) 残存高　16.65cm 底径　2.5cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ 内面　ナデ、ケズリ ・外面　ナデ 内面　ケズリ	良好	φ 2mm の長石、φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・7.5YR6/2 灰褐色	・庄内 1 式 ・外面全体に煤付着
65 － 51 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　14.6cm　(ほぼ完形) 残存高　19.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ケズリのちナデ ・外面　ケズリのちタタキのちハケ(4条/cm、8条/cm) 内面　ナデ、ケズリ ・外面　ハケ(4条/cm、8条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 6mm の長石、φ 2mm の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・体部から底部外面に煤付着
66 － 52 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　17.2cm　(全体残存4/5) 残存高　20.3cm 底径　－ ・外面　ハケ(10条/cm)のちナデ 内面　ナデ ・外面　タタキのちハケ(10条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母、角閃石含む	・10YR4/2 灰黄褐色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 ～ 3 式 ・外面全体に煤付着
66 － 53 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.2cm　(ほぼ完形) 残存高　14.6cm 底径　2.9cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、指頭圧痕、ケズリ 内面　ハケ(4条/cm)のちナデ ・外面　ケズリのちハケ（4条／cm) 内面　ケズリ	良好	φ 2mm 以下の石英、長石、雲母含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・布留 0 式 ・口縁部から体部外面、口縁部内面に煤付着 ・体部下位から底部外面、体部上半から底部内面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
66 － 54 土師器　甕 2 区　流路 5	口径　13.0cm　（全体残存4/5） 残存高　17.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちハケ(9条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ケズリのちハケ(9条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/3 にぶい黄橙色	・布留 0 式 ・体部中位から底部内面に煤付着
66 － 55 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　15.4cm　（ほぼ完形） 残存高　18.0cm 底径　－ ・外面　ハケ(5条/cm) のちナデ 内面　ハケ(5条/cm) ・外面　ハケ(12条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ハケ(12条/cm) 内面　指頭圧痕	良好	φ 2mm 以下の長石、雲母、石英含む	・7.5YR6/4 にぶい橙色 ・7.5YR6/4 にぶい橙色	・布留 0 式 ・体部中位から底部内面に煤付着
66 － 56 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　13.4cm　（完形） 残存高　15.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(6条/cm) 内面　ナデ、ケズリ ・外面　ハケ(6条/cm) 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y8/3 淡黄色 ・10YR8/6 黄橙色	・布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着 ・口縁部外面に黒斑残る
66 － 57 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.3cm　（完形） 残存高　19.3cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(9条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ハケ(9条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・10YR4/2 灰黄褐色・10YR7/3 にぶい黄橙色	・布留 0 式 ・口縁部から底部外面、体部から底部内面に煤付着
67 － 58 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.2cm　（完形） 残存高　18.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　板ナデのちナデ ・外面　ケズリのちハケ(6条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ケズリのちハケ(6条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR8/8 黄橙色 ・5YR7/6 橙色	・布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着
67 － 59 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　17.6cm　（口縁部残存1/3からの回転復原） 残存高　6.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(9条/cm) 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR にぶい橙色 ・7.5YR にぶい橙色	・布留 0 式 ・口縁部から体部外面に煤付着
67 － 60 土師器　小形甕 2 区　流路 5	口径　10.0cm　（ほぼ完形） 残存高　12.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケのちナデ、ケズリのちヘラミガキ 内面　板ナデ ・外面　ケズリ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR 浅黄橙色 ・10YR 浅黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・体部中位に焼成後穿孔 ・体部中位から底部外面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
67 － 61 土師器　甕 2 区　流路 5	口径　17.2cm　（口縁から体部残存3/4） 残存高　14.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm の長石、雲母、赤色斑粒含む	・7.5YR7/6 橙色・2.5YR6/8 橙色 ・10YR4/1 褐灰色	・布留 0 式 ・口縁部から体部外面に黒斑残る
67 － 62 土師器　小形甕 2 区　流路 5	口径　11.4cm　（ほぼ完形） 残存高　10.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(8条/cm) 内面　板ナデ、ハケ(6条/cm) ・外面　ハケ(8条/cm) 内面　ハケ(6条/cm)	良好	φ 1mm の長石含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・口縁部から底部外面に煤付着
67 － 63 土師器　小形甕 2 区　流路 5	口径　11.7cm　（ほぼ完形） 残存高　15.3cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ（6条/cm）、ケズリ 内面　ナデ ・外面　ケズリ 内面　ナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・7.5YR8/4 ・7.5YR8/4	・庄内 2 式～布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着
67 － 64 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　10.4cm　（全体残存3/4） 残存高　13.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(6条/cm) 内面　ケズリのち板ナデ ・外面　ハケ(6条/cm) 内面　ケズリのち板ナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式
67 － 65 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　13.0cm　（ほぼ完形） 残存高　13.0cm 底径　－ ・外面　タタキのちナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ(3条/cm) 内面　板ナデのちナデ ・外面　タタキ(3条/cm) 内面　板ナデのちナデ、指頭圧痕	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR5/2 灰黄褐色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・体部外面に煤付着 ・体部上半、底部内面に黒斑残る
68 － 66 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　17.2cm　（口縁部残存2/5からの回転復原） 残存高　6.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式
68 － 67 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　15.1cm　（口縁部残存1/5からの回転復原） 残存高　6.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・外面　ハケのちナデ 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・7.5YR5/3 にぶい褐色・7.5YR5/3 にぶい褐色 ・7.5YR5/6 明褐色	・庄内 3 式～布留 0 式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
68 － 68 土師器　大形甕 2 区　流路 5	口径　16.8cm　（口縁部のみ完形） 残存高　11.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(8条/cm)のちナデ 内面　板ナデ、指頭圧痕 ・　－	良好	φ 2mm の長石含む	・5YR7/6 橙色 ・5YR7/6 橙色	・庄内 3 式～布留 0 式
68 － 69 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　9.2cm　（ほぼ完形） 残存高　11.3cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　板ナデのちナデ ・外面　ハケ(6条/cm) 内面　板ナデのちナデ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色・2.5YR6/6 橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・口縁部から体部中位内面に煤付着 ・体部中位から底部内面に黒斑が残る
68 － 70 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　14.2cm　（完形） 残存高　11.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　タタキ 内面　板ナデ ・外面　タタキ 内面　板ナデ	やや軟質	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR5/3 灰オリーブ色 ・2.5YR5/4 黄褐色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部から底部外面に黒斑残る
68 － 71 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　8.5cm　（全体残存3/4） 残存高　10.6cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　指頭圧痕、ナデ 内面　指頭圧痕、ナデ ・外面　指頭圧痕、ナデ、穿孔 内面　オサエのちナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部下半に焼成前穿孔（円形）あり ・体部から底部外面に黒斑残る
68 － 72 土師器　小形甕 3 区　流路 5	口径　9.6cm　（口縁部残存1/4からの回転復原） 残存高　8.1cm 底径　－ ・外面　タタキのちナデ 内面　ハケ(12条/cm)のちナデ ・外面　タタキ(3条/cm)のち一部ナデ 内面　ナデ ・　－	良好	φ 5mm 以下の長石、石英、雲母含む	・2.5Y6/2 灰黄色 ・2.5Y7/2 灰黄色	・庄内 3 式～布留 0 式
68 － 73 土師器　小形甕 2 区　流路 5	口径　11.0cm　（全体残存3/4） 残存高　11.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm の長石含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着
68 － 74 土師器　甕 2 区　流路 5	口径　14.4cm　（口縁部残存1/5からの回転復原） 残存高　7.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・5YR7/4 にぶい橙色、10YR4/2 灰黄褐色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・山陰系土器 ・体部外面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
68 － 75 土師器　甕 2 区　流路 5	口径　15.0cm　（口縁部残存1/3からの回転復原） 残存高　4.6cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石含む	・5YR6/6 橙色 ・7.5YR4/3 褐色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・山陰系土器
68 － 76 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.6cm　（口縁部残存1/4） 残存高　7.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(9条/cm)、直線文、波状文 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・7.5YR8/6 浅黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・山陰系土器 ・口縁部から体部外面に煤付着
69 － 77 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　14.2cm　（口縁部残存1/5からの回転復原） 残存高　4.7cm 底径　－ ・外面　ナデ、擬凹線 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英含む	・10YR5/2 灰黄褐色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・北陸系土器 ・口縁部から体部外面に煤付着
69 － 78 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　18.8cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　3.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・5YR5/6 明赤褐色 ・5YR5/6 明赤褐色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 79 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　13.2cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　4.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 80 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　16.0cm　（口縁部残存1/5からの回転復原） 残存高　4.1cm 底径　－ ・外面　ナデ、擬凹線 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式 ・北陸系土器 ・口縁部外面に煤付着
69 － 81 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　13.4cm　（口縁部残存1/8からの回転復原） 残存高　4.05cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ、指頭圧痕 ・外面　ナデ 内面　ナデ、指頭圧痕 ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器 ・口縁部外面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
69 － 82 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　12.8cm　（口縁部残存1/10からの反転復原） 残存高　3.3cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石の砂粒を少し含む	・5YR7/6 橙色～5YR5/6 明赤褐色 ・5YR5/6 明赤褐色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 83 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　13.2cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　4.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 3mm の長石含む	・10YR4/1 褐灰色 ・10YR8/3 浅黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 84 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　－　（破片） 残存高　3.6cm 底径　－ ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ、指頭圧痕 ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石含む	・7.5YR6/2 灰褐色 ・7.5YR6/3 にぶい褐色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 85 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　－　（破片） 残存高　10.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ（8条/cm） 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石、チャート含む	・5YR6/8 橙色～10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色～ 10YR5/1 褐灰色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 86 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　－　（口縁部破片） 残存高　5.8cm 底径　－ ・外面　ナデ、指頭圧痕 内面　ナデ、指頭圧痕 ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石含む	・7.5YR6/3 にぶい褐色 ・7.5YR4/2 灰褐色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器
69 － 87 庄内式土器　小形甕 3 区　流路 5	口径　10.8cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　5.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちナデ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・2.5YR6/6 橙色 ・2.5YR6/6 橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・東海系土器か？
69 － 88 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　12.6cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　3.7cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ（6条/cm） 内面　ナデ、ハケ（6条/cm）、指頭圧痕 ・外面　ナデ、ハケ（6条/cm） 内面　ナデ、ハケ（6条/cm）、指頭圧痕 ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、チャート含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・布留 1 式 ・東海系土器
69 － 89 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　16.0cm　（口縁部残存1/10からの回転復原） 残存高　3.6cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ（5条/cm） 内面　指頭圧痕 ・　－	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR8/2 灰白色 ・10YR8/2 灰白色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・東海系土器

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
69 － 90 庄内式土器　甕 2 区　流路 5	口径　14.4cm （口縁部残存1/10からの反転復原） 残存高　5.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ 内面　ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石含む	・5YR5/6 明赤褐色 ・5YR7/6 橙色～5YR5/6 明赤褐色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・東海系土器か？
69 － 91 庄内式土器　甕 3 区　流路 5	口径　17.2cm （口縁部残存1/2からの回転復原） 残存高　6.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ハケ（6条/cm） 内面　ナデ、ナデ、ケズリ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、赤色斑粒含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・山陰系土器か？
70 － 92 土師器　鉢 3 区　流路 5	口径　－　（完形） 残存高　9.2cm 底径　3.0cm ・外面　タタキ 内面　板ナデ ・外面　タタキ 内面　板ナデ ・外面　タタキ 内面　ナデ	良好	φ 4mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母、φ 3mm 以下の赤色斑粒含む	・10YR8/4 浅黄橙色 ・10YR8/2 灰白色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・底部に焼成前穿孔あり
70 － 93 土師器　鉢 2 区　流路 5	口径　15.7cm （完形） 残存高　12.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちナデ 内面　ナデ、ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ	良好	φ 4 ｍｍ以下の長石含む	・10YR8/4 浅黄橙色 ・10YR8/4 浅黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・底部に焼成前穿孔あり ・口縁部から体部下半外面に黒斑残る
70 － 94 土師器　小形鉢 2 区　流路 5	口径　7.8cm （完形） 残存高　5.3cm 底径　2.2cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　指頭圧痕のちケズリのちナデ 内面　板ナデ ・外面　ナデ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm の長石含む	・5YR6/4 にぶい橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式 ・体部外面に黒斑残る
70 － 95 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　10.4cm （全体残存4/5） 残存高　5.4cm 底径　2.9cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ミガキ ・外面　指頭圧痕、ナデ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR にぶい黄橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式
70 － 96 庄内式土器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　10.0cm （残存1/10からの回転復原） 残存高　5.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ミガキ ・外面　調整不明 内面　ミガキ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・7.5YR7/4 にぶい橙色	・庄内 1 ～ 2 式 ・口縁部から底部外面に煤付着 ・口縁部から体部外面、口縁部から底部内面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
70 － 97 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　8.8cm　(完形) 残存高　7.2cm 底径　2.8cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　板ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/4 浅黄色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 1 式～布留 1 式
70 － 98 庄内式土器　小形鉢 2 区　流路 5	口径　11.0cm　(残存3/5からの回転復原) 残存高　7.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ケズリのちハケ 内面　板ナデのちナデ ・外面　ケズリのちハケ 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5YR4/3 にぶい赤褐色 ・10YR5/3 にぶい黄褐色・5Y3/2 オリーブ黒色	・庄内 1 ～ 2 式
70 － 99 土師器　鉢 2 区　流路 5	口径　13.0cm　(口縁部残存1/5からの回転復原) 残存高　3.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ハケ(8条/cm) ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・5YR6/6 橙色 ・5YR6/6 橙色	・布留 1 式 ・山陰系土器 ・精製土器
70 － 100 土師器　小形壺 2 区　流路 5	口径　10.8cm　(口縁部残存1/3からの回転復原) 残存高　4.9cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、ナデ、板ナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、ナデ、板ナデ ・　－	良好	φ 0.5mm 以下の長石、雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・近江ないし東海系土器か？
70 － 101 庄内式土器　高杯 3 区　流路 5	口径　20.0cm　(口縁部のみ1/4からの回転復原) 残存高　5.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ、ナデのちヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 1 式
70 － 102 土師器　高杯 3 区　流路 5	口径　21.0cm　(杯部のみ残存1/3からの回転復原) 残存高　7.3cm 底径　－ ・外面　ナデのちヘラミガキ 内面　ナデ、ハケ(7条/cm) ・外面　ヘラミガキ、ハケ(7条/cm)のちナデ 内面　ハケ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 黄褐色	・布留 1 式
70 － 103 庄内式土器　高杯 2 区　流路 5	口径　20.4cm　(ほぼ完形) 残存高　15.3cm 底径　13.0cm ・外面　ハケ(6条/cm)のちナデ、ヘラミガキ 内面　ハケ(6条/cm)のちナデ、ヘラミガキ ・外面　ハケ(6条/cm)のちヘラミガキ、沈線 内面　暗文風ミガキ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　シボリメ、ハケ(6条/cm)のちナデ	良好	φ 1mm の長石、雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式 ・透孔（円形）3 方向 ・口縁部、裾部外面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
71－104 庄内式土器　小形高杯 2区　流路5	口径　10.4cm　（杯部のみ完形） 残存高　4.6cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 　内面　ナデ、暗文風ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ、ケズリのちヘラミガキ 　内面　ケズリのちナデ、ヘラミガキ ・　－	良好	φ3mm以下の長石φ、1mm以下の雲母含む	・5YR7/6橙色 ・5YR8/2灰白色	・庄内2式 ・精製土器
71－105 庄内式土器　小形高杯 3区　流路5	口径　－　（裾部残存2/5からの回転復原） 残存高　5.2cm 底径　16.5cm ・　－ ・外面　ミガキ(5条/cm、幅2mmの原体) 　内面　ヘラミガキ ・外面　ミガキ、透孔 　内面　板ナデ、ミガキ	良好	φ1mm以下の長石含む	・5YR5/6明赤褐色 ・5YR6/8橙色	・庄内2式 ・透孔（円形）4方向 ・接合法が用いられる ・精製土器
71－106 庄内式土器　小形高杯 3区　流路5	口径　－　（脚部のみ完形） 残存高　7.6cm 底径　17.8cm ・　－ ・外面　ヘラミガキ 　内面　－（器表面剝脱） ・外面　ハケ（6条/cm）のちヘラミガキ、透孔 　内面　シボリメ、ケズリのちハケ（6条/cm）	良好	φ2mm以下の長石、石英含む	・10YR7/4にぶい黄橙色 ・10YR7/4にぶい黄橙色	・庄内2式 ・透孔（円形）4方向 ・挿入付加法が用いられる ・精製土器
71－107 庄内式土器　高杯 2区　流路5	口径　－　（脚部残存3/5からの回転復原） 残存高　8.1cm 底径　12.5cm ・　－ ・　－ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、透孔 　内面　ハケ（6条/cm）、ナデ	良好	φ3mm以下の長石、φ2mm以下の雲母含む	・2.5Y7/3浅黄色 ・2.5Y8/4淡黄色	・庄内2式 ・挿入付加法が用いられる ・透孔（円形）4方向
71－108 庄内式土器　壺 3区　流路5	口径　27.6cm　（口縁部残存3/5からの回転復原） 残存高　5.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ2mm以下の長石含む	・5YR6/8橙色 ・10YR4/2灰黄褐色	・庄内3式 ・北陸系土器
71－109 庄内式土器　小形器台 2区　流路5	口径　8.0cm　（全体残存4/5、脚裾部欠損） 残存高　8.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ 　内面　ナデのちヘラミガキ ・外面　板ナデのちヘラミガキ、透孔 　内面　板ナデ	良好	φ3mmの長石、φ1mmの雲母含む	・5YR7/6橙色 ・2.5YR5/8明赤褐色	・庄内3式 ・透孔（円形）4方向 ・精製土器
71－110 庄内式土器　小形器台 2区　流路5	口径　9.5cm　（全体残存4/5） 残存高　8.3cm 底径　－ ・外面　ナデ 　内面　ヘラミガキ ・外面　ケズリ、ヘラミガキ 　内面　ヘラミガキ ・外面　ケズリのちヘラミガキ、透孔 　内面　シボリメ、ハケ（6条/cm）のちナデ	良好	φ1mmの長石含む	・7.5YR7/6橙色 ・7.5YR7/6橙色	・庄内3式 ・透孔（円形）4方向 ・接合法が用いられる ・精製土器 ・受部外面に黒斑残る
71－111 庄内式土器　小形器台 2区　流路5	口径　7.5cm　（完形） 残存高　9.7cm 底径　10.8cm ・外面　ナデ 　内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ、ナデ 　内面　ナデ ・外面　ナデ、透孔 　内面　ナデ、板ナデ	良好	φ1mmの長石、雲母含む	・10YR8/3浅黄橙色 ・10YR8/2灰白色	・庄内3式 ・透孔（円形）3方向 ・精製土器 ・口縁部外面に黒斑残る

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
71－112 庄内式土器　小形器台 3区　流路5	口径　－　(脚台部のみ完形) 残存高　6.2cm 底径　11.2cm ・　－ ・　－ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、透孔 内面　ケズリのちハケ(6条/cm)	良好	φ 1mm以下の長石、石英含む	・10YR6/2灰黄褐色 ・10YR6/2灰黄褐色	・庄内3式 ・透孔（円形）3方向 ・精製土器 ・脚台部内外面に炭化物付着
71－113 庄内式土器　小形器台 3区　流路5	口径　9.0cm　(完形) 残存高　7.6cm 底径　10.2cm ・外面　ナデ、ミガキ 内面　摩滅のため不明 ・外面　ミガキ 内面　摩滅のため不明 ・外面　ミガキ 内面　ケズリのちミガキ	やや軟質	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母、赤色斑粒含む	・2.5YR4/6赤褐色 ・10YR6/6明黄褐色	・庄内3式 ・透孔（円形）3方向 ・接合法が用いられる ・精製土器
71－114 庄内式土器　小形器台 3区　流路5	口径　－　(脚台部のみ完形) 残存高　6.4cm 底径　9.8cm ・　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　ヘラミガキ、ハケ(9条/cm)	良好	φ 2mm以下の長石含む	・7.5YR7/4にぶい橙色 ・7.5YR7/4にぶい橙色	・庄内3式 ・透孔（円形）4方向 ・精製土器 ・脚台部内面に黒斑残る
71－115 庄内式土器　鳥形土製品 3区　流路5	口径　4.2cm　(完形) 残存高　5.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ	良好	φ 1mm以下の雲母含む	・10YR6/3にぶい黄橙色 ・10YR6/3にぶい黄橙色	・庄内3式 ・体部に焼成前穿孔あり ・口縁部から体部下半に黒斑残る
72－116 土師器　壺 3区　流路5	口径　－　(体部から底部のみ完形) 残存高　12.7cm 底径　－ ・　－ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ハケ ・外面　ケズリ 内面　ハケ(4条/cm)	良好	φ 4mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・2.5Y5/3黄褐色 ・5Y5/2灰オリーブ色	・庄内2式～布留0式 ・精製土器 ・体部下半外面に黒斑残る
72－117 土師器　壺 2区　流路5	口径　－　(口縁部欠損) 残存高　16.6cm　(全体残存3/4) 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　タタキのちミガキ、ケズリのちミガキ 内面　ハケ(4条/cm) ・外面　ケズリのちミガキ、ナデ 内面　ハケ(4条/cm)	良好	φ 1mmの長石、雲母含む	・10YR5/3にぶい黄橙色 ・10YR6/6明黄褐色	・庄内2式～布留0式 ・精製土器 ・体部中位から下半外面に炭化物付着
72－118 土師器　壺 3区　流路5	口径　－　(全体残存3/4) 残存高　11.5cm 底径　－ ・　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキのちナデ、ケズリのちヘラミガキ 内面　ナデ、ハケ(10条/cm) ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ハケ(10条/cm)	良好	φ 1mm以下の長石、赤色斑粒含む	・5YR6/6橙色 ・5YR6/6橙色	・庄内2式～布留0式 ・精製土器
72－119 土師器　小形丸底壺 3区　流路5	口径　10.6cm　(残存1/5からの回転復原) 残存高　8.7cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ、ナデ ・　－	良好	φ 1mm以下の長石、雲母含む	・10YR7/3にぶい黄橙色 ・10YR7/2にぶい黄橙色	・庄内2式～布留0式 ・外面全体に炭化物付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
72 － 120 土師器　小形壺 3 区　流路 5	口径　－　（全体残存3/4） 残存高　8.7cm 底径　－ ・　－ ・外面　摩滅のため不明 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石含む	・5YR7/8 橙色 ・10YR6/1 ～ 4/1 褐灰色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・体部外面全体に黒斑残る
72 － 121 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　11.2cm　（全体残存4/5） 残存高　12.7cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm)のちナデ、ケズリのちハケ(10条/cm) 内面　ケズリのちナデ ・外面　ケズリのちハケ(10条/cm) 内面　ケズリのちナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/3 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着
72 － 122 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.0cm　（口縁部のみ残存1/4からの回転復原） 残存高　5.2cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　矢羽根状タタキ(5～6条/cm)のちナデ 内面　ハケ（10条/cm） ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、石英、雲母含む	・7.5YR5/3 にぶい褐色 ・7.5YR にぶい橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・口縁部から体部外面、口縁部内面に煤、炭化物付着
72 － 123 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　14.4cm　（ほぼ完形） 残存高　22.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(12条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ハケ(12条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部中位から底部外面に煤付着
73 － 124 土師器　甕 2 区　流路 5	口径　13.4cm　（全体残存3/5） 残存高　14.8cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリ	良好	φ 3mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR5/4 にぶい褐色 ・7.5YR5/4 にぶい褐色	・布留 0 式 ・体部上半外面に黒斑残る
73 － 125 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　13.8cm　（完形） 残存高　14.0cm 底径　2.9cm ・外面　ナデのちハケ(10条/cm) 内面　ナデ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ケズリのちナデ ・外面　ハケ(10条/cm) 内面　ナデ	良好	φ 5mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR3/3 暗褐色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・布留 0 式 ・口縁部、体部上位、体部下位の各外面、体部中位内面に煤、炭化物付着
73 － 126 土師器　甕 3 区　流路 5	口径　16.2cm　（口縁～体部残存3/4からの回転復原） 残存高　15.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ハケ(6条/cm)のちナデ 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・布留 0 式 ・肩部に赤色顔料か

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
73 － 127 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　10.0cm （完形） 残存高　6.9cm 底径　－ ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　板ナデのちナデ ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・7.5YR6/6 橙色 ・2.5Y6/3 にぶい黄色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・精製土器 ・内面全体に赤彩 ・外面全体に黒漆塗布か？
73 － 128 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　9.8cm （残存1/3からの回転復原） 残存高　6.4cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリ、ハケ（5条/cm）のちナデ 内面　板ナデ ・外面　ケズリ 内面　板ナデ	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式
73 － 129 土師器　大形鉢 2 区　流路 5	口径　20.4cm （口縁から体部残存3/4） 残存高　6.5cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリ 内面　ケズリ ・　－	良好	φ 1mm の長石含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・体部外面、口縁部から体部内面に黒斑残る
73 － 130 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　11.4cm （完形） 残存高　6.5cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデ、ハケ（10条/cm） ・外面　ケズリのちミガキ 内面　ケズリのちナデ ・外面　ケズリ 内面　ケズリのちナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、赤色斑粒、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・10YR8/3 浅黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・精製土器 ・体部外面に黒漆塗布か？
73 － 131 土師器　小形鉢 3 区　流路 5	口径　9.0cm （杯部残存4/5） 残存高　4.2cm 底径　－ ・外面　ハケ(6条/5mm) 内面　ハケ(6条/5mm) ・外面　ハケ(6条/5mm)のちケズリのちヘラミガキ 内面　ナデ ・　－	良好	φ 1mm の長石、石英、雲母含む	・2.5YR5/6 明赤褐色 ・2.5YR5/6 明赤褐色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・精製土器 ・体部下半に黒斑残る
73 － 132 土師器　鉢 3 区　流路 5	口径　11.0cm （全体残存3/5） 残存高　6.9cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ハケ（4条/cm）のちナデ ・外面　ケズリのち指頭圧痕 内面　ハケ（4条/cm）、板ナデのちナデ ・外面　ナデ、ケズリ 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・2.5YR6/6 橙色・10YR5/8 赤色 ・5YR6/6 橙色・10YR5/8 赤色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・粗製土器
73 － 133 土師器　小形高杯 3 区　流路 5	口径　10.8cm （杯部残存3/4） 残存高　5.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　摩滅のため不明 内面　摩滅のため不明 ・外面　ヘラミガキ 内面　ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、石英含む	・7.5YR 橙色 ・2.5YR6/8 橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・挿入付加法が用いられる

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
73 － 134 土師器　有段高杯 3 区　流路 5	口径　22.4cm　(口縁部残存1/25からの回転復原) 残存高　7.0cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ハケ(10条/cm)のちヘラミガキ 内面　ナデのちヘラミガキ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母、赤色斑粒含む	・7.5YR にぶい橙色 ・7.5YR にぶい橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・挿入付加法が用いられる
73 － 135 土師器　高杯 3 区　流路 5	口径　－　(脚台部残存3/5) 残存高　8.0cm 底径　13.2cm ・　－ ・　－ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　ナデ	良好	φ 2mm 以下の長石含む	・10YR7/4 黄橙色 ・10YR7/4 黄橙色	・庄内 3 式～布留 0 式 ・透孔（円形）4 方向（3 箇所残存） ・円板充填法が用いられる
74 － 136 庄内式土器　高杯 2 区　流路 5	口径　21.3cm　(全体残存3/4) 残存高　14.7cm 底径　13.2cm ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ケズリのちヘラミガキ ・外面　ナデ、ヘラミガキ、透孔 内面　ケズリのち板ナデ	良好	φ 2mm の長石、雲母含む	・7.5YR7/4 にぶい橙色 ・7.5YR7/4 にぶい橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）2 方向 ・接合法が用いられる
74 － 137 土師器　有段高杯 3 区　流路 5	口径　－　(脚台部残存3/4からの回転復原) 残存高　11.0cm 底径　16.0cm ・　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　調整不明 ・外面　ヘラミガキ、ナデ、透孔 内面　ケズリ、ハケ(6条/cm)	良好	φ 2mm 以下の長石、石英、雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・7.5YR7/6 橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）4 方向
74 － 138 土師器　高杯 3 区　流路 5	口径　－　(脚台部のみ完形) 残存高　10.0cm 底径　14.8cm ・　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　ケズリ、ハケ（6条/cm）	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）4 方向 ・接合法が用いられる ・裾部外面に黒斑残る
74 － 139 土師器　器台 3 区　流路 5	口径　9.6cm　(全体残存4/5) 残存高　8.3cm 底径　10.2cm ・外面　ナデ、ヘラミガキ 内面　ナデのちヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ、ナデ、透孔 内面　シボリメ、ハケ(7条/cm)	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR にぶい黄橙色 ・10YR にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）4 方向
74 － 140 土師器　器台 2 区　流路 5	口径　9.1cm　(残存3/5からの回転復原) 残存高　8.3cm 底径　11.0cm ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ケズリのちヘラミガキ 内面　ナデ ・外面　ナデ、ヘラミガキ、透孔 内面　シボリ目、ハケ（5条/cm）	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR8/3 浅黄橙色、5YR7/6 橙色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色、2.5YR7/6 橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）3 方向
74 － 141 土師器　小形器台もしくは小形高杯 2 区　流路 5	口径　－　(脚台部残存3/4) 残存高　6.7cm 底径　12.4cm ・　－ ・外面　ナデ 内面　ケズリ、ナデ ・外面　ヘラミガキ、透孔、ナデ 内面　ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石、雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・10YR7/4 にぶい黄橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）4 方向

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
74 － 142 土師器　小形器台もしくは小形高杯 2 区　流路 5	口径　－　（脚台部のみ完存） 残存高　6.7cm 底径　11.4cm ・　－ ・　－ ・外面　ケズリのちヘラミガキ、透孔、ケズリのちナデ、ヘラミガキ 内面　ケズリのちハケ（5条/cm）、板ナデ	良好	φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・7.5YR6/6 橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）3 方向 ・精製土器
74 － 143 土師器　小形器台もしくは小形高杯 2 区　流路 5	口径　－　（脚台部のみほぼ完存） 残存高　16.9cm 底径　13.7cm ・　－ ・　－ ・外面　ケズリのちヘラミガキ、透孔 内面　ケズリ、ナデ	普通	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母、φ 2mm 以下の赤色斑粒含む	・5YR7/6 橙色 ・5YR6/8 橙色	・庄内 2 式～布留 0 式 ・透孔（円形）3 方向 ・精製土器
74 － 144 土師器　製塩土器 2 区　流路 5	口径　－　（口縁部欠損、全体3/5残存） 残存高　21.0cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ、タタキ 内面　ナデ、板ナデ ・外面　タタキ 内面　板ナデ	良好	φ 1mm 以下の長石含む	・10YR6/4 にぶい赤橙色 ・5YR7/4 にぶい橙色	・庄内 2 式～布留 0 式
75 － 1 弥生土器　台付鉢 3 区　流路 6	口径　11.0cm　（杯部のみほぼ完存） 残存高　11.8cm 底径　－ ・外面　ナデのちヘラミガキ 内面　ナデ、ヘラミガキ ・外面　ヘラミガキ 内面　指頭圧痕のちヘラミガキ ・　－	良好	φ 5mm 以下の長石、石英、雲母含む	・7.5YR にぶい橙色 ・7.5YR にぶい橙色	・畿内第Ⅴ様式 ・鉢部外面に炭化物付着
75 － 2 弥生土器　高杯 3 区　流路 6	口径　26.8cm　（口縁部残存5/6からの回転復原） 残存高　3.8cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 1mm 以下の石英、長石、雲母、赤色斑粒含む	・10YR6/2 灰黄褐色 ・10YR5/1 褐灰色	・畿内第Ⅴ様式
75 － 3 弥生土器　高杯 4 区　流路 6	口径　－　（脚台部残存4/5） 残存高　10.2cm 底径　11.6cm ・　－ ・　－ ・外面　ナデ、ヘラミガキ、透孔 内面　ナデ、シボリ目	良好	φ 2mm 以下の石英、長石、雲母含む	・10YR7/2 にぶい黄橙色 ・10YR7/2 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅴ様式 ・透孔（円形）3 方向 ・円板充填法が用いられる
110 － 1 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　3.3cm 底径　－ ・外面　ナデ、突帯に刻目 内面　指頭圧痕、ナデ ・　－ ・　－	普通	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y5/3 黄褐色 ・2.5Y5/2 暗灰黄色	・長原式
110 － 2 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　3.0cm 底径　－ ・外面　指頭圧痕、ナデ、突帯に刻目 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－ ・　－	普通	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR7/6 橙色 ・10YR6/3 にぶい黄橙色	・長原式 ・口縁部外面に煤付着

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
110 － 3 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　3.9cm 底径　－ ・　－ ・外面　指頭圧痕のちナデ、突帯に刻目 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－	普通	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR5/3 にぶい黄橙色	・船橋式～長原式
110 － 4 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　3.9cm 底径　－ ・外面　ナデ、突帯に刻目 内面　ナデ、指頭圧痕 ・　－ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR4/3 にぶい黄褐色 ・2.5Y4/3 オリーブ褐色	・船橋式
110 － 5 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　4.4cm 底径　－ ・外面　指頭圧痕のちナデ、突帯に刻目 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・5Y3/1 オリーブ黒色 ・5YR6/8 橙色	・船橋式
110 － 6 縄文土器　深鉢 1 区　流路 7	口径　－（破片） 残存高　8.1cm 底径　－ ・　－ ・外面　指頭圧痕のちナデ、突帯に刻目 内面　板ナデのち指頭圧痕 ・　－	普通	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR5/1 褐灰色 ・2.5Y5/2 灰黄色	・船橋式～長原式
110 － 7 弥生土器　鉢 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　6.1cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ヘラ描沈線8条 内面　ナデ ・　－	良好	φ 2mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・2.5Y7/3 浅黄色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅰ様式新段階 ・口縁部外面に黒斑残る
110 － 8 弥生土器　壺 1 区　流路 7	口径　－　（体部残存1/10からの回転復原） 残存高　6.1cm 底径　－ ・　－ ・外面　削出突帯2条、ナデ 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・7.5YR5/8 明褐色 ・7.5YR7/8 黄橙色	・畿内第Ⅰ様式新段階
110 － 9 弥生土器　壺 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　4.6cm 底径　－ ・　－ ・　外面　ヘラ描沈線4条、ヘラミガキ 内面　ナデ ・　－	やや軟質	φ 3mm 以下の長石含む	・7.5YR6/6 橙色 ・10YR4/3 にぶい黄褐色	・畿内第Ⅰ様式新段階
110 － 10 弥生土器　甕 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　4.2cm 底径　－ ・外面　ナデ、ヘラ描沈線3条（以上）、刻目 内面　ナデ ・　－ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 4mm 以下の赤色斑粒、φ 2mm 以下の雲母含む	・10YR6/4 にぶい黄橙色 ・10YR6/3 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅰ様式新段階
110 － 11 弥生土器　甕 1 区　流路 7	口径　－　（破片） 残存高　4.1cm 底径　－ ・外面　指頭圧痕のちナデ、刻目 内面　ナデ、指頭圧痕のちナデ ・外面　ナデ、ヘラ描沈線3条 内面　ナデ ・　－	良好	φ 3mm 以下の長石、φ 1mm 以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅰ様式新段階

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頸部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
110－12 弥生土器　甕 1区　流路7	口径　－　（破片） 残存高　8.0cm 底径　－ ・外面　ナデ、刻目 内面　ナデ ・外面　ナデ、ヘラ描沈線6条 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－	良好	φ 5mm以下の長石含む	・5YR5/8 明赤褐色 ・7.5YR7/8 黄橙色	・畿内第Ⅰ様式新段階
110－13 弥生土器　甕 1区　流路7	口径　－　（破片） 残存高　6.0cm 底径　－ ・外面　ナデ、ハケ 内面　ナデ ・外面　ハケのちヘラ描沈線3条 内面　指頭圧痕のちナデ ・　－	良好	φ 2mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・2.5Y6/3 にぶい黄色 ・2.5Y7/3 浅黄色	・畿内第Ⅰ様式新段階
111－14 弥生土器　甕 1区　流路7	口径　－　（破片） 残存高　6.8cm 底径　－ ・外面　ナデ 内面　ナデ ・外面　ナデ 内面　板ナデ ・　－	良好	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR7/3 にぶい黄橙色 ・5Y3/1 オリーブ黒色	・時期不明
111－15 弥生土器　壺 1区　流路7	口径　－　（底部のみ残存3/4からの回転復原） 残存高　7.7cm 底径　8.4cm ・　－ ・外面　ヘラミガキ 内面　ヘラミガキ ・外面　指頭圧痕のちミガキ、ケズリ 内面　ヘラミガキ	普通	φ 6mm以下の長石、φ 3mm以下の雲母含む	・5YR7/8 橙色 ・10R3/6 暗赤色、5YR6/8 橙色	・畿内第Ⅰ様式
111－16 弥生土器　壺 1区　流路7	口径　－　（底部残存1/5からの回転復原） 残存高　3.8cm 底径　7.3cm ・　－ ・外面　ナデ 内面　ハケ（条数不明） ・外面　指頭圧痕、ミガキ 内面　ハケ（条数不明）	良好	φ 5mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・5Y2/2 オリーブ黒色 ・2.5Y8/2 灰白色	・畿内第Ⅰ様式
111－17 弥生土器　壺 1区　流路7	口径　－　（底部残存1/5からの回転復原） 残存高　6.5cm 底径　10.0cm ・　－ ・外面　ハケ（条数不明） 内面　ケズリ ・外面　指頭圧痕、ハケ（条数不明）、ケズリ 内面　ケズリ	普通	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR7/8 黄橙色 ・10YR5/4 にぶい黄褐色	・畿内第Ⅰ様式
111－18 弥生土器　壺 1区　流路7	口径　－　（底部残存1/5からの回転復原） 残存高　8.7cm 底径　4.0cm ・　－ ・外面　ハケ（4～5条/cm） 内面　ハケ（4～5条/cm） ・外面　指頭圧痕、ハケ（4～5条/cm）のちナデ 内面　ハケ（4～5条/cm）	良好	φ 3mm以下の長石、φ 2mm以下の雲母、赤色斑粒含む	・10YR6/2 灰黄褐色 ・7.5YR5/6 明褐色、N2/ 黒色	・畿内第Ⅴ様式
111－19 弥生土器　壺 1区　流路7	口径　－　（底部のみ完存） 残存高　2.9cm 底径　10.0cm ・　－ ・　－ ・外面　指頭圧痕のちハケ（10条/cm）、ナデ 内面　ナデ	良好	φ 5mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・2.5YR5/3 黄褐色 ・7.5YR4/1 灰色	・畿内第Ⅰ様式

図－番号 器種 出土場所	・口縁部（口頭部） 大きさと、調整、施文 ・体部／天井部 ・底部（脚台部・高台）	焼成	胎土	色調 ・外面 ・内面	備考
111－20 弥生土器　壺もしくは甕 1区　流路7	口径　－　（底部のみ完形） 残存高　2.9cm 底径　5.0cm ・　－ ・　－ ・外面　ナデ、指頭圧痕のちナデ、ケズリ 内面　ハケ（8条/cm）	良好	φ 3mm以下の長石、φ 2mm以下の雲母含む	・7.5Y3/1 オリーブ黒色 ・2.5Y5/2 暗灰黄色	・畿内第Ⅴ様式
111－21 弥生土器　壺もしくは甕 1区　流路7	口径　－　（底部のみ完形） 残存高　3.9cm 底径　5.2cm ・　－ ・　－ ・外面　指頭圧痕、クモの巣状ハケ 内面　板ナデ	良好	φ 3mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・10YR7/4 にぶい黄橙色 ・5Y2/2 オリーブ黒色	・畿内第Ⅴ様式
111－22 弥生土器　甕 1区　流路7	口径　－　（底部残存1/10からの回転復原） 残存高　7.2cm 底径　8.8cm ・　－ ・外面　ハケ（条数不明） 内面　ハケ（条数不明） ・外面　ハケ（条数不明）、ケズリのちナデ 内面　ハケ（条数不明）	やや軟質	φ 5mm以下の長石、φ 2mm以下の雲母含む	・5YR7/8 橙色 ・7.5YR6/6 橙色	・畿内第Ⅲ～Ⅳ様式 ・摩滅のため調整不明瞭
111－23 弥生土器　壺もしくは甕 1区　流路7	口径　－　（底部残存1/10からの回転復原） 残存高　4.3cm 底径　4.8cm ・　－ ・　－ ・外面　指頭圧痕、ナデ、ケズリ 内面　調整不明	良好	φ 6mm以下の長石、φ 1mm以下の雲母含む	・2.5Y5/2 暗灰黄色 ・10YR7/3 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅴ様式
111－24 弥生土器　高杯 1区　流路7	口径　－　（脚部残存2/5からの回転復原） 残存高　8.5cm 底径　－ ・　－ ・　－ ・外面　ヘラミガキ、透孔 内面　シボリメ、ナデ	良好	φ 2mm以下の長石、石英、雲母含む	・10YR6/3 にぶい黄橙色 ・10YR6/4 にぶい黄橙色	・畿内第Ⅴ様式 ・円板充填法が用いられる ・透孔（円形）2段あり。上段3孔、下段1孔残る

別表３　出土石器観察表

図－番号 器種 出土場所	形態と、調整 ・最大長 ・最大厚 ・最大幅 ・重量	色調	石材	備考
76 － 1 磨製石器　石包丁 流路 2	・最大長：(6.0)cm ・最大厚：(5.2)cm ・最大幅：0.6cm ・重量：12.98g	10Y7/1 灰白色	・流紋岩（耳成山）	・外湾刃半月形 ・4/5 を欠失する
76 － 2 打製石器　剝片 流路 5	・最大長：3.6cm ・最大厚：0.5cm ・最大幅：1.2cm ・重量：3g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・縦長剝片を用いる ・原礫面残る
76 － 3 礫石器　砥石 流路 5	・最大長：6.6cm ・最大厚：3.1cm ・最大幅：3.0cm ・重量：57g	2.5Y8/2 灰白色	・凝灰岩	・被熱による変色あり
76 － 4 打製石器　石錐 流路 6	・最大長：(2.9)cm ・最大厚：0.7cm ・最大幅：1.2cm ・重量：3g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・側縁部白く潰れる ・1/2 を欠失する
76 － 5 打製石器　石鏃 第 2 遺構面下層	・最大長：3.2cm ・最大厚：0.5cm ・最大幅：(1.8)cm ・重量：1.54g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・凹基式石鏃 ・先端、基部に摩滅あり
76 － 6 打製石器　石錐 第 2 遺構面下層	・最大長：4.1cm ・最大厚：0.5cm ・最大幅：1.0cm ・重量：1.34g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・頂部に原礫面残る ・先端白く潰れる
76 － 7 磨製石器　石斧 第 2 遺構面下層	・最大長：(5.6)cm ・最大厚：3.1cm ・最大幅：5.3cm ・重量：159.68g	5B5/1 青灰色	・砂岩	・熱変性がみられる ・基部、刃部を欠失 ・欠損面に複数の敲打痕あり ・敲き石、磨石への転用が考えられる
112 － 1 打製石器　石剣 流路 7	・最大長：(19.6)cm ・最大厚：1.7cm ・最大幅：3.4cm ・重量：110.08g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・打製石剣（弥生） ・ほぼ完形 ・原礫面残る
112 － 2 磨製石器　石包丁 流路 7	・最大長：12.8cm ・最大厚：0.6cm ・最大幅：4.0cm ・重量：61.66g	2.5Y8/2 灰白色	・緑泥片岩	・直線刃半月型 ・紐擦れ痕あり
113 － 3 打製石器　削器又は楔形石器 流路 7	・最大長：5.4cm ・最大厚：1.0cm ・最大幅：4.1cm ・重量：26g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・刃部は丸く潰れ、対向する頂部に敲打痕あり
113 － 4 打製石器　削器 流路 7	・最大長：6.9cm ・最大厚：0.6cm ・最大幅：3.3cm ・重量：13g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・細部調整のない側縁部を使用した可能性あり
113 － 5 礫石器 石鋸 流路 7	・最大長：10.1cm ・最大厚：0.4cm ・最大幅：5.6cm ・重量：44g	2.5GY5/1 オリーブ灰色	・結晶片岩	・節理を斜めに用いる
114 － 6 礫石器　敲き石 流路 7	・最大長：7.7cm ・最大厚：5.3cm ・最大幅：6.7cm ・重量：335.36g	2.5Y8/2 灰白色	・安山岩	・基部、刃部を欠失した磨製石斧を転用する ・欠損面に複数の敲打痕あり

図－番号 器種 出土場所	形態と、調整 ・最大長 ・最大厚 ・最大幅 ・重量	色調	石材	備考
115 － 1 打製石器　削器もしくは石匙の未製品 ピット	・最大長：5.6cm ・最大厚：1.3cm ・最大幅：4.9cm ・重量：15g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・細部調整は部分的である
115 － 2 打製石器　小礫 溝 5	・最大長：4.5cm ・最大厚：0.9cm ・最大幅：3.2cm ・重量：18g	2.5GY6/1 オリーブ灰色	・砂岩	・全体に被熱による赤変がみられる ・1/3 を欠失する
115 － 3 打製石器　石鏃 溝 6	・最大長：2.7cm ・最大厚：0.4cm ・最大幅：(1.8)cm ・重量：1.42g	N2/0 黒色	・サヌカイト	・凹基式石鏃 ・側縁部に鋸歯縁をつくりだす

別表４　出土木製品等　一覧表

１．木製品等については、その計測値等を一覧するに際して、「護岸材　一覧表」（別表４－１）と「護岸材以外　の木製品等　一覧表」（別表４－２）に分けて作成した。

２．「別表４－１　護岸材　一覧表」の「形式」・「類型」・「ａ（cm）」・「ｂ（cm）」の項に記した、護岸材の型式分類・類型分類および寸法の計測箇所については、藤田和尊氏が御所市鴨都波遺跡出土護岸材に対して行った分析に際して設定したもの（藤田 1992）に従った。これは、同一地域における同種遺物について、統一的な視点で観察、分類することで、今次調査出土遺物についても将来的に分析を行うための基礎資料と成すためである。

３．藤田氏による護岸材の型式分類は、下記に引用する藤田氏作成表のとおりである。

形　式	型　式	規定基準	断面模式図	類	類別基準
杭	A	丸木杭		1 2 3	1→a＝2cm以下 2→a＝3～6cm 3→a＝7cm以上
	B	半裁杭		1 2 3	
	C	四分割杭 （a≦b）		1 2 3	
	D	角杭 （a＜b×2）			
矢板	A	原材の芯側に面を持たぬもの （a＞b）		1 2	a＝10cm以下 a＝11cm以上
	B	原材の芯側に面を持つもの （a≧b×2）		1 2 3	a＝11cm以下 a＝12～17cm a＝18cm以上
	C	原材の表面を割り取る板目材			
横木	A	丸木横木			
	B	半裁横木			
	C	四分割横木			
	D	角柱横木			
	E	原材の芯側に面を持たぬ板			
	F	原材の芯側に面を持つ板			

5. 出土木材は、可能な限り樹種同定を行った。同定は株式会社　吉田生物研究所（※１）、パリノサーヴェイ株式会社（※２）が行い、それぞれの記号を表中に記した。

別表４－１　護岸材　一覧表

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
第２遺構面												
1		流路５		杭	A2	42	5				３区　溝１	護岸杭ａ
2		流路５		杭	D	51	3	2			３区　溝１	護岸杭ｂ
第４遺構面												
3	116－1	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	5		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	Q0047
4	116－2	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	3		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	Q0050
5	116－3	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	59	4		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	Q0067
6	116－4	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	G0002
7	116－5	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	65	4		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	G0011
8	116－6	流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	3		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	G0012
9		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	5		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	G0078
10		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	5		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	G0188
11		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	5		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	Q0060
12		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	122	11				１区　溝７	G0001
13		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	30	3				１区　溝７	G0003
14		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	27	3				１区　溝７	G0004
15		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	24	3				１区　溝７	G0005
16		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	G0006
17		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	42	3				１区　溝７	G0007
18		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	41	3				１区　溝７	G0008
19		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	71	4				１区　溝７	G0009
20		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0010
21		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	3				１区　溝７	G0013
22		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	3				１区　溝７	G0014
23		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	3				１区　溝７	G0015
24		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	42	3				１区　溝７	G0016
25		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	42	4				１区　溝７	G0017
26		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	81	4				１区　溝７	G0018
27		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	18	3				１区　溝７	G0019
28		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	3				１区　溝７	G0020
29		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	21	3				１区　溝７	G0021
30		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	23	3				１区　溝７	G0022
31		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	3				１区　溝７	G0023
32		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	69	3				１区　溝７	G0024
33		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	29	2				１区　溝７	G0025
34		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	100	5				１区　溝７	G0026
35		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	29	4				１区　溝７	G0027
36		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	5				１区　溝７	G0028
37		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	80	5				１区　溝７	G0029
38		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	3				１区　溝７	G0030
39		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	26	3				１区　溝７	G0031
40		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	48	3				１区　溝７	G0033
41		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	3				１区　溝７	G0034
42		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	4				１区　溝７	G0035
43		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	3				１区　溝７	G0036
44		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	4				１区　溝７	G0037
45		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	5				１区　溝７	G0038
46		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	87	3				１区　溝７	G0039
47		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	6				１区　溝７	G0040
48		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	5				１区　溝７	G0041
49		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0042
50		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	65	3				１区　溝７	G0043
51		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	4				１区　溝７	G0044
52		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	27	3				１区　溝７	G0046
53		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	6				１区　溝７	G0047
54		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	23	3				１区　溝７	G0048
55		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0050

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
56		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	37	7				１区　溝７	G0051
57		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	31	3				１区　溝７	G0052
58		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	4				１区　溝７	G0053
59		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	30	4				１区　溝７	G0054
60		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	2				１区　溝７	G0055
61		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	4				１区　溝７	G0056
62		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A	63	8				１区　溝７	G0057
63		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	19	3				１区　溝７	G0058
64		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0059
65		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	59	5				１区　溝７	G0060
66		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	23	2				１区　溝７	G0061
67		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	66	3				１区　溝７	G0062
68		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	4				１区　溝７	G0063
69		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	3				１区　溝７	G0064
70		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	3				１区　溝７	G0065
71		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	31	6				１区　溝７	G0066
72		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	4				１区　溝７	G0067
73		流路７杭列Ａ	図 95	杭	B2	34	3	6			１区　溝７	G0068
74		流路７杭列Ａ	図 95	杭	B2	43	3	6			１区　溝７	G0069
75		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	5				１区　溝７	G0070
76		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0071
77		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	42	4				１区　溝７	G0072
78		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	61	4				１区　溝７	G0073
79		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	65	6				１区　溝７	G0074
80		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	3				１区　溝７	G0075
81		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	G0076
82		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0077
83		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	4				１区　溝７	G0079
84		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	87	5				１区　溝７	G0080
85		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	4				１区　溝７	G0081
86		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	90	3				１区　溝７	G0082
87		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	33	4				１区　溝７	G0083
88		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	89	4				１区　溝７	G0084
89		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	93	4				１区　溝７	G0085
90		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	103	5				１区　溝７	G0086
91		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	83	3				１区　溝７	G0087
92		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	91	4				１区　溝７	G0088
93		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	89	4				１区　溝７	G0089
94		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	92	5				１区　溝７	G0090
95		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	105	4				１区　溝７	G0091
96		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	6				１区　溝７	G0092
97		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	G0093
98		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	84	3				１区　溝７	G0094
99		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	135	6				１区　溝７	G0095
100		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	103	4				１区　溝７	G0096
101		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	124	7				１区　溝７	G0097
102		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	66	3				１区　溝７	G0098
103		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	74	5				１区　溝７	G0099
104		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	132	6				１区　溝７	G0100
105		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	123	11				１区　溝７	G0101
106		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	103	5				１区　溝７	G0102
107		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	91	4				１区　溝７	G0103
108		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	138	6				１区　溝７	G0104
109		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	110	5				１区　溝７	G0105
110		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	3				１区　溝７	G0106
111		流路７杭列Ａ	図 95	横木	B	65	28				１区　溝７	G0107
112		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	3				１区　溝７	G0108
113		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	3				１区　溝７	G0109
114		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	69	4				１区　溝７	G0110
115		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	6	2				１区　溝７	G0111
116		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	101	4				１区　溝７	G0112
117		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	90	4				１区　溝７	G0113
118		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	5				１区　溝７	G0114

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
119		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	5				１区　溝７	G0115
120		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	23	4				１区　溝７	G0116
121		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	84	5				１区　溝７	G0117
122		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	101	4				１区　溝７	G0118
123		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	37	6				１区　溝７	G0119
124		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	41	4				１区　溝７	G0120
125		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	G0121
126		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	69	5				１区　溝７	G0122
127		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	4				１区　溝７	G0123
128		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	3				１区　溝７	G0124
129		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	G0125
130		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	113	4				１区　溝７	G0126
131		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	103	4				１区　溝７	G0127
132		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	3				１区　溝７	G0128
133		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	45	7				１区　溝７	G0129
134		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	109	6				１区　溝７	G0130
135		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	3				１区　溝７	G0131
136		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	66	5				１区　溝７	G0132
137		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0133
138		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	69	5				１区　溝７	G0134
139		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	143	4				１区　溝７	G0135
140		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	74	3				１区　溝７	G0136
141		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	123	7				１区　溝７	G0137
142		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	4				１区　溝７	G0138
143		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	20	5				１区　溝７	G0139
144		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	62	3				１区　溝７	G0140
145		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	3				１区　溝７	G0141
146		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	77	4				１区　溝７	G0142
147		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	3				１区　溝７	G0143
148		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	3				１区　溝７	G0144
149		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	87	5				１区　溝７	G0145
150		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	33	4				１区　溝７	G0146
151		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	22	4				１区　溝７	G0147
152		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	69	3				１区　溝７	G0148
153		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	5				１区　溝７	G0149
154		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	4				１区　溝７	G0150
155		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	4				１区　溝７	G0151
156		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	77	3				１区　溝７	G0152
157		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	24	3				１区　溝７	G0153
158		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	3				１区　溝７	G0154
159		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	88	3				１区　溝７	G0155
160		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A	87	15				１区　溝７	G0156 ②
161		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	83	4				１区　溝７	G0157
162		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	3				１区　溝７	G0158
163		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	4				１区　溝７	G0159
164		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	4				１区　溝７	G0160
165		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	3				１区　溝７	G0161
166		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	24	3				１区　溝７	G0162
167		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	4				１区　溝７	G0163
168		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	3				１区　溝７	G0164
169		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	37	4				１区　溝７	G0165
170		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	3				１区　溝７	G0166
171		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	4				１区　溝７	G0167
172		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	47	4				１区　溝７	G0168
173		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	4				１区　溝７	G0169
174		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	50	5				１区　溝７	G0170
175		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	84	4				１区　溝７	G0171
176		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	85	6				１区　溝７	G0172
177		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	58	2				１区　溝７	G0173
178		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	3				１区　溝７	G0174
179		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	65	4				１区　溝７	G0175
180		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	62	4				１区　溝７	G0176
181		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	61	4				１区　溝７	G0177

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
182		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	206	3				１区　溝７	G0178
183		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	47	3				１区　溝７	G0179
184		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	9	3				１区　溝７	G0180
185		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	41	2				１区　溝７	G0181
186		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	3				１区　溝７	G0182
187		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	66	4				１区　溝７	G0183
188		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	3				１区　溝７	G0184
189		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	4				１区　溝７	G0185
190		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	104	4				１区　溝７	G0186
191		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	67	7				１区　溝７	G0187
192		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	141	3				１区　溝７	G0189
193		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	4				１区　溝７	G0190
194		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	5				１区　溝７	G0191
195		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	47	5				１区　溝７	G0192
196		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	4				１区　溝７	G0193
197		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	103	4				１区　溝７	G0194
198		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	102	5				１区　溝７	G0195
199		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	86	4				１区　溝７	G0196
200		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	66	5				１区　溝７	G0197
201		流路７杭列Ａ	図 95	杭	B2	66	3	6			１区　溝７	G0198
202		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	31	4				１区　溝７	G0199
203		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	104	5				１区　溝７	G0200
204		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	6				１区　溝７	G0201
205		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	100	4				１区　溝７	G0202
206		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	70	7				１区　溝７	G0203
207		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	12	3				１区　溝７	G0204
208		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	16	3				１区　溝７	G0205
209		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	25	2				１区　溝７	G0206
210		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	85	4				１区　溝７	G0207
211		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	18	5				１区　溝７	G0208
212		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	72	4				１区　溝７	G0209
213		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	4				１区　溝７	G0210
214		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	88	5				１区　溝７	G0211
215		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	3				１区　溝７	G0212
216		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	4				１区　溝７	G0213
217		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	4				１区　溝７	G0214
218		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	3				１区　溝７	G0215
219		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	20	5				１区　溝７	G0216
220		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	25	5				１区　溝７	G0217
221		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	G0218
222		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	4				１区　溝７	G0219
223		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	3				１区　溝７	G0220
224		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	48	3				１区　溝７	G0221
225		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	30	4				１区　溝７	G0222
226		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	82	4				１区　溝７	G0223
227		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	110	5				１区　溝７	G0224
228		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	110	5				１区　溝７	G0225
229		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	93	4				１区　溝７	G0226
230		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	96	5				１区　溝７	G0227
231		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	3				１区　溝７	G0228
232		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	44	2				１区　溝７	G0229
233		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	25	3				１区　溝７	G0230
234		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	94	5				１区　溝７	G0231
235		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	50	5				１区　溝７	G0232
236		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	73	4				１区　溝７	G0233
237		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	5				１区　溝７	G0234
238		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	64	3				１区　溝７	G0235
239		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	4				１区　溝７	G0236
240		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	3				１区　溝７	G0237
241		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	72	4				１区　溝７	G0238
242		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	96	4				１区　溝７	G0239
243		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	3				１区　溝７	G0240
244		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	72	2				１区　溝７	G0241

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
245		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	3				１区　溝７	G0242
246		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	3				１区　溝７	G0243
247		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	91	5				１区　溝７	G0244
248		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	81	4				１区　溝７	G0245
249		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	4				１区　溝７	G0246
250		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	81	4				１区　溝７	G0247
251		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0248
252		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	80	3				１区　溝７	G0249
253		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	79	3				１区　溝７	G0250
254		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	105	4				１区　溝７	G0251
255		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	3				１区　溝７	G0252
256		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	3				１区　溝７	G0253
257		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	79	5				１区　溝７	G0254
258		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	3				１区　溝７	G0255
259		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	3				１区　溝７	G0256
260		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	4				１区　溝７	G0257
261		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0258
262		流路７杭列Ａ	図 95	杭	D	20	6	4			１区　溝７	G0259
263		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	3				１区　溝７	G0260
264		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	4				１区　溝７	G0261
265		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	31	3				１区　溝７	G0262
266		流路７杭列Ａ	図 95	横木	B	82	13	22			１区　溝７	G0263
267		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	25	4				１区　溝７	G0264
268		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	5				１区　溝７	G0265
269		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	5				１区　溝７	G0266
270		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A	75	6				１区　溝７	G0267
271		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	88	4				１区　溝７	G0268
272		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	16	2				１区　溝７	G0269
273		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	86	3				１区　溝７	G0270
274		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	61	3				１区　溝７	G0271
275		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	3				１区　溝７	G0272
276		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	93	3				１区　溝７	G0273
277		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	93	6				１区　溝７	G0274
278		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	103	2				１区　溝７	G0275
279		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	90	5				１区　溝７	G0276
280		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	79	5				１区　溝７	G0277
281		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A	22	3				１区　溝７	G0278
282		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	74	4				１区　溝７	G0279
283		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	3				１区　溝７	G0280
284		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	28	4				１区　溝７	G0281
285		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	120	4				１区　溝７	G0282
286		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	89	4				１区　溝７	G0283
287		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	6				１区　溝７	G0284
288		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	75	6				１区　溝７	G0285
289		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	4				１区　溝７	G0286
290		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	73	3				１区　溝７	G0287
291		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	G0288
292		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	32	3				１区　溝７	G0289
293		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	27	6				１区　溝７	G0290
294		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	4				１区　溝７	G0291
295		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	78	5				１区　溝７	G0292
296		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	4				１区　溝７	G0293
297		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	112	6				１区　溝７	G0294
298		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	26	4				１区　溝７	G0295
299		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	47	4				１区　溝７	G0296
300		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	48	4				１区　溝７	G0297
301		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	3				１区　溝７	G0298
302		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	3				１区　溝７	G0299
303		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	4				１区　溝７	G0300
304		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	82	4				１区　溝７	G0301
305		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	104	4				１区　溝７	G0302
306		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	65	3				１区　溝７	G0303
307		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	3				１区　溝７	G0304

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
308		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	113	7				１区　溝７	G0305
309		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	3				１区　溝７	G0306
310		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	4				１区　溝７	G0307
311		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	G0308
312		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	5				１区　溝７	G0309
313		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	G0310
314		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	G0311
315		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	82	4				１区　溝７	G0312
316		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	4				１区　溝７	G0313
317		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	84	4				１区　溝７	G0314
318		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	5				１区　溝７	G0315
319		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	62	4				１区　溝７	G0316
320		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	4				１区　溝７	G0317
321		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	48	4				１区　溝７	G0318
322		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	33	4				１区　溝７	G0319
323		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	4				１区　溝７	G0320
324		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	5				１区　溝７	G0321
325		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	121	8				１区　溝７	G0322
326		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	93	4				１区　溝７	G0323
327		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	4				１区　溝７	G0324
328		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	3				１区　溝７	G0325
329		流路７杭列Ａ	図 95	矢板	A1	37	10	3			１区　溝７	G0326
330		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	G0327
331		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	4				１区　溝７	G0328
332		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A2	13	6				１区　溝７	G0329
333		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0330
334		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	76	4				１区　溝７	G0331
335		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A3	96	7	5			１区　溝７	G0332
336		流路７杭列Ａ	図 95	杭	C2	17	6	5			１区　溝７	G0333
337		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	61	2				１区　溝７	G0334
338		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	70	3				１区　溝７	G0335
339		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	51	7				１区　溝７	G0336
340		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	G0337
341		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	108	3				１区　溝７	G0338
342		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A3	25	7				１区　溝７	G0339
343		流路７杭列Ａ	図 95	杭	B2	36	2	5			１区　溝７	G0340
344		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	4				１区　溝７	Q0002
345		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	27	3				１区　溝７	Q0003
346		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	59	4				１区　溝７	Q0004
347		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	3				１区　溝７	Q0005
348		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	3				１区　溝７	Q0006
349		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	4				１区　溝７	Q0007
350		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	141	5				１区　溝７	Q0008
351		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	3				１区　溝７	Q0009
352		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	4				１区　溝７	Q0010
353		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	4				１区　溝７	Q0011
354		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	80	5				１区　溝７	Q0012
355		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	Q0013
356		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	42	3				１区　溝７	Q0015
357		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	5				１区　溝７	Q0016
358		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	50	4				１区　溝７	Q0017
359		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	Q0018
360		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	4				１区　溝７	Q0019
361		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	50	4				１区　溝７	Q0020
362		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	Q0021
363		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	40	4				１区　溝７	Q0022
364		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	123	5				１区　溝７	Q0023
365		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	3				１区　溝７	Q0024
366		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	4				１区　溝７	Q0025
367		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	22	3				１区　溝７	Q0026
368		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	4				１区　溝７	Q0027
369		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	37	3				１区　溝７	Q0028
370		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	83	3				１区　溝７	Q0029

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
371		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	50	4				１区　溝７	Q0030
372		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	33	4				１区　溝７	Q0031
373		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	4				１区　溝７	Q0032
374		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	27	3				１区　溝７	Q0033
375		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	5				１区　溝７	Q0034
376		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	4				１区　溝７	Q0035
377		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	51	4				１区　溝７	Q0036
378		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	82	4				１区　溝７	Q0037
379		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	102	4				１区　溝７	Q0038
380		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	55	3				１区　溝７	Q0039
381		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	67	3				１区　溝７	Q0040
382		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	Q0041
383		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	83	4				１区　溝７	Q0042
384		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	3				１区　溝７	Q0043
385		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	3				１区　溝７	Q0044
386		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	3				１区　溝７	Q0045
387		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	4				１区　溝７	Q0046
388		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	43	3				１区　溝７	Q0048
389		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	71	4				１区　溝７	Q0049
390		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	72	3				１区　溝７	Q0051
391		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	Q0052
392		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	39	3				１区　溝７	Q0053
393		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	46	6				１区　溝７	Q0054
394		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	95	4				１区　溝７	Q0055
395		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	48	6				１区　溝７	Q0056
396		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	60	3				１区　溝７	Q0057
397		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	34	4				１区　溝７	Q0058
398		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	53	4				１区　溝７	Q0059
399		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	84	4				１区　溝７	Q0061
400		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	73	4				１区　溝７	Q0062
401		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	63	3				１区　溝７	Q0063
402		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	72	3				１区　溝７	Q0064
403		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	5				１区　溝７	Q0065
404		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	99	4				１区　溝７	Q0066
405		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	68	4				１区　溝７	Q0069
406		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	78	3				１区　溝７	Q0070
407		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	4				１区　溝７	Q0071
408		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	57	4				１区　溝７	Q0072
409		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	83	4				１区　溝７	Q0073
410		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	79	4				１区　溝７	Q0074
411		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	3				１区　溝７	Q0075
412		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	52	5				１区　溝７	Q0076
413		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	58	5				１区　溝７	Q0077
414		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	49	5				１区　溝７	Q0078
415		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	81	4				１区　溝７	Q0079
416		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	32	3				１区　溝７	Q0080
417		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	47	3				１区　溝７	Q0081
418		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	89	4				１区　溝７	Q0082
419		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	54	4				１区　溝７	Q0083
420		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	61	4				１区　溝７	Q0084
421		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	64	4				１区　溝７	Q0085
422		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	110	4				１区　溝７	Q0089
423		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	101	5				１区　溝７	Q0090
424		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	4				１区　溝７	Q0091
425		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	72	4				１区　溝７	Q0092
426		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	45	3				１区　溝７	Q0093
427		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	56	3				１区　溝７	Q0094
428		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	4				１区　溝７	Q0095
429		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	3				１区　溝７	Q0096
430		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	3				１区　溝７	Q0097
431		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	26	3				１区　溝７	Q0098
432		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	35	4				１区　溝７	Q0099
433		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	26	4				１区　溝７	Q0100

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
434		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	36	3				１区　溝７	Q0101
435		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	38	3				１区　溝７	Q0102
436		流路７杭列Ａ	図 95	杭	B2	6	3	2			１区　溝７	Q0103
437		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	23	4				１区　溝７	Q0104
438		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	11	3				１区　溝７	Q0105
439		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	16	3				１区　溝７	Q0106
440		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A1	16	2				１区　溝７	Q0107
441		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	24	3				１区　溝７	Q0108
442		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	24	3				１区　溝７	Q0109
443		流路７杭列Ａ	図 95	横木	A	43	35	13			１区　溝７	Q0110
444		流路７杭列Ａ	図 95	杭	A2	44	4				１区　溝７	Q0111
445	116 － 7	流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	33	4		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	00036
446	116 － 8	流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	41	3		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	P0063
447	116 － 9	流路７杭列Ｂ	図 96	杭	C2	52	5	7	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	P0033
448	116 － 10	流路７杭列Ｂ	図 96	矢板	A2	51	11	3	ブナ科クリ属クリ	※１	１区　溝７	P0026
449	117 － 11	流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	96	3		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	00092
450	117 － 12	流路７杭列Ｂ	図 96	杭	C2	80	4	5	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	P0005
451		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	C3	60	8	7	クワ科クワ属	※１	１区　溝７	P0012
452		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	34	3				１区　溝７	00001
453		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	35	4				１区　溝７	00002
454		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	4				１区　溝７	00003
455		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	57	4				１区　溝７	00004
456		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	7	3				１区　溝７	00005
457		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	29	3				１区　溝７	00006
458		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	54	4				１区　溝７	00007
459		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	31	4				１区　溝７	00008
460		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	32	3				１区　溝７	00009
461		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	24	3				１区　溝７	00010
462		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	76	6				１区　溝７	00011
463		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	81	6				１区　溝７	00012
464		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	46	4				１区　溝７	00014
465		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	31	4				１区　溝７	00015
466		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	24	5				１区　溝７	00016
467		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	18	3				１区　溝７	00019
468		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	47	3				１区　溝７	00025
469		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	67	6				１区　溝７	00026
470		流路７杭列Ｂ	図 96	横木	A	80	12				１区　溝７	00027
471		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	5				１区　溝７	00028
472		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	19	5				１区　溝７	00030
473		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	38	5				１区　溝７	00031
474		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	53	4				１区　溝７	00032
475		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	51	3				１区　溝７	00033
476		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	38	6				１区　溝７	00034
477		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	47	4				１区　溝７	00035
478		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	35	2				１区　溝７	00037
479		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	74	5				１区　溝７	00038
480		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	53	5				１区　溝７	00039
481		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	50	4				１区　溝７	00040
482		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	41	3				１区　溝７	00041
483		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	76	5				１区　溝７	00042
484		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	19	4				１区　溝７	00043
485		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	45	3				１区　溝７	00044
486		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	21	4				１区　溝７	00045
487		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	55	3				１区　溝７	00046
488		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	22	4				１区　溝７	00047
489		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	40	4				１区　溝７	00048
490		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	58	4				１区　溝７	00049
491		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	75	3				１区　溝７	00050
492		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	30	2				１区　溝７	00051
493		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	36	4				１区　溝７	00052
494		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	54	3				１区　溝７	00053

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
495		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	34	4				１区　溝７	00054
496		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	44	3				１区　溝７	00055
497		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	63	4				１区　溝７	00056
498		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	5				１区　溝７	00057
499		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	66	5				１区　溝７	00058
500		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	67	4				１区　溝７	00059
501		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	27	3				１区　溝７	00060
502		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	80	6				１区　溝７	00061
503		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	37	5				１区　溝７	00062
504		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	58	5				１区　溝７	00063
505		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	3				１区　溝７	00064
506		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	33	3				１区　溝７	00065
507		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	38	3				１区　溝７	00066
508		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	34	3				１区　溝７	00067
509		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	23	4				１区　溝７	00068
510		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	40	5				１区　溝７	00069
511		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	33	3				１区　溝７	00072
512		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	51	4				１区　溝７	00073
513		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	64	4				１区　溝７	00074
514		流路７杭列Ｂ	図 96	横木	A	176	4				１区　溝７	00075
515		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	42	3				１区　溝７	00076
516		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A3	47	8				１区　溝７	00077
517		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	26	3				１区　溝７	00078
518		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A1	33	2				１区　溝７	00079
519		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	36	5				１区　溝７	00080
520		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A1	30	2				１区　溝７	00081
521		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	20	4				１区　溝７	00082
522		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	16	4				１区　溝７	00084
523		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A1	22	2				１区　溝７	00085
524		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	79	3				１区　溝７	00086
525		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	100	5				１区　溝７	00088
526		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	58	4				１区　溝７	00089
527		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	30	4				１区　溝７	00090
528		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	30	4				１区　溝７	00091
529		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	123	3				１区　溝７	00093
530		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	63	4				１区　溝７	00094
531		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	89	4				１区　溝７	00095
532		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	66	3				１区　溝７	00096
533		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	65	4				１区　溝７	00097
534		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	52	4				１区　溝７	00098
535		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	53	3				１区　溝７	00099
536		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	54	3				１区　溝７	00100
537		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	14	3				１区　溝７	P0001
538		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	74	3				１区　溝７	P0002
539		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	85	3				１区　溝７	P0004
540		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	65	4				１区　溝７	P0006
541		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	35	3				１区　溝７	P0007
542		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	30	3				１区　溝７	P0008
543		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	77	5				１区　溝７	P0009
544		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	78	3				１区　溝７	P0010
545		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	35	4				１区　溝７	P0011
546		流路７杭列Ｂ	図 96	横木	A	92	14				１区　溝７	P0013
547		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	30	5				１区　溝７	P0014
548		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	42	5				１区　溝７	P0015
549		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	48	4				１区　溝７	P0016
550		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	27	4				１区　溝７	P0017
551		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	68	5				１区　溝７	P0018
552		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	71	3				１区　溝７	P0019
553		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	4				１区　溝７	P0020
554		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	16	5				１区　溝７	P0021
555		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	88	5				１区　溝７	P0022
556		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	70	3				１区　溝７	P0023
557		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	40	4				１区　溝７	P0024

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
558		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	79	4				１区　溝７	P0025
559		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	76	5				１区　溝７	P0027
560		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	73	4				１区　溝７	P0028
561		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	94	4				１区　溝７	P0029
562		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	23	3				１区　溝７	P0030
563		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	87	6				１区　溝７	P0031
564		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	C2	86	5	9			１区　溝７	P0032
565		流路７杭列Ｂ	図 96	矢板	A1	51	8	2			１区　溝７	P0034
566		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	56	5				１区　溝７	P0035
567		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	61	4				１区　溝７	P0036
568		流路７杭列Ｂ	図 96	横木	B	93	9	5			１区　溝７	P0037
569		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A3	120	18				１区　溝７	P0038
570		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	65	4				１区　溝７	P0039
571		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	5				１区　溝７	P0040
572		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	59	3				１区　溝７	P0041
573		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	69	5				１区　溝７	P0042
574		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	46	3				１区　溝７	P0043
575		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	57	4				１区　溝７	P0044-1
576		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A1	14	2				１区　溝７	P0044-2
577		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	3				１区　溝７	P0045
578		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	61	5				１区　溝７	P0046
579		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	60	4				１区　溝７	P0047
580		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	116	5				１区　溝７	P0048
581		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	6				１区　溝７	P0049
582		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	39	4				１区　溝７	P0050
583		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	73	4				１区　溝７	P0051
584		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	70	4				１区　溝７	P0052
585		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	72	5				１区　溝７	P0053
586		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	46	3				１区　溝７	P0054
587		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	C1	27	2	6			１区　溝７	P0055
588		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	48	4				１区　溝７	P0056
589		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	41	3				１区　溝７	P0057-1
590		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	21	5				１区　溝７	P0058
591		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	4				１区　溝７	P0059
592		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	40	6				１区　溝７	P0060
593		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	50	4				１区　溝７	P0061
594		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	53	3				１区　溝７	P0062
595		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	34	3				１区　溝７	P0064
596		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A1	32	2				１区　溝７	P0065
597		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A3	63	7				１区　溝７	P0066
598		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	17	3				１区　溝７	P0067
599		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	42	4				１区　溝７	P0068
600		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	16	4				１区　溝７	P0069
601		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	45	5				１区　溝７	P0070
602		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	23	4				１区　溝７	P0071
603		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	6				１区　溝７	P0072
604		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	61	4				１区　溝７	P0073
605		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	16	4				１区　溝７	P0074
606		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	58	3				１区　溝７	P0075
607		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	34	3				１区　溝７	P0076
608		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	5				１区　溝７	P0077
609		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	25	4				１区　溝７	P0078
610		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	62	3				１区　溝７	P0079
611		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	61	5				１区　溝７	P0080
612		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	43	4				１区　溝７	P0081
613		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	39	3				１区　溝７	P0082
614		流路７杭列Ｂ	図 96	杭	A2	7	5				１区　溝７	P0083
615	117 － 13	流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	48.8	5		バラ科サクラ属	※１	１区　溝７	N0057
616	117 － 14	流路７杭列Ｃ	図 97	矢板	B1	48.2	7	1	トウダイグサ科アカメガシワ属アカメガシワ	※１	１区　溝７	N0100
617	117 － 15	流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	35	6		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	M0022
618		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	54	4		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	N0107

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
619		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	32	3				１区　溝７	M0001
620		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	56	4				１区　溝７	M0002
621		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	B	48	44	15			１区　溝７	M0003
622		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	58	4				１区　溝７	M0004
623		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	40	2				１区　溝７	M0005
624		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	69	2				１区　溝７	M0006
625		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	59	5				１区　溝７	M0007
626		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	39	3				１区　溝７	M0008
627		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	36	4				１区　溝７	M0009
628		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	22	3				１区　溝７	M0010
629		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	64	3				１区　溝７	M0011
630		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	43	3				１区　溝７	M0012
631		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	55	4				１区　溝７	M0013
632		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	51	3				１区　溝７	M0014
633		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	31	2				１区　溝７	M0015
634		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	77	3				１区　溝７	M0016
635		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	63	5				１区　溝７	M0017
636		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	61	18				１区　溝７	M0018
637		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	67	4				１区　溝７	M0019
638		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	37	2				１区　溝７	M0020
639		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	76	4				１区　溝７	M0021
640		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	44	4				１区　溝７	M0023
641		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	A	296	12				１区　溝７	M0025
642		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	62	3				１区　溝７	M0026
643		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	4				１区　溝７	M0027
644		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	83	4				１区　溝７	M0028
645		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	75	3				１区　溝７	M0029
646		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	A	63	17	15			１区　溝７	M0030
647		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	46	3				１区　溝７	M0031
648		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	64	5				１区　溝７	M0032
649		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	47	2				１区　溝７	M0033
650		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	77	3				１区　溝７	M0034
651		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	19	5				１区　溝７	M0035
652		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	49	2				１区　溝７	M0036
653		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	79	6				１区　溝７	M0037
654		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	92	4				１区　溝７	M0038
655		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	33	4				１区　溝７	M0039
656		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	45	3				１区　溝７	M0040
657		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	31	4				１区　溝７	M0042
658		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	67	2				１区　溝７	M0043
659		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	21	4				１区　溝７	M0044
660		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	38	3				１区　溝７	M0045
661		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	63	3				１区　溝７	M0046
662		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	26	4				１区　溝７	M0047
663		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	78	2				１区　溝７	M0048
664		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	B2	27	3	4			１区　溝７	M0049
665		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	49	3				１区　溝７	M0050
666		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	30	2				１区　溝７	M0051
667		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	27	2				１区　溝７	M0052
668		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	58	6				１区　溝７	M0053
669		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	80	7				１区　溝７	M0054
670		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	49	3				１区　溝７	M0055
671		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	108	3				１区　溝７	M0056
672		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	67	5				１区　溝７	M0057
673		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	64	4				１区　溝７	M0058 ①
674		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	51	4				１区　溝７	M0059
675		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	191	8				１区　溝７	M0060
676		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	102	5				１区　溝７	M0063
677		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	73	4				１区　溝７	M0064
678		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	60	5				１区　溝７	M0065
679		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	134	7				１区　溝７	M0066
680		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	85	5				１区　溝７	M0067
681		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	65	5				１区　溝７	M0068

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
682		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	137	4				１区　溝７	M0069
683		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	58	4				１区　溝７	M0070
684		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	65	6				１区　溝７	M0071 ①
685		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	50	5				１区　溝７	M0071
686		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	21	4				１区　溝７	M0072
687		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	212	7				１区　溝７	M0073
688		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	58	4				１区　溝７	M0074
689		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	32	6				１区　溝７	M0075
690		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	40	5				１区　溝７	N0001
691		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	40	3				１区　溝７	N0002
692		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	57	4				１区　溝７	N0003
693		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	41	3				１区　溝７	N0004
694		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	49	3				１区　溝７	N0005
695		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	41	3				１区　溝７	N0007
696		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	40	6				１区　溝７	N0008
697		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	40	3				１区　溝７	N0009
698		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	43	3				１区　溝７	N0010
699		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	4				１区　溝７	N0012
700		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	64	4				１区　溝７	N0013
701		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	12	3				１区　溝７	N0015
702		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	55	4				１区　溝７	N0016
703		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	52	3				１区　溝７	N0017
704		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	31	3				１区　溝７	N0018
705		流路７杭列Ｃ	図 97	矢板	A1	22	8	4			１区　溝７	N0019
706		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	35	4				１区　溝７	N0020
707		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	59	3				１区　溝７	N0022
708		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	47	6				１区　溝７	N0023
709		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	32	2				１区　溝７	N0024
710		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	22	3				１区　溝７	N0026
711		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	31	2				１区　溝７	N0027
712		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	30	3				１区　溝７	N0029
713		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	30	6				１区　溝７	N0031
714		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	A	70	8				１区　溝７	N0032
715		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	28	2				１区　溝７	N0034
716		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	36	4				１区　溝７	N0035
717		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	6				１区　溝７	N0038
718		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	90	6				１区　溝７	N0039
719		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	66	4				１区　溝７	N0040
720		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	44	3				１区　溝７	N0041
721		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	112	4				１区　溝７	N0042
722		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	30	2				１区　溝７	N0043
723		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	100	4				１区　溝７	N0044
724		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	25	4				１区　溝７	N0045
725		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	4				１区　溝７	N0046
726		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	74	5				１区　溝７	N0047
727		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	46	4				１区　溝７	N0048
728		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	66	6				１区　溝７	N0049
729		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	68	6				１区　溝７	N0050
730		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	42	4				１区　溝７	N0051
731		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	65	3				１区　溝７	N0052
732		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	23	6				１区　溝７	N0053
733		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	16	4				１区　溝７	N0054
734		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	38	3				１区　溝７	N0055
735		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	20	3				１区　溝７	N0056
736		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	66	3				１区　溝７	N0058
737		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	58	3				１区　溝７	N0059
738		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	106	5				１区　溝７	N0060
739		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	69	6				１区　溝７	N0061
740		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	B2	37	3	7			１区　溝７	N0062
741		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	62	4				１区　溝７	N0063
742		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	84	3				１区　溝７	N0064
743		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	36	3				１区　溝７	N0065
744		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	63	5				１区　溝７	N0066

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
745		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	37	3				１区　溝７	N0067
746		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	30	3				１区　溝７	N0068
747		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	11	3				１区　溝７	N0069
748		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	54	4				１区　溝７	N0070
749		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	82	3				１区　溝７	N0071
750		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	54	5				１区　溝７	N0072
751		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	75	5				１区　溝７	N0073
752		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	42	4				１区　溝７	N0074
753		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	60	4				１区　溝７	N0075
754		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	4				１区　溝７	N0076
755		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	42	4				１区　溝７	N0077
756		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	40	5				１区　溝７	N0078
757		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	B2	23	5	4			１区　溝７	N0079
758		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	27	3				１区　溝７	N0080
759		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	22	4				１区　溝７	N0081
760		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	23	3				１区　溝７	N0082
761		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	23	3				１区　溝７	N0083
762		流路７杭列Ｃ	図 97	矢板	B1	42	5	2			１区　溝７	N0084
763		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	C1	24	2	4			１区　溝７	N0085
764		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	30	5				１区　溝７	N0086
765		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	27	3				１区　溝７	N0087
766		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	23	3				１区　溝７	N0088
767		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	45	3				１区　溝７	N0089
768		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	41	4				１区　溝７	N0090
769		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	35	26				１区　溝７	N0091
770		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	51	6				１区　溝７	N0092
771		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	50	4				１区　溝７	N0093
772		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	45	3				１区　溝７	N0094
773		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	53	6				１区　溝７	N0095
774		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	49	4				１区　溝７	N0096
775		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	18	3				１区　溝７	N0097
776		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	37	2				１区　溝７	N0098
777		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	39	3				１区　溝７	N0099
778		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	4				１区　溝７	N0101
779		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	A	164	9				１区　溝７	N0103
780		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	67	4				１区　溝７	N0104
781		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	30	4				１区　溝７	N0105
782		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	34	3				１区　溝７	N0108
783		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	70	5				１区　溝７	N0109
784		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	64	3				１区　溝７	N0110
785		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A1	14	2				１区　溝７	N0111
786		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	A	34	12				１区　溝７	N0112
787		流路７杭列Ｃ	図 97	横木	B	17	8	4			１区　溝７	N0113
788		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A3	120	9				１区　溝７	N0114
789		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	62	3				１区　溝７	N0115
790		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	B2	21	3	5			１区　溝７	N0116
791		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	47	4				１区　溝７	N0117
792		流路７杭列Ｃ	図 97	杭	A2	26	3				１区　溝７	N0118
793	118 － 16	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	121	3		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0025
794	118 － 17	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	4		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0030
795	118 － 18	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	100	7		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0047
796	118 － 19	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	101	8		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	D0665
797	119 － 20	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	34	3		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0037
798	119 － 21	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	3		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0040
799	119 － 22	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	3		ニガキ科ニガキ属ニガキ	※１	１区　溝７	D0243
800	119 － 23	流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B1	32	6	2	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	D0041
801	119 － 24	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	3		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	L0106-1
802	119 － 25	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	3		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	L0106-2
803	119 － 26	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	5		ニレ科ムクノキ属ムクノキ	※１	１区　溝７	D0282
804	119 － 27	流路７杭列Ｄ	図 98	有頭棒		68	3		マキ科マキ属イヌマキ	※１	１区　溝７	D0587

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
805	120 － 28	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	5		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	D0286
806	120 － 29	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	79	3		クヌギ節	※２	１区　溝７	D0634
807	120 － 30	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	84	3		クルミ科サワグルミ属サワグルミ	※１	１区　溝７	D0153
808	120 － 31	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	4		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0916
809	120 － 32	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	5		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0941
810	120 － 33	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	D0943
811	120 － 34	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	D	62	3		イチイ科カヤ属カヤ	※１	１区　溝７	K0085
812	121 － 35	流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	A1	39	9	4	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	D0059
813	121 － 36	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	37	7		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	D0164
814	121 － 37	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	181	5		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	D0108
815	121 － 38	流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	189	7		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	D1009
816		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	100	5		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0289
817		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	F	132	9	3	イチイ科カヤ属カヤ	※１	１区　溝７	D0294
818		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	43	6		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	D0307
819		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	C	52	12	9	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	D0328
820		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	5		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	D0594
821		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	62	5	7	ムクロジ科ムクロジ属ムクロジ	※１	１区　溝７	D0905
822		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	40	8		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	D0917
823		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	5		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	D0938
824		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	57	8		クルミ科クルミ属オニグルミ	※１	１区　溝７	D0976
825		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	81	7		ツバキ科サカキ属サカキ	※１	１区　溝７	D1045
826		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	98	7		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	D1051
827		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B2	49	4	5	ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	L0126
828		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	460	11				１区　溝７	D0001
829		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B1	35	1	3			１区　溝７	D0003
830		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0006
831		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	D0007
832		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	4				１区　溝７	D0008
833		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	56	3				１区　溝７	D0009
834		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	D0010
835		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	3				１区　溝７	D0011
836		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3				１区　溝７	D0012
837		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	137	5	3			１区　溝７	D0015
838		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	137	6				１区　溝７	D0017
839		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	115	3				１区　溝７	D0019
840		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	4				１区　溝７	D0022
841		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	3				１区　溝７	D0023
842		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	5				１区　溝７	D0024
843		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0026
844		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				１区　溝７	D0027
845		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	115	3				１区　溝７	D0028
846		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	177	7				１区　溝７	D0031
847		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	137	7				１区　溝７	D0032
848		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	5				１区　溝７	D0034
849		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	3				１区　溝７	D0036
850		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	4				１区　溝７	D0038
851		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				１区　溝７	D0039
852		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	120	6				１区　溝７	D0049
853		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	3				１区　溝７	D0051
854		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	129	6				１区　溝７	D0052
855		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	E	33	14	7			１区　溝７	D0053
856		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	103	6				１区　溝７	D0054
857		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	120	4				１区　溝７	D0055
858		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	6				１区　溝７	D0056

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
859		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0057
860		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	4				１区　溝７	D0058
861		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	103	3				１区　溝７	D0060
862		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	4				１区　溝７	D0061
863		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B2	58	12	3			１区　溝７	D0063
864		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	22	8				１区　溝７	D0064
865		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	119	14				１区　溝７	D0065
866		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	6				１区　溝７	D0068
867		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	5				１区　溝７	D0069
868		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				１区　溝７	D0070
869		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	4				１区　溝７	D0073
870		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	D0074
871		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	4				１区　溝７	D0075
872		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	128	5				１区　溝７	D0078
873		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	4				１区　溝７	D0079
874		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	6				１区　溝７	D0080-1
875		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	90	4				１区　溝７	D0080-2
876		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	F	27	9	5			１区　溝７	D0083
877		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	5				１区　溝７	D0086
878		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	5				１区　溝７	D0094
879		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	4				１区　溝７	D0096
880		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	3				１区　溝７	D0097
881		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	162	5				１区　溝７	D0098
882		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	6				１区　溝７	D0099
883		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	177	5				１区　溝７	D0100
884		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	6				１区　溝７	D0101
885		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	105	7				１区　溝７	D0102
886		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				１区　溝７	D0107
887		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B2	62	13	4			１区　溝７	D0119
888		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	D0124
889		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	5				１区　溝７	D0127
890		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	140	4				１区　溝７	D0129
891		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	4				１区　溝７	D0131
892		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B2	123	16	6			１区　溝７	D0133
893		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	95	5				１区　溝７	D0135
894		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	D0147
895		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	D0152
896		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	145	6				１区　溝７	D0155
897		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	28	4				１区　溝７	D0156
898		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	D0162
899		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				１区　溝７	D0172
900		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	4				１区　溝７	D0174
901		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	108	5				１区　溝７	D0180
902		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4	2			１区　溝７	D0187
903		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	131	5				１区　溝７	D0190
904		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	91	7				１区　溝７	D0205
905		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	5				１区　溝７	D0213
906		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	4				１区　溝７	D0224
907		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	4				１区　溝７	D0238
908		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	36	4				１区　溝７	D0242
909		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	3				１区　溝７	D0246
910		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	4				１区　溝７	D0247
911		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	5				１区　溝７	D0255
912		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	4				１区　溝７	D0266
913		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	45	4				１区　溝７	D0267
914		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	19	4				１区　溝７	D0273
915		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	D0283
916		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	3				１区　溝７	D0284
917		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	6				１区　溝７	D0285
918		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B1	14	3	1			１区　溝７	D0287
919		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	89	4				１区　溝７	D0288
920		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	D0290
921		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	135	6				１区　溝７	D0292

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
922		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	108	7				１区　溝７	D0293
923		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	102	4				１区　溝７	D0295
924		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	4				１区　溝７	D0299
925		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	6				１区　溝７	D0300
926		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	87	9				１区　溝７	D0301
927		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B2	44	3	6			１区　溝７	D0302
928		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0303
929		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	5				１区　溝７	D0304
930		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	3				１区　溝７	D0305
931		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	20	4				１区　溝７	D0306
932		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	108	6				１区　溝７	D0308
933		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	143	7				１区　溝７	D0309
934		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	159	4				１区　溝７	D0310
935		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	4				１区　溝７	D0311
936		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0313
937		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	136	5				１区　溝７	D0316
938		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	5				１区　溝７	D0317
939		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	85	4				１区　溝７	D0318
940		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	453	17				１区　溝７	D0320
941		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	112	4				１区　溝７	D0321
942		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	105	3				１区　溝７	D0322
943		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	4				１区　溝７	D0323
944		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	160	6				１区　溝７	D0324
945		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	29	3	6			１区　溝７	D0325
946		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	D0326
947		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	5				１区　溝７	D0327
948		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	C	52	12	9			１区　溝７	D0328
949		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	4				１区　溝７	D0329
950		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	5				１区　溝７	D0330
951		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	D0332
952		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	90	4				１区　溝７	D0333
953		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	145	4				１区　溝７	D0335
954		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	4				１区　溝７	D0336
955		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	3				１区　溝７	D0339
956		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	5				１区　溝７	D0340
957		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	117	5				１区　溝７	D0341
958		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				１区　溝７	D0342
959		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	6				１区　溝７	D0343
960		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	3				１区　溝７	D0344
961		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	6				１区　溝７	D0345
962		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	115	4				１区　溝７	D0346
963		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				１区　溝７	D0347
964		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	6				１区　溝７	D0348
965		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	5				１区　溝７	D0349
966		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	6				１区　溝７	D0351
967		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	50	7				１区　溝７	D0352
968		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	4				１区　溝７	D0353
969		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	4				１区　溝７	D0354
970		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	5				１区　溝７	D0355
971		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	4				１区　溝７	D0356
972		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	45	3				１区　溝７	D0357
973		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	140	5				１区　溝７	D0358
974		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				１区　溝７	D0359
975		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	4				１区　溝７	D0360
976		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	5				１区　溝７	D0361
977		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	3				１区　溝７	D0362
978		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	3				１区　溝７	D0363
979		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				１区　溝７	D0364
980		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	5				１区　溝７	D0365
981		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	21	2				１区　溝７	D0366
982		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	3				１区　溝７	D0367
983		流路７杭列Ｄ	図 98	板材		24	9	0.4			１区　溝７	D0368
984		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	3				１区　溝７	D0369

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
985		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B1	141	9	4			１区　溝７	D0371
986		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	6				１区　溝７	D0372
987		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	84	5				１区　溝７	D0373
988		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	56	5				１区　溝７	D0374
989		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	6				１区　溝７	D0375
990		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	87	6				１区　溝７	D0376
991		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	6				１区　溝７	D0377
992		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	133	6				１区　溝７	D0378
993		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	D0380
994		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	3				１区　溝７	D0381
995		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	3				１区　溝７	D0382
996		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	106	6				１区　溝７	D0383
997		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3				１区　溝７	D0384
998		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	3				１区　溝７	D0385
999		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	113	5				１区　溝７	D0386
1000		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	95	4				１区　溝７	D0387
1001		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	78	7				１区　溝７	D0388
1002		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	3				１区　溝７	D0389
1003		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	4				１区　溝７	D0390
1004		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	D0391
1005		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	4				１区　溝７	D0392
1006		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	4				１区　溝７	D0393
1007		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	2				１区　溝７	D0394
1008		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	3				１区　溝７	D0395
1009		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	D0396
1010		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	5				１区　溝７	D0397
1011		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	5				１区　溝７	D0398
1012		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	4				１区　溝７	D0399
1013		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	5				１区　溝７	D0400
1014		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	4				１区　溝７	D0401
1015		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	3				１区　溝７	D0402
1016		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	5				１区　溝７	D0403
1017		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	100	4				１区　溝７	D0404
1018		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	3				１区　溝７	D0405
1019		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	117	7				１区　溝７	D0406
1020		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	103	8				１区　溝７	D0407
1021		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	22	6				１区　溝７	D0408
1022		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				１区　溝７	D0409
1023		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	5				１区　溝７	D0411
1024		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				１区　溝７	D0412
1025		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B1	63	2	4			１区　溝７	D0413
1026		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	D	21	4	2			１区　溝７	D0414
1027		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	135	4				１区　溝７	D0415
1028		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	31	4				１区　溝７	D0416
1029		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	65	6				１区　溝７	D0418
1030		流路７杭列Ｄ	図 98	横木		不明	不明	4			１区　溝７	D0419
1031		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	174	7				１区　溝７	D0420
1032		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	180	5				１区　溝７	D0421
1033		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	149	14				１区　溝７	D0422
1034		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	188	15				１区　溝７	D0423
1035		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	122	6				１区　溝７	D0424
1036		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	120	6				１区　溝７	D0425
1037		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	5				１区　溝７	D0426
1038		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	167	14				１区　溝７	D0427 ③
1039		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	160	17				１区　溝７	D0427 ①
1040		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	D0428
1041		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	4				１区　溝７	D0429
1042		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	76	7				１区　溝７	D0430
1043		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	59	3				１区　溝７	D0431
1044		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	16	3				１区　溝７	D0432
1045		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	5				１区　溝７	D0433
1046		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	19	4				１区　溝７	D0434
1047		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	5				１区　溝７	D0435

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1048		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	5				１区　溝７	D0436
1049		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0437
1050		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	121	4				１区　溝７	D0438
1051		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	6				１区　溝７	D0439
1052		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	4				１区　溝７	D0440
1053		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	D0441
1054		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	6				１区　溝７	D0442
1055		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	136	5				１区　溝７	D0443
1056		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	5				１区　溝７	D0444
1057		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	4				１区　溝７	D0445
1058		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	125	5				１区　溝７	D0446
1059		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	137	6				１区　溝７	D0447
1060		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	3				１区　溝７	D0448
1061		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	28	4				１区　溝７	D0449
1062		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	143	6				１区　溝７	D0450
1063		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	5				１区　溝７	D0451
1064		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	4				１区　溝７	D0452
1065		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	4				１区　溝７	D0453
1066		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	5				１区　溝７	D0455
1067		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	123	7				１区　溝７	D0456
1068		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				１区　溝７	D0457
1069		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	5				１区　溝７	D0458
1070		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	D0459
1071		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	104	5				１区　溝７	D0460
1072		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	24	5				１区　溝７	D0461
1073		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	5				１区　溝７	D0462
1074		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	102	6				１区　溝７	D0463
1075		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	102	4				１区　溝７	D0464
1076		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	4				１区　溝７	D0465
1077		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	3				１区　溝７	D0467
1078		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	4				１区　溝７	D0468
1079		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	4				１区　溝７	D0469
1080		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	27	3				１区　溝７	D0470
1081		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	3				１区　溝７	D0471
1082		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	6				１区　溝７	D0472
1083		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	128	4				１区　溝７	D0473
1084		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	99	4				１区　溝７	D0474
1085		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	98	3				１区　溝７	D0475
1086		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	142	4				１区　溝７	D0476
1087		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	16	4				１区　溝７	D0477
1088		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	145	7				１区　溝７	D0478
1089		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	163	5				１区　溝７	D0479
1090		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	D0480
1091		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	70	5	8			１区　溝７	D0481
1092		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0482
1093		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	D0483
1094		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	3				１区　溝７	D0485
1095		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	70	7				１区　溝７	D0486
1096		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	3				１区　溝７	D0487
1097		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	D0488
1098		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	4				１区　溝７	D0489
1099		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	4				１区　溝７	D0490
1100		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	4				１区　溝７	D0491
1101		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0492
1102		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	100	10				１区　溝７	D0493
1103		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	D0494
1104		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	112	5				１区　溝７	D0495
1105		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	6				１区　溝７	D0496
1106		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3				１区　溝７	D0497
1107		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	D0498
1108		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	30	10				１区　溝７	D0499
1109		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	5				１区　溝７	D0500
1110		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	83	2				１区　溝７	D0501

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1111		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	3				１区　溝７	D0502
1112		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	4				１区　溝７	D0503
1113		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	14	3				１区　溝７	D0506
1114		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	4				１区　溝７	D0507
1115		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	4				１区　溝７	D0508
1116		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	5				１区　溝７	D0509
1117		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	4				１区　溝７	D0510
1118		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	83	7				１区　溝７	D0511
1119		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	34	4				１区　溝７	D0512
1120		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	18	5				１区　溝７	D0513
1121		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	144	4				１区　溝７	D0514
1122		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	84	4				１区　溝７	D0515
1123		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	3				１区　溝７	D0516
1124		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	88	8				１区　溝７	D0517
1125		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	4				１区　溝７	D0518
1126		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0519
1127		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	94	5				１区　溝７	D0520
1128		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	100	7				１区　溝７	D0521
1129		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	3				１区　溝７	D0522
1130		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	6				１区　溝７	D0523
1131		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	45	4				１区　溝７	D0524
1132		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	6				１区　溝７	D0525
1133		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	111	5				１区　溝７	D0526
1134		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	95	5				１区　溝７	D0527
1135		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	5				１区　溝７	D0528
1136		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	104	4				１区　溝７	D0529
1137		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	79	5				１区　溝７	D0530
1138		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	4				１区　溝７	D0531
1139		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	3				１区　溝７	D0532
1140		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	4				１区　溝７	D0533
1141		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	3				１区　溝７	D0534
1142		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	3				１区　溝７	D0535
1143		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	37	5	7			１区　溝７	D0536
1144		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0537
1145		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	4				１区　溝７	D0538
1146		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	D0539
1147		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	38	4				１区　溝７	D0540
1148		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	5				１区　溝７	D0541
1149		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	4				１区　溝７	D0542
1150		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	6				１区　溝７	D0543
1151		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	3				１区　溝７	D0544
1152		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	59	3				１区　溝７	D0545
1153		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	3				１区　溝７	D0546
1154		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	4				１区　溝７	D0547
1155		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	3				１区　溝７	D0548
1156		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	5				１区　溝７	D0549
1157		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	4				１区　溝７	D0550
1158		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	5				１区　溝７	D0551
1159		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	27	4				１区　溝７	D0552
1160		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	136	6				１区　溝７	D0553
1161		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	104	5				１区　溝７	D0554
1162		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	46	7				１区　溝７	D0555
1163		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	90	5				１区　溝７	D0556
1164		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	4				１区　溝７	D0557
1165		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	4				１区　溝７	D0558
1166		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	5				１区　溝７	D0559
1167		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	5				１区　溝７	D0560
1168		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	5				１区　溝７	D0561
1169		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	90	4				１区　溝７	D0562
1170		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B2	31	3	5			１区　溝７	D0563
1171		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	185	11				１区　溝７	D0564
1172		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	180	10				１区　溝７	D0565
1173		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	99	9				１区　溝７	D0566

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1174		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	5				１区　溝７	D0567
1175		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	4				１区　溝７	D0568
1176		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	3				１区　溝７	D0570
1177		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	D0571
1178		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0572
1179		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	5				１区　溝７	D0573
1180		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	60	11				１区　溝７	D0574
1181		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	5				１区　溝７	D0575
1182		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	119	4				１区　溝７	D0576
1183		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	4				１区　溝７	D0577
1184		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				１区　溝７	D0578
1185		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	4				１区　溝７	D0579
1186		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	D0580
1187		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	3				１区　溝７	D0581
1188		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	4				１区　溝７	D0582
1189		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	32	4				１区　溝７	D0583
1190		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	59	4				１区　溝７	D0584
1191		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	4				１区　溝７	D0585
1192		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	5				１区　溝７	D0586
1193		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	4				１区　溝７	D0588
1194		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				１区　溝７	D0589
1195		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	4				１区　溝７	D0590
1196		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	D0591
1197		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	5				１区　溝７	D0592
1198		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	D0593
1199		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	103	4				１区　溝７	D0595
1200		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	110	4				１区　溝７	D0596
1201		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	97	3				１区　溝７	D0597
1202		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	4				１区　溝７	D0598
1203		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	127	5				１区　溝７	D0599
1204		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	3				１区　溝７	D0600
1205		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	3				１区　溝７	D0601
1206		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	4				１区　溝７	D0602
1207		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	20	3				１区　溝７	D0603
1208		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	D0604
1209		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	3				１区　溝７	D0605
1210		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	135	6				１区　溝７	D0606
1211		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	132	7				１区　溝７	D0607
1212		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	5				１区　溝７	D0608
1213		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	6				１区　溝７	D0609
1214		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	4				１区　溝７	D0610
1215		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	22	4				１区　溝７	D0611
1216		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	6				１区　溝７	D0612
1217		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	5				１区　溝７	D0613
1218		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	79	3				１区　溝７	D0614
1219		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	4				１区　溝７	D0615
1220		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	3				１区　溝７	D0616
1221		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	85	5				１区　溝７	D0617
1222		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	3				１区　溝７	D0618
1223		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	3				１区　溝７	D0620
1224		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	4				１区　溝７	D0621
1225		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	114	5				１区　溝７	D0622
1226		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	3				１区　溝７	D0623
1227		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	D0624
1228		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	26	5	4			１区　溝７	D0625
1229		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	5				１区　溝７	D0626
1230		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	4				１区　溝７	D0627
1231		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	6				１区　溝７	D0628
1232		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	4				１区　溝７	D0629
1233		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	4				１区　溝７	D0630
1234		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	23	6				１区　溝７	D0631
1235		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	4				１区　溝７	D0632
1236		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				１区　溝７	D0633

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1237		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	6				１区　溝７	D0635
1238		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	56	4				１区　溝７	D0636
1239		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	4				１区　溝７	D0637
1240		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	4				１区　溝７	D0638
1241		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				１区　溝７	D0639
1242		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	6				１区　溝７	D0640
1243		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	3				１区　溝７	D0641
1244		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	38	3				１区　溝７	D0642
1245		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	B2	20	3	5			１区　溝７	D0643
1246		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	C2	30	6	10			１区　溝７	D0644
1247		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	3				１区　溝７	D0645
1248		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	4				１区　溝７	D0646
1249		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	105	4				１区　溝７	D0647
1250		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	3				１区　溝７	D0648
1251		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	D0649
1252		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	63	7				１区　溝７	D0650
1253		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	299	14				１区　溝７	D0651
1254		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	4				１区　溝７	D0652
1255		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	A2	87	11	4			１区　溝７	D0653
1256		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	140	5				１区　溝７	D0654
1257		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	90	5				１区　溝７	D0655
1258		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	D0656
1259		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	5				１区　溝７	D0657
1260		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	117	8				１区　溝７	D0658
1261		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	128	6				１区　溝７	D0659
1262		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	6				１区　溝７	D0660
1263		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	5				１区　溝７	D0661
1264		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	3				１区　溝７	D0662
1265		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	6				１区　溝７	D0663
1266		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	5				１区　溝７	D0664
1267		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	D	62	6	6			１区　溝７	D0666
1268		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	90	11				１区　溝７	D0667
1269		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	5				１区　溝７	D0668
1270		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	17	3				１区　溝７	D0669
1271		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	3				１区　溝７	D0670
1272		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	4				１区　溝７	D0671
1273		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	27	3				１区　溝７	D0672
1274		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	3				１区　溝７	D0673
1275		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	50	10				１区　溝７	D0900
1276		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	5				１区　溝７	D0901
1277		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	3				１区　溝７	D0902
1278		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	3				１区　溝７	D0903
1279		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	113	4				１区　溝７	D0904
1280		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	3				１区　溝７	D0906
1281		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	97	3				１区　溝７	D0907
1282		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	5				１区　溝７	D0908
1283		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	4				１区　溝７	D0909
1284		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	3				１区　溝７	D0910
1285		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0911
1286		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0912
1287		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	84	6				１区　溝７	D0913
1288		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	5				１区　溝７	D0914
1289		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	33	2				１区　溝７	D0915
1290		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	5				１区　溝７	D0918
1291		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	3				１区　溝７	D0919
1292		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	4				１区　溝７	D0920
1293		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0921
1294		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	D0922
1295		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	4				１区　溝７	D0923
1296		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	4				１区　溝７	D0924
1297		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	5				１区　溝７	D0925
1298		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	85	5				１区　溝７	D0926
1299		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0927

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1300		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	4				１区　溝７	D0928
1301		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	3				１区　溝７	D0929
1302		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	127	5				１区　溝７	D0930
1303		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	102	6				１区　溝７	D0931
1304		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	D0932
1305		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	107	4				１区　溝７	D0933
1306		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	3				１区　溝７	D0934
1307		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	D0935
1308		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	4				１区　溝７	D0936
1309		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	3				１区　溝７	D0937
1310		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	3				１区　溝７	D0939
1311		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	74	4				１区　溝７	D0940
1312		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	79	3				１区　溝７	D0942
1313		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	3				１区　溝７	D0944
1314		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	3				１区　溝７	D0945
1315		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	72	4				１区　溝７	D0946
1316		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	3				１区　溝７	D0947
1317		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	4				１区　溝７	D0948
1318		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	5				１区　溝７	D0949
1319		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	C	41	15	5			１区　溝７	D0950
1320		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	5				１区　溝７	D0951
1321		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	18	2				１区　溝７	D0952
1322		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				１区　溝７	D0953
1323		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	D0954
1324		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	4				１区　溝７	D0955
1325		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	99	3				１区　溝７	D0956
1326		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	105	4				１区　溝７	D0957
1327		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	95	4				１区　溝７	D0958
1328		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	D0959
1329		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	3				１区　溝７	D0960
1330		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	5				１区　溝７	D0961
1331		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	5				１区　溝７	D0962
1332		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	5				１区　溝７	D0963
1333		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	3				１区　溝７	D0964
1334		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	112	4				１区　溝７	D0965
1335		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	3				１区　溝７	D0966
1336		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	4				１区　溝７	D0967
1337		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	3				１区　溝７	D0968
1338		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	5				１区　溝７	D0969
1339		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	100	4				１区　溝７	D0970
1340		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	89	4				１区　溝７	D0971
1341		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	3				１区　溝７	D0972
1342		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	4				１区　溝７	D0973
1343		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				１区　溝７	D0974
1344		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	91	4				１区　溝７	D0975
1345		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	92	6				１区　溝７	D0977
1346		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	5				１区　溝７	D0978
1347		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	4				１区　溝７	D0979
1348		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	84	6				１区　溝７	D0980
1349		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	6				１区　溝７	D0981
1350		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	4				１区　溝７	D0982
1351		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	3				１区　溝７	D0983
1352		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	3				１区　溝７	D0984
1353		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	6				１区　溝７	D0985
1354		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	5				１区　溝７	D0986
1355		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	105	7				１区　溝７	D0987
1356		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	97	6				１区　溝７	D0988
1357		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	4				１区　溝７	D0989
1358		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	4				１区　溝７	D0990
1359		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	36	3				１区　溝７	D0991
1360		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	5				１区　溝７	D0992
1361		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	24	5				１区　溝７	D0993
1362		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	5				１区　溝７	D0994

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1363		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	3				１区　溝７	D0995
1364		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				１区　溝７	D0996
1365		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	132	6				１区　溝７	D0997
1366		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	76	7				１区　溝７	D0998
1367		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	D0999
1368		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	123	5				１区　溝７	D1000
1369		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	119	13				１区　溝７	D1001
1370		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	113	4				１区　溝７	D1002
1371		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	3				１区　溝７	D1003
1372		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	3				１区　溝７	D1004
1373		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	28	2				１区　溝７	D1005
1374		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	3				１区　溝７	D1006
1375		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	123	10				１区　溝７	D1007
1376		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	88	3				１区　溝７	D1008
1377		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	191	7				１区　溝７	D1009
1378		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	5				１区　溝７	D1010
1379		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	16	4				１区　溝７	D1011
1380		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	77	30				１区　溝７	D1012
1381		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	4				１区　溝７	D1013
1382		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	3				１区　溝７	D1014
1383		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	6				１区　溝７	D1015
1384		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	D1016
1385		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	56	3				１区　溝７	D1017
1386		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				１区　溝７	D1018
1387		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				１区　溝７	D1019
1388		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	3				１区　溝７	D1020
1389		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	31	3				１区　溝７	D1021
1390		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	16	3				１区　溝７	D1022
1391		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	3				１区　溝７	D1023
1392		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	3				１区　溝７	D1024
1393		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	125	5				１区　溝７	D1025
1394		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	3				１区　溝７	D1026
1395		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	59	4				１区　溝７	D1027
1396		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	6				１区　溝７	D1028
1397		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	87	5				１区　溝７	D1029
1398		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	5				１区　溝７	D1030
1399		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	81	2				１区　溝７	D1031
1400		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	25	2				１区　溝７	D1032
1401		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	149	12				１区　溝７	D1033
1402		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				１区　溝７	D1034
1403		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	38	4				１区　溝７	D1035
1404		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	35	2				１区　溝７	D1036
1405		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A1	23	2				１区　溝７	D1037
1406		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	3				１区　溝７	D1038
1407		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	D1039
1408		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	3				１区　溝７	D1040
1409		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	3				１区　溝７	D1041
1410		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				１区　溝７	D1042
1411		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	56	4				１区　溝７	D1043
1412		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				１区　溝７	D1044
1413		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	2				１区　溝７	D1046
1414		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	5				１区　溝７	D1047
1415		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	4				１区　溝７	D1048
1416		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	3				１区　溝７	D1049
1417		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	5				１区　溝７	D1050
1418		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	97	5				１区　溝７	D1052
1419		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	39	7				１区　溝７	D1053
1420		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	125	5				１区　溝７	D1054
1421		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	D1055
1422		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	3				１区　溝７	K0002
1423		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	K0003
1424		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	4				１区　溝７	K0004
1425		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3				１区　溝７	K0005

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1426		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	48	3				1区　溝７	K0006
1427		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	121	4				1区　溝７	K0007
1428		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	4				1区　溝７	K0008-1
1429		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	3				1区　溝７	K0008-2
1430		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	4				1区　溝７	K0009
1431		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	58	4				1区　溝７	K0010
1432		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	3				1区　溝７	K0012
1433		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	99	5				1区　溝７	K0013
1434		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	3				1区　溝７	K0014 ②
1435		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	3				1区　溝７	K0015
1436		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	104	6				1区　溝７	K0016
1437		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	12	4				1区　溝７	K0018-1
1438		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	7	3				1区　溝７	K0018-2
1439		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				1区　溝７	K0019
1440		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	5				1区　溝７	K0021
1441		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	4				1区　溝７	K0022
1442		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	46	4				1区　溝７	K0023
1443		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	93	4				1区　溝７	K0024
1444		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	3				1区　溝７	K0026-1
1445		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	3				1区　溝７	K0026-2
1446		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	102	3				1区　溝７	K0027
1447		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				1区　溝７	K0028
1448		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	101	4				1区　溝７	K0029
1449		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	3				1区　溝７	K0030
1450		流路７杭列Ｄ	図 98	矢板	B1	60	6	2			1区　溝７	K0031
1451		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	5				1区　溝７	K0032
1452		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				1区　溝７	K0035
1453		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	3				1区　溝７	K0037
1454		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	112	3				1区　溝７	K0038
1455		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	5				1区　溝７	K0039
1456		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	5				1区　溝７	K0040
1457		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	4				1区　溝７	K0041
1458		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	4				1区　溝７	K0042
1459		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	109	5				1区　溝７	K0043
1460		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	105	5				1区　溝７	K0045
1461		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				1区　溝７	K0046
1462		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				1区　溝７	K0047
1463		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	15	6				1区　溝７	K0048
1464		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	77	4				1区　溝７	K0049
1465		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	90	10				1区　溝７	K0050
1466		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	5				1区　溝７	K0051-1
1467		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	30	3				1区　溝７	K0051-2
1468		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				1区　溝７	K0052
1469		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	27	4				1区　溝７	K0053
1470		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	134	4				1区　溝７	K0054 ①
1471		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	52	4				1区　溝７	K0054 ②
1472		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	87	5				1区　溝７	K0055
1473		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	68	4				1区　溝７	K0057
1474		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				1区　溝７	K0058
1475		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	58	7				1区　溝７	K0059
1476		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	6				1区　溝７	K0060
1477		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	6				1区　溝７	K0062
1478		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	3				1区　溝７	K0063
1479		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	32	4				1区　溝７	K0064
1480		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	4				1区　溝７	K0065
1481		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	6				1区　溝７	K0066
1482		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	38	4				1区　溝７	K0068
1483		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	3				1区　溝７	K0071
1484		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	3				1区　溝７	K0072
1485		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	17	4				1区　溝７	K0073
1486		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	3				1区　溝７	K0074
1487		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	4				1区　溝７	K0075
1488		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	76	5				1区　溝７	K0076 ①

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1489		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	K0077
1490		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	126	4				１区　溝７	K0079
1491		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	5				１区　溝７	K0080
1492		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	K0081
1493		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	4				１区　溝７	K0082
1494		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	5				１区　溝７	K0083
1495		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	4				１区　溝７	K0089
1496		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	4				１区　溝７	K0090
1497		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	K0091
1498		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	3	2.5			１区　溝７	K0092
1499		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	127	4				１区　溝７	K0093-1
1500		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	5				１区　溝７	K0093-2
1501		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	68	7				１区　溝７	K0094-1
1502		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	103	6				１区　溝７	K0094-2
1503		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	40	6				１区　溝７	K0096
1504		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	62	7				１区　溝７	K0097
1505		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	3				１区　溝７	L0001
1506		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	5				１区　溝７	L0002
1507		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	3				１区　溝７	L0003
1508		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	36	3				１区　溝７	L0004
1509		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	79	4				１区　溝７	L0005
1510		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	3				１区　溝７	L0006
1511		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	22	4				１区　溝７	L0007
1512		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	97	4				１区　溝７	L0009
1513		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	L0010
1514		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	6				１区　溝７	L0011
1515		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	4				１区　溝７	L0012
1516		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	81	3				１区　溝７	L0014
1517		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	2				１区　溝７	L0015
1518		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	4				１区　溝７	L0017
1519		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	64	4				１区　溝７	L0018-1
1520		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	9	3				１区　溝７	L0018-2
1521		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	48	4				１区　溝７	L0019
1522		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	4				１区　溝７	L0020
1523		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	5				１区　溝７	L0021-1
1524		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	127	3				１区　溝７	L0023
1525		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	3				１区　溝７	L0024
1526		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	82	3				１区　溝７	L0027
1527		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	85	4				１区　溝７	L0028
1528		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	54	4				１区　溝７	L0029
1529		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	4				１区　溝７	L0030
1530		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	55	4				１区　溝７	L0031
1531		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	3				１区　溝７	L0032
1532		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	4				１区　溝７	L0033
1533		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	50	3				１区　溝７	L0034
1534		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	3				１区　溝７	L0035
1535		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	3				１区　溝７	L0036
1536		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	3				１区　溝７	L0037
1537		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	91	3				１区　溝７	L0038
1538		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	76	7				１区　溝７	L0039
1539		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	95	3				１区　溝７	L0040
1540		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	5				１区　溝７	L0041
1541		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	3				１区　溝７	L0042
1542		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A3	240	9				１区　溝７	L0045
1543		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	D	14	3	3			１区　溝７	L0045 ②
1544		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	5				１区　溝７	L0046
1545		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	5				１区　溝７	L0048
1546		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	21	5				１区　溝７	L0049
1547		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	6				１区　溝７	L0050
1548		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	14	6				１区　溝７	L0052
1549		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	6				１区　溝７	L0053
1550		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	78	3				１区　溝７	L0054
1551		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	4				１区　溝７	L0055

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1552		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	83	4				１区　溝７	L0056
1553		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	4				１区　溝７	L0057
1554		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	96	4				１区　溝７	L0058
1555		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				１区　溝７	L0059
1556		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	5				１区　溝７	L0060-1
1557		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	33	5				１区　溝７	L0060-2
1558		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	28	6				１区　溝７	L0061
1559		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	5				１区　溝７	L0062
1560		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	4				１区　溝７	L0064
1561		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	L0065
1562		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	59	5				１区　溝７	L0066
1563		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	4				１区　溝７	L0067
1564		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	69	4				１区　溝７	L0068
1565		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	65	4				１区　溝７	L0069
1566		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	62	4				１区　溝７	L0070
1567		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	49	3				１区　溝７	L0071
1568		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	34	3				１区　溝７	L0101
1569		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	75	4				１区　溝７	L0102
1570		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	80	5				１区　溝７	L0103
1571		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	5				１区　溝７	L0104
1572		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	L0105
1573		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	53	3				１区　溝７	L0107
1574		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	4				１区　溝７	L0108
1575		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	63	3				１区　溝７	L0109
1576		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	11	4				１区　溝７	L0110
1577		流路７杭列Ｄ	図 98	横木	A	28	5				１区　溝７	L0111
1578		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	39	4				１区　溝７	L0112-1
1579		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	25	4				１区　溝７	L0112-2
1580		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	44	4				１区　溝７	L0113
1581		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	3				１区　溝７	L0114
1582		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	103	6				１区　溝７	L0115
1583		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	47	4				１区　溝７	L0116
1584		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	41	4				１区　溝７	L0117
1585		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	37	2				１区　溝７	L0118
1586		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	57	4				１区　溝７	L0119
1587		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	66	4				１区　溝７	L0120
1588		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	23	5				１区　溝７	L0121
1589		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	42	3				１区　溝７	L0122
1590		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	35	4				１区　溝７	L0123
1591		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	51	5				１区　溝７	L0124
1592		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	29	4				１区　溝７	L0125
1593		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	70	4				１区　溝７	L0127
1594		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	73	5				１区　溝７	L0128
1595		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	71	3				１区　溝７	L0129
1596		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	26	4				１区　溝７	L0130
1597		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	86	3				１区　溝７	L0131
1598		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	60	3				１区　溝７	L0132
1599		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	67	4				１区　溝７	L0133
1600		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	85	4				１区　溝７	L0134
1601		流路７杭列Ｄ	図 98	杭	A2	61	5				１区　溝７	L0135
1602	122 － 39	流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	53	5	2	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	E0016
1603	122 － 40	流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	33	8	2	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0023
1604	122 － 41	流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	54	8	3	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0051
1605	122 － 42	流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	69	5		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	E0087
1606	122 － 43	流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	72	4	6	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	E0108
1607	122 － 44	流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	92	9	2	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0072
1608	123 － 45	流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	83	8		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	E0140
1609	123 － 46	流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B2	53	3	6	エゴノキ科エゴノキ属	※１	１区　溝７	E0089
1610	123 － 47	流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	65	10		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	E0151
1611	123 － 48	流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	100	5	2	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	E0157

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1612		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	30	4		ブナ科コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	１区　溝７	E0032
1613		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	55	8	3	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0045
1614		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	110	8		ニガキ科ニガキ属ニガキ	※１	１区　溝７	E0049
1615		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	114	8	2	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0050
1616		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	57	6	4	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0052
1617		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	82	4		ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	E0104
1618		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	99	6		クワ科クワ属	※１	１区　溝７	E0129
1619		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	100	5	4	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	E0143
1620		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	79	7		ツバキ科ツバキ属	※１	１区　溝７	E0168
1621		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	42	4				１区　溝７	E0001
1622		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	36	4				１区　溝７	E0002
1623		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	50	4				１区　溝７	E0003 大
1624		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	18	3				１区　溝７	E0003 小
1625		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	73	4				１区　溝７	E0004
1626		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	53	5				１区　溝７	E0005
1627		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	84	5				１区　溝７	E0006
1628		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	11	4				１区　溝７	E0007
1629		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	24	4				１区　溝７	E0008
1630		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	29	6				１区　溝７	E0009
1631		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	89	4				１区　溝７	E0010
1632		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	26	5				１区　溝７	E0011
1633		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	22	3				１区　溝７	E0012
1634		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	29	7	1			１区　溝７	E0013
1635		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	44	7				１区　溝７	E0014
1636		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	47	7	2			１区　溝７	E0015
1637		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	30	11	2			１区　溝７	E0017
1638		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	26	6	2			１区　溝７	E0018
1639		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B2	59	3	5			１区　溝７	E0019
1640		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	37	8	2			１区　溝７	E0020
1641		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	23	3				１区　溝７	E0021
1642		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	25	4				１区　溝７	E0022
1643		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	30	4				１区　溝７	E0024
1644		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	11	3				１区　溝７	E0025
1645		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	12	3				１区　溝７	E0026
1646		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	69	4				１区　溝７	E0027
1647		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	14	6	8			１区　溝７	E0029
1648		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	27	3				１区　溝７	E0030
1649		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	44	4				１区　溝７	E0031
1650		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	45	4				１区　溝７	E0033
1651		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	44	4				１区　溝７	E0034
1652		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	27	4				１区　溝７	E0035
1653		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	33	4				１区　溝７	E0036
1654		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	25	4				１区　溝７	E0037
1655		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	21	5				１区　溝７	E0038
1656		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	29	4				１区　溝７	E0039
1657		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	13	3				１区　溝７	E0040
1658		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	29	3	4			１区　溝７	E0042
1659		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	B1	15	8	2			１区　溝７	E0043
1660		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	77	6				１区　溝７	E0046
1661		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	108	4	7			１区　溝７	E0047
1662		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	95	3	6			１区　溝７	E0048
1663		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	36	6				１区　溝７	E0053
1664		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	64	5				１区　溝７	E0054
1665		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	128	4				１区　溝７	E0055
1666		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	82	6				１区　溝７	E0057
1667		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	70	5	2			１区　溝７	E0058
1668		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	73	5				１区　溝７	E0059
1669		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	46	4				１区　溝７	E0060
1670		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	82	4				１区　溝７	E0061
1671		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	70	4				１区　溝７	E0062
1672		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	71	6				１区　溝７	E0063

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1673		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	43	5				１区　溝７	E0064
1674		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	81	8				１区　溝７	E0065
1675		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	30	3				１区　溝７	E0066
1676		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	47	4				１区　溝７	E0067
1677		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	28	3				１区　溝７	E0068
1678		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	54	3				１区　溝７	E0069
1679		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	100	5	3			１区　溝７	E0070
1680		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	94	5				１区　溝７	E0071
1681		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	126	8				１区　溝７	E0073
1682		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	22	4				１区　溝７	E0074
1683		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	70	3	6			１区　溝７	E0075
1684		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	37	4				１区　溝７	E0076
1685		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	92	5				１区　溝７	E0077
1686		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	34	4				１区　溝７	E0078
1687		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	44	5				１区　溝７	E0079
1688		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	42	4				１区　溝７	E0080
1689		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	21	5				１区　溝７	E0081
1690		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	37	4				１区　溝７	E0082
1691		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	46	5	7			１区　溝７	E0083
1692		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	53	6				１区　溝７	E0084
1693		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	42	4				１区　溝７	E0085
1694		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B2	79	5	7			１区　溝７	E0086
1695		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	44	3				１区　溝７	E0088
1696		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	61	4	8			１区　溝７	E0090
1697		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	36	4				１区　溝７	E0091
1698		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	120	10				１区　溝７	E0092
1699		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	129	5				１区　溝７	E0093
1700		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	137	5				１区　溝７	E0094
1701		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	47	6				１区　溝７	E0095
1702		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	97	9				１区　溝７	E0096
1703		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	40	6				１区　溝７	E0097
1704		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	90	5				１区　溝７	E0098
1705		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	51	3				１区　溝７	E0099
1706		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	53	7				１区　溝７	E0100
1707		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	100	5				１区　溝７	E0101
1708		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	136	6				１区　溝７	E0102
1709		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	75	3				１区　溝７	E0103
1710		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	70	5				１区　溝７	E0105
1711		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	110	4				１区　溝７	E0106
1712		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	21	3				１区　溝７	E0107
1713		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	21	4				１区　溝７	E0109
1714		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	57	5				１区　溝７	E0110
1715		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	40	3				１区　溝７	E0111
1716		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B1	24	2	4			１区　溝７	E0112
1717		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	38	4				１区　溝７	E0113
1718		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	44	5				１区　溝７	E0114
1719		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	46	5				１区　溝７	E0115
1720		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	34	4				１区　溝７	E0116
1721		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	82	5				１区　溝７	E0117
1722		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	48	4				１区　溝７	E0118
1723		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	82	12				１区　溝７	E0119
1724		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	172	14				１区　溝７	E0120
1725		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	48	14				１区　溝７	E0121
1726		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B1	17	2	6			１区　溝７	E0122
1727		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B2	39	3	6			１区　溝７	E0123
1728		流路７杭列Ｅ	図 99	矢板	A1	22	9	4			１区　溝７	E0124
1729		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	128	6				１区　溝７	E0125
1730		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	15	6				１区　溝７	E0126
1731		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	81	5				１区　溝７	E0127
1732		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	61	4				１区　溝７	E0128
1733		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	28	4				１区　溝７	E0130
1734		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	D	97	4	4			１区　溝７	E0131
1735		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	25	4				１区　溝７	E0132

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1736		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	B2	53	4	6			１区　溝７	E0134
1737		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	93	4				１区　溝７	E0135
1738		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	64	4				１区　溝７	E0136
1739		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	84	4				１区　溝７	E0137
1740		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	51	4				１区　溝７	E0139
1741		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	86	3				１区　溝７	E0141
1742		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	51	3				１区　溝７	E0142
1743		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	127	5				１区　溝７	E0144
1744		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	182	4				１区　溝７	E0145
1745		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	126	6				１区　溝７	E0146
1746		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	71	7				１区　溝７	E0147
1747		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	120	5				１区　溝７	E0148
1748		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	77	5				１区　溝７	E0149
1749		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	108	4				１区　溝７	E0150
1750		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	18	4				１区　溝７	E0152
1751		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	38	8				１区　溝７	E0153-1
1752		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	128	7				１区　溝７	E0153-2
1753		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	89	8				１区　溝７	E0154
1754		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	144	4				１区　溝７	E0155
1755		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	51	4				１区　溝７	E0156
1756		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	107	7				１区　溝７	E0158
1757		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	212	6				１区　溝７	E0159
1758		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	190	14				１区　溝７	E0160
1759		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	C2	48	5	8			１区　溝７	E0161
1760		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A1	34	2				１区　溝７	E0162
1761		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	45	9				１区　溝７	E0163
1762		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	68	5				１区　溝７	E0164
1763		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	98	7				１区　溝７	E0166
1764		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A2	76	4				１区　溝７	E0167
1765		流路７杭列Ｅ	図 99	杭	A3	21	8				１区　溝７	E0169
1766		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	95	5				１区　溝７	E0170
1767		流路７杭列Ｅ	図 99	横木	A	156	10				１区　溝７	E0171
1768	124 － 49	流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	25	3		サカキ	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 03
1769	124 － 50	流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	52	3		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 04
1770	124 － 51	流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	53	4	5	サカキ	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 08
1771	124 － 52	流路７堰Ａ	図 100	矢板	A1	29	7	4	ツブラジイ	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 20
1772		流路７堰Ａ	図 100	矢板	C1	21	3	6	ツブラジイ	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 01
1773		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	57	5		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 02
1774		流路７堰Ａ	図 100	矢板	B	25	5	2	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 05
1775		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	17	4		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 06
1776		流路７堰Ａ	図 100	杭	C1	9	2	1	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 07
1777		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	20	4	3	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 09
1778		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	15	3	3	クリ	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 10
1779		流路７堰Ａ	図 100	杭	A1	5	2		シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 11
1780		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	34	3		エノキ属	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 12
1781		流路７堰Ａ	図 100	杭	C1	10	3	1	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 13
1782		流路７堰Ａ	図 100	杭	D	17	6	2	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 14
1783		流路７堰Ａ	図 100	杭	D	15	6	2	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 15
1784		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	23	6	5	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 16
1785		流路７堰Ａ	図 100	杭	B2	13	5	3	ツバキ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 17
1786		流路７堰Ａ	図 100	杭	C1	23	6	2	ツブラジイ	※２	２ｔｒ　溝３	北杭 18
1787		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	10	3	1	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 19
1788		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	20	5	3	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 21
1789		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	22	6	3	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 22
1790		流路７堰Ａ	図 100	杭	A1	16	3		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 23
1791		流路７堰Ａ	図 100	杭	A1	14	2		ネムノキ	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 24
1792		流路７堰Ａ	図 100	杭	C2	13	5	3	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 25
1793		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	21	4		エゴノキ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 26
1794		流路７堰Ａ	図 100	杭	A2	33	4		ツバキ属	※１	２ｔｒ　溝３	北杭 27
1795	124 － 53	流路７堰Ｂ	図 101	杭	B1	70	2	4	スダジイ	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 05

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1796	124 － 54	流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	24	4		クスノキ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 16
1797	124 － 55	流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	51	3		サカキ	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 14
1798	124 － 56	流路７堰Ｂ	図 101	杭	B2	55	3	6	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 11
1799	124 － 57	流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	42	4		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 20
1800	124 － 58	流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	74	5		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 12
1801		流路７堰Ｂ	図 101	杭	B2	68	5	3	スダジイ	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 02
1802		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	26	5		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 03
1803		流路７堰Ｂ	図 101	杭	C2	85	8	6	スダジイ	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 04
1804		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	44	4		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 06
1805		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	38	5		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 07
1806		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A1	60	2		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 08
1807		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	64	3		カキノキ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 09
1808		流路７堰Ｂ	図 101	杭	B2	22	3	3	シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 10
1809		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	27	6		コナラ属アカガシ亜属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 15
1810		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	17	3		コナラ属アカガシ亜属	※２	２ｔｒ　溝３	南杭 17
1811		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	31	4		ブナ科シイ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 18
1812		流路７堰Ｂ	図 101	杭	C1	18	3	1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 36
1813		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	19	4		ヤナギ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 37
1814		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	42	3		ヤナギ属	※１	２ｔｒ　溝３	南杭 38
1815		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	23	4				１区　溝７	A037
1816		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	44	5				１区　溝７	A038
1817		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	40	4				１区　溝７	A039
1818		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	30	3				１区　溝７	A040
1819		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	32	5				１区　溝７	A041
1820		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	31	5				１区　溝７	A042
1821		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A3	31	7				１区　溝７	A043
1822		流路７堰Ｂ	図 101	杭	D	32	8	3			１区　溝７	A044
1823		流路７堰Ｂ	図 101	杭	B3	23	9	12			１区　溝７	A045
1824		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	55	6				１区　溝７	A046
1825		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	28	3				１区　溝７	A047
1826		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	23	4				１区　溝７	A048
1827		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	32	3				１区　溝７	A049
1828		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	86	4				１区　溝７	A050
1829		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	7	4				１区　溝７	A051
1830		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	57	4				１区　溝７	A052
1831		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	38	4				１区　溝７	A053
1832		流路７堰Ｂ	図 101	矢板	B1	28	3	1			１区　溝７	A056
1833		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	21	3				１区　溝７	A057
1834		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	9	4				１区　溝７	A058
1835		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	17	3				１区　溝７	A059
1836		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	27	4				１区　溝７	A061
1837		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	37	4				１区　溝７	A062
1838		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	15	4				１区　溝７	A064
1839		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	32	4				１区　溝７	A065
1840		流路７堰Ｂ	図 101	矢板	A1	25	8	2			１区　溝７	A066
1841		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	9	4				１区　溝７	A067
1842		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	22	4				１区　溝７	A068
1843		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	51	3				１区　溝７	A069
1844		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	43	3				１区　溝７	A070
1845		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	17	4				１区　溝７	A071
1846		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	44	3				１区　溝７	A072
1847		流路７堰Ｂ	図 101	杭	A2	14	3				１区　溝７	A073
1848	125 － 59	流路７堰Ｃ	図 102	杭	C2	117	3	8	ブナ科シイ属	※１	１区　溝７	B0026
1849	125 － 60	流路７堰Ｃ	図 102	杭	A3	119	7	7	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	※１	１区　溝７	B0022
1850		流路７堰Ｃ	図 102	杭	A2	17	4				１区　溝７	B0001
1851		流路７堰Ｃ	図 102	杭	A3	56	7				１区　溝７	B0002

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1852		流路７堰C	図 102	杭	A2	48	6				1区　溝７	B0003
1853		流路７堰C	図 102	杭	A2	30	3				1区　溝７	B0004
1854		流路７堰C	図 102	杭	A1	48	2				1区　溝７	B0005
1855		流路７堰C	図 102	杭	A2	45	5				1区　溝７	B0006 ①
1856		流路７堰C	図 102	杭	A1	22	2				1区　溝７	B0007
1857		流路７堰C	図 102	杭	A1	43	2				1区　溝７	B0008
1858		流路７堰C	図 102	杭	A2	25	5				1区　溝７	B0010-1
1859		流路７堰C	図 102	杭	A2	44	5				1区　溝７	B0010 ③
1860		流路７堰C	図 102	杭	A2	9	6				1区　溝７	B0011 ①
1861		流路７堰C	図 102	杭	B1	72	2	4			1区　溝７	B0012
1862		流路７堰C	図 102	杭	A2	46	5				1区　溝７	B0013
1863		流路７堰C	図 102	杭	A2	30	4				1区　溝７	B0015
1864		流路７堰C	図 102	杭	C2	116	5	4			1区　溝７	B0016
1865		流路７堰C	図 102	杭	A3	205	7				1区　溝７	B0018
1866		流路７堰C	図 102	杭	C2	102	3	6			1区　溝７	B0019
1867		流路７堰C	図 102	杭	A2	66	4				1区　溝７	B0020
1868		流路７堰C	図 102	杭	A2	88	5				1区　溝７	B0021-1
1869		流路７堰C	図 102	杭	A2	145	6				1区　溝７	B0023
1870		流路７堰C	図 102	杭	A2	70	5				1区　溝７	B0024
1871		流路７堰C	図 102	杭	A3	113	7				1区　溝７	B0025
1872		流路７堰C	図 102	杭	A2	75	4				1区　溝７	C0001
1873		流路７堰C	図 102	杭	A2	52	4				1区　溝７	C0002
1874		流路７堰C	図 102	杭	A2	79	5				1区　溝７	C0003
1875		流路７堰C	図 102	杭	A2	76	5				1区　溝７	C0006
1876		流路７堰C	図 102	横木	B	64	16	13			1区　溝７	C0008
1877		流路７堰C	図 102	杭	A3	69	10				1区　溝７	C0009
1878		流路７堰C	図 102	杭	A2	30	3				1区　溝７	C0010 ①
1879		流路７堰C	図 102	杭	A2	31	3				1区　溝７	C0010 ②
1880		流路７堰C	図 102	杭	A2	43	5				1区　溝７	C0011
1881		流路７堰C	図 102	杭	A2	41	6				1区　溝７	C0012
1882		流路７堰C	図 102	杭	A2	46	4				1区　溝７	C0013
1883		流路７堰D	図 103	杭	C2	50	6	7	ツバキ科サカキ属サカキ	※１	1区　溝７	I0026
1884		流路７堰D	図 103	杭	A3	35	9		ツバキ科ツバキ属	※１	1区　溝７	I0064
1885		流路７堰D	図 103	杭	A3	94	7				1区　溝７	I0001
1886		流路７堰D	図 103	杭	A3	146	7				1区　溝７	I0002
1887		流路７堰D	図 103	杭	A2	22	5				1区　溝７	I0003
1888		流路７堰D	図 103	杭	A2	27	6				1区　溝７	I0004
1889		流路７堰D	図 103	杭	A2	49	3				1区　溝７	I0005
1890		流路７堰D	図 103	杭	B1	54	2	6			1区　溝７	I0006
1891		流路７堰D	図 103	杭	C2	47	3	3			1区　溝７	I0007
1892		流路７堰D	図 103	杭	B2	26	5	8			1区　溝７	I0008
1893		流路７堰D	図 103	杭	A2	81	4				1区　溝７	I0009
1894		流路７堰D	図 103	杭	A2	83	3				1区　溝７	I0010
1895		流路７堰D	図 103	杭	A3	19	4				1区　溝７	I0011
1896		流路７堰D	図 103	杭	A4	34	4				1区　溝７	I0012
1897		流路７堰D	図 103	杭	A5	44	4				1区　溝７	I0013
1898		流路７堰D	図 103	杭	A2	16	3				1区　溝７	I0015
1899		流路７堰D	図 103	杭	A2	67	4				1区　溝７	I0016
1900		流路７堰D	図 103	杭	A2	55	4				1区　溝７	I0017
1901		流路７堰D	図 103	杭	A2	39	4				1区　溝７	I0018
1902		流路７堰D	図 103	杭	A2	37	6				1区　溝７	I0019
1903		流路７堰D	図 103	杭	A2	83	5				1区　溝７	I0020
1904		流路７堰D	図 103	杭	A3	53	7				1区　溝７	I0021
1905		流路７堰D	図 103	杭	A2	100	4				1区　溝７	I0022
1906		流路７堰D	図 103	杭	A2	48	4				1区　溝７	I0024
1907		流路７堰D	図 103	杭	C2	41	4	7			1区　溝７	I0025
1908		流路７堰D	図 103	杭	A2	66	4				1区　溝７	I0027
1909		流路７堰D	図 103	杭	A2	61	5				1区　溝７	I0028
1910		流路７堰D	図 103	杭	A2	110	5				1区　溝７	I0029
1911		流路７堰D	図 103	杭	C1	25	2	7			1区　溝７	I0030
1912		流路７堰D	図 103	杭	A2	136	4				1区　溝７	I0031
1913		流路７堰D	図 103	杭	A2	117	4				1区　溝７	I0032

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1914		流路７堰D	図 103	杭	A2	109	6				1区　溝７	I0033
1915		流路７堰D	図 103	杭	C2	30	3	5			1区　溝７	I0034
1916		流路７堰D	図 103	矢板	A1	53	6	4			1区　溝７	I0035
1917		流路７堰D	図 103	杭	C1	12	1	4			1区　溝７	I0036
1918		流路７堰D	図 103	杭	D	25	8	2			1区　溝７	I0037
1919		流路７堰D	図 103	杭	A2	11	3				1区　溝７	I0038
1920		流路７堰D	図 103	杭	A2	39	5				1区　溝７	I0039
1921		流路７堰D	図 103	杭	C1	15	2	6			1区　溝７	I0040
1922		流路７堰D	図 103	杭	A2	70	4				1区　溝７	I0041
1923		流路７堰D	図 103	杭	C1	14	2	3			1区　溝７	I0042
1924		流路７堰D	図 103	杭	A2	59	4				1区　溝７	I0043
1925		流路７堰D	図 103	杭	A2	40	4				1区　溝７	I0044
1926		流路７堰D	図 103	杭	A2	55	4				1区　溝７	I0045
1927		流路７堰D	図 103	杭	A2	43	4				1区　溝７	I0046
1928		流路７堰D	図 103	杭	C2	26	4	6			1区　溝７	I0047
1929		流路７堰D	図 103	杭	A2	82	5				1区　溝７	I0048
1930		流路７堰D	図 103	杭	A2	67	3				1区　溝７	I0049
1931		流路７堰D	図 103	杭	A2	67	4				1区　溝７	I0050
1932		流路７堰D	図 103	杭	A2	39	4				1区　溝７	I0051
1933		流路７堰D	図 103	杭	A2	71	4				1区　溝７	I0052
1934		流路７堰D	図 103	杭	A2	77	5				1区　溝７	I0053
1935		流路７堰D	図 103	杭	A2	27	5				1区　溝７	I0053 ②
1936		流路７堰D	図 103	杭	A2	63	4				1区　溝７	I0054
1937		流路７堰D	図 103	杭	A2	14	6				1区　溝７	I0055
1938		流路７堰D	図 103	杭	A2	10	4				1区　溝７	I0056
1939		流路７堰D	図 103	杭	A2	34	3				1区　溝７	I0057
1940		流路７堰D	図 103	杭	A2	19	5				1区　溝７	I0058
1941		流路７堰D	図 103	杭	A2	140	5	3			1区　溝７	I0059
1942		流路７堰D	図 103	杭	A2	148	5				1区　溝７	I0060
1943		流路７堰D	図 103	杭	A2	35	6				1区　溝７	I0061
1944		流路７堰D	図 103	杭	C2	98	4	6			1区　溝７	I0062
1945		流路７堰D	図 103	杭	B3	67	13	19			1区　溝７	I0063
1946		流路７堰D	図 103	杭	A3	57	9				1区　溝７	I0065
1947		流路７堰D	図 103	杭	A3	54	9				1区　溝７	I0066
1948		流路７堰D	図 103	杭	A2	69	4				1区　溝７	I0067
1949		流路７堰D	図 103	杭	A3	59	8				1区　溝７	I0068
1950		流路７堰D	図 103	杭	A3	73	10				1区　溝７	I0069
1951		流路７堰D	図 103	杭	A2	23	4				1区　溝７	I0070
1952		流路７堰D	図 103	杭	A3	78	7				1区　溝７	I0071
1953		流路７堰D	図 103	杭	A2	36	5				1区　溝７	I0072
1954		流路７堰D	図 103	杭	D	51	6	5			1区　溝７	I0073
1955		流路７堰D	図 103	杭	C2	44	3	6			1区　溝７	I0074
1956		流路７堰D	図 103	杭	A2	33	5				1区　溝７	I0075
1957		流路７堰D	図 103	杭	A2	24	4				1区　溝７	I0076
1958		流路７堰D	図 103	杭	A2	19	4				1区　溝７	I0077
1959		流路７堰D	図 103	杭	A2	61	4				1区　溝７	I0078
1960		流路７堰D	図 103	杭	A2	62	5				1区　溝７	I0079
1961		流路７堰D	図 103	杭	A2	44	5				1区　溝７	I0080
1962		流路７堰D	図 103	杭	A2	16	4				1区　溝７	I0081
1963		流路７堰D	図 103	杭	A2	38	4				1区　溝７	I0082
1964		流路７堰D	図 103	杭	A2	53	4				1区　溝７	I0083
1965		流路７堰D	図 103	杭	A2	75	5				1区　溝７	I0084
1966		流路７堰D	図 103	杭	A2	66	4				1区　溝７	I0085
1967		流路７堰D	図 103	杭	A2	96	4				1区　溝７	I0086
1968		流路７堰D	図 103	杭	A2	83	6				1区　溝７	I0087
1969		流路７堰D	図 103	杭	A2	38	4				1区　溝７	I0088
1970		流路７堰D	図 103	杭	A3	140	7				1区　溝７	I0089
1971		流路７堰D	図 103	杭	A2	49	4				1区　溝７	I0091
1972		流路７堰D	図 103	杭	A2	31	4				1区　溝７	I0092
1973		流路７堰D	図 103	杭	A3	74	7				1区　溝７	I0093
1974		流路７堰D	図 103	杭	A2	89	3				1区　溝７	I0094
1975		流路７堰D	図 103	杭	A3	124	8				1区　溝７	I0095
1976		流路７堰D	図 103	杭	A2	33	5				1区　溝７	I0096

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
1977		流路７堰D	図 103	杭	A2	23	3				1区　溝７	I0097-1
1978		流路７堰D	図 103	杭	B2	49	5	8			1区　溝７	I0098
1979		流路７堰D	図 103	杭	A3	72	12				1区　溝７	I0099
1980		流路７堰D	図 103	杭	A3	53	9				1区　溝７	I0100
1981		流路７堰D	図 103	杭	A3	84	10				1区　溝７	I0101
1982		流路７堰D	図 103	杭	A3	105	8				1区　溝７	I0102
1983		流路７堰D	図 103	杭	A3	86	12				1区　溝７	I0103
1984		流路７堰D	図 103	杭	A2	93	6				1区　溝７	I0104
1985		流路７堰D	図 103	横木	A	92	9				1区　溝７	I0105
1986		流路７堰D	図 103	杭	A2	47	5				1区　溝７	I0106
1987		流路７堰D	図 103	横木	B	26	6	3			1区　溝７	I0107
1988		流路７堰D	図 103	杭	A2	50	4				1区　溝７	I0108
1989		流路７堰D	図 103	杭	A2	51	4				1区　溝７	I0109
1990		流路７堰D	図 103	横木	B	55	8	5			1区　溝７	I0110
1991		流路７堰D	図 103	矢板	B1	20	9	5			1区　溝７	I0123
1992		流路７堰D	図 103	矢板	B	28	8				1区　溝７	I0124
1993		流路７堰D	図 103	杭	A3	24	7				1区　溝７	J0001 ②
1994		流路７堰D	図 103	杭	A2	9	5				1区　溝７	J0002
1995		流路７堰D	図 103	杭	A2	44	4				1区　溝７	J0003
1996		流路７堰D	図 103	杭	A2	32	5				1区　溝７	J0004
1997		流路７堰D	図 103	横木	A	28	10				1区　溝７	J0005
1998		流路７堰D	図 103	杭	A2	57	4				1区　溝７	J0006
1999		流路７堰D	図 103	杭	A2	19	3				1区　溝７	J0007
2000		流路７堰D	図 103	杭	A2	19	3				1区　溝７	J0008
2001		流路７堰D	図 103	杭	A2	39	3				1区　溝７	J0009
2002		流路７堰D	図 103	杭	A2	41	3				1区　溝７	J0010
2003		流路７堰D	図 103	杭	A2	55	3				1区　溝７	J0011
2004		流路７堰D	図 103	杭	A2	33	3				1区　溝７	J0012
2005		流路７堰D	図 103	杭	A2	31	5				1区　溝７	J0013
2006		流路７堰D	図 103	杭	A2	47	4				1区　溝７	J0014
2007	125 － 61	流路７堰E	図 104	杭	C2	63	4	3	ブナ科シイ属	※１	1区　溝７	F0031
2008		流路７堰E	図 104	杭	A2	75	5				1区　溝７	F0001
2009		流路７堰E	図 104	横木	A	36	11				1区　溝７	F0002
2010		流路７堰E	図 104	杭	A3	63	7				1区　溝７	F0003
2011		流路７堰E	図 104	杭	A1	58	2				1区　溝７	F0004
2012		流路７堰E	図 104	杭	A2	50	5				1区　溝７	F0005
2013		流路７堰E	図 104	杭	A2	39	4				1区　溝７	F0006
2014		流路７堰E	図 104	杭	A2	36	3				1区　溝７	F0007
2015		流路７堰E	図 104	杭	A2	56	5				1区　溝７	F0008
2016		流路７堰E	図 104	杭	A2	45	3				1区　溝７	F0009
2017		流路７堰E	図 104	杭	A2	33	3				1区　溝７	F0010
2018		流路７堰E	図 104	杭	A2	15	5				1区　溝７	F0011
2019		流路７堰E	図 104	杭	A2	23	4				1区　溝７	F0012
2020		流路７堰E	図 104	杭	A2	29	4				1区　溝７	F0013
2021		流路７堰E	図 104	杭	A2	50	3				1区　溝７	F0014
2022		流路７堰E	図 104	杭	A2	40	4				1区　溝７	F0016
2023		流路７堰E	図 104	杭	B2	77	3	4			1区　溝７	F0017
2024		流路７堰E	図 104	杭	A2	22	4				1区　溝７	F0019
2025		流路７堰E	図 104	杭	A2	69	3				1区　溝７	F0020
2026		流路７堰E	図 104	杭	A2	50	4				1区　溝７	F0021
2027		流路７堰E	図 104	杭	A2	34	5				1区　溝７	F0022
2028		流路７堰E	図 104	杭	A2	75	3				1区　溝７	F0023
2029		流路７堰E	図 104	杭	A3	60	7				1区　溝７	F0024
2030		流路７堰E	図 104	杭	A2	51	4				1区　溝７	F0025
2031		流路７堰E	図 104	杭	A3	30	9				1区　溝７	F0026
2032		流路７堰E	図 104	杭	A1	21	2				1区　溝７	F0027
2033		流路７堰E	図 104	杭	A2	70	3				1区　溝７	F0028
2034		流路７堰E	図 104	杭	C2	58	3	6			1区　溝７	F0029
2035		流路７堰E	図 104	杭	A2	32	3				1区　溝７	F0030
2036		流路７堰E	図 104	杭	A2	20	4				1区　溝７	F0033
2037		流路７堰E	図 104	杭	A2	73	3				1区　溝７	F0034
2038	125 － 62	流路７堰F	図 105	矢板	A1	38	8	3	ムクロジ	※２	1区　溝７	H0014
2039	125 － 63	流路７堰F	図 105	杭	C1	43	3	7	トウダイグサ科アカメガシワ属アカメガシワ	※１	1区　溝７	H0022

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
2040		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	53	4		ニレ科エノキ属	※１	１区　溝７	H0025
2041		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	35	3				１区　溝７	H0002
2042		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	27	4				１区　溝７	H0003
2043		流路７堰Ｆ	図 105	杭	C2	32	4	4			１区　溝７	H0004
2044		流路７堰Ｆ	図 105	杭	C2	28	4	7			１区　溝７	H0005
2045		流路７堰Ｆ	図 105	杭	C2	33	5	6			１区　溝７	H0006
2046		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	29	3				１区　溝７	H0007
2047		流路７堰Ｆ	図 105	杭	C2	22	3	5			１区　溝７	H0008
2048		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A1	35	2				１区　溝７	H0009
2049		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	16	3				１区　溝７	H0010
2050		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	25	4				１区　溝７	H0011
2051		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	26	3				１区　溝７	H0015
2052		流路７堰Ｆ	図 105	矢板	A	11	8	4			１区　溝７	H0016
2053		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	63	5				１区　溝７	H0018
2054		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	61	4				１区　溝７	H0019
2055		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A3	45	16				１区　溝７	H0021
2056		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	37	5				１区　溝７	H0023
2057		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	73	4				１区　溝７	H0024
2058		流路７堰Ｆ	図 105	矢板	A1	26	6	3			１区　溝７	H0026
2059		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	55	4				１区　溝７	H0027
2060		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	19	3				１区　溝７	H0029
2061		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	25	4				１区　溝７	H0030
2062		流路７堰Ｆ	図 105	矢板	A1	36	4	3			１区　溝７	H0031
2063		流路７堰Ｆ	図 105	矢板	A1	31	7	4			１区　溝７	H0032
2064		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	69	5				１区　溝７	H0033
2065		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	20	4				１区　溝７	H0034
2066		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	56	4				１区　溝７	H0035
2067		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	24	4				１区　溝７	H0036
2068		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	54	3				１区　溝７	H0037
2069		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	72	4				１区　溝７	H0038
2070		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	18	3				１区　溝７	H0039
2071		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	48	3				１区　溝７	H0040
2072		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	13	3				１区　溝７	H0041
2073		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	59	5				１区　溝７	H0042
2074		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	33	3				１区　溝７	H0043
2075		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A2	20	5				１区　溝７	H0044
2076		流路７堰Ｆ	図 105	杭	A1	28	2				１区　溝７	H0045
2077		流路７不明		杭	A2	67	4				１区　溝７	不明 001
2078		流路７不明		杭	A2	14	5				１区　溝７	不明 002
2079		流路７不明		杭	A2	7	4				１区　溝７	不明 004
2080		流路７不明		杭	A2	45	6				１区　溝７	不明 005
2081		流路７不明		杭	A2	94	6				１区　溝７	不明 008
2082		流路７不明		杭	A3	70	12				１区　溝７	不明 010
2083		流路７不明		杭	C3	38	8	8			１区　溝７	不明 021
2084		流路７不明		杭	A2	8	4				１区　溝７	不明 022
2085		流路７不明		杭	A2	20	6	－			１区　溝７	不明 023
2086		流路７不明		杭	A2	9	4				１区　溝７	不明 024
2087		流路７不明		杭	A2	9	3				１区　溝７	不明 025
2088		流路７不明		杭	A2	28	5				１区　溝７	不明 026
2089		流路７不明		杭	A2	55	3				１区　溝７	不明 027
2090		流路７不明		杭	A2	40	4				１区　溝７	不明 028
2091		流路７不明		杭	A2	27	3				１区　溝７	不明 029
2092		流路７不明		杭	C2	51	7	4			１区　溝７	不明 030
2093		流路７不明		杭	A2	54	4				１区　溝７	不明 033
2094		流路７不明		杭	A2	32	4				１区　溝７	不明 034
2095		流路７不明		杭	A2	54	3				１区　溝７	不明 035
2096		流路７不明		杭	A2	14	3				１区　溝７	不明 036
2097		流路７不明		杭	A2	24	5				１区　溝７	不明 037
2098		流路７不明		杭	A2	74	6				１区　溝７	不明 038
2099		流路７不明		杭	A2	23	3				１区　溝７	不明 039
2100		流路７不明		杭	D	75	8	5			１区　溝７	不明 040
2101		流路７不明		杭	A1	31	2				１区　溝７	不明 041
2102		流路７不明		杭	A2	55	4				１区　溝７	不明 043

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
2103		流路７不明		杭	A2	17	3				１区　溝７	不明 044
2104		流路７不明		杭	A2	25	3				１区　溝７	不明 045
2105		流路７不明		杭	A2	62	5				１区　溝７	不明 046
2106		流路７不明		杭	B3	98	7	9			１区　溝７	不明 047
2107		流路７不明		杭	A1	19	2				１区　溝７	不明 048
2108		流路７不明		杭	A2	91	4				１区　溝７	不明 049
2109		流路７不明		杭	A2	15	5				１区　溝７	不明 050
2110		流路７不明		杭	A2	58	5				１区　溝７	不明 051
2111		流路７不明		杭	A2	42	4				１区　溝７	不明 052
2112		流路７不明		杭	A2	67	4				１区　溝７	不明 053
2113		流路７不明		杭	A2	28	3				１区　溝７	不明 054
2114		流路７不明		杭	A2	52	4				１区　溝７	不明 055
2115		流路７不明		杭	A2	46	4				１区　溝７	不明 056
2116		流路７不明		杭	A2	119	4				１区　溝７	不明 057
2117		流路７不明		杭	A2	42	3				１区　溝７	不明 058
2118		流路７不明		杭	A2	85	4				１区　溝７	不明 059
2119		流路７不明		杭	A2	19	3				１区　溝７	不明 060
2120		流路７不明		杭	A2	21	4				１区　溝７	不明 061
2121		流路７不明		杭	A2	81	3				１区　溝７	不明 062
2122		流路７不明		杭	A2	57	3				１区　溝７	不明 063
2123		流路７不明		杭	A2	21	4				１区　溝７	不明 064
2124		流路７不明		杭	A2	22	5				１区　溝７	不明 066
2125		流路７不明		杭	A2	25	5				１区　溝７	不明 067
2126		流路７不明		杭	A2	126	6				１区　溝７	不明 068
2127		流路７不明		杭	A2	42	3				１区　溝７	不明 069
2128		流路７不明		杭	A2	59	4				１区　溝７	不明 070
2129		流路７不明		杭	A2	52	5				１区　溝７	不明 071
2130		流路７不明		杭	A2	34	3				１区　溝７	不明 072
2131		流路７不明		杭	A2	64	4				１区　溝７	不明 073
2132		流路７不明		矢板	A1	23	7	4			１区　溝７	不明 074
2133		流路７不明		杭	A2	32	3				１区　溝７	不明 075
2134		流路７不明		杭	A2	32	4				１区　溝７	不明 076
2135		流路７不明		杭	A2	23	4				１区　溝７	不明 077
2136		流路７不明		杭	A2	23	5				１区　溝７	不明 078
2137		流路７不明		杭	A2	38	5				１区　溝７	不明 079
2138		流路７不明		杭	A2	29	5				１区　溝７	不明 080
2139		流路７不明		杭	A2	44	3				１区　溝７	不明 081
2140		流路７不明		杭	A2	24	6				１区　溝７	不明 083
2141		流路７不明		杭	A2	97	4				１区　溝７	不明 084
2142		流路７不明		杭	A2	22	3				１区　溝７	不明 085
2143		流路７不明		杭	A2	46	5				１区　溝７	不明 086
2144		流路７不明		杭	A2	31	4				１区　溝７	不明 087
2145		流路７不明		杭	A2	48	3				１区　溝７	不明 088
2146		流路７不明		杭	A2	43	5				１区　溝７	不明 089
2147		流路７不明		杭	A2	58	6				１区　溝７	不明 090
2148		流路７不明		杭	A3	29	7				１区　溝７	不明 091
2149		流路７不明		杭	A2	28	4				１区　溝７	不明 092
2150		流路７不明		杭	A2	30	3				１区　溝７	不明 093
2151		流路７不明		杭	A2	15	6				１区　溝７	不明 094
2152		流路７不明		杭	A2	24	3				１区　溝７	不明 095
2153		流路７不明		杭	A2	15	4				１区　溝７	不明 096①
2154		流路７不明		杭	A2	58	5				１区　溝７	不明 096②
2155		流路７不明		杭	A2	53	5				１区　溝７	不明 097
2156		流路７不明		杭	A2	48	4				１区　溝７	不明 098
2157		流路７不明		杭	A2	60	6				１区　溝７	不明 099
2158		流路７不明		杭	A2	148	5				１区　溝７	不明 100
2159		流路７不明		杭	A2	37	5				１区　溝７	不明 101
2160		流路７不明		杭	A2	54	5				１区　溝７	不明 103
2161		流路７不明		杭	A2	16	4				１区　溝７	不明 104
2162		流路７不明		杭	A2	14	5				１区　溝７	不明 105
2163		流路７不明		杭	A2	26	5				１区　溝７	不明 106
2164		流路７不明		杭	A2	26	3				１区　溝７	不明 107

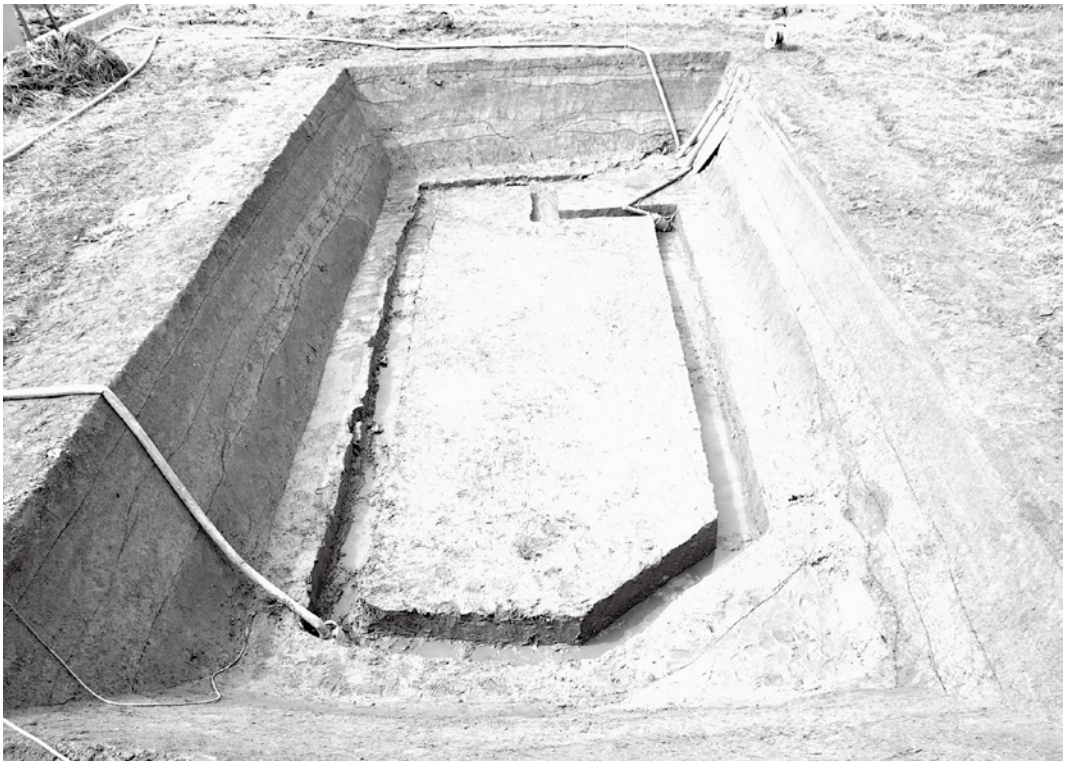
番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
2165		流路７不明		杭	A2	31	3				１区　溝７	不明 108
2166		流路７不明		杭	A2	59	3				１区　溝７	不明 109
2167		流路７不明		杭	A2	65	4				１区　溝７	不明 110
2168		流路７不明		杭	A2	68	5				１区　溝７	不明 111
2169		流路７不明		杭	A2	15	5				１区　溝７	不明 112
2170		流路７不明		杭	A2	13	4				１区　溝７	不明 113
2171		流路７不明		杭	A2	22	3				１区　溝７	不明 114
2172		流路７不明		杭	A2	44	5				１区　溝７	不明 115
2173		流路７不明		杭	A2	10	3				１区　溝７	不明 116
2174		流路７不明		杭	A2	64	3				１区　溝７	不明 117
2175		流路７不明		杭	A2	56	6				１区　溝７	不明 118
2176		流路７不明		杭	A2	31	6				１区　溝７	不明 119
2177		流路７不明		杭	A2	32	4				１区　溝７	不明 120
2178		流路７不明		杭	A2	21	4				１区　溝７	不明 121
2179		流路７不明		杭	A2	43	4				１区　溝７	不明 122
2180		流路７不明		杭	A2	69	4				１区　溝７	不明 123
2181		流路７不明		杭	A2	46	4				１区　溝７	不明 124
2182		流路７不明		杭	A2	120	6				１区　溝７	不明 125
2183		流路７不明		杭	A2	22	4				１区　溝７	不明 126
2184		流路７不明		杭	A2	105	5				１区　溝７	不明 127
2185		流路７不明		杭	A2	111	4				１区　溝７	不明 128
2186		流路７不明		杭	A2	19	3				１区　溝７	不明 129
2187		流路７不明		杭	A2	44	5				１区　溝７	不明 130
2188		流路７不明		杭	C3	33	11	5			１区　溝７	不明 131
2189		流路７不明		杭	A2	41	6				１区　溝７	不明 132
2190		流路７不明		杭	A2	24	4				１区　溝７	不明 133
2191		流路７不明		杭	A2	48	5				１区　溝７	不明 134
2192		流路７不明		杭	A2	43	5				１区　溝７	不明 135
2193		流路７不明		杭	A2	62	4				１区　溝７	不明 136
2194		流路７不明		杭	A2	110	4				１区　溝７	不明 137
2195		流路７不明		杭	A2	82	4				１区　溝７	不明 138
2196		流路７不明		杭	A2	21	4				１区　溝７	不明 139
2197		流路７不明		杭	A2	40	4				１区　溝７	不明 140
2198		流路７不明		杭	D	17	7	4			１区　溝７	不明 141
2199		流路７不明		杭	A2	69	3				１区　溝７	不明 142
2200		流路７不明		杭	B1	105	2	4			１区　溝７	不明 143
2201		流路７不明		杭	A2	70	3				１区　溝７	不明 144
2202		流路７不明		杭	A2	51	4				１区　溝７	不明 145
2203		流路７不明		杭	A2	71	6				１区　溝７	不明 146
2204		流路７不明		杭	A2	34	5				１区　溝７	不明 147①
2205		流路７不明		杭	A2	26	4				１区　溝７	不明 147②
2206		流路７不明		杭	A2	7	4				１区　溝７	不明 147③
2207		流路７不明		杭	C2	23	3	9			１区　溝７	不明 148
2208		流路７不明		杭	A2	18	3				１区　溝７	不　明 149-1
2209		流路７不明		杭	D	31	3	1			１区　溝７	不　明 149-2
2210		流路７不明		杭	A2	72	5				１区　溝７	不明 150
2211		流路７不明		杭	A3	28	7				１区　溝７	不明 151
2212		流路７不明		杭	A2	30	3				１区　溝７	不明 152
2213		流路７不明		杭	A2	44	3				１区　溝７	不明 153
2214		流路７不明		杭	A2	20	5				１区　溝７	不明 154
2215		流路７不明		杭	B1	51	1	4			１区　溝７	不明 155
2216		流路７不明		杭	C2	30	3	4			１区　溝７	不明 157
2217		流路７不明		横木	B	16	16	12			１区　溝７	不明 158
2218		流路７不明		横木	A	13	13				１区　溝７	不明 159
2219		流路７不明		横木	A	13	13				１区　溝７	不明 160
2220		流路７不明		杭	C2	23	4	7			１区　溝７	不明 161
2221		流路７不明		杭	C2	21	5	5			１区　溝７	不明 162
2222		流路７不明		矢板	B2	16	13	2			１区　溝７	不明 163
2223		流路７不明		矢板	B1	56	9	3			１区　溝７	不明 164
2224		流路７不明		杭	A2	32	4				１区　溝７	不明 165

番号	図－番号	遺　構	出土状況図	形式	類型	残存長(cm)	a(cm)	b(cm)	樹　種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
2225		流路７不明		杭	A2	36	3				1区　溝７	不明166
2226		流路７不明		杭	A2	16	4				1区　溝７	不明167
2227		流路７不明		杭	A2	33	4				1区　溝７	不明168
2228		流路７不明		杭	A2	62	4				1区　溝７	不明169
2229		流路７不明		杭	A2	32	2				1区　溝７	不明170
2230		流路７不明		杭	A2	26	3				1区　溝７	不明171
2231		流路７不明		杭	A2	17	6				1区　溝７	不明172
2232		流路７不明		杭	A3	16	7				1区　溝７	不明173
2233		流路７不明		杭	A2	12	4				1区　溝７	不明174
2234		流路７不明		杭	A2	8	3				1区　溝７	不明175
2235		流路７不明		杭	A2	37	3				1区　溝７	不明176
2236		流路７不明		矢板	B1	30	8	3			1区　溝７	不明177
2237		流路７不明		杭	B1	10	2	4			1区　溝７	不明178
2238		流路７不明		杭	C1	14	2	6			1区　溝７	不明179
2239		流路７不明		杭	A2	8	3				1区　溝７	不明180
2240		流路７不明		杭	C1	12	2	6			1区　溝７	不明181
2241		流路７不明		杭	A2	16	3				1区　溝７	不明182
2242		流路７不明		杭	A1	7	2				1区　溝７	不明183
2243		流路７不明		杭	C2	18	3	4			1区　溝７	不明184
2244		流路７不明		杭	B2	75	4	8			1区　溝７	不明185
2245		流路７不明		杭	A2	24	5				1区　溝７	B0006③
2246		流路７不明		杭	A2	50	6				1区　溝７	B0011②
2247		流路７不明		杭	A2	45	7				1区　溝７	B0011③
2248		流路７不明		杭	B2	48	3	2			1区　溝７	B0021-2
2249		流路７不明		杭	A2	69	3				1区　溝７	G0137-3
2250		流路７不明		杭	A2	30	5				1区　溝７	I0093①
2251		流路７不明		杭	A2	11	4				1区　溝７	I0097-2
2252		流路７不明		杭	A3	93	8				1区　溝７	J0001①
2253		流路７不明		杭	A2	41	4				1区　溝７	K0014①
2254		流路７不明		杭	A2	53	5				1区　溝７	K0093-2
2255		流路７不明		杭	A2	103	6				1区　溝７	K0094-2
2256		流路７不明		杭	A2	57	4				1区　溝７	L0021-2
2257		流路７不明		杭	A2	26	4				1区　溝７	L0107
2258		流路７不明		杭	A2	42	4				1区　溝７	L0108
2259		流路７不明		杭	A2	36	7				1区　溝７	L0110
2260		流路７不明		杭	B2	105	4				1区　溝７	M0048
2261		流路７不明		杭	A2	64	4				1区　溝７	M0058①
2262		流路７不明		杭	A2	65	6				1区　溝７	M0071①
2263		流路７不明		杭	A2	7	5				1区　溝７	N0048①
2264		流路７不明		杭	A2	19	3				1区　溝７	P0057-2

別表４－２　護岸材以外の木製品等　一覧表

番号	図－番号	遺構	出土状況図	種別	残存長(cm)	幅(cm)	厚み(cm)	木取	樹種	樹種同定	地区・遺構旧名称	取上番号
第２遺構面												
1		溝２		杭？	82.5	3			ムクロジ	※２	C区1Tr　溝１	溝１
2		溝３最上層		自然木	12.6	4.1	1.3	板目	モミ属	※１	C区2Tr　溝３	溝３最上層
3		溝４		自然木	36	4.4	2		コナラ属アカガシ亜属	※２	C区3Tr　溝24	木①
4		青灰色粘砂土		自然木	13.3/5.7	3.9/1.0	0.8/0.8	板目	アスナロ属	※１	C区5Tr	青灰色粘砂土
5		灰色粗砂		把手	8.8	3.1	1.4	柾目	ヤマグワ	※２	C区6Tr	灰色粗砂
6		井戸４	図35	井戸枠	66.0	60.0	10.0				C-3区　井戸３	
7		井戸４	図35	井戸枠	22	60	10				C-3区　井戸３	
8		井戸４	図35	井戸枠	148.0	22.0	9.0				C-3区　井戸３	
9		井戸５	図36	井戸枠	144	19	4	板目	マツ科モミ属	※１	C-3区　井戸４	井戸側①南
10		井戸５	図36	井戸枠	69	20	4	柾目	マツ科モミ属	※１	C-3区　井戸４	井戸側②東
11		井戸５	図36	井戸枠	144	18	5	柾目	マツ科モミ属	※１	C-3区　井戸４	井戸側③北
12		井戸５	図36	井戸枠	93	25	5	柾目	マツ科モミ属	※１	C-3区　井戸４	井戸側④西
13	77－1	流路５		円盤状木製品	38.0	12.0	7.0				C-3区　溝１	木１

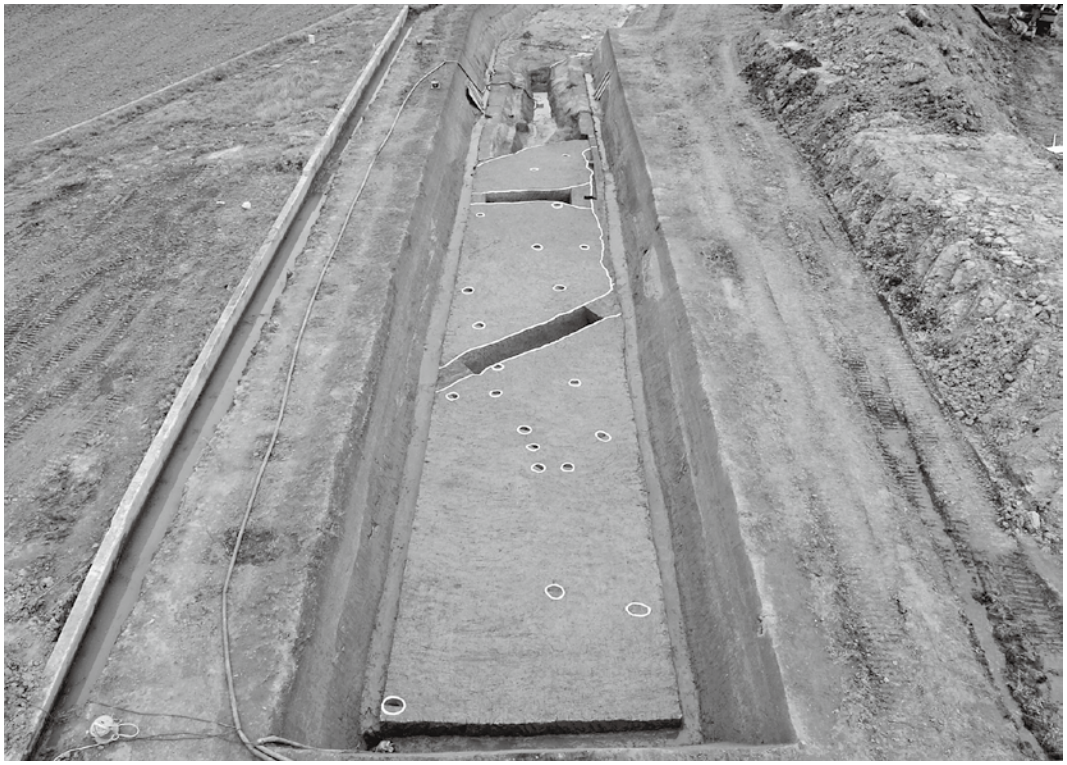
図　版



１トレンチ　５層上面　南から

１トレンチ　下層確認　南西から

図版2



２トレンチ　５層上面　北から

２トレンチ　下層確認　北東から

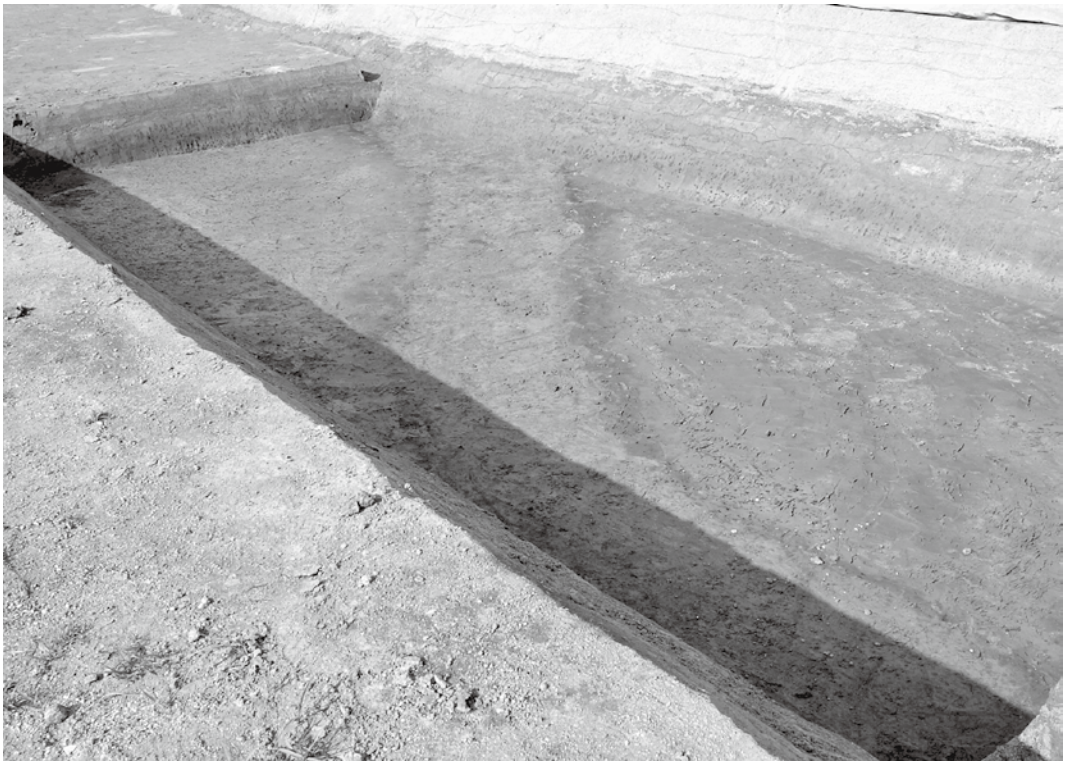
４トレンチ　３層上面　南東から

４トレンチ　拡張区　３層上面　北から

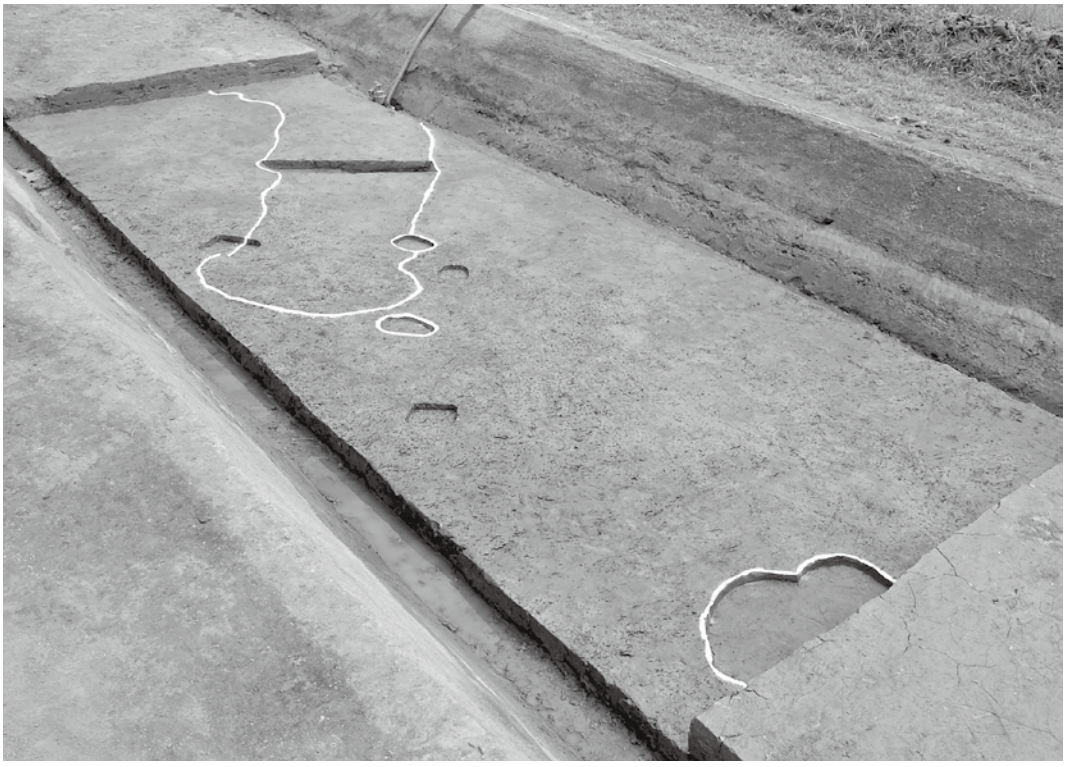
図版4

３トレンチ　３層上面　北から

３トレンチ　３層上面　南から



3トレンチ　下層確認　北西から



3トレンチ　下層確認　南西から

図版6

５トレンチ　３層上面　東から

６トレンチ　３層上面　東から

６トレンチ　下層確認　西から

６－２トレンチ　３層上面　南東から

図版8

６－２トレンチ　溝１　南から

７トレンチ　３層上面　西から

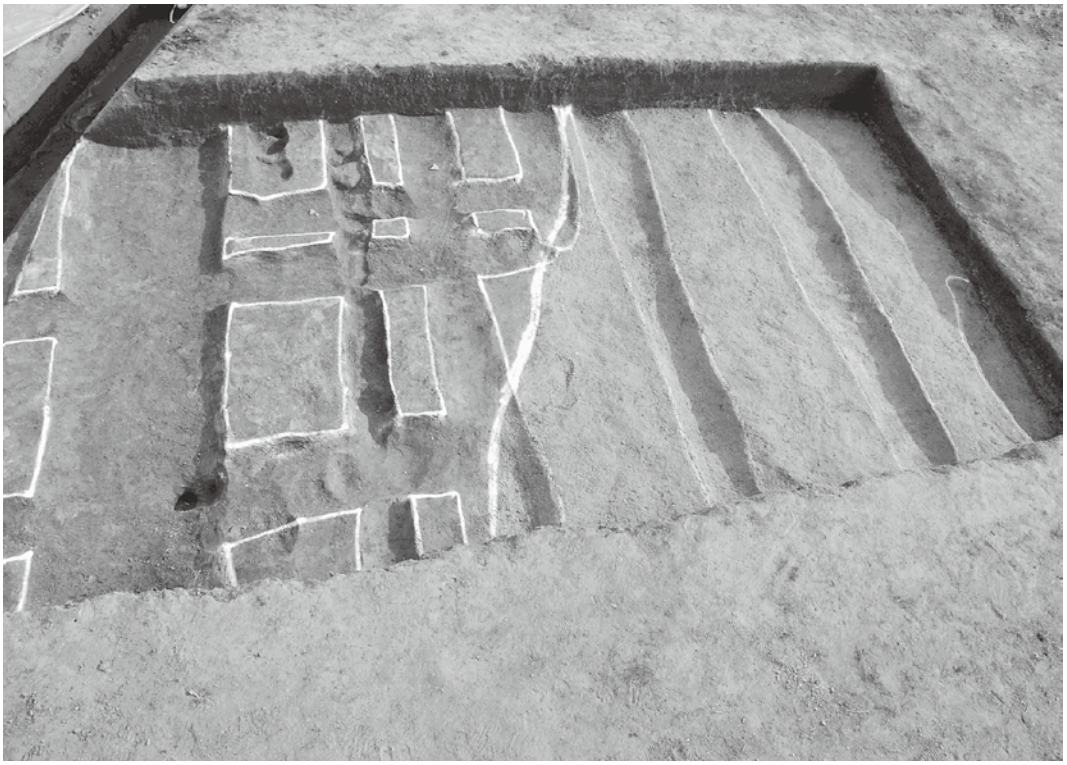
8トレンチ　3層上面　西から

8トレンチ　下層確認　東から

図版10

９トレンチ　３層上面　東から

10 トレンチ　４層上面　北から



10 トレンチ　拡張部　4 層上面　北から

10 トレンチ　下層確認　西から

図版12

11 トレンチ　５層上面　南から

11 トレンチ　下層確認　北東から

１区　全景　北から

１区　全景　南から

図版14

２区　全景　北東から

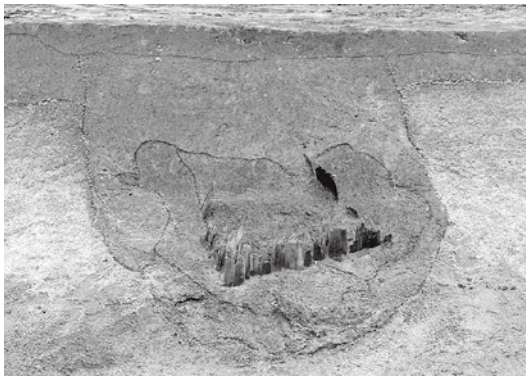
２区　全景　南から

３区　北半　全景　北から

３区　南半　全景　北から

図版16

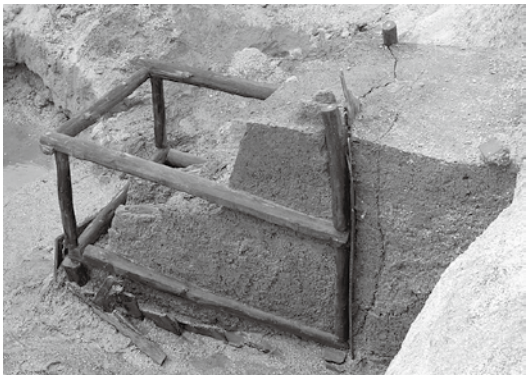
第１遺構面　井戸１（１）　西から



第１遺構面　井戸１（２）　西から

第１遺構面　井戸１（３）　南西から

第１遺構面　井戸１（４）　西から



第１遺構面　井戸１（５）　南から

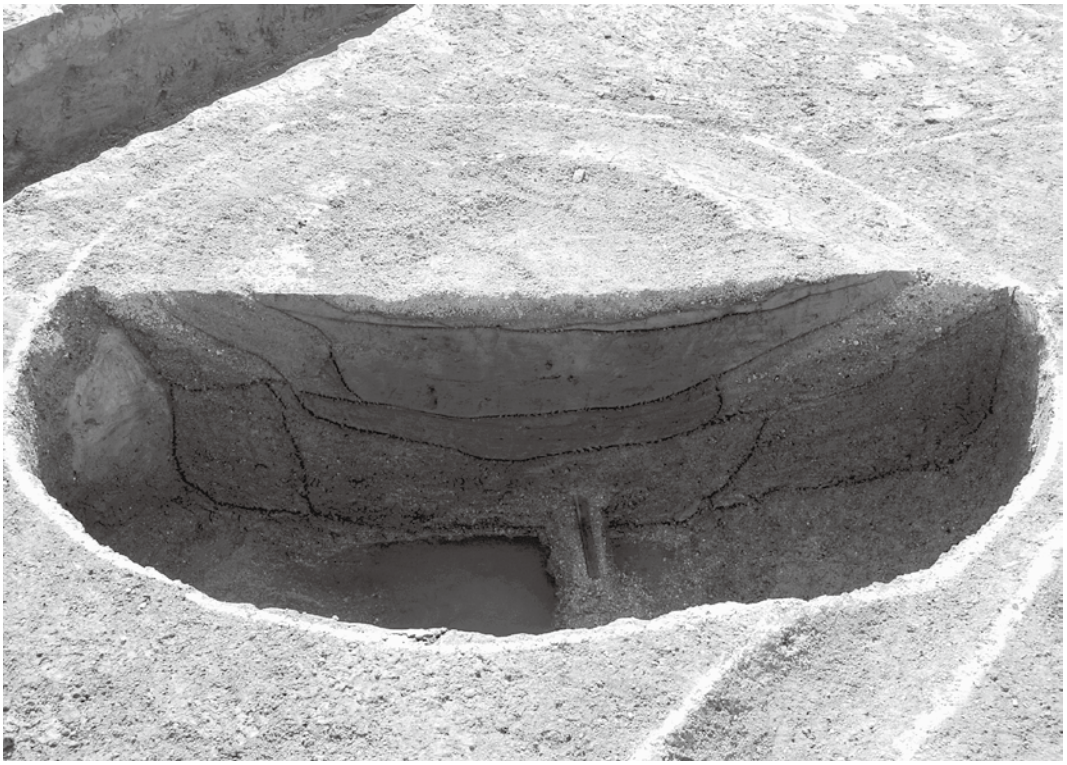
第１遺構面　井戸２　南から

第１遺構面　溝１　北から

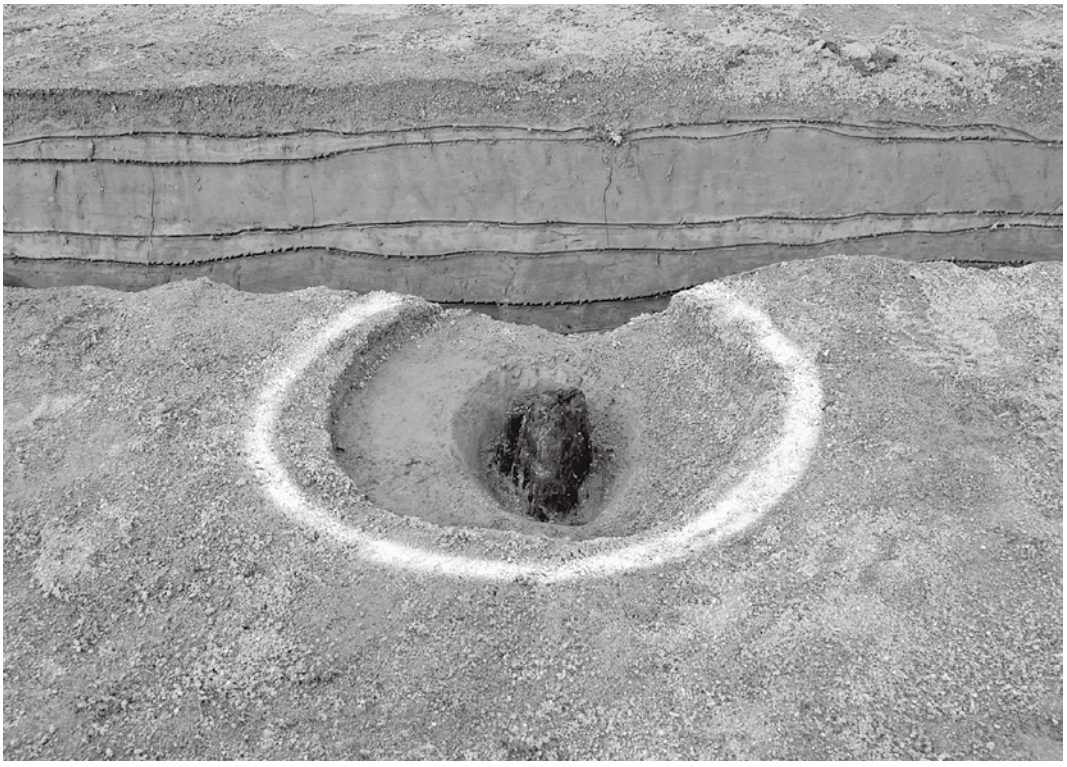
図版18

第２遺構面　井戸４　南から

第２遺構面　井戸５　南東から

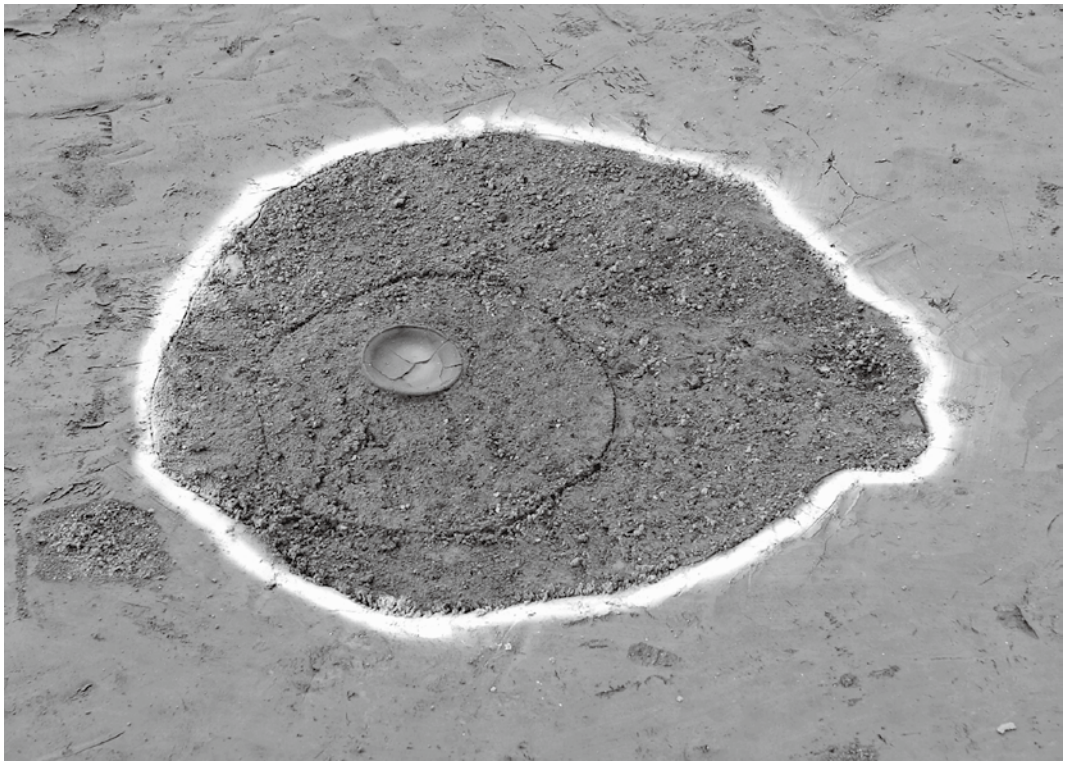


第２遺構面　井戸６　北東から

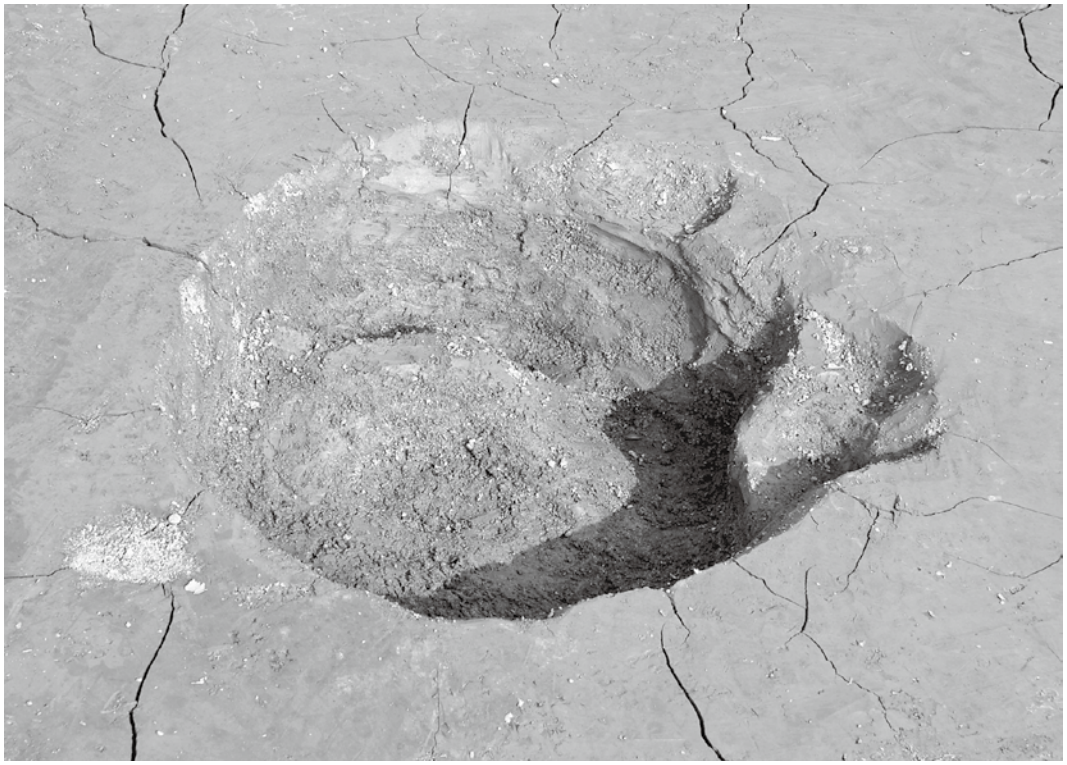


第２遺構面　柱穴　南から

図版20



第２遺構面　土坑１（１）　西から



第２遺構面　土坑１（２）　西から

第２遺構面　土坑２（１）　南東から

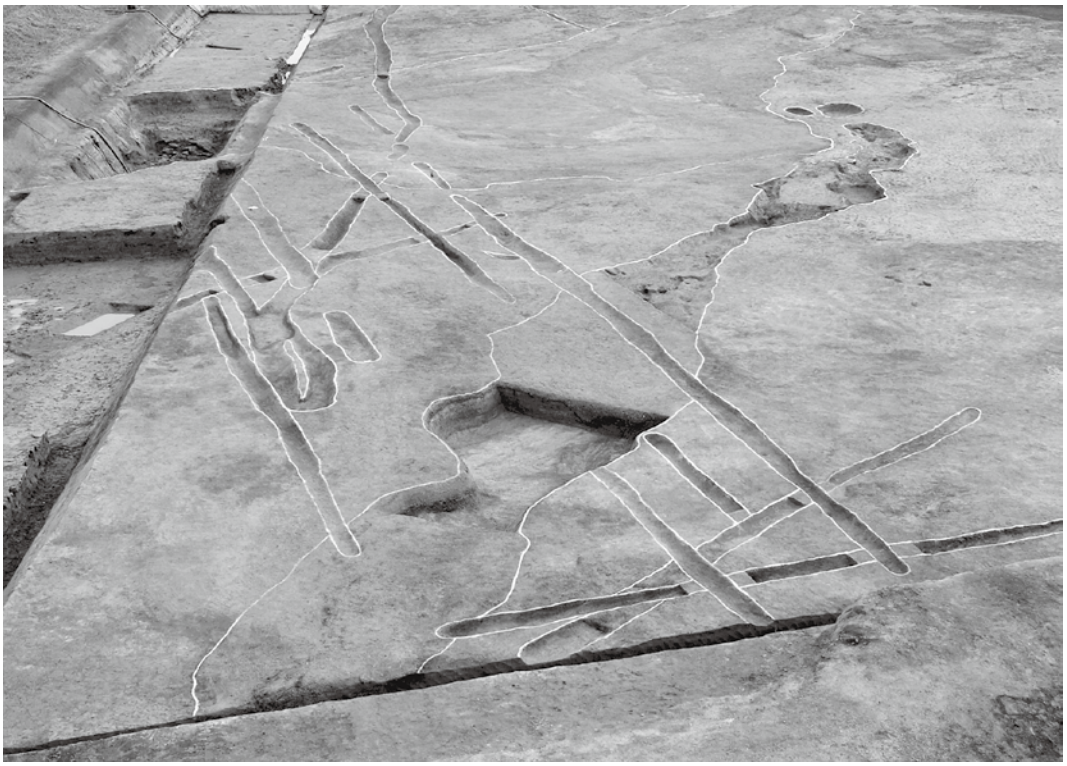
第２遺構面　土坑２（２）　南から

図版22

第２遺構面　土坑３　北から

第２遺構面　流路１　西から

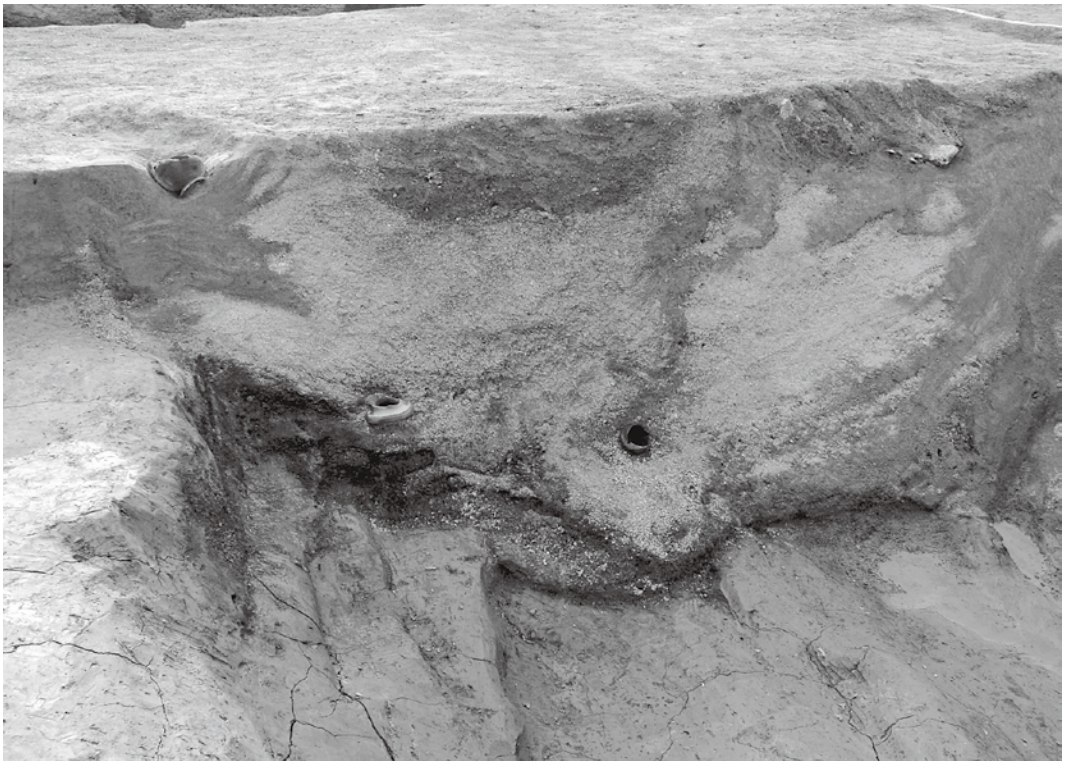
第２遺構面　流路２　北から



第２遺構面　流路３　北から

図版24

第２遺構面　流路４　東から



第２遺構面　流路４　土器出土状況　東から

第２遺構面　流路５（２区）　北東から

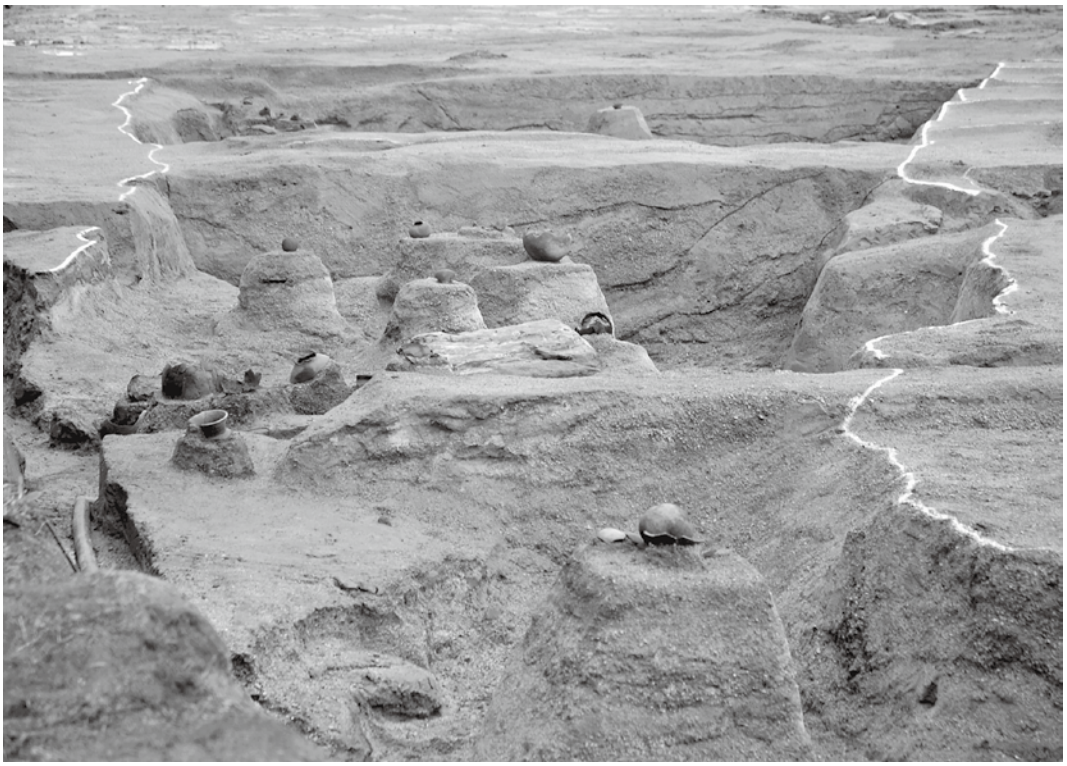
第２遺構面　流路５（２区）　南西から

図版26

第２遺構面　流路５（３区北半）　北東から

第２遺構面　流路５（３区北半）　南西から

第２遺構面　流路５（３区南半）　北東から



第２遺構面　流路５（３区南半）　南西から

第２遺構面　流路５（２区）　土器出土状況（１）

第２遺構面　流路５（２区）　土器出土状況（２）

第２遺構面　流路５（２区）　土器出土状況（３）

第２遺構面　流路５（２区）　土器出土状況（４）

第２遺構面　流路５（３区）　土器出土状況（１）

第２遺構面　流路５（３区）　土器出土状況（２）

第２遺構面　流路５（３区）　土器出土状況（３）

第２遺構面　流路５（３区）　木製品出土状況

第２遺構面　流路６（３区北半）　南西から

第２遺構面　流路６　（３区南半）　北から

図版30

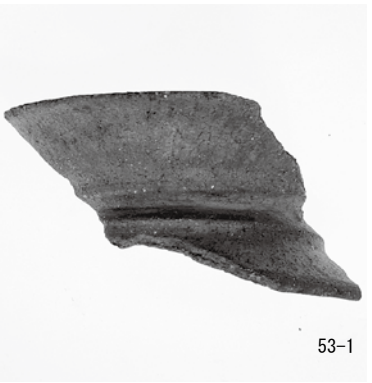
第２遺構面　溝４　北から

第２遺構面　素掘溝　銭貨出土状況　南から

52-1

52-2

土坑１


53-1

土坑２

54-1

流路２

流路３

55-1

55-4

55-2

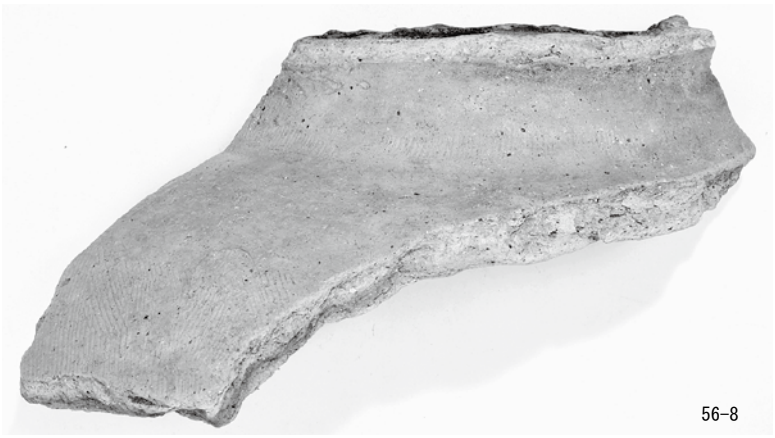
55-3

55-5

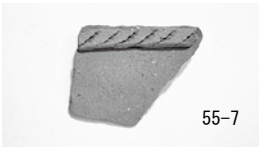
55-6

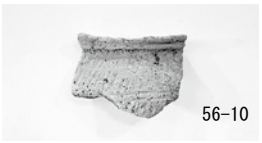
第２遺構面　出土土器・土製品（１）（S.≒1/3）

図版32


56-8

56-9


55-7


56-10

56-12

56-11

流路３

57-1

57-2

57-4

57-3

流路４

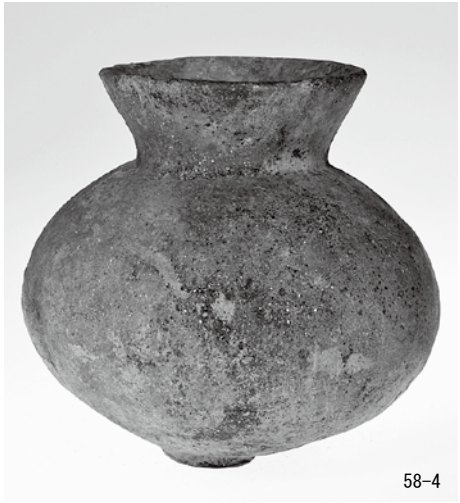
第２遺構面　出土土器・土製品（２）（S.≒1/3）

58-1

58-2

58-3

58-5


58-4

58-6

58-7

58-8

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（１）（S.≒1/3）

図版34

59-9

59-10

59-11

59-12

59-14

59-13

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（２）（S.≒1/3）

60-15

60-16

60-17

60-18

60-19

60-20

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（３）（S.≒1/3）

図版36

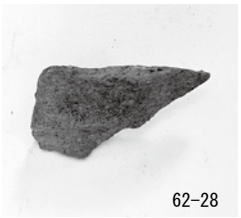
第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（４）（S.≒1/3）

62-23

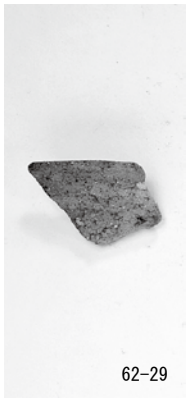
62-24

62-25

62-26


62-28

62-27


62-29

62-30

62-31

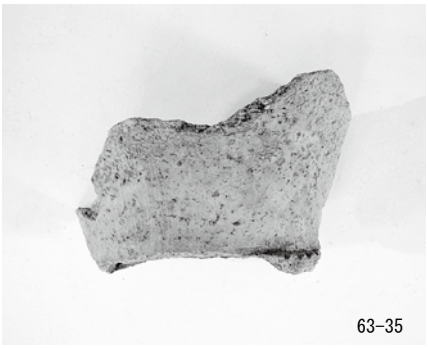
62-32

62-33

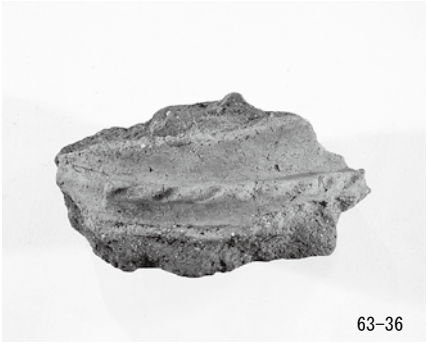
62-34

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（５）（S.≒1/3）

図版38


63-35

63-38


63-36

63-39

63-37

63-41

63-40

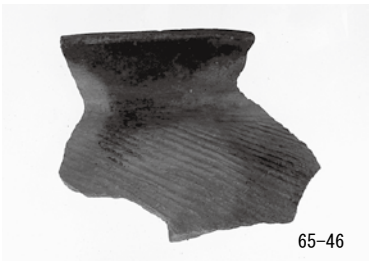
第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（６）（S.≒1/3）

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（７）（S.≒1/3）

図版40

65-45

64-44


65-46

65-47

65-49

65-48

65-50

65-51

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（８）（S.≒1/3）

66-52

66-53

66-54

66-55

66-56

66-57

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（９）（S.≒1/3）

図版42

67-58

67-62

67-59

67-63

67-60

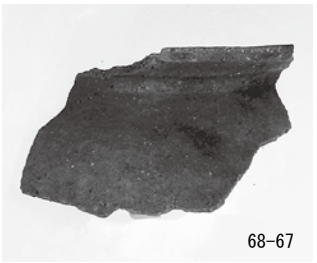
67-64

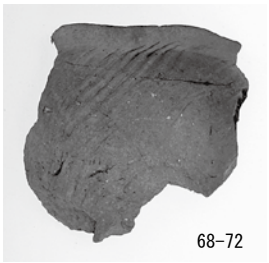
67-61

67-65

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（10）（S.≒1/3）

68-66


68-67

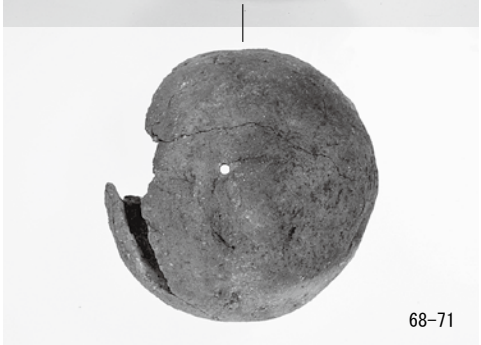

68-72

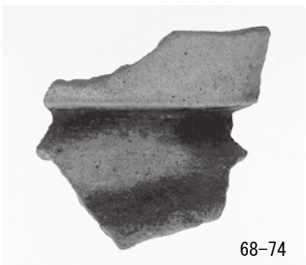
68-68

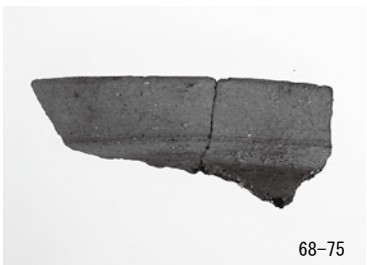
68-69

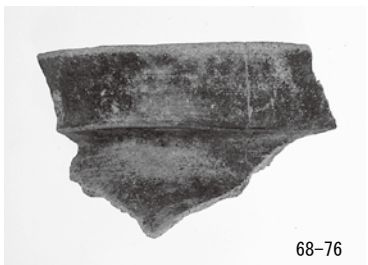
68-70

68-73


68-71

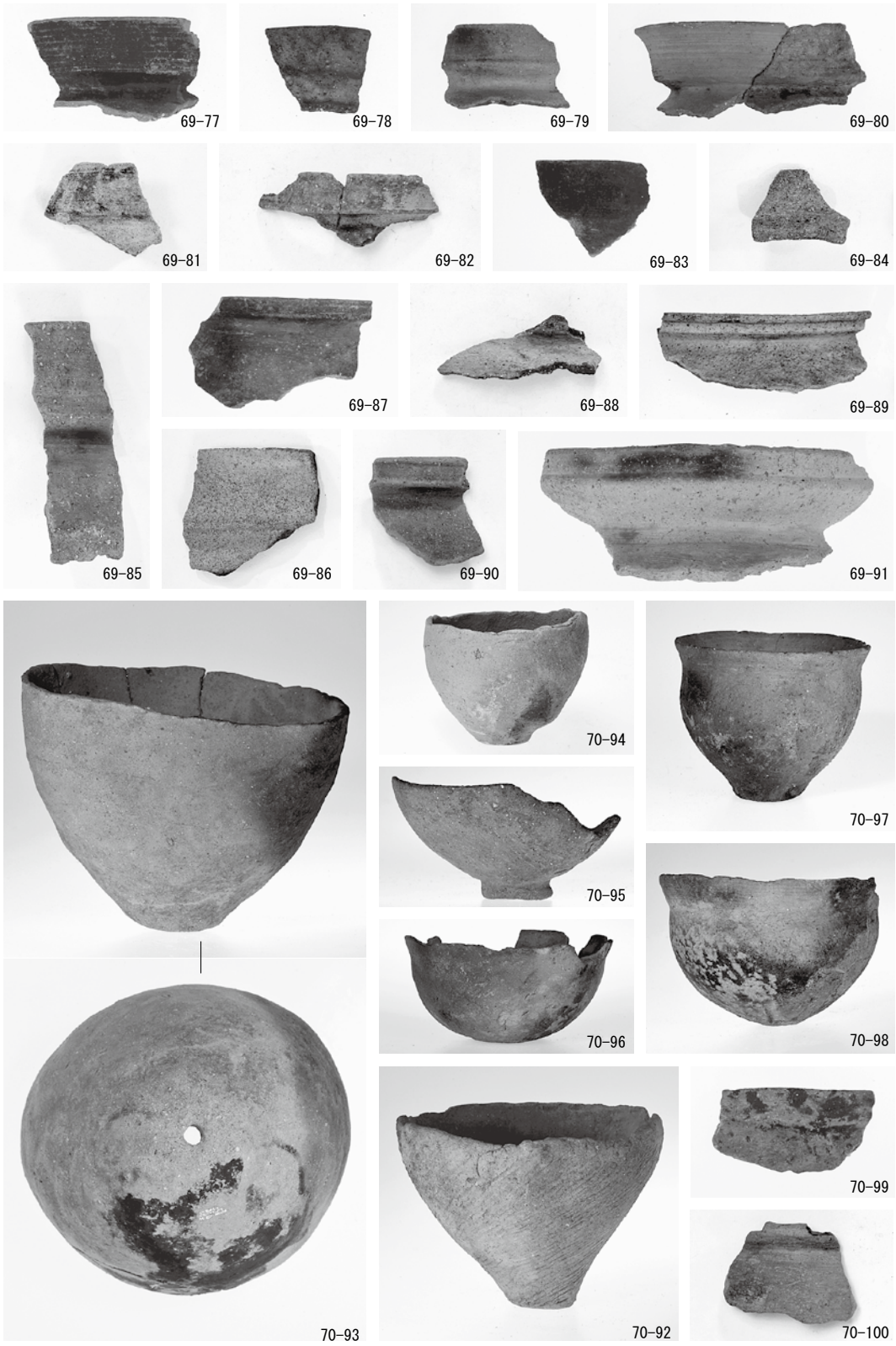

68-74


68-75


68-76

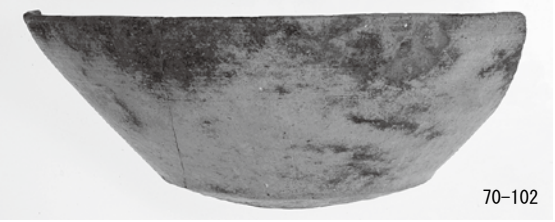
第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（11）（S.≒1/3）

図版44



第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（12）（S.≒1/3）

70-101


70-102

70-103

71-105

71-106

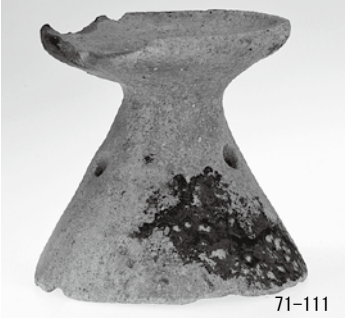
71-104

71-110

71-108

71-107

71-109


71-111

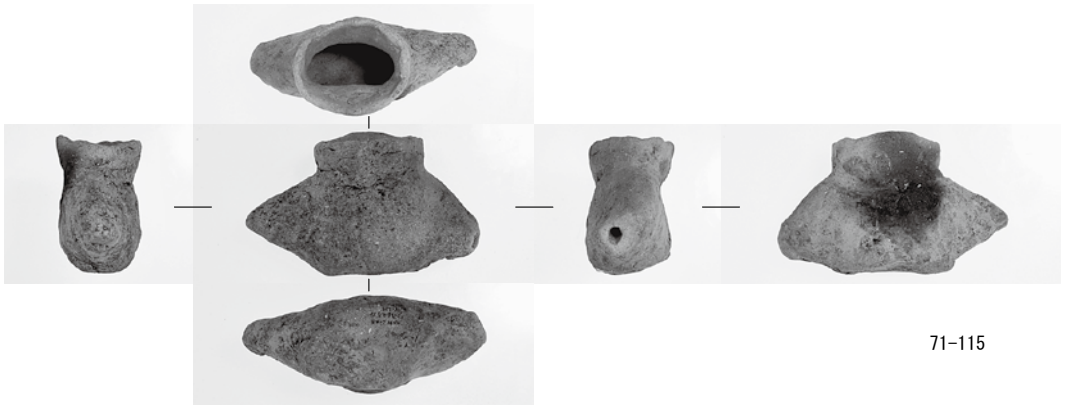
71-112

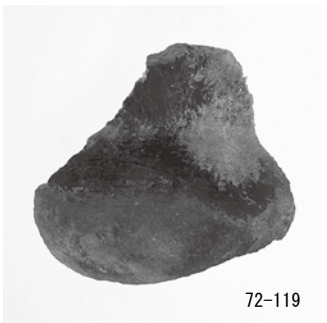
71-113

71-114

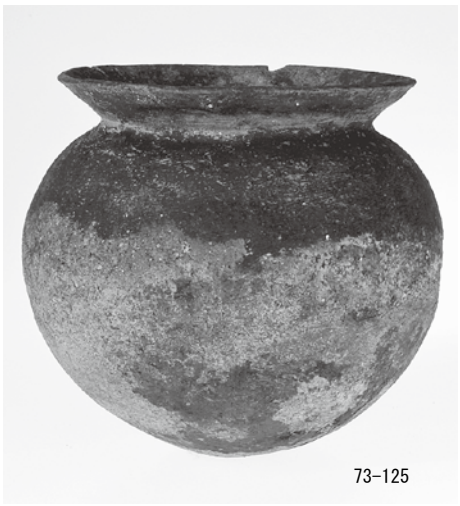
第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（13）（S.≒1/3）

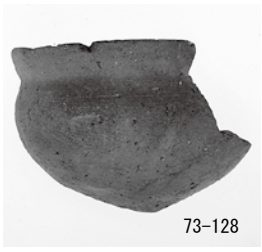
図版46

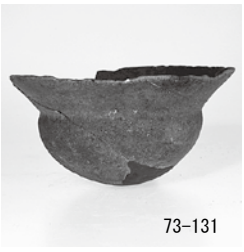


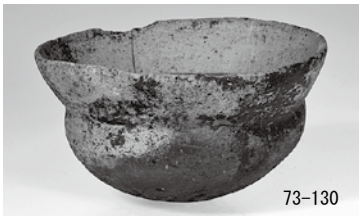


第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（14）（S.≒1/3）





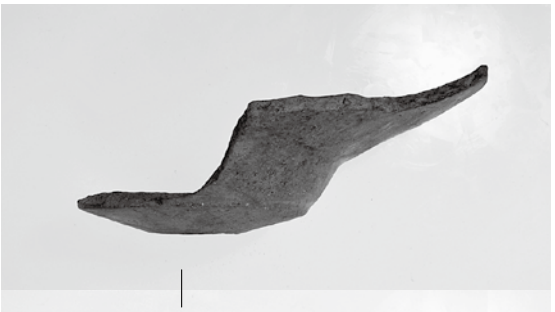




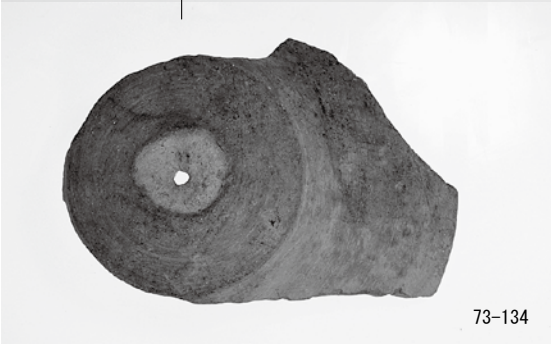
第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（15）（S.≒1/3）

図版48

73-133



73-135


73-134

74-136

74-137

74-138

74-139

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（16）（S.≒1/3）

74-140

74-141

74-142

74-143

74-144

第２遺構面　流路５　出土土器・土製品（17）
（S.≒1/3）

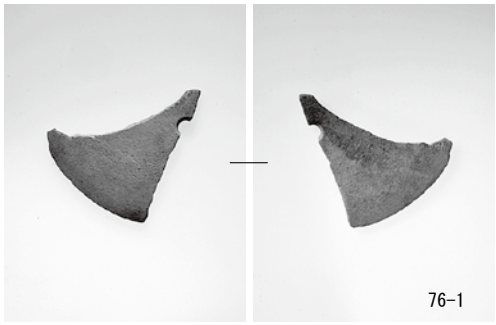
75-1

75-2

75-3

第２遺構面　流路６　出土土器・土製品
（S.≒1/3）

図版50

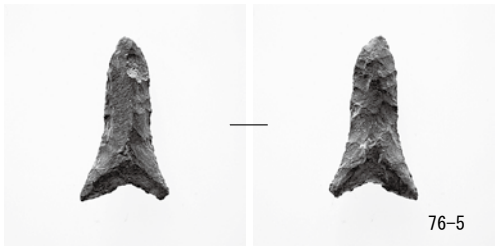


（S.≒1/3）

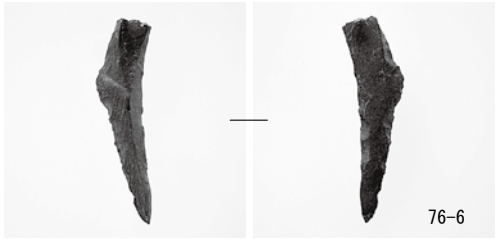
流路２

（S.≒2/3）

流路６



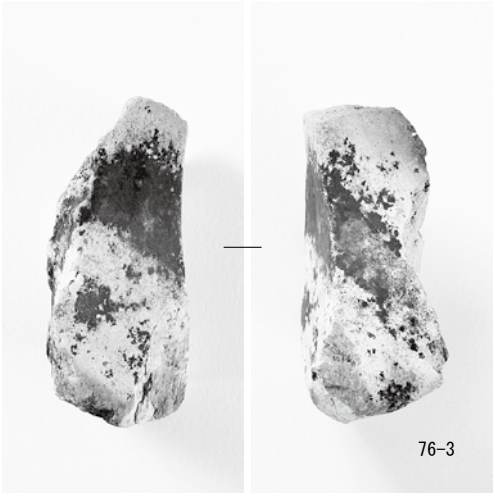
（S.≒2/3）



（S.≒2/3）

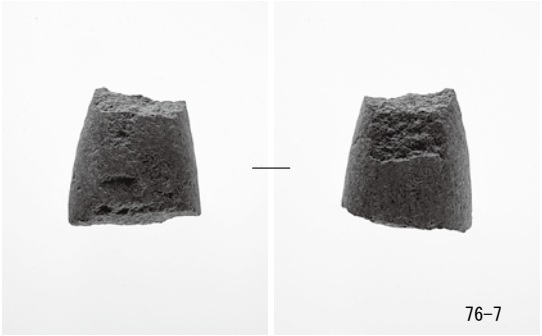
第２遺構面下層

（S.≒2/3）



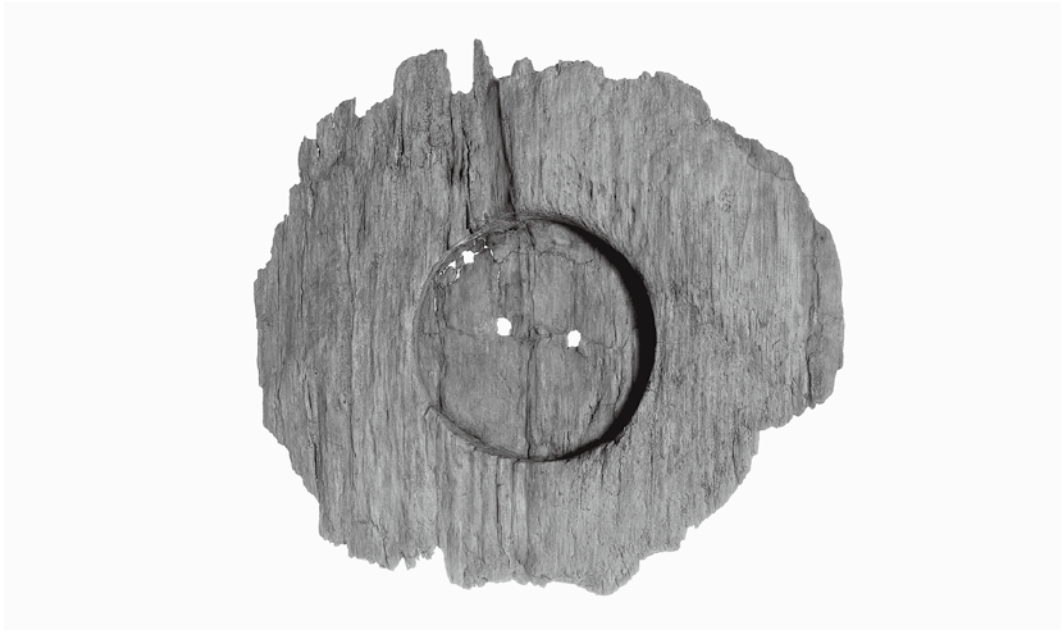
（S.≒2/3）

流路５



（S.≒1/3）

第２遺構面　流路２・５・６、第２遺構面下層　出土石器

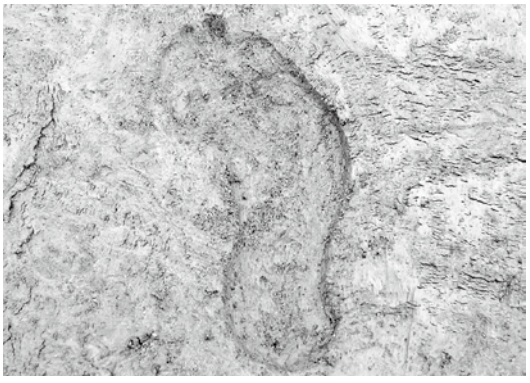


第２遺構面　出土木製品（S.≒1/4）

第３遺構面　水田遺構　北から

第３遺構面　水田遺構　南から

第３遺構面　水田遺構　近影　北から



第３遺構面　水田遺構　足跡（１）

第３遺構面　水田遺構　足跡（２）

第３遺構面　水田遺構　大畦畔　南から

第３遺構面　水田遺構　大畦畔　北から

図版54

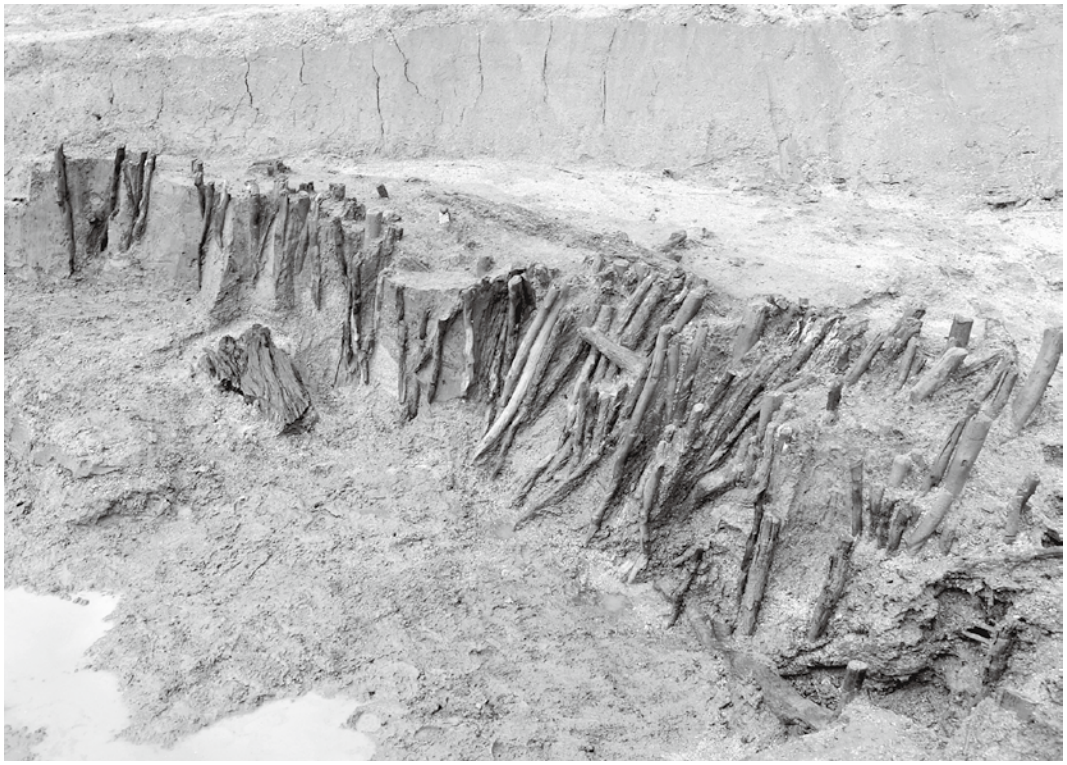
第４遺構面　流路７　北東から

第４遺構面　流路７　南西から

第４遺構面　流路７　護岸施設　南西から

第４遺構面　流路７　護岸杭列　南東から

図版56



第４遺構面　流路７　杭列Ａ　東から

第４遺構面　流路７　杭列Ａ　南から

第４遺構面　流路７　杭列Ｂ　南東から

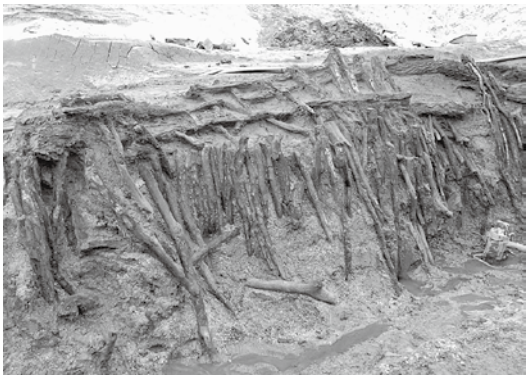
第４遺構面　流路７　杭列Ｂ　東から

図版58

第４遺構面　流路７　杭列Ｃ　南東から

第４遺構面　流路７　杭列Ｃ　南から

第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　南から（１）



第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　南から（２）

第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　北東から

第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　南東から（１）

第４遺構面　流路７　杭列Ｄ　南東から（２）

第４遺構面　流路７　杭列Ｅ　北から

第４遺構面　流路７　堰Ａ　西から

第４遺構面　流路７　堰Ｂ　西から

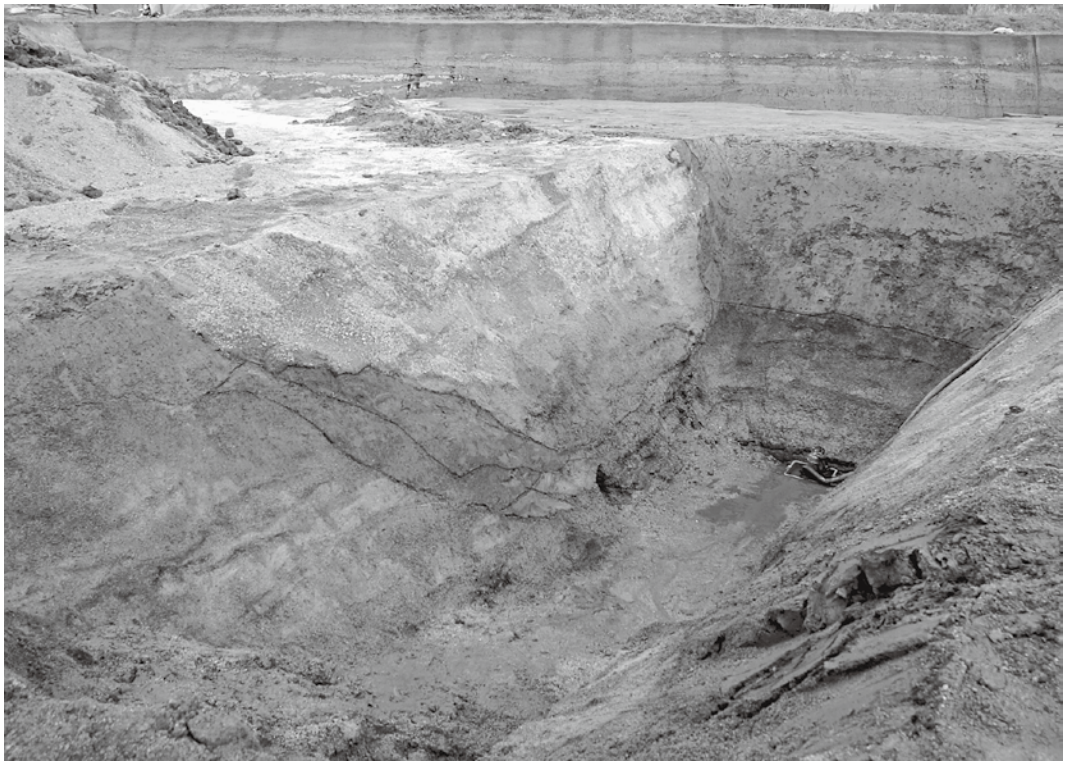
第４遺構面　流路７　堰Ｃ　西から（１）

第４遺構面　流路７　堰Ｃ　西から（２）

第４遺構面　流路７　堰Ｄ　南西から

第４遺構面　流路７　堰Ｆ　南から

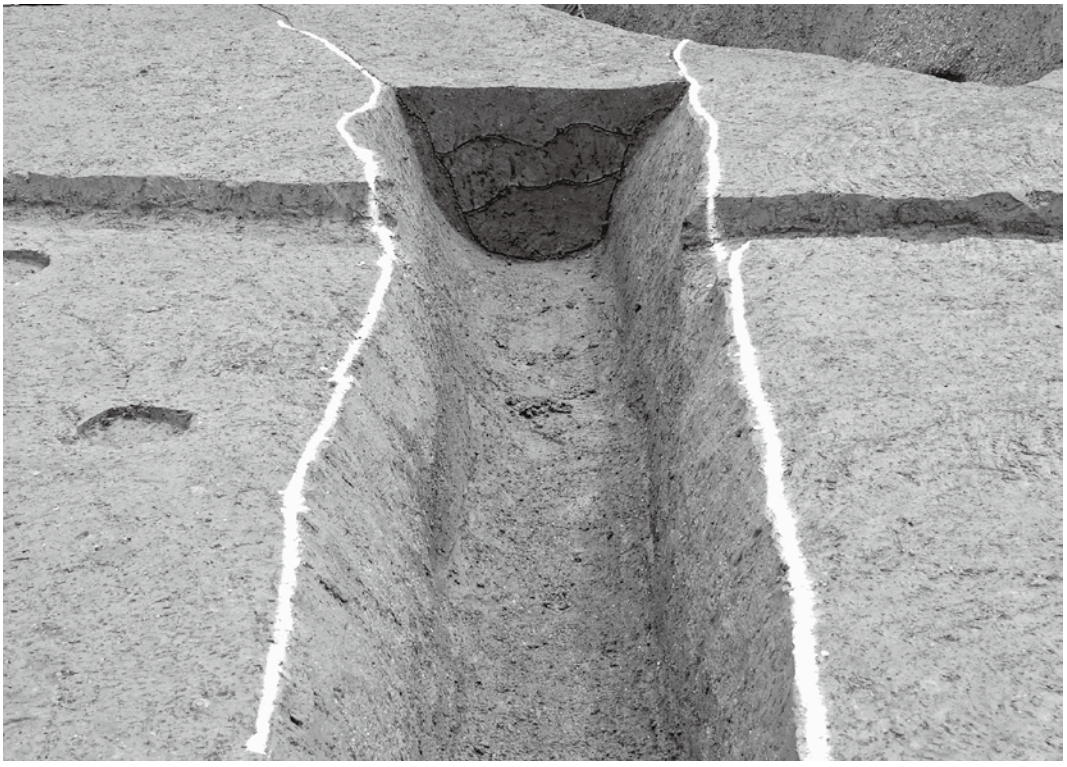
図版62



第４遺構面　流路８　東から

第４遺構面　流路８　北から

第４遺構面　溝５　東から

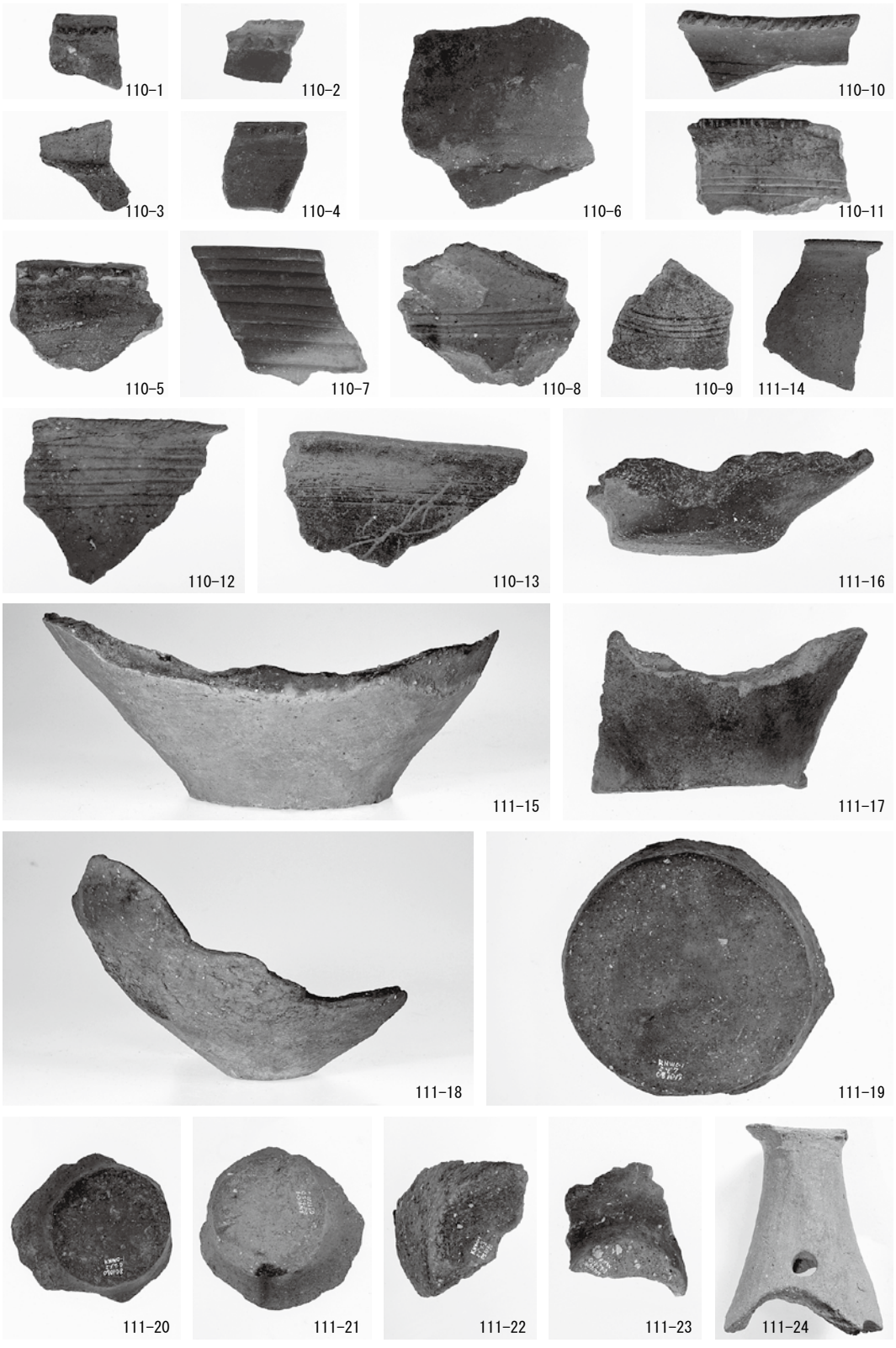


第４遺構面　溝６　東から

図版64

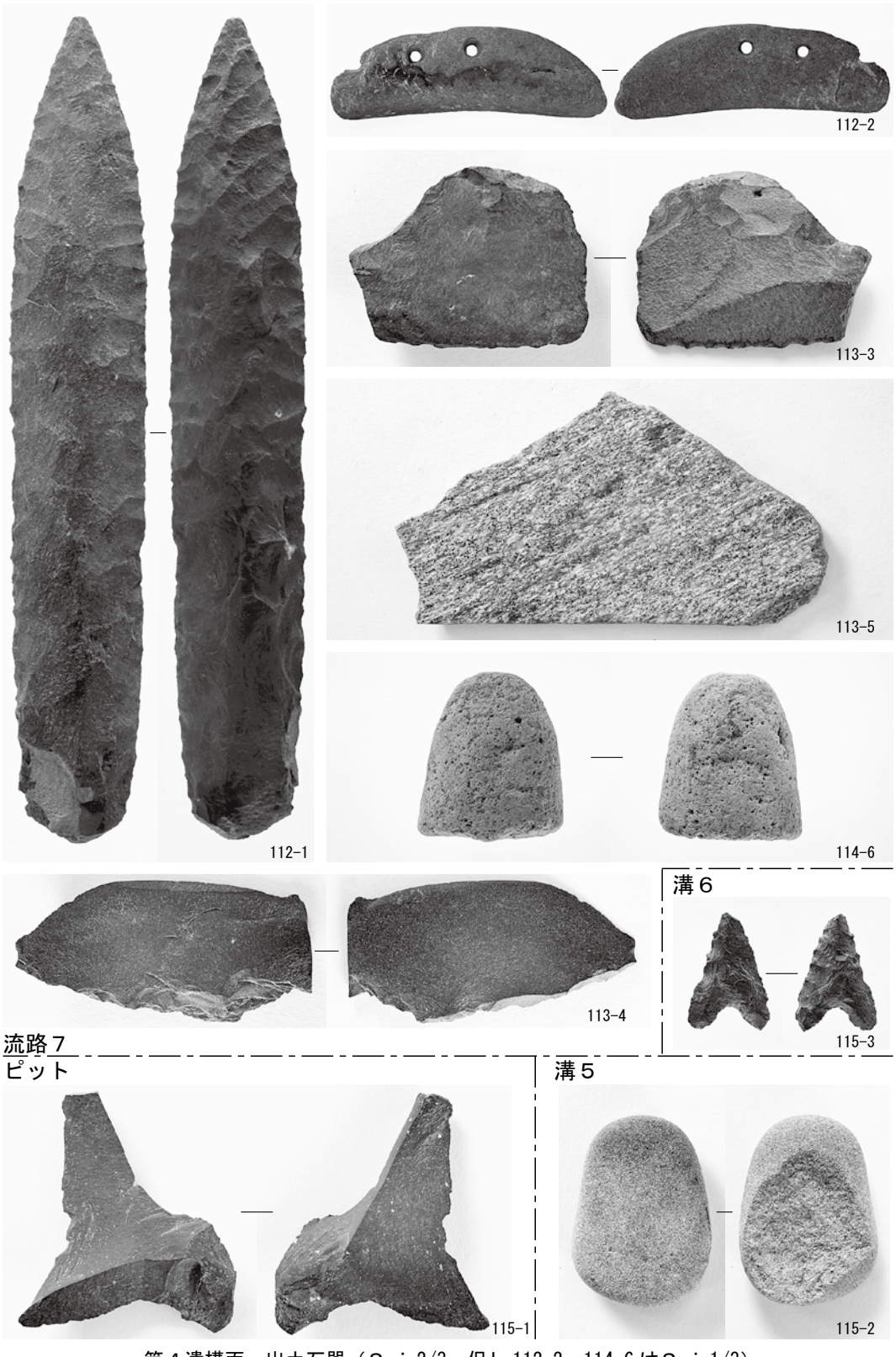
１区　下層確認

２区　南部下層確認　南から



第４遺構面　流路７　出土土器・土製品（S.≒1/3）

図版66



第４遺構面　出土石器（S.≒2/3　但し 112-2・114-6 はS.≒1/3）

第４遺構面　流路７　出土木製品（１）（S.≒1/6）

図版68

117-13

117-14

117-15

杭列C

118-16

118-17

118-18

118-19

杭列D（1）

第４遺構面　流路７　出土木製品（２）（S.≒1/6）

119-20

119-22

119-23

119-24

120-28

120-29

119-21

119-25

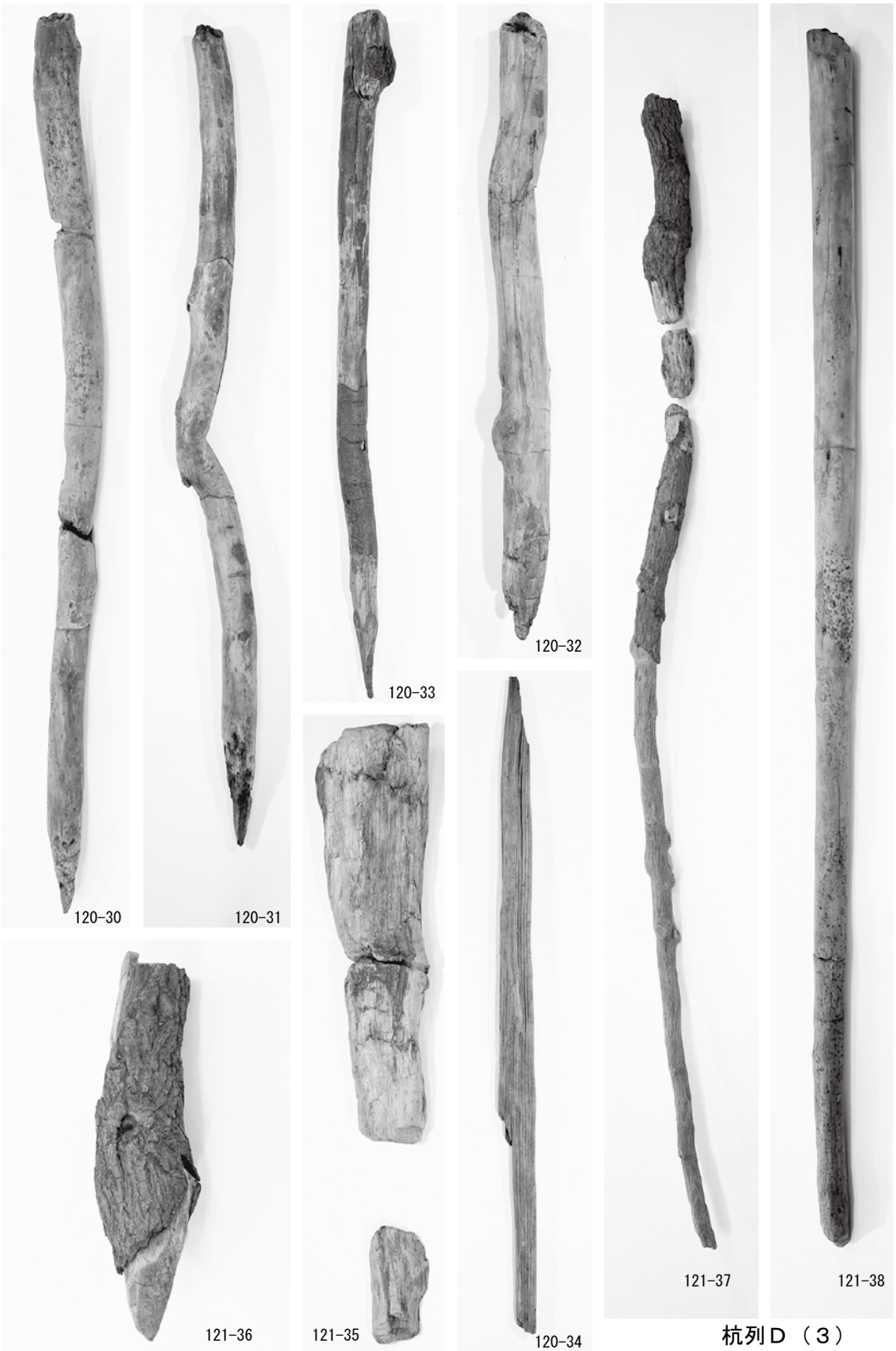
119-26

119-27

杭列Ｄ（２）

第４遺構面　流路７　出土木製品（３）（Ｓ.≒1/6）

図版70



杭列Ｄ（３）

第４遺構面　流路７　出土木製品（４）（Ｓ.≒1/6　但し 121-37・38 はＳ.≒1/10）

122-39

122-40

122-41

122-42

122-43

122-44

123-46

123-47

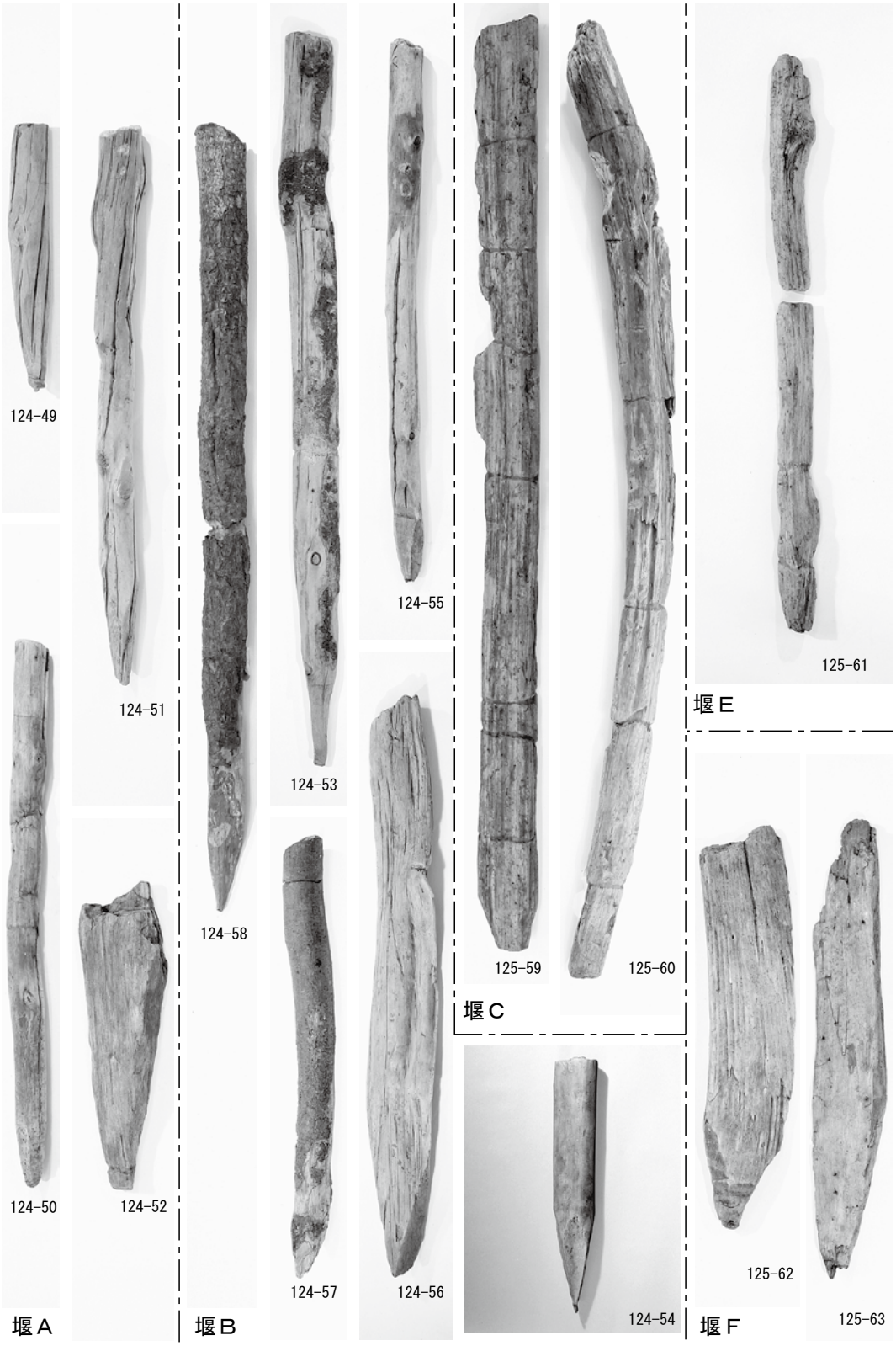
123-48

123-45

杭列Ｅ

第４遺構面　流路７　出土木製品（５）（Ｓ.≒1/6）

図版72



第４遺構面　流路７　出土木製品（６）（S.≒1/6　但し 125-59・60 はS.≒1/8）

報告書抄録

ふりがな	ちはらなかのぼういせき
書名	茅原中ノ坊遺跡
副書名	第５次発掘調査報告　京奈和自動車道建設に係る発掘調査成果
巻次	
シリーズ名	御所市文化財調査報告書
シリーズ番号	第55集
編著者名	花熊祐基・木許守・千喜良敦・影山美智与
編集機関	御所市教育委員会
所在地	〒639-2277　奈良県御所市室102番地　ＴＥＬ 0745-60-1608
発行年月日	西暦　2018年1月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ちはらなかのぼう 茅原中ノ坊 遺跡	なら 奈良県 ごせ 御所市 大字 ちはら 茅原	29208		34° 27′ 41″	135° 45′ 0″	20080523 ～ 20080905 20080805 ～ 20090306	8,650	京奈和自動車道建設に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
茅原中ノ坊遺跡	集落	弥生～古墳	井戸・土坑・ピット・流路・流路護岸施設・堰・水田	弥生土器・土師器・須恵器・石器・木製品	弥生時代後期の流路に伴う、2,000本以上の杭を用いた護岸施設。弥生～古墳時代の遺構面。

茅 原 中 ノ 坊 遺 跡

－第５次発掘調査報告－

京奈和自動車道建設に係る発掘調査成果

御所市文化財調査報告　第 55 集

平成 30 年（2018 年）１月 30 日

編集・発行　御所市教育委員会

御所市１－３

印　　刷　株式会社　笹田印刷所

奈良県御所市今住 16－3